

深谷市民まちづくりアンケート

調査報告書

令和6年8月

深谷市

目次

1. I. アンケート調査結果の概要.....	2
1. アンケート調査の実施方法.....	2
2. アンケート調査結果の信頼度.....	3
3. アンケート調査結果の概要.....	4
4. 市全体、地区別の調査結果の分析.....	8
2. II. アンケート調査結果の詳細.....	17
1. 回答者属性.....	17
2. 深谷市のまちづくりについて.....	19
3. 深谷市の施策について.....	154
4. 自由記入欄（まちづくり全般について）.....	178
3. III. アンケート調査結果の単純集計結果.....	178
1. 深谷市のまちづくりについて.....	185
2. 深谷市の施策について.....	189
3. 自由記入欄（まちづくり全般について）.....	193
4. 最後に、あなた自身のことについておたずねします。.....	193

1. I. アンケート調査結果の概要

1. アンケート調査の実施方法

(1) 目的

「第2次深谷市総合計画・前期基本計画」に基づき、施策を推進するにあたり、「深谷市民まちづくりアンケート」を実施することで、今後のまちづくりの参考にするための、現在の深谷市の姿および市民の意向や市民ニーズを把握することを目的としています。

(2) アンケートの方法

- ①調査対象：深谷市に居住する18歳以上の市民2,000人を住民基本台帳から無作為抽出しました。
- ②調査方法：アンケート票を郵送により配布・回収しました。
- ③調査期間：令和6年5月1日から同年5月17日に実施しました。

注意：

- ◆ 図表の数値は回答率を表しています。
- ◆ 図表の数値は小数点第1位未満を四捨五入しており、合計が100%にならない場合があります。
- ◆ 複数回答の設問では、合計が100%を超える場合があります。
- ◆ 「Ⅲ-2 深谷市の施策」について
 - ・ 重要度：「重要である」2点、「まあ重要である」1点、「あまり重要でない」-1点、「まったく重要でない」-2点と重要度に応じて得点を設定し、この得点に各々の回答者数を乗じて総得点を算出した上、その総得点を「わからない」「無回答」を除いた回答者数で除した数値です。数値が大きいほど重要度が高く、小さいほど重要度が低いことを表します。
 - ・ 満足度：「満足である」2点、「まあ満足である」1点、「やや不満である」-1点、「不満である」-2点と満足度に応じて得点を設定し、重要度と同様に算出した数値です。数値が大きいほど満足度が高く、小さいほど満足度が低いことを表します。
- ◆ 調査報告書上の重要度・満足度の値、およびその時系列比較の結果は、小数点第3位を四捨五入した値を記載していますが、時系列比較の計算過程においては、四捨五入を行う前の値を使用しているため、紙面上の計算結果と異なる場合があります。

2. アンケート調査結果の信頼度

無作為抽出によるアンケート調査実施にあたり、一般的に統計資料として信頼できる調査結果（信頼度±95%）を確保するために必要な回収票数を、以下の計算式により算出しました。各記号の説明および設定値は下表のとおりです。

・計算式

$$n = \frac{N}{\left(\frac{\varepsilon}{K(\alpha)}\right)^2 \times \frac{N-1}{P(1-P)} + 1}$$

・各記号の説明と設定値

記号	説明	設定値
n	必要なサンプル数	
N	母数	令和6年4月1日時点の住民基本台帳人口（18歳以上）の総数（121,458人）とする
ε	信頼度の誤差範囲	±5%とする
K(α)	信頼度に基づく定数（※）	信頼度95%設定により、1.96とする
P	母比率	安全性の確保を考慮し、50%と設定する

以上より、必要な回収票数は以下のように算出され、

$$n = \frac{121,458}{\left(\frac{0.05}{1.96}\right)^2 \times \frac{121,458-1}{0.5 \times (1-0.5)} + 1} \approx 382$$

深谷市においては、382票回収すれば信頼度95%±5%の調査結果を得ることが分かります。

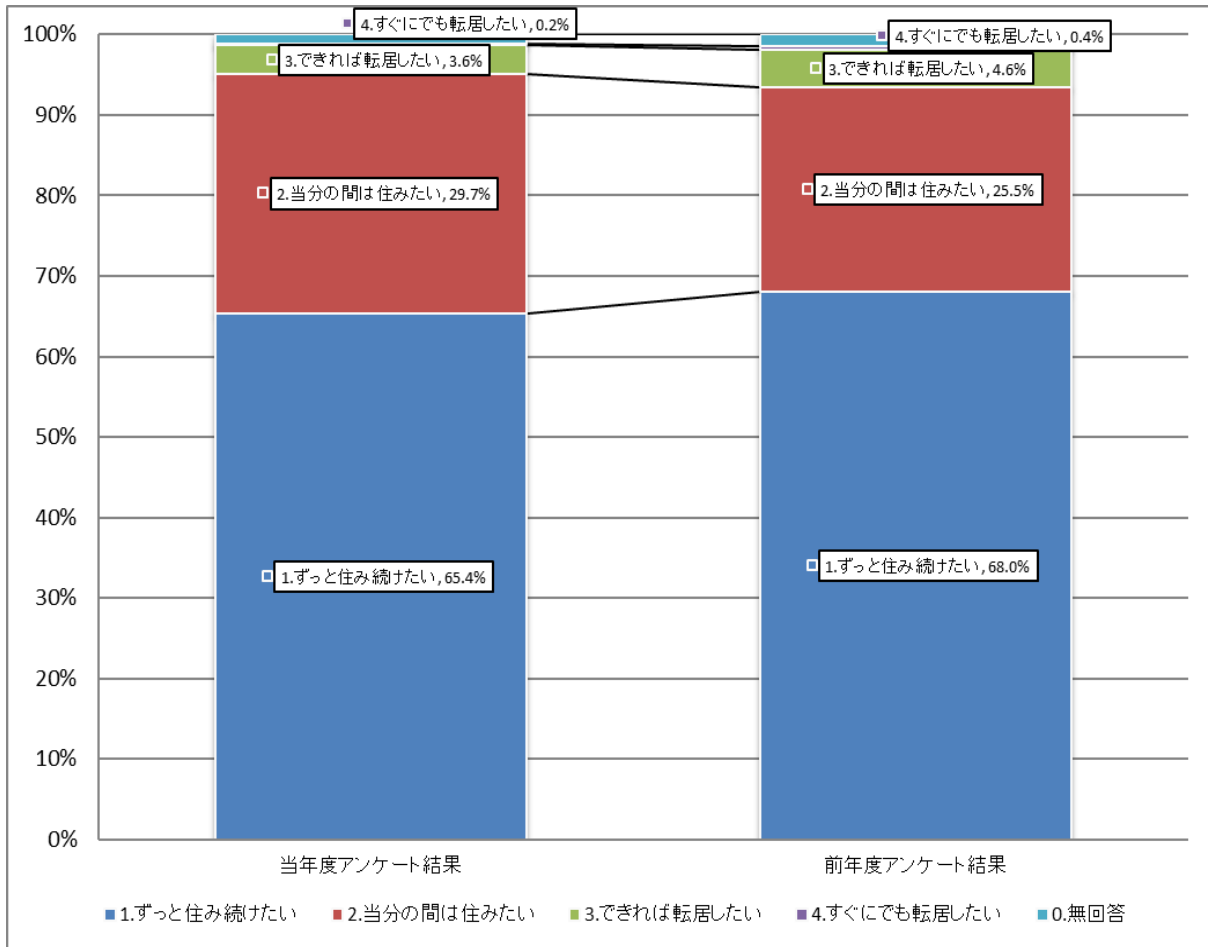
今回の調査では809票の有効回答が回収されたため、調査結果は統計的に信頼できるものと考えられます。

3. アンケート調査結果の概要

(1) 「深谷市民まちづくりアンケート」について

後期基本計画に基づき、施策を推進するにあたり、市民の市の施策に対する重要度、満足度などを把握するために、令和6年5月1日から同年5月17日までの期間にアンケート調査を実施しました。アンケート調査の対象は無作為に抽出した深谷市在住の満18歳以上の男女2,000人であり、アンケート票の有効回答数は、809人（40.45%）でした。

(2) 深谷市への定住意識について

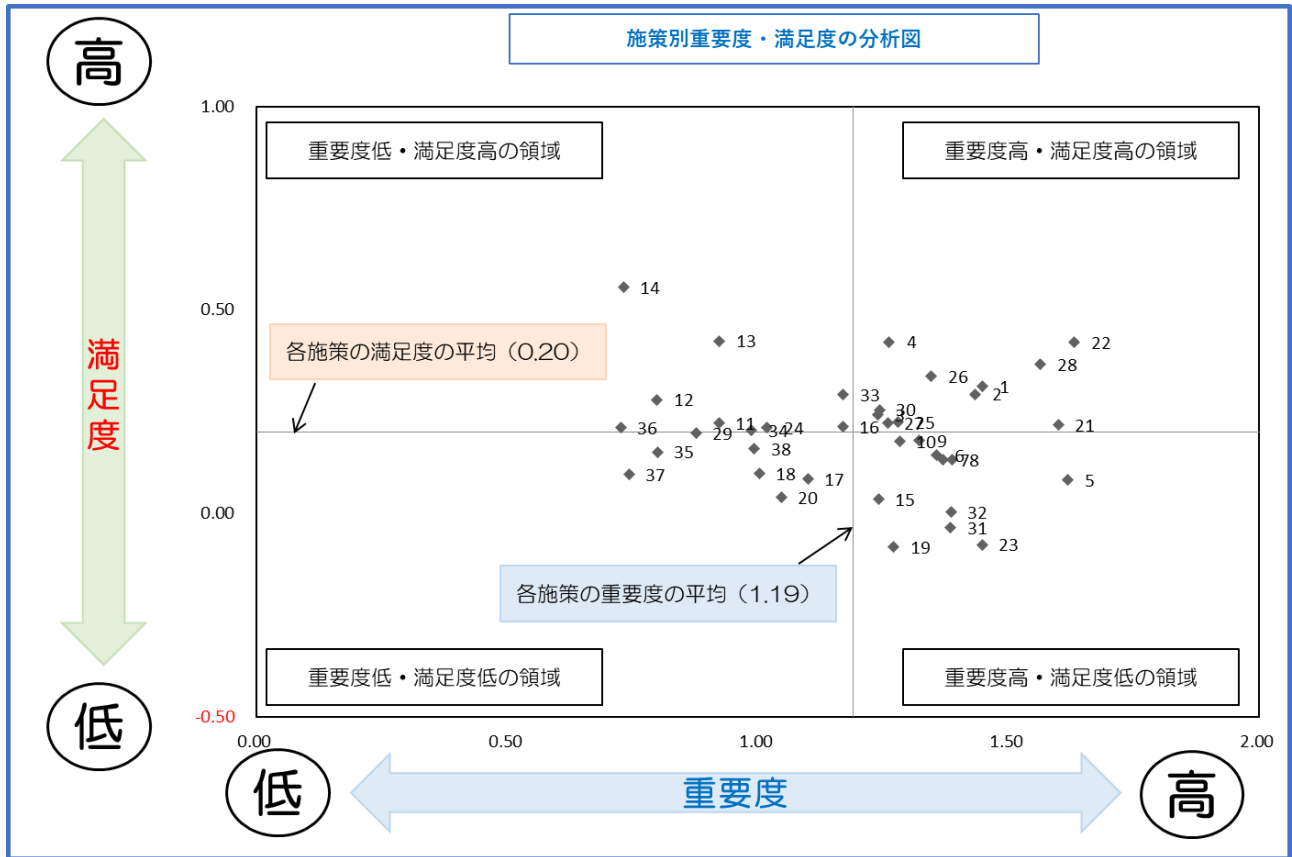


「ずっと住み続けたい」と回答した人の割合が65.4%、「当分の間は住みたい」と回答した人の割合が29.7%となっています。合計は95.1%と9割を超えており、前年度に引き続き、深谷市民の定住意識が高いことがうかがえます。

(3) 深谷市の施策の重要度・満足度について

深谷市が実施している施策について、重要度・満足度に関する調査を行いました。

① 施策別重要度・満足度の分布状況



【重要度・満足度マトリックス表】

<重要度低・満足度高>		<重要度高・満足度高>	
11	生涯学習の推進	1	子育て支援の充実
12	スポーツ・レクリエーションの推進	2	保育環境の充実
13	郷土の歴史・文化の継承と活用	3	青少年の健全育成の推進
14	渋沢栄一の顕彰と精神の継承	4	健康づくりの推進
16	農畜産物の販売流通体制の充実	21	災害に強い防災体制の推進
24	地域コミュニティの推進	22	消防・救急体制の充実
29	地域の特色を生かした魅力ある景観形成	25	自然・生活環境の保全
33	人権・個性が尊重される社会づくりの推進	26	環境衛生の推進
34	男女共同参画の実現	27	良好な市街地・住環境形成の推進
36	市民との協働・交流の推進	28	水の安定供給と下水処理の適正化
		30	治水対策の推進
<重要度低・満足度低>		<重要度高・満足度低>	
17	商工業の振興	5	地域医療体制の充実
18	観光資源の整備と活用	6	地域福祉の推進
20	産業価値の創出	7	高齢者福祉の推進
35	移住・定住の推進	8	障害者福祉の推進
37	行政デジタル化の推進	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
38	行財政運営の推進	10	家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上
		15	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
		19	就労環境の整備
		23	防犯・空き家対策の推進
		31	道路・交通環境整備の推進
		32	公共交通の維持確保と交通安全の推進

全施策における重要度・満足度の平均値を基準とし、重要度・満足度を<重要度高・満足度高>、<重要度高・満足度低>、<重要度低・満足度高>、<重要度低・満足度低>の4つに分類し、各施策の重要度および満足度の現状値を相対的に評価しました。

<重要度高・満足度高>

重要度が高く、満足度も高い領域には「1. 子育て支援の充実」、「2. 保育環境の充実」、「3. 青少年の健全育成の推進」、「4. 健康づくりの推進」、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「22. 消防・救急体制の充実」、「25. 自然・生活環境の保全」、「26. 環境衛生の推進」、「27. 良好な市街地・住環境形成の推進」、「28. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「30. 治水対策の推進」などの施策が該当します。

この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民ニーズに即していることがうかがえ、今後も引き続き重点施策として位置づけ、取り組んでいく必要がある施策といえます。

<重要度高・満足度低>

重要度が高く、満足度が低い領域には、「5. 地域医療体制の充実」、「6. 地域福祉の推進」、「7. 高齢者福祉の推進」、「8. 障害者福祉の推進」、「9. 「生きる力」を育む学校教育の推進」、「10. 家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上」、「15. 農地の保全・活用と安定した農業経営の支援」、「19. 就労環境の整備」、「23. 防犯・空き家対策の推進」、「31. 道路・交通環境整備の推進」、「32. 公共交通の維持確保と交通安全の推進」などの施策が該当します。

この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民ニーズがあるにもかかわらず、行政としてその期待に応えられていないことがうかがえます。これらの施策については、施策のあり方を見直す必要性が高い施策であるといえます。

<重要度低・満足度高>

重要度が低く、満足度が高い領域には、「11. 生涯学習の推進」、「12. スポーツ・レクリエーションの推進」、「13. 郷土の歴史・文化の継承と活用」、「14. 渋沢栄一の顕彰と精神の継承」、「16. 農畜産物の販売流通体制の充実」、「24. 地域コミュニティの推進」、「29. 地域の特色を生かした魅力ある景観形成」、「33. 人権・個性が尊重される社会づくりの推進」、「34. 男女共同参画の実現」、「36. 市民との協働・交流の推進」などの施策が該当します。

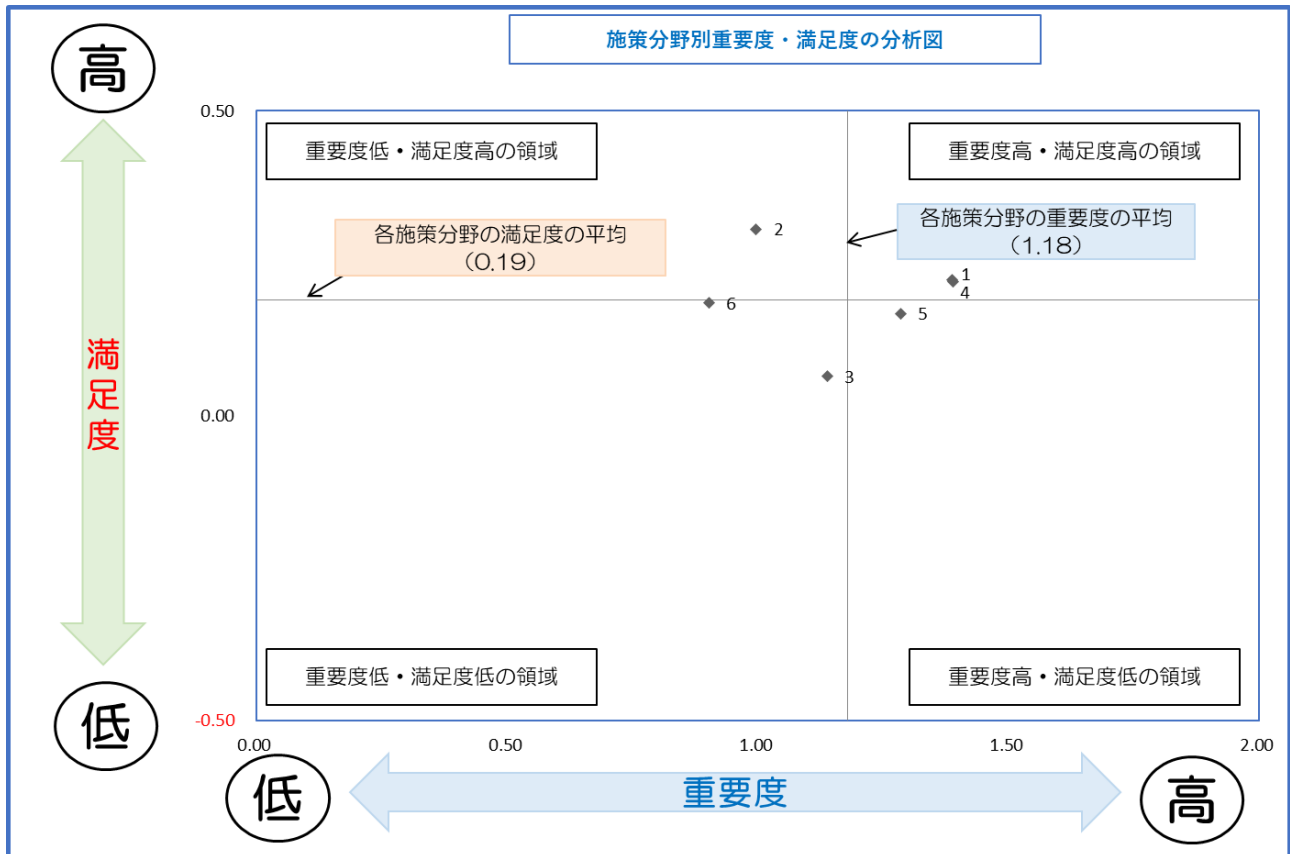
この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民ニーズを上回る行政サービスを提供している可能性もあり、行政サービスの提供が過剰となっていないか確認する必要があります。

<重要度低・満足度低>

重要度が低く、満足度も低い領域には、「17. 商工業の振興」、「18. 観光資源の整備と活用」、「20. 産業価値の創出」、「35. 移住・定住の推進」、「37. 行政デジタル化の推進」、「38. 行財政運営の推進」などの施策が該当します。

この領域にある施策は、他の施策と比較し、住民の関心度が低い施策であり、そもそも行政で対応すべきであるのかについて検討する必要があります。

② 施策分野別重要度・満足度の分布状況



【重要度・満足度マトリックス表】

<重要度低・満足度高>		<重要度高・満足度高>	
2	教育・文化	1	子育て・保健・福祉
		4	暮らし・環境
<重要度低・満足度低>		<重要度高・満足度低>	
3	産業振興	5	都市・生活基礎
6	協働・行政経営		

全施策分野における重要度・満足度の平均値を基準とし、重要度・満足度を<重要度高・満足度高>、<重要度高・満足度低>、<重要度低・満足度高>、<重要度低・満足度低>の4つに分類し、各施策分野の重要度および満足度の現状値を相対的に評価しました。

<重要度高・満足度高>に分類される施策分野は、「1. 子育て・保健・福祉」、「4. 暮らし・環境」の2分野であり、<重要度高・満足度低>に分類される施策分野は、「5. 都市・生活基礎」の1分野となっています。

また、<重要度低・満足度高>に分類される施策分野は、「2. 教育・文化」の1分野であり、<重要度低・満足度低>に分類される施策分野は、「3. 産業振興」、「6. 協働・行政経営」の2分野となっています。

今年度のアンケートで<重要度高・満足度低>に分類された「5. 都市・生活基礎」は、他の施策と比較し、市民ニーズがあるにもかかわらず、行政としてその期待に応えられていないことがうかがえます。この領域の施策については、施策のあり方を見直す必要性が高い施策であるといえます。

4. 市全体、地区別の調査結果の分析

アンケート調査の結果を分析し、その分析結果を市全体、地区ごとに分類すると、以下のとおりです。

(1) 調査からわかったこと（市全体）

➤ 市への定住意識

- ・「令和 5 年度深谷市民まちづくりアンケート（以下、「前年度アンケート」）」の結果から大きな変化は見られず、高い割合を維持しています。
- ・これからも深谷市に「ずっと住み続けたい」と回答した人の割合と「当分の間は住みたい」と回答した人の割合の合計は、ほとんどの地区で 9 割前後と高い数値であり、現時点において、深谷市外に転居を希望している人は少数であることがうかがえます。

➤ 子育て・保健・福祉について

- ・地域で子どもを育む活動に「参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合の合計は 2 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較してほぼ変化はありませんでした。世代によって差があることがうかがえます。
- ・小学生以下（小学校 6 年生まで）のお子さんを持つ保護者の方で、仕事と子育てを「両立できていると思う」または「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合の合計は約 8 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して大きく増加しています。
- ・中学生以下（中学校 3 年生まで）のお子さんを持つ保護者の方で、深谷市が子育てのしやすいまちだと「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は約 8 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して増加しています。
- ・普段の生活で健康づくり（運動や歩くことなど）に「日常的に取り組んでいる」または「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合の合計は約 6 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して僅かに増加しています。
- ・定期的に健康診断や人間ドック、がん検診のいずれかを「受けている」と回答した人の割合は約 8 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較してほぼ変化はありませんでした。男女や、女性は世代によって差があることがうかがえます。
- ・かかりつけのお医者さんが「いる」と回答した人の割合は約 8 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して増加しています。世代や地域によって差があ

ることがうかがえます。

- ・健康的な食生活に「日常的に気をつけている」または「ときどき気をつけている」と回答した人の割合の合計は約8割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して増加しています。
- ・悩みごとを相談できる人（家族や友人など）が「いる」と回答した人の割合は約9割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して変化はありませんでした。
- ・日常生活で困ったことがあった時に、手助けしてくれる人（民生委員・児童委員や自治会など）が「いる」と回答した人の割合は約5割であり、「前年度アンケート」の結果と比較してほぼ変化はありませんでした。地域によって差があることがうかがえます。

➤ 教育・文化について

- ・生涯学習（自発的な学習、自己啓発活動など）を「日常的に実践している」または「ときどき実践している」と回答した人の割合の合計は約3割であり、「前年度アンケート」の結果と比較してほぼ変化はありませんでした。
- ・この1年間に芸術文化や多様な文化活動に親しむ機会が「たいへんあった」または「ある程度はあった」と回答した人の割合の合計は約3割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して増加しています。男女によって差があることがうかがえます。
- ・スポーツやレクリエーション活動を「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合の合計は約6割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して僅かに増加しています。男女によって差があることがうかがえます。

➤ 産業振興について

- ・市外の店舗で深谷産の農畜産物の販売を「よく目にする」または「たまに目にする」と回答した人の割合の合計は6割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して僅かに増加しています。世代によって差があることがうかがえます。
- ・食材等の購入の際に、深谷産の農畜産物を購入することを「いつも心掛けている」または「たまに心掛けている」と回答した人の割合の合計は約6割であり、「前年度アンケート」の結果と比較してほぼ変化はありませんでした。男女や世代によって差があることがうかがえます。
- ・ご自身またはご家族の仕事と生活は「とてもバランスが取れている」または「ややバランスが取れている」と回答した人の割合の合計は7割であり、「前年

度アンケート」の結果と比較して僅かに増加しています。男女によって差があることがうかがえます。

➤ 暮らし・環境について

- ・ハザードマップで自宅等の災害の危険性（自宅等の浸水想定が地震時の揺れやすさなど）について「確認した」と回答した人の割合は約6割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して僅かに減少しています。世代や地域によって差があることがうかがえます。
- ・ご自宅に災害に対する備え（備蓄品など）が「十分ある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計は約4割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して僅かに減少しています。
- ・この1年間で消費者トラブルに巻き込まれたことが「ある」と回答した人の割合は1割未満であり、「前年度アンケート」の結果と比較して変化はありませんでした。
- ・日ごろ、防犯対策を「十分行っている」または「ある程度は行っている」と回答した人の割合の合計は約6割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して増加しています。地域によって差があることがうかがえます。
- ・地域活動（自治会での活動など）へ「日常的に参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合の合計は約5割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して増加しています。世代や地域によって差があることがうかがえます。
- ・環境に配慮した取組（省エネ（節電を含みます）、自然や川の保全活動など）を「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合の合計は6割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して僅かに減少しています。地域によって差があることがうかがえます。
- ・環境問題（地球温暖化問題、エネルギー問題、生態系の問題など）を「以前より意識するようになった」と回答した人の割合は約5割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して減少しています。世代や地域によって差があることがうかがえます。
- ・普段からごみの減量化やリサイクルを「いつも心がけている」または「ある程度は心がけている」と回答した人の割合の合計は約9割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して僅かに増加しています。

➤ 都市・生活基盤について

- ・市内の住宅、商業、工業、農業、自然などの土地利用において、相互に調和が

「たいへんとれている」または「ある程度はとれている」と回答した人の割合の合計は約 6 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して僅かに減少しています。世代によって差があることがうかがえます。

- ・ お住まい周辺の住環境に「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合の合計は約 7 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して僅かに減少しています。地域によって差があることがうかがえます。
- ・ あなたの身近に、自然に親しむことができる環境が「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計は約 8 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較してほぼ変化はありませんでした。
- ・ 市内に魅力的なまち並みや景観が「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計は約 5 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して減少しています。
- ・ 水害に対して安心した生活を送ることが「たいへんできている」または「ある程度はできている」と回答した人の割合の合計は約 8 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して僅かに減少しています。世代や地域によって差があることがうかがえます。
- ・ 市内の道路を普段利用する際に、特に不便を「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合の合計は約 5 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して僅かに増加しています。
- ・ 市内の公共交通機関の利便性（時間・本数・路線・サービス）に不便を「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合の合計は約 5 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して減少しています。地域によって差があることがうかがえます。

➤ 協働・行政経営について

- ・ 深谷市が人権と個性の尊重されているまちであると「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は約 7 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較してほぼ変化はありませんでした。
- ・ この 1 年間に自分の人権が侵害されたと思ったことが「ある」と回答した人の割合は約 1 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して、僅かに増加しています。
- ・ お互いの人権について「日常的に意識している」または「ときどき意識している」と回答した人の割合の合計は約 6 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して僅かに増加しています。

- ・市内で、外国人とのトラブルなどを「よく聞く」または「ときどき聞く」と回答した人の割合の合計は約1割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して増加しています。
- ・性別に関係なく、家庭、地域、職場で対等な役割分担がされていると「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は約6割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して大きく減少しています。世代によって差があることがうかがえます。
- ・男女共同参画について「以前より意識するようになった」と回答した人の割合は約3割であり、「前年度アンケート」の結果と比較してほぼ変化はありませんでした。
- ・配偶者などによる「電話、メール等の細かい監視」「生活費を渡さない」などの行為が「どんな場合でも暴力にあたると思う」または「暴力の場合とそうでない場合がある」と回答した人の割合の合計は約8割であり、「前年度アンケート」と比較して増加しています。
- ・市役所における窓口対応について「とても満足である」または「やや満足している」と回答した人の割合の合計は約9割であり、「前年度アンケート」と比較して増加しています。
- ・市内において、市民と行政が互いに力を出し合い地域課題を解決すること（協働のまちづくり）ができていると「大変そう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は約7割であり、「前年度アンケート」と比較して増加しています。
- ・市民ガーデニングボランティア、王国ボランティアを「知っている」と回答した人の割合は約4割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して僅かに減少しています。男女や世代によって差があることがうかがえます。
- ・花と緑をいかしたまちづくり活動に「興味がある」と回答した人の割合は約6割であり、「前年度アンケート」と比較して僅かに減少しています。
- ・花と緑をいかしたまちづくり活動に「参加したい」と回答した人の割合は約4割であり、「前年度アンケート」と比較して僅かに増加しています。男女や地域によって差があることがうかがえます。
- ・市のオンラインサービスを「利用したことがある」と回答した人の割合は約3割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して増加しています。世代によって差があることがうかがえます。
- ・「SDGs」という言葉を「よく理解している」または「聞いたことはある」と回答した人の割合の合計は約9割であり、「前年度アンケート」の結果と比較し

て僅かに増加しています。世代によって差があることがうかがえます。

(2) 調査からわかったこと（地区別）

➤ 深谷地区

- ・ 日常生活で困ったことがあった時に、手助けしてくれる人（民生委員・児童委員や自治会など）がいると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ 地域活動（自治会での活動など）へ参加していると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ 環境に配慮した取組（省エネ（節電を含みます）、自然や川の保全活動など）を行っているという回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ あなたの身近に、自然に親しむことができる環境があると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。

➤ 藤沢地区

- ・ 小学生以下（小学校6年生まで）のお子さんを持つ保護者の方で、仕事と子育てを両立できていると思うと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 中学生以下（中学校3年生まで）のお子さんを持つ保護者の方で、深谷市が子育てのしやすいまちだと思うと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 日ごろ、防犯対策を行っているという回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ 花と緑をいかしたまちづくり活動に参加したいと回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。

➤ 幡羅地区

- ・ 小学生以下（小学校6年生まで）のお子さんを持つ保護者の方で、仕事と子育てを両立できていると思うと回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ 市内の住宅、商業、工業、農業、自然などの土地利用において、相互に調和がとれていると思うと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

- ・ お住まい周辺の住環境に満足していると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 市のオンラインサービスを利用したことがあると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

➤ 明戸地区

- ・ 地域で子どもを育む活動に参加していると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 普段の生活で健康づくり（運動や歩くことなど）に取り組んでいると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 食材等の購入の際に、深谷産の農畜産物を購入することを心掛けていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ ご自宅に災害に対する備え（備蓄品など）があると回答した市民の割合が高いことがうかがえます。

➤ 大寄地区

- ・ 日ごろ、防犯対策を行っているという回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 環境に配慮した取組（省エネ（節電を含みます）、自然や川の保全活動など）を行っているという回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ お住まい周辺の住環境に満足していると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ 市内の公共交通機関の利便性（時間・本数・路線・サービス）に不便を感じないと回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ 市内において、市民と行政が互いに力を出し合い地域課題を解決すること（協働のまちづくり）ができていると思うと回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。

➤ 八基地区

- ・ 普段の生活で健康づくり（運動や歩くことなど）に取り組んでいると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。

- ・環境問題（地球温暖化問題、エネルギー問題、生態系の問題など）を以前より意識するようになったと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・男女共同参画について以前より意識するようになったと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・花と緑をいかしたまちづくり活動に興味がある・参加したいと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

➤ 豊里地区

- ・日常生活で困ったことがあった時に、手助けしてくれる人（民生委員・児童委員や自治会など）がいると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ハザードマップで自宅等の災害の危険性（自宅等の浸水想定が地震時の揺れやすさなど）について確認したと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・地域活動（自治会での活動など）へ参加していると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・水害に対して安心した生活を送ることができていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。

➤ 上柴地区

- ・中学生以下（中学校3年生まで）のお子さんを持つ保護者の方で、深谷市が子育てのしやすいまちだと思いと回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・健康的な食生活に気をつけていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市内において、市民と行政が互いに力を出し合い地域課題を解決すること（協働のまちづくり）ができていると思いと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

➤ 南地区

- ・定期的に健康診断や人間ドック、がん検診のいずれかを受けていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

- ・スポーツやレクリエーション活動を行っているという回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・水害に対して安心した生活を送ることができているという回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市民ガーデニングボランティア、王国ボランティアを知っていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

➤ 岡部地区

- ・深谷市が人権と個性の尊重されているまちであると思うという回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・性別に関係なく、家庭、地域、職場で対等な役割分担がされていると思うという回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・「SDGs」という言葉を知っていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

➤ 川本地区

- ・市外の店舗で深谷産の農畜産物の販売を目にすることがあるという回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・市内の道路を普段利用する際に、特に不便を感じることはないという回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・市民ガーデニングボランティア、王国ボランティアを知っていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・「SDGs」という言葉を知っていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

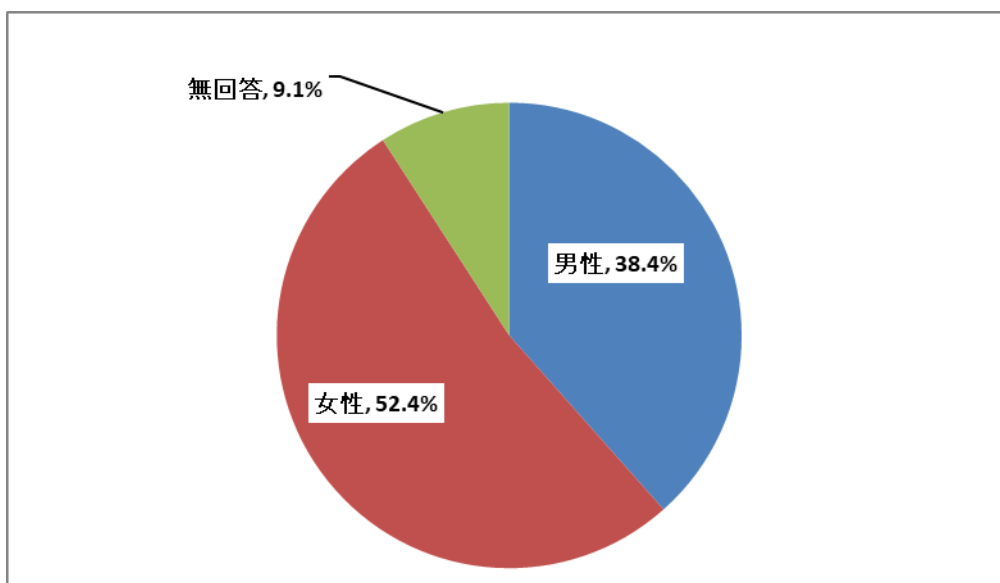
➤ 花園地区

- ・深谷市が人権と個性の尊重されているまちであると思うという回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・この1年間に自分の人権が侵害されたと思ったことがあるという回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・性別に関係なく、家庭、地域、職場で対等な役割分担がされていると思うという回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

II. アンケート調査結果の詳細

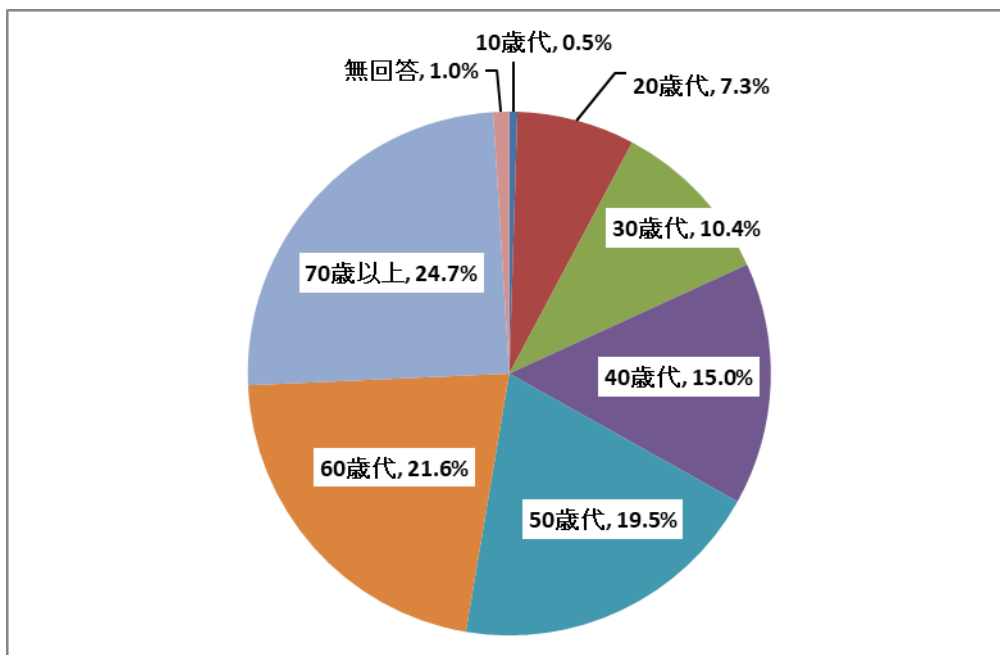
1. 回答者属性

(1) 性別



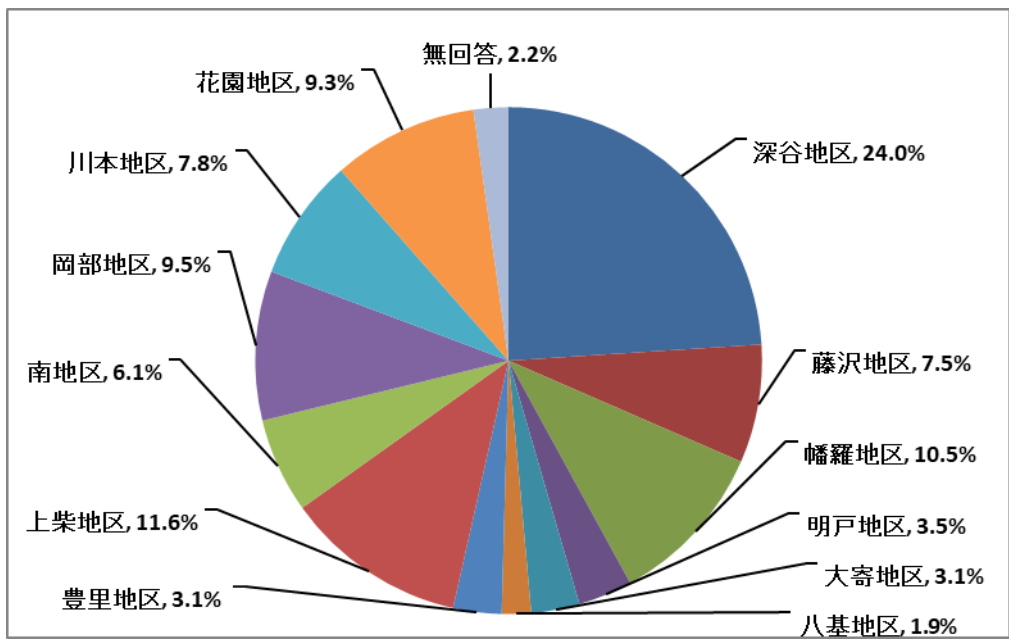
男性が 38.4%、女性が 52.4%と、回答者は女性の割合が多くなっています。

(2) 年齢



年齢では、70歳以上が最も多く、24.7%となっています。次いで、60歳代 21.6%、50歳代 19.5%、40歳代 15.0%となっており、最も少ないのは10歳代で0.5%となっています。

(3) 居住地区

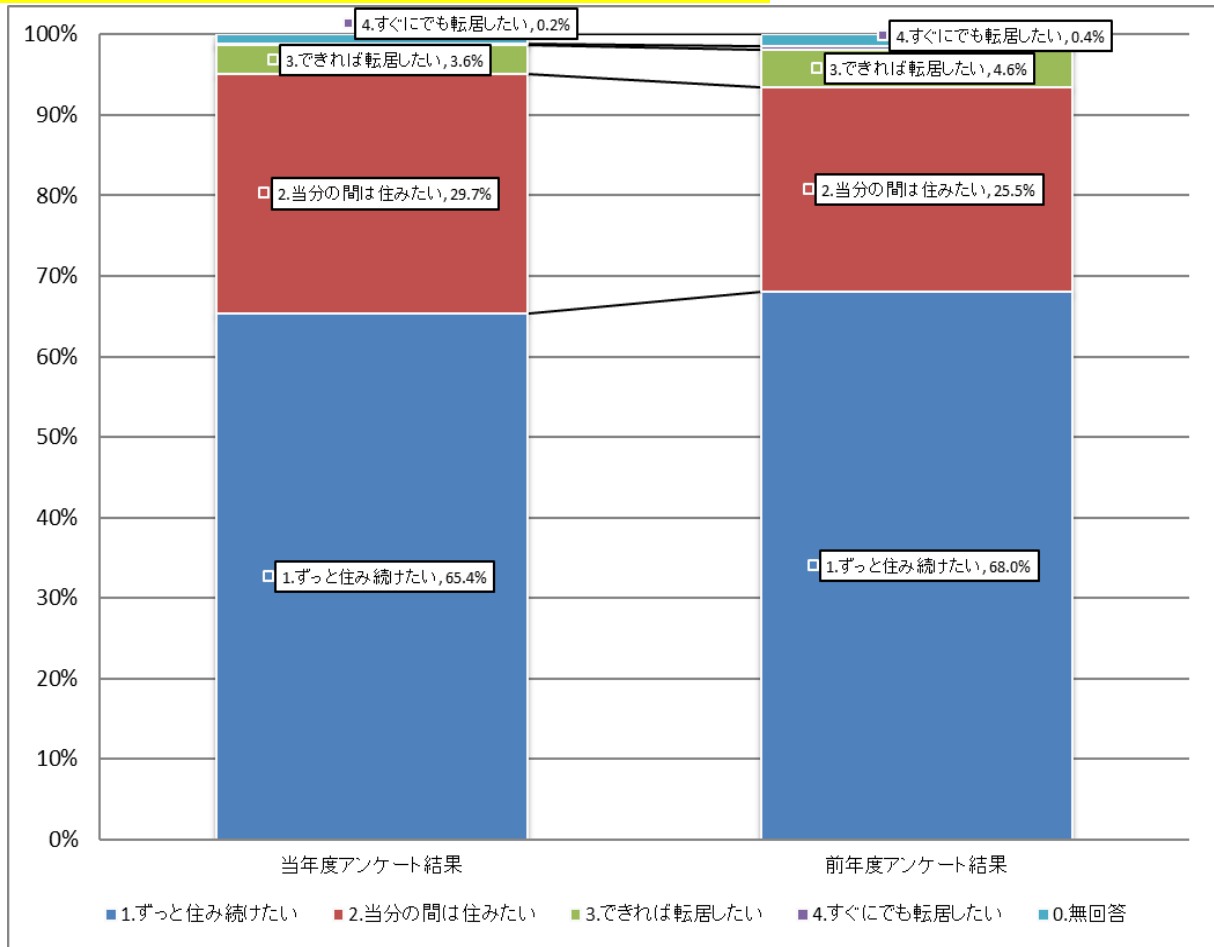


深谷地区が最も多く 24.0%となっています。次いで、上柴地区で 11.6%、幡羅地区で 10.5%となっています。最も少ないのは八基地区であり、1.9%となっています。

2. 深谷市のまちづくりについて

(1) 深谷市のまち全体の印象について（1. 問1）

これからもずっと深谷市に住み続けたいと思いますか。

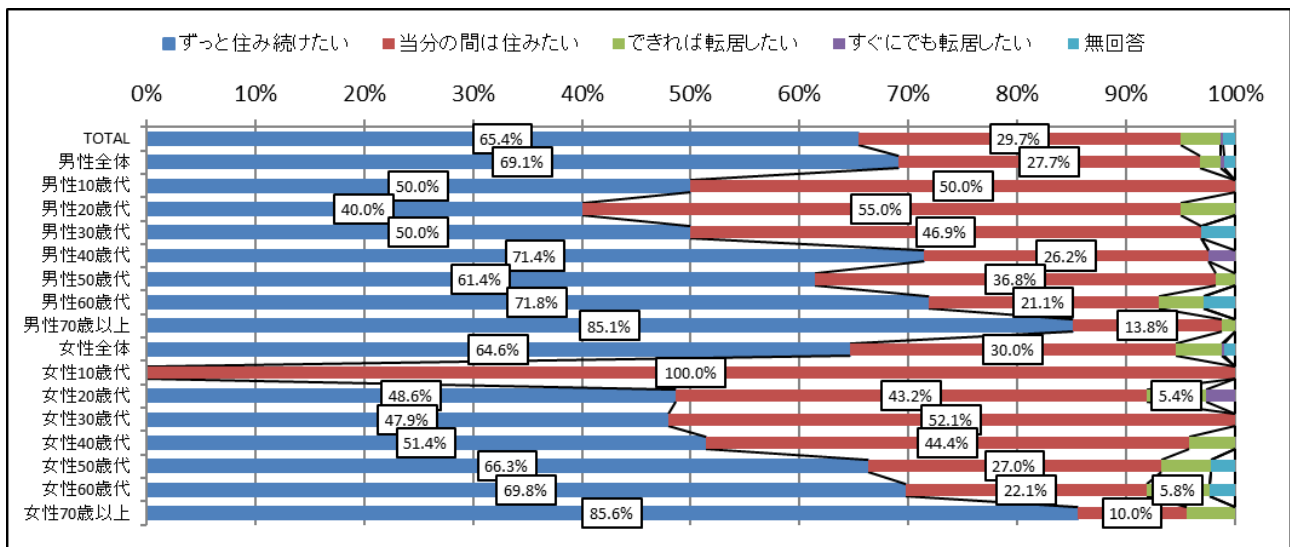


「ずっと住み続けたい」と回答した人の割合が 65.4%、「当分の間は住みたい」と回答した人の割合が 29.7%となっており、2つの合計は 95.1%と 9 割を超えていることから、深谷市民は定住意識が高いことがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「ずっと住み続けたい」または「当分の間は住みたい」と回答した人の割合の合計は 93.5%であり、「前年度アンケート」と比較して僅かに増加しています。

母集団		ずっと住み続けたい	当分の間は住みたい	できれば転居したい	すぐにも転居したい	無回答	合計
TOTAL	809	65.4%	29.7%	3.6%	0.2%	1.1%	100.0%
男性全体	311	69.1%	27.7%	1.9%	0.3%	1.0%	100.0%
男性10歳代	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	20	40.0%	55.0%	5.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	32	50.0%	46.9%	0.0%	0.0%	3.1%	100.0%
男性40歳代	42	71.4%	26.2%	0.0%	2.4%	0.0%	100.0%
男性50歳代	57	61.4%	36.8%	1.8%	0.0%	0.0%	100.0%
男性60歳代	71	71.8%	21.1%	4.2%	0.0%	2.8%	100.0%
男性70歳以上	87	85.1%	13.8%	1.1%	0.0%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	424	64.6%	30.0%	4.2%	0.2%	0.9%	100.0%
女性10歳代	2	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	37	48.6%	43.2%	5.4%	2.7%	0.0%	100.0%
女性30歳代	48	47.9%	52.1%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性40歳代	72	51.4%	44.4%	4.2%	0.0%	0.0%	100.0%
女性50歳代	89	66.3%	27.0%	4.5%	0.0%	2.2%	100.0%
女性60歳代	86	69.8%	22.1%	5.8%	0.0%	2.3%	100.0%
女性70歳以上	90	85.6%	10.0%	4.4%	0.0%	0.0%	100.0%
女性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
深谷地区	194	55.7%	40.2%	2.6%	1.0%	0.5%	100.0%
藤沢地区	61	70.5%	26.2%	0.0%	0.0%	3.3%	100.0%
幡羅地区	85	72.9%	24.7%	1.2%	0.0%	1.2%	100.0%
明戸地区	28	64.3%	28.6%	7.1%	0.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	25	64.0%	24.0%	12.0%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	15	60.0%	33.3%	0.0%	0.0%	6.7%	100.0%
豊里地区	25	68.0%	20.0%	8.0%	0.0%	4.0%	100.0%
上柴地区	94	62.8%	31.9%	4.3%	0.0%	1.1%	100.0%
南地区	49	77.6%	20.4%	2.0%	0.0%	0.0%	100.0%
岡部地区	77	68.8%	27.3%	2.6%	0.0%	1.3%	100.0%
川本地区	63	69.8%	22.2%	7.9%	0.0%	0.0%	100.0%
花園地区	75	70.7%	26.7%	2.7%	0.0%	0.0%	100.0%
無回答	18	50.0%	33.3%	11.1%	0.0%	5.6%	100.0%

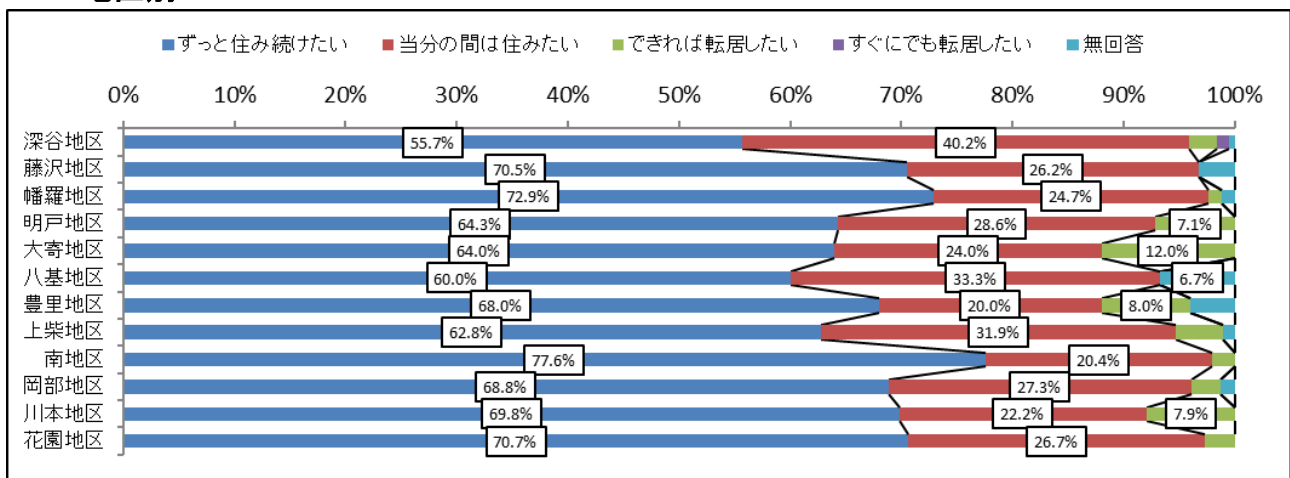
性別・世代別



性別・世代別にみると、「ずっと住み続けたい」と回答した人の割合は、男性が 69.1% であるのに対して、女性は 64.6% となっています。男女ともに多くの市民が、住み続けたいと考えていることがうかがえます。

また、「ずっと住み続けたい」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性 20 歳代 (40.0%)、女性 10 歳代 (0.0%) であり、一方で最も多い世代は、男性 70 歳以上 (85.1%)、女性 70 歳以上 (85.6%) となっています。

地区別



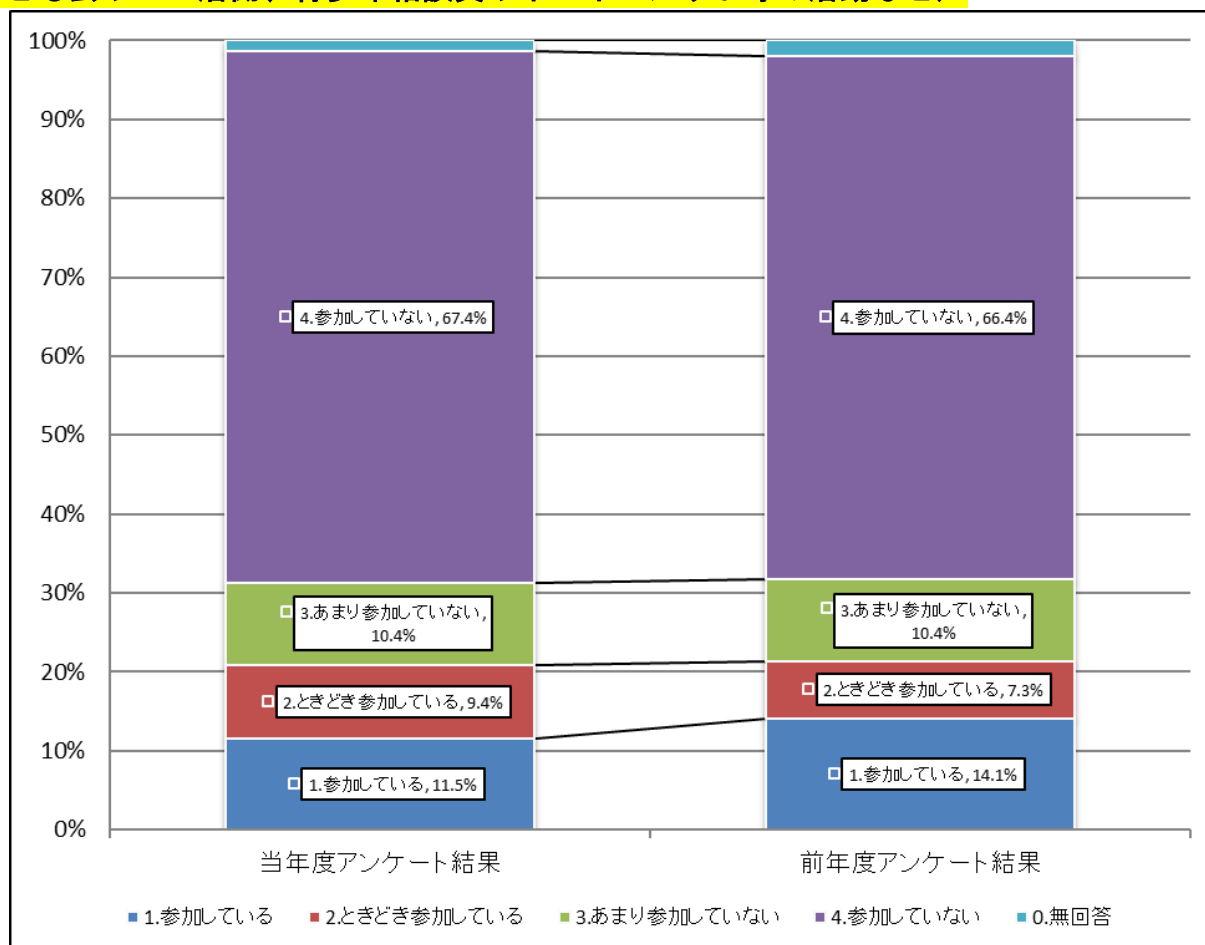
地区別にみると、「ずっと住み続けたい」と回答した人の割合は、深谷地区においては 55.7% と低い数値になっている一方で、南地区においては 77.6% と高い数値になっています。地域によって意識に差があることがわかります。

ただし、「ずっと住み続けたい」と回答した人の割合と「当分の間は住みたい」と回答した人の割合の合計は、ほとんどの地区で 9 割前後と高い数値であり、現時点において、深谷市外に転居を希望している人は少数であることがうかがえます。

(2) 子育て・保健・福祉について

① 子育てについて (2. 問1~3)

地域で子どもを育む活動に参加していますか。(例: ボランティア活動、スポーツの指導、子ども会やPTA活動、青少年相談員やボーイスカウト等の活動など)



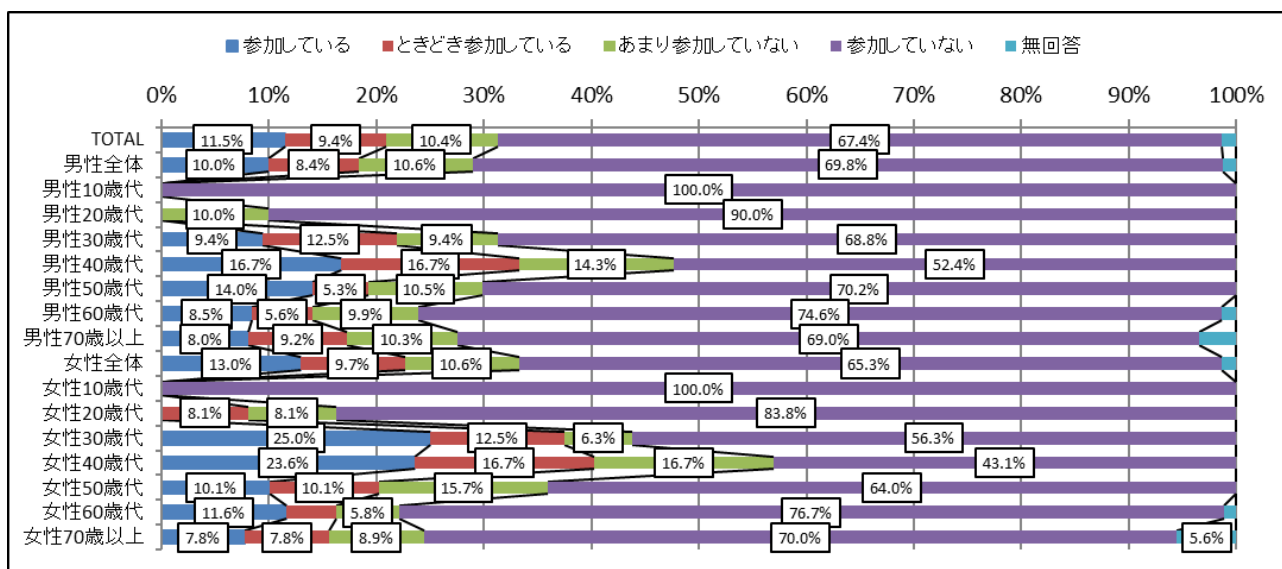
「参加していない」と回答した人の割合が 67.4%と最も多く、次いで「参加している」と回答した人の割合が 11.5%、「あまり参加していない」と回答した人の割合が 10.4%、「ときどき参加している」と回答した人の割合が最も少なく 9.4%となっています。

「参加している」「ときどき参加している」と回答した人の割合の合計は 20.9%であり、地域で子どもを育む活動に参加している市民は 2 割程度という状況がうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合の合計は 21.3%であり、「前年度アンケート」と比較してほぼ変化はありませんでした。「参加していない」または「あまり参加していない」と回答した人の割合の合計が前年度に比べ、1%増加という結果となっています。

母集団		参加している	参加している ときどき	参加していない あまり	参加していない	無回答	合計
TOTAL	809	11.5%	9.4%	10.4%	67.4%	1.4%	100.0%
男性全体	311	10.0%	8.4%	10.6%	69.8%	1.3%	100.0%
男性10歳代	2	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	20	0.0%	0.0%	10.0%	90.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	32	9.4%	12.5%	9.4%	68.8%	0.0%	100.0%
男性40歳代	42	16.7%	16.7%	14.3%	52.4%	0.0%	100.0%
男性50歳代	57	14.0%	5.3%	10.5%	70.2%	0.0%	100.0%
男性60歳代	71	8.5%	5.6%	9.9%	74.6%	1.4%	100.0%
男性70歳以上	87	8.0%	9.2%	10.3%	69.0%	3.4%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	424	13.0%	9.7%	10.6%	65.3%	1.4%	100.0%
女性10歳代	2	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	37	0.0%	8.1%	8.1%	83.8%	0.0%	100.0%
女性30歳代	48	25.0%	12.5%	6.3%	56.3%	0.0%	100.0%
女性40歳代	72	23.6%	16.7%	16.7%	43.1%	0.0%	100.0%
女性50歳代	89	10.1%	10.1%	15.7%	64.0%	0.0%	100.0%
女性60歳代	86	11.6%	4.7%	5.8%	76.7%	1.2%	100.0%
女性70歳以上	90	7.8%	7.8%	8.9%	70.0%	5.6%	100.0%
女性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
深谷地区	194	8.8%	7.7%	8.8%	73.7%	1.0%	100.0%
藤沢地区	61	18.0%	4.9%	11.5%	62.3%	3.3%	100.0%
幡羅地区	85	9.4%	20.0%	15.3%	55.3%	0.0%	100.0%
明戸地区	28	28.6%	10.7%	7.1%	53.6%	0.0%	100.0%
大寄地区	25	16.0%	8.0%	0.0%	72.0%	4.0%	100.0%
八基地区	15	13.3%	20.0%	13.3%	46.7%	6.7%	100.0%
豊里地区	25	12.0%	12.0%	12.0%	64.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	94	12.8%	6.4%	8.5%	70.2%	2.1%	100.0%
南地区	49	12.2%	10.2%	8.2%	69.4%	0.0%	100.0%
岡部地区	77	10.4%	10.4%	11.7%	67.5%	0.0%	100.0%
川本地区	63	7.9%	7.9%	12.7%	68.3%	3.2%	100.0%
花園地区	75	10.7%	6.7%	13.3%	68.0%	1.3%	100.0%
無回答	18	5.6%	5.6%	5.6%	83.3%	0.0%	100.0%

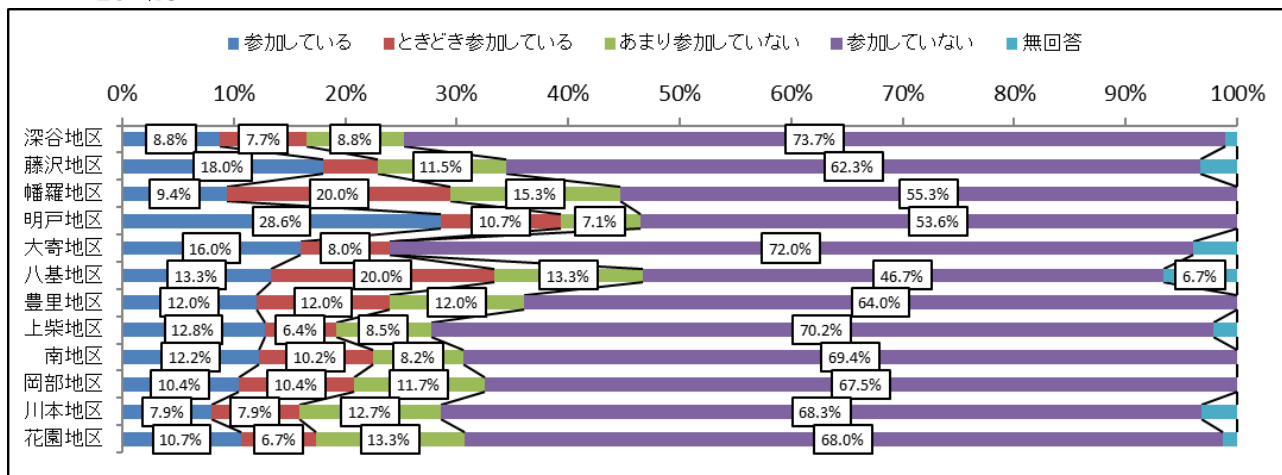
▶ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合の合計は、男性が18.4%であるのに対して、女性は22.7%となっています。

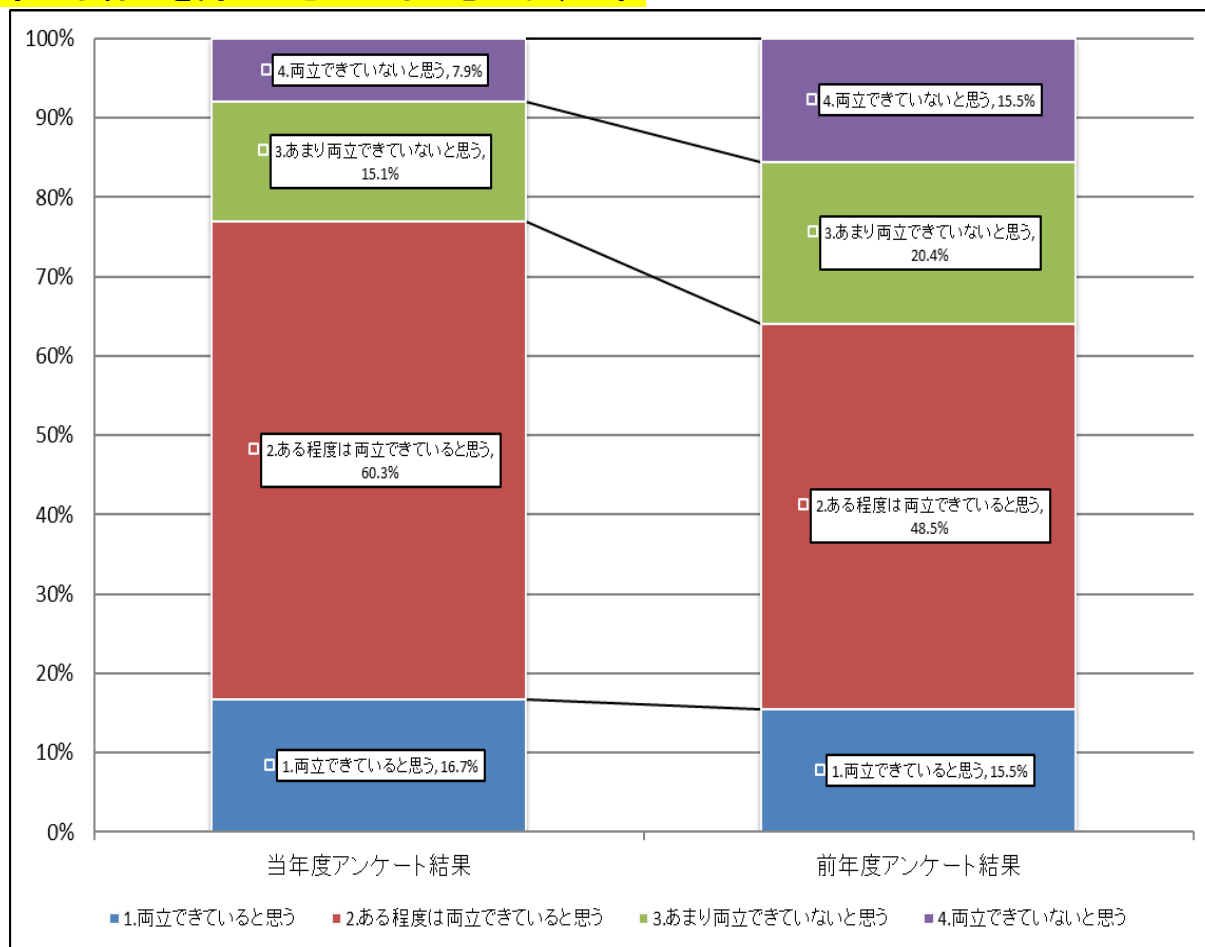
また、「参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性10歳代・20歳代ともに(0.0%)、女性10歳代(0.0%)であり、一方で最も多い世代は、男性40歳代(33.4%)、女性40歳代(40.3%)となっています。世代によって差があることがうかがえます。

▶ 地区別



地区別にみると、「参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、川本地区(15.8%)であり、次いで深谷地区(16.5%)となっています。最も多い地区は、明戸地区(39.3%)であり、次いで八基地区(33.3%)となっています。

**小学生以下（小学校6年生まで）のお子さんを持つ保護者の方にお尋ねします。
仕事と子育てを両立できていると思いますか。**



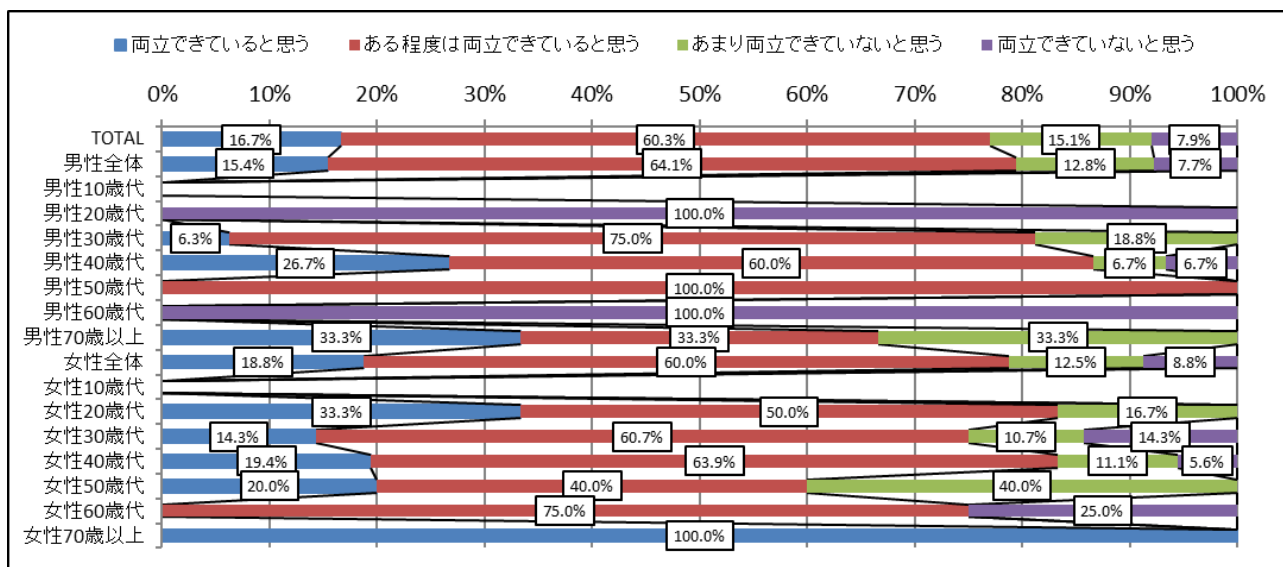
「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合が 60.3%と最も多く、次いで「両立できていると思う」と回答した人の割合が 16.7%、「あまり両立できていないと思う」と回答した人の割合 15.1%、「両立できていないと思う」と回答した人の割合が最も少なく 7.9%となっています。

「両立できていると思う」「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合の合計は 77.0%であり、小学生以下（小学校6年生まで）のお子さんを持つ保護者のうち 8割近くが、仕事と子育ての両立ができていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「両立できていると思う」または「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合の合計は 64.1%であり、「前年度アンケート」と比較して大きく増加しています。

母集団		両立できていると思う	ある程度は両立できていると思う	あまり両立できていないと思う	両立できていないと思う	無回答	合計
TOTAL	126	16.7%	60.3%	15.1%	7.9%	0.0%	100.0%
男性全体	39	15.4%	64.1%	12.8%	7.7%	0.0%	100.0%
男性10歳代	0	—	—	—	—	—	—
男性20歳代	1	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	16	6.3%	75.0%	18.8%	0.0%	0.0%	100.0%
男性40歳代	15	26.7%	60.0%	6.7%	6.7%	0.0%	100.0%
男性50歳代	3	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性60歳代	1	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	3	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	80	18.8%	60.0%	12.5%	8.8%	0.0%	100.0%
女性10歳代	0	—	—	—	—	—	—
女性20歳代	6	33.3%	50.0%	16.7%	0.0%	0.0%	100.0%
女性30歳代	28	14.3%	60.7%	10.7%	14.3%	0.0%	100.0%
女性40歳代	36	19.4%	63.9%	11.1%	5.6%	0.0%	100.0%
女性50歳代	5	20.0%	40.0%	40.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性60歳代	4	0.0%	75.0%	0.0%	25.0%	0.0%	100.0%
女性70歳以上	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
深谷地区	36	8.3%	72.2%	16.7%	2.8%	0.0%	100.0%
藤沢地区	9	44.4%	55.6%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
幡羅地区	18	22.2%	50.0%	5.6%	22.2%	0.0%	100.0%
明戸地区	8	25.0%	37.5%	25.0%	12.5%	0.0%	100.0%
大寄地区	2	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	1	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	5	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	10	20.0%	70.0%	0.0%	10.0%	0.0%	100.0%
南地区	4	0.0%	75.0%	0.0%	25.0%	0.0%	100.0%
岡部地区	16	18.8%	56.3%	18.8%	6.3%	0.0%	100.0%
川本地区	4	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
花園地区	11	27.3%	54.5%	18.2%	0.0%	0.0%	100.0%
無回答	2	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%

性別・世代別

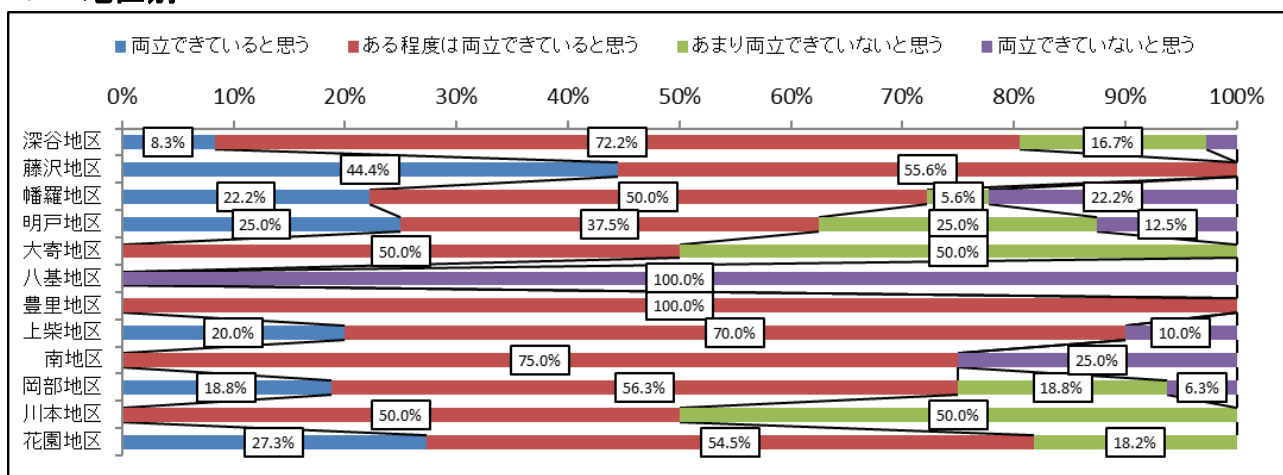


性別・世代別にみると、「両立できていると思う」または「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合の合計は、男性が 79.5% であるのに対して、女性は 78.8% となっています。

30 歳代において、「両立できていると思う」または「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合の合計は、男性 81.3%、女性 75.0% であり、男性の方が両立できていると回答している人の割合が高くなっています。

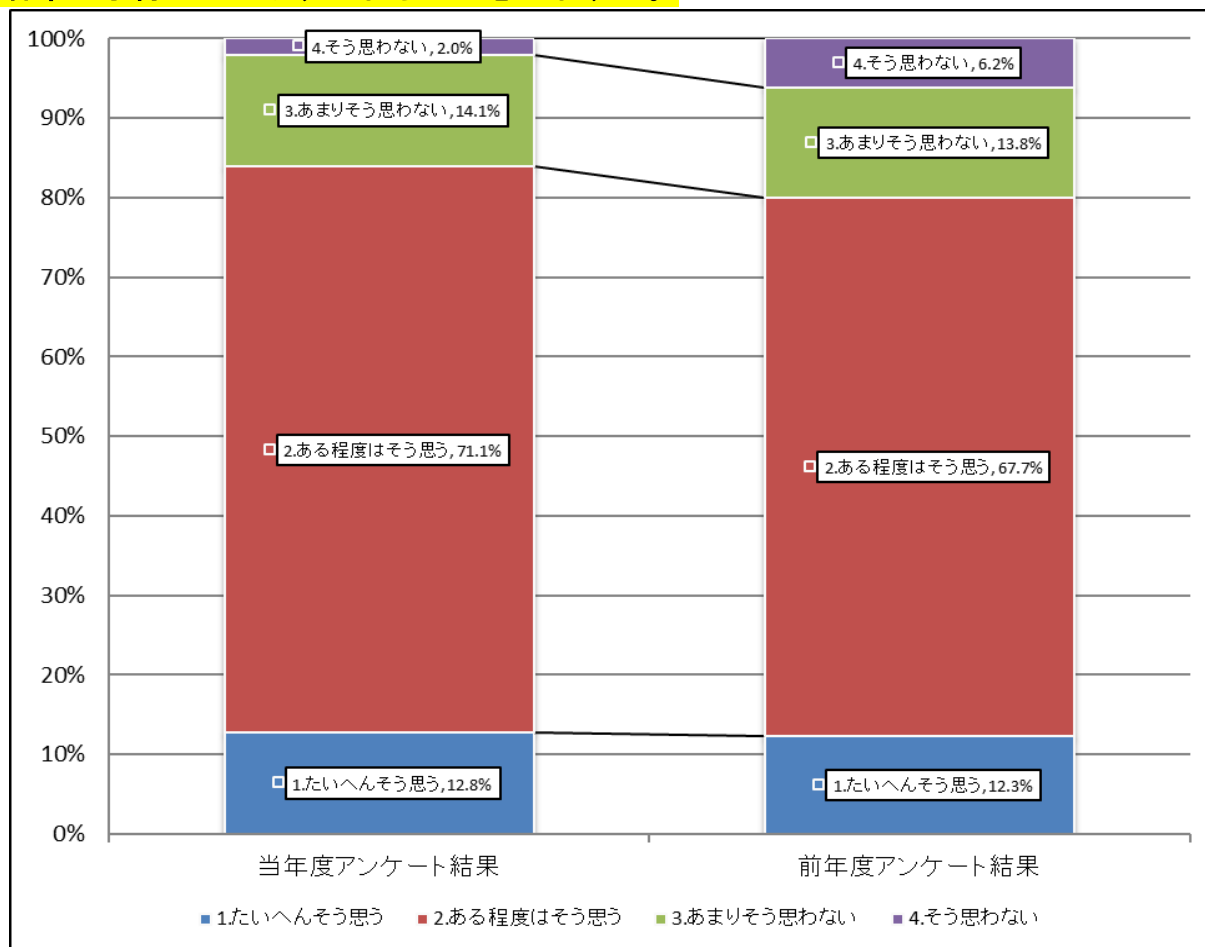
40 歳代において、「両立できていると思う」または「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合の合計は、男性 86.7%、女性 83.3% と世代によって差があることがうかがえます。

地区別



地区別にみると、10 人以上が回答し、かつ、「両立できていると思う」または「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、幡羅地区 (72.2%) であり、最も多い地区は、上柴地区 (90.0%) となっています。

**中学生以下（中学校3年生まで）のお子さんを持つ保護者の方にお尋ねします。
深谷市が子育てのしやすいまちだと思いますか。**



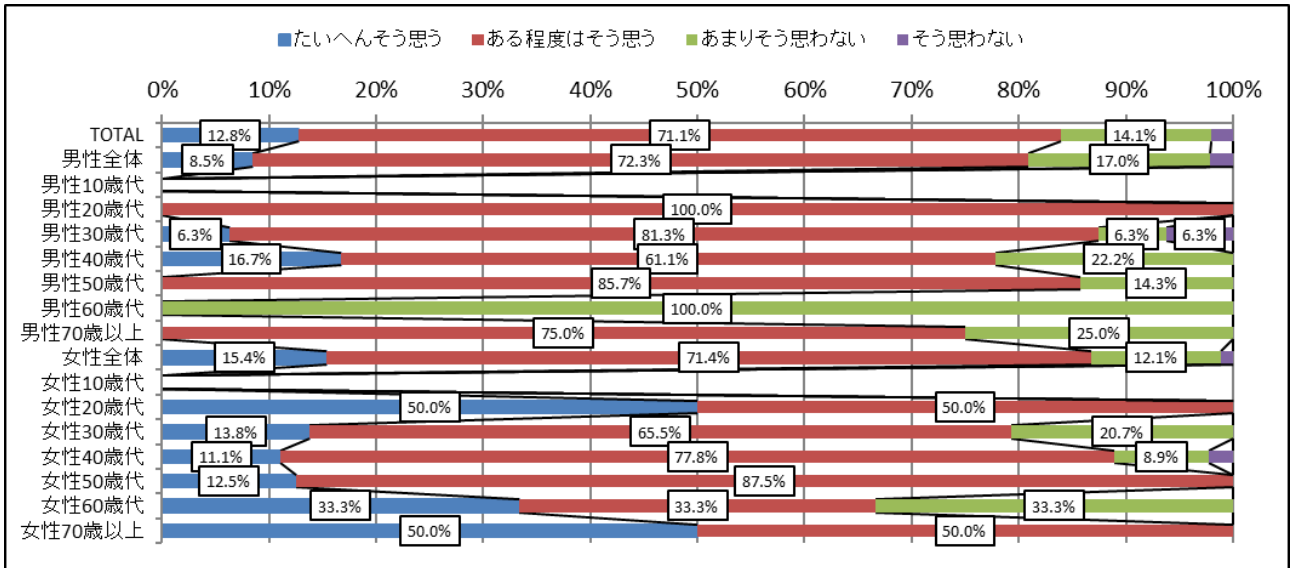
「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が 71.1%と最も多く、次いで「あまりそう思わない」が 14.1%、「たいへんそう思う」が 12.8%、「そう思わない」と回答した人の割合が最も少なく 2.0%となっています。

「たいへんそう思う」「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は 83.9%であり、中学生以下（中学校3年生まで）のお子さんを持つ保護者のうち8割以上が、深谷市は子育てのしやすいまちだと感じていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は 80.0%であり、「前年度アンケート」と比較して増加しています。

母集団		たいへんそう思う	ある程度は そう思う	そう思わない あまり	そう思わない	無回答	合計
TOTAL	149	12.8%	71.1%	14.1%	2.0%	0.0%	100.0%
男性全体	47	8.5%	72.3%	17.0%	2.1%	0.0%	100.0%
男性10歳代	0	—	—	—	—	—	—
男性20歳代	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	16	6.3%	81.3%	6.3%	6.3%	0.0%	100.0%
男性40歳代	18	16.7%	61.1%	22.2%	0.0%	0.0%	100.0%
男性50歳代	7	0.0%	85.7%	14.3%	0.0%	0.0%	100.0%
男性60歳代	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	4	0.0%	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	91	15.4%	71.4%	12.1%	1.1%	0.0%	100.0%
女性10歳代	0	—	—	—	—	—	—
女性20歳代	4	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性30歳代	29	13.8%	65.5%	20.7%	0.0%	0.0%	100.0%
女性40歳代	45	11.1%	77.8%	8.9%	2.2%	0.0%	100.0%
女性50歳代	8	12.5%	87.5%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性60歳代	3	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
女性70歳以上	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
深谷地区	40	5.0%	80.0%	15.0%	0.0%	0.0%	100.0%
藤沢地区	11	18.2%	81.8%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
幡羅地区	25	24.0%	64.0%	12.0%	0.0%	0.0%	100.0%
明戸地区	6	16.7%	66.7%	16.7%	0.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	3	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	3	0.0%	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%	100.0%
豊里地区	5	20.0%	80.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	15	13.3%	60.0%	20.0%	6.7%	0.0%	100.0%
南地区	5	0.0%	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100.0%
岡部地区	15	20.0%	60.0%	13.3%	6.7%	0.0%	100.0%
川本地区	4	0.0%	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	100.0%
花園地区	14	14.3%	64.3%	21.4%	0.0%	0.0%	100.0%
無回答	3	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%

➤ 性別・世代別

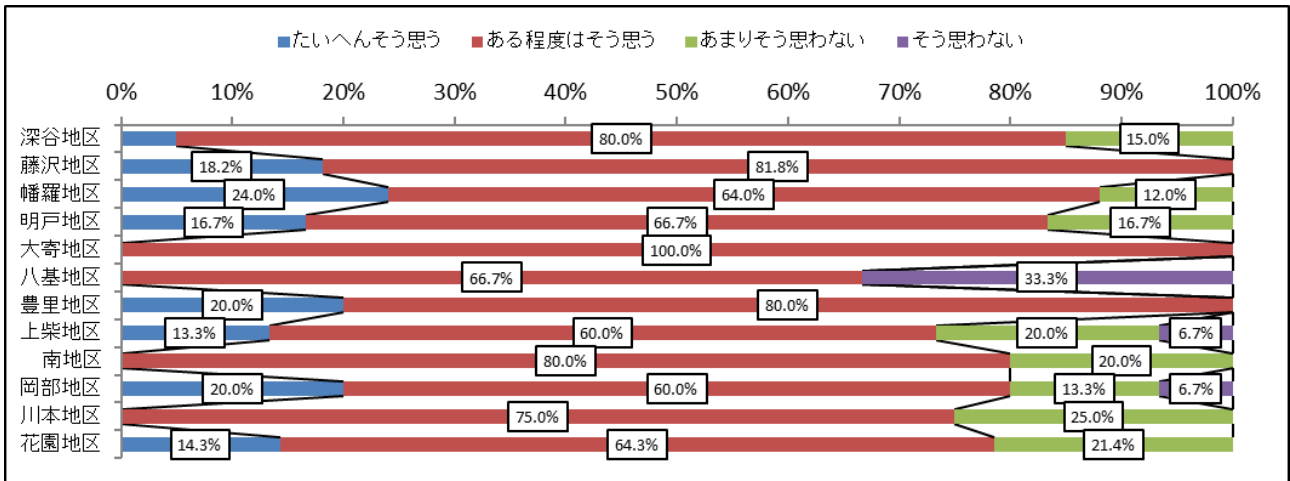


性別・世代別にみると、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は、男性が80.8%であるのに対して、女性は86.8%となっています。

30歳代において、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は、男性87.6%、女性79.3%であり、男性の方が子育てのしやすいまちだと回答している人の割合が高くなっています。

40歳代において、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は、男性77.8%、女性88.9%と女性の方の割合が高くなっています。世代によって差があることがうかがえます。

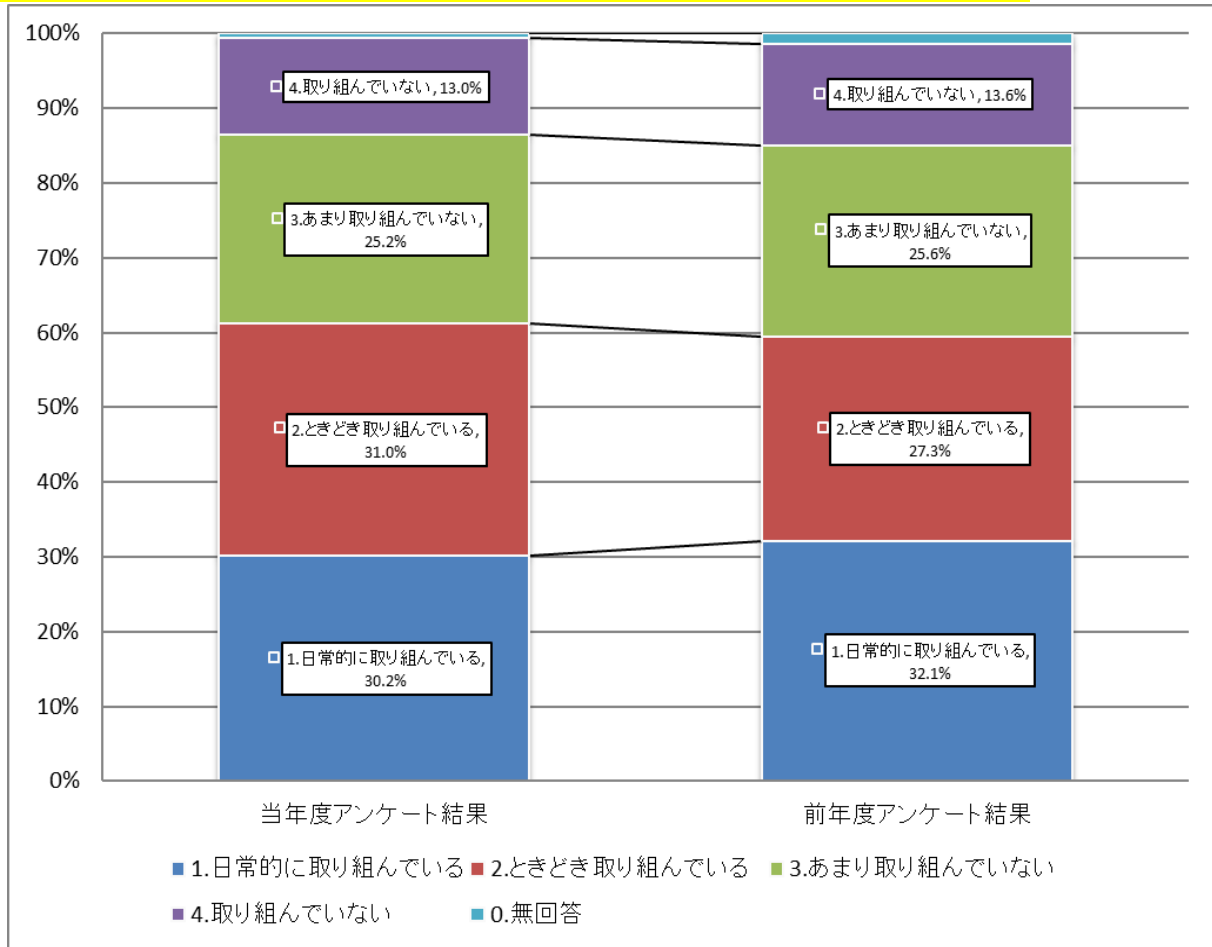
➤ 地区別



地区別にみると、10人以上が回答し、かつ、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、上柴地区（73.3%）であり、最も多い地区は、藤沢地区（100.0%）となっています。

② 保健について（2. 問4～7）

普段の生活で健康づくり（運動や歩くことなど）に取り組んでいますか。



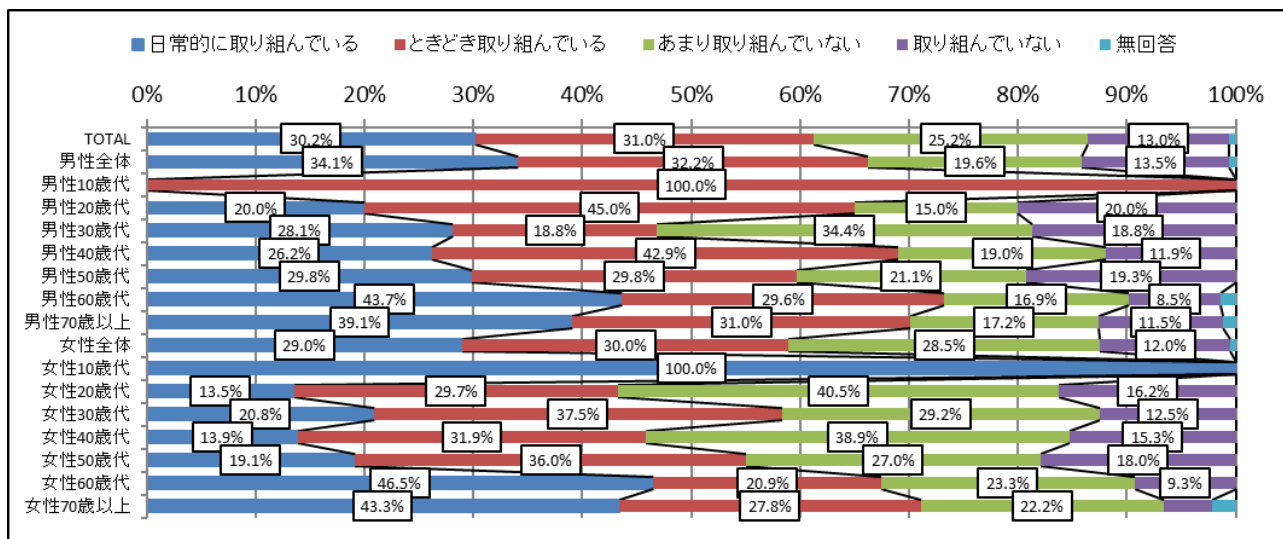
「日常的に取り組んでいる」と回答した人の割合が 30.2%と最も多く、次いで「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合が 31.0%、「あまり取り組んでいない」と回答した人の割合が 25.2%、「取り組んでいない」と回答した人の割合が最も少なく 13.0%となっています。

「日常的に取り組んでいる」または「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合の合計は 61.2%であり、6 割以上の市民が普段の生活で健康づくりに取り組んでいることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「日常的に取り組んでいる」または「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合の合計は 59.4%であり、「前年度アンケート」と比較して僅かに増加しています。

母集団		日常的に取り組んでいる	ときどき取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない	無回答	合計
TOTAL	809	30.2%	31.0%	25.2%	13.0%	0.6%	100.0%
男性全体	311	34.1%	32.2%	19.6%	13.5%	0.6%	100.0%
男性10歳代	2	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	20	20.0%	45.0%	15.0%	20.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	32	28.1%	18.8%	34.4%	18.8%	0.0%	100.0%
男性40歳代	42	26.2%	42.9%	19.0%	11.9%	0.0%	100.0%
男性50歳代	57	29.8%	29.8%	21.1%	19.3%	0.0%	100.0%
男性60歳代	71	43.7%	29.6%	16.9%	8.5%	1.4%	100.0%
男性70歳以上	87	39.1%	31.0%	17.2%	11.5%	1.1%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	424	29.0%	30.0%	28.5%	12.0%	0.5%	100.0%
女性10歳代	2	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	37	13.5%	29.7%	40.5%	16.2%	0.0%	100.0%
女性30歳代	48	20.8%	37.5%	29.2%	12.5%	0.0%	100.0%
女性40歳代	72	13.9%	31.9%	38.9%	15.3%	0.0%	100.0%
女性50歳代	89	19.1%	36.0%	27.0%	18.0%	0.0%	100.0%
女性60歳代	86	46.5%	20.9%	23.3%	9.3%	0.0%	100.0%
女性70歳以上	90	43.3%	27.8%	22.2%	4.4%	2.2%	100.0%
女性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
深谷地区	194	23.7%	30.9%	25.8%	18.6%	1.0%	100.0%
藤沢地区	61	34.4%	32.8%	16.4%	16.4%	0.0%	100.0%
幡羅地区	85	32.9%	31.8%	23.5%	11.8%	0.0%	100.0%
明戸地区	28	32.1%	39.3%	17.9%	10.7%	0.0%	100.0%
大寄地区	25	36.0%	20.0%	32.0%	12.0%	0.0%	100.0%
八基地区	15	6.7%	33.3%	40.0%	13.3%	6.7%	100.0%
豊里地区	25	20.0%	32.0%	24.0%	24.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	94	36.2%	29.8%	24.5%	8.5%	1.1%	100.0%
南地区	49	42.9%	28.6%	18.4%	10.2%	0.0%	100.0%
岡部地区	77	27.3%	33.8%	28.6%	10.4%	0.0%	100.0%
川本地区	63	36.5%	28.6%	25.4%	9.5%	0.0%	100.0%
花園地区	75	30.7%	26.7%	30.7%	10.7%	1.3%	100.0%
無回答	18	16.7%	50.0%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%

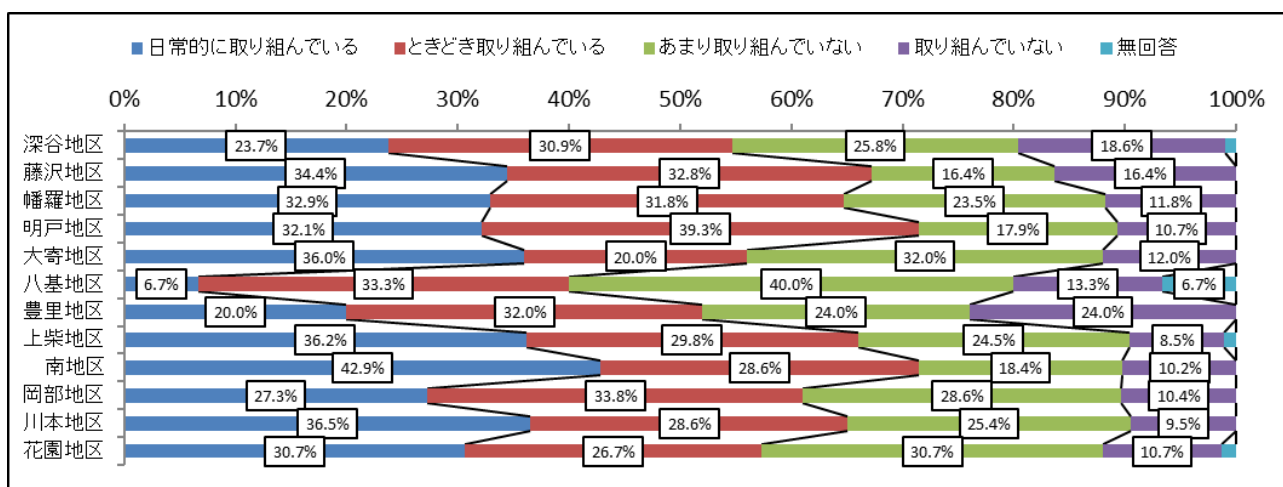
性別・世代別



性別・世代別にみると、「日常的に取り組んでいる」または「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合の合計は、男性が 66.3%であるのに対して、女性は 59.0%となっています。

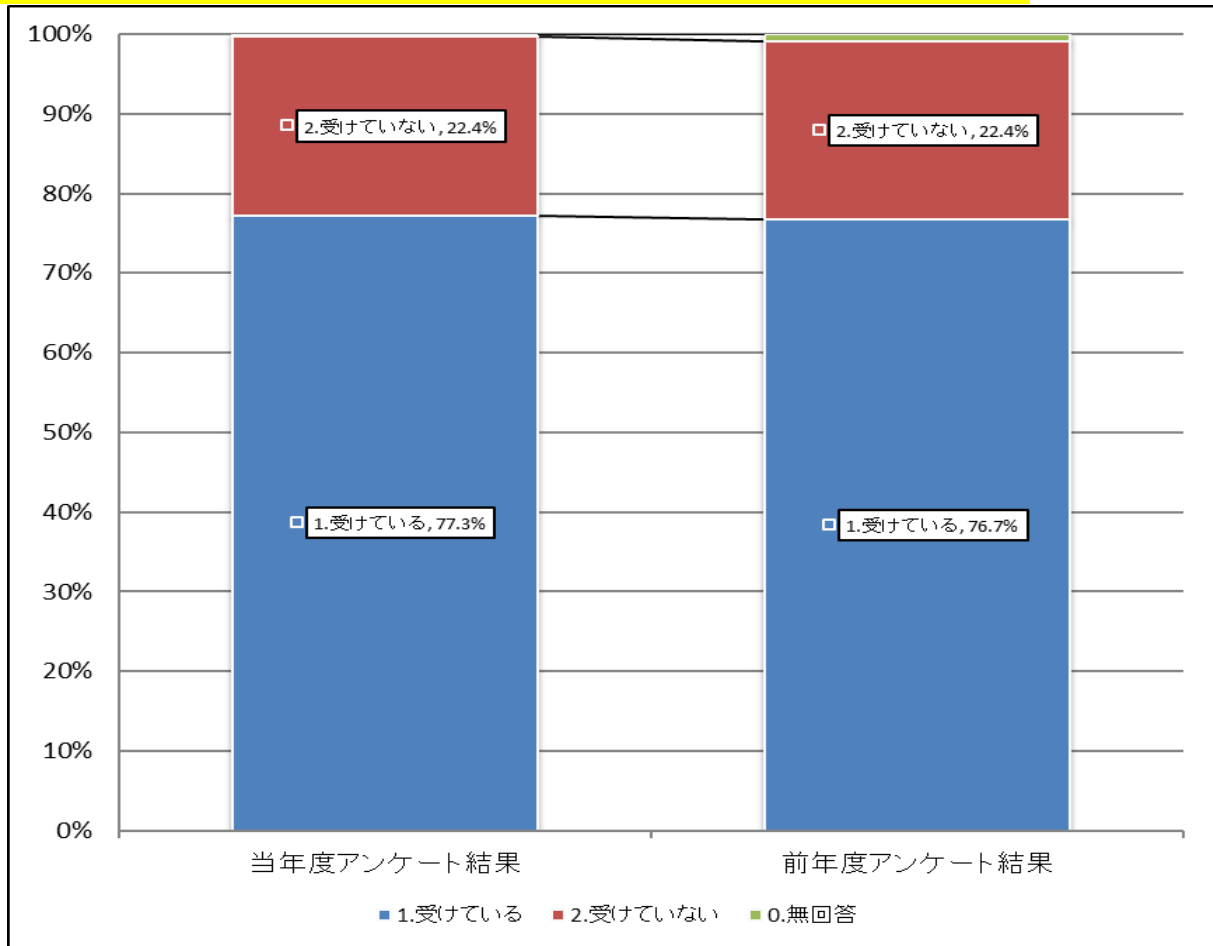
また、「日常的に取り組んでいる」または「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性 30 歳代 (46.9%)、女性 20 歳代 (43.2%) であり、一方で最も多い世代は、男性 10 歳代 (100.0%)、女性 10 歳代 (100.0%) となっています。

地区別



地区別にみると、「日常的に取り組んでいる」または「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、八基地区 (40.0%) であり、次いで豊里地区 (52.0%) となっています。最も多い地区は、南地区 (71.5%) であり、次いで明戸地区 (71.4%) となっています。

定期的に健康診断や人間ドック、がん検診のいずれかを受けていますか。



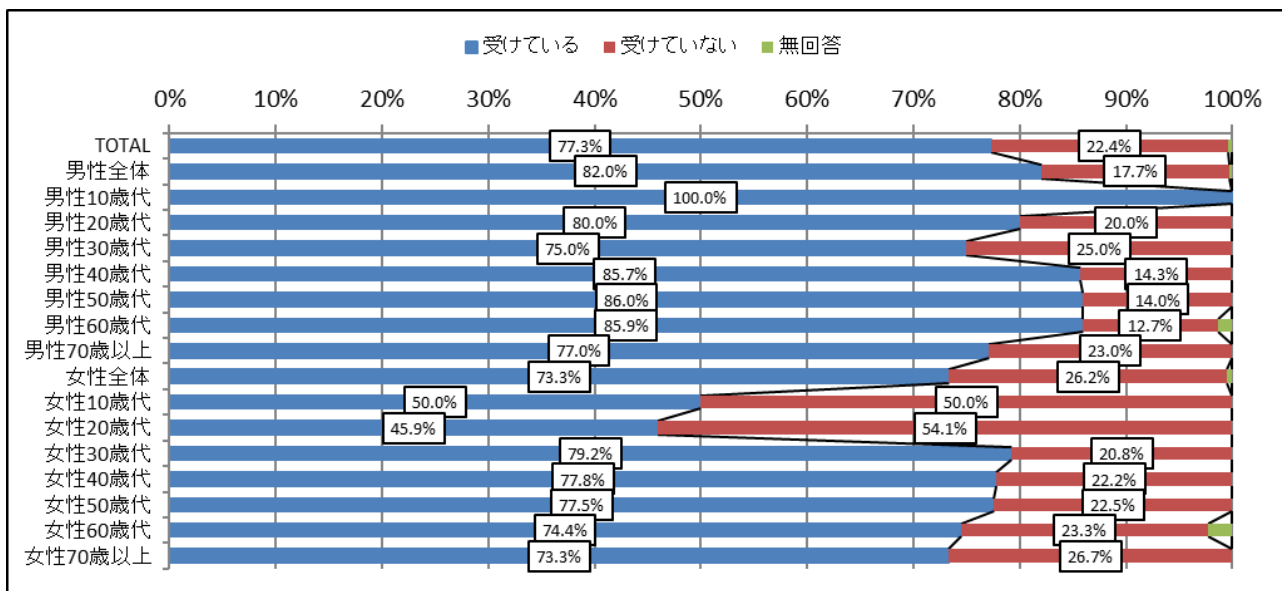
「受けている」と回答した人の割合は 77.3%、「受けていない」と回答した人の割合は 22.4%となっています。

8 割近くの市民が定期的に健康診断や人間ドック、がん検診のいずれかを受けていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「受けている」と回答した人の割合は 76.7%であり、「前年度アンケート」と比較してほぼ変化はありませんでした。

母集団		受けている	受けていない	無回答	合計
TOTAL	809	77.3%	22.4%	0.4%	100.0%
男性全体	311	82.0%	17.7%	0.3%	100.0%
男性10歳代	2	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	20	80.0%	20.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	32	75.0%	25.0%	0.0%	100.0%
男性40歳代	42	85.7%	14.3%	0.0%	100.0%
男性50歳代	57	86.0%	14.0%	0.0%	100.0%
男性60歳代	71	85.9%	12.7%	1.4%	100.0%
男性70歳以上	87	77.0%	23.0%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—
女性全体	424	73.3%	26.2%	0.5%	100.0%
女性10歳代	2	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	37	45.9%	54.1%	0.0%	100.0%
女性30歳代	48	79.2%	20.8%	0.0%	100.0%
女性40歳代	72	77.8%	22.2%	0.0%	100.0%
女性50歳代	89	77.5%	22.5%	0.0%	100.0%
女性60歳代	86	74.4%	23.3%	2.3%	100.0%
女性70歳以上	90	73.3%	26.7%	0.0%	100.0%
女性年齢不詳		—	—	—	—
深谷地区	194	77.8%	22.2%	0.0%	100.0%
藤沢地区	61	77.0%	23.0%	0.0%	100.0%
幡羅地区	85	81.2%	18.8%	0.0%	100.0%
明戸地区	28	82.1%	17.9%	0.0%	100.0%
大寄地区	25	76.0%	24.0%	0.0%	100.0%
八基地区	15	60.0%	40.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	76.0%	16.0%	8.0%	100.0%
上柴地区	94	72.3%	26.6%	1.1%	100.0%
南地区	49	89.8%	10.2%	0.0%	100.0%
岡部地区	77	77.9%	22.1%	0.0%	100.0%
川本地区	63	76.2%	23.8%	0.0%	100.0%
花園地区	75	70.7%	29.3%	0.0%	100.0%
無回答	18	83.3%	16.7%	0.0%	100.0%

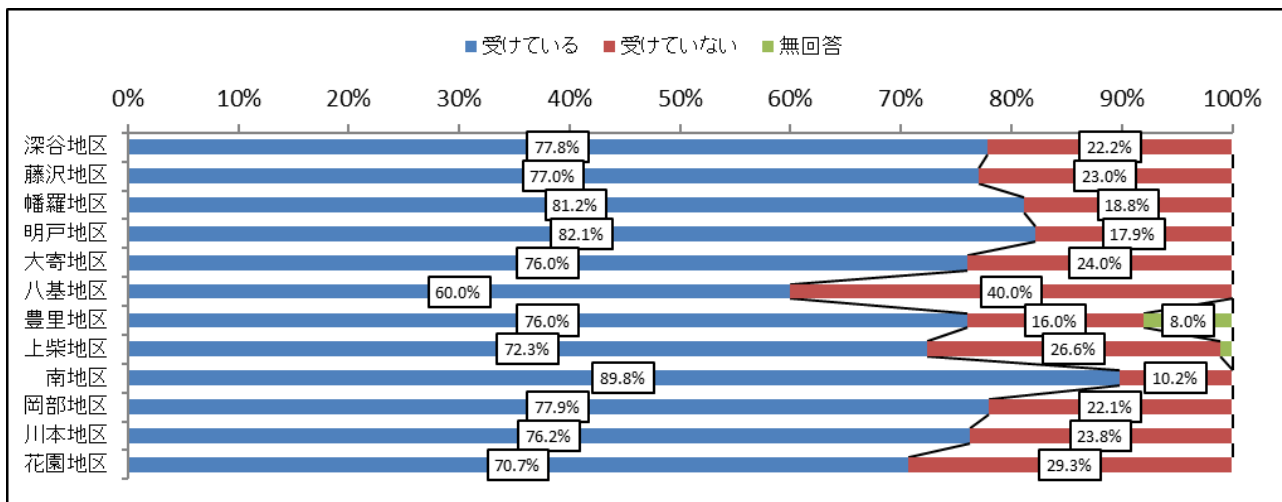
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「受けている」と回答した人の割合は、男性が 82.0%であるのに対して、女性は 73.3%と男女によって差があることがうかがえます。

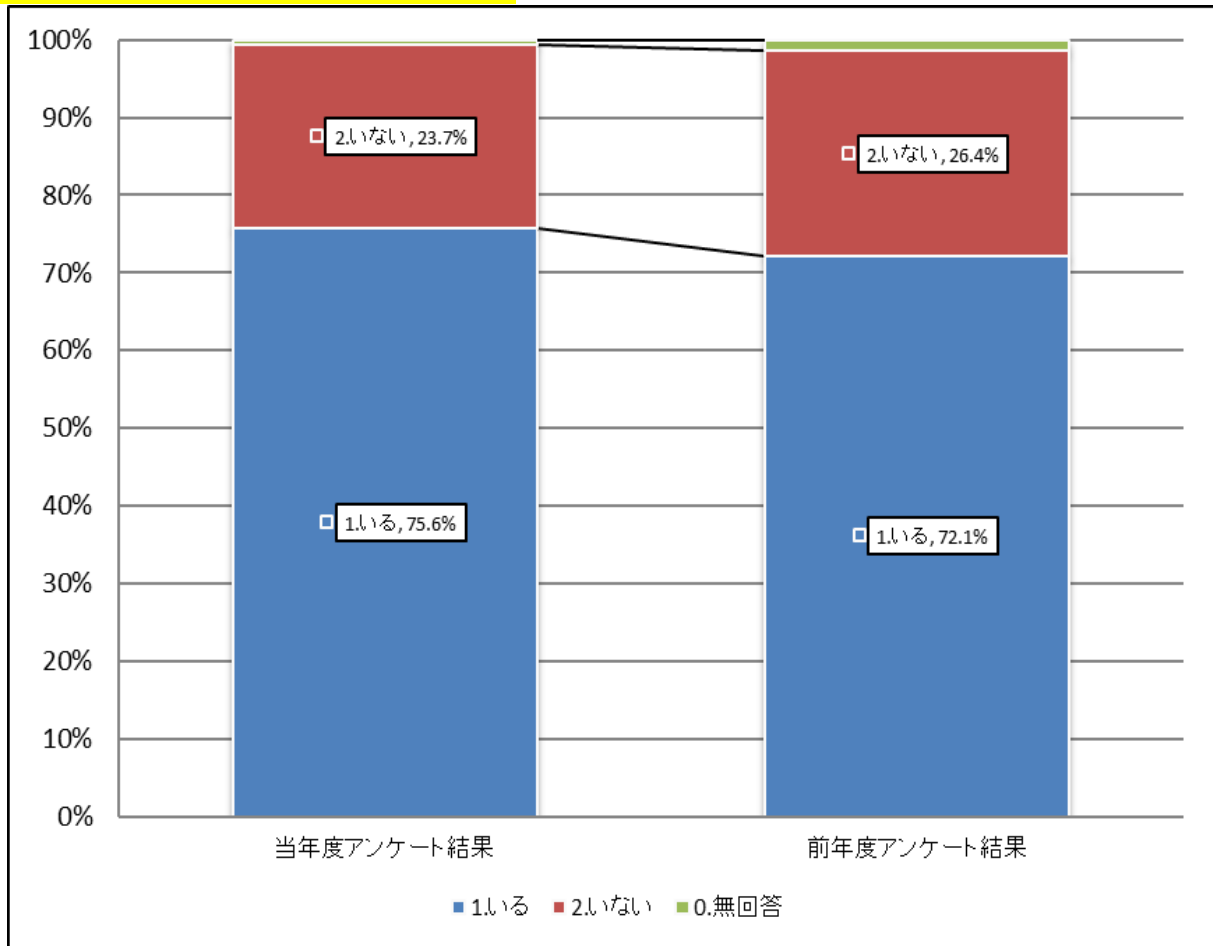
また、「受けている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性 30 歳代 (75.0%)、女性 20 歳代 (45.9%) であり、一方で最も多い世代は、男性 10 歳代 (100.0%)、女性 30 歳代 (79.2%) となっています。女性は世代によって差があることがうかがえます。

➤ 地区別



地区別にみると、「受けている」と回答した人の割合が最も少ない地区は、八基地区 (60.0%) であり、次いで花園地区 (70.7%) となっています。最も多い地区は、南地区 (89.8%) であり、次いで明戸地区 (82.1%) となっています。

かかりつけのお医者さんはいますか。



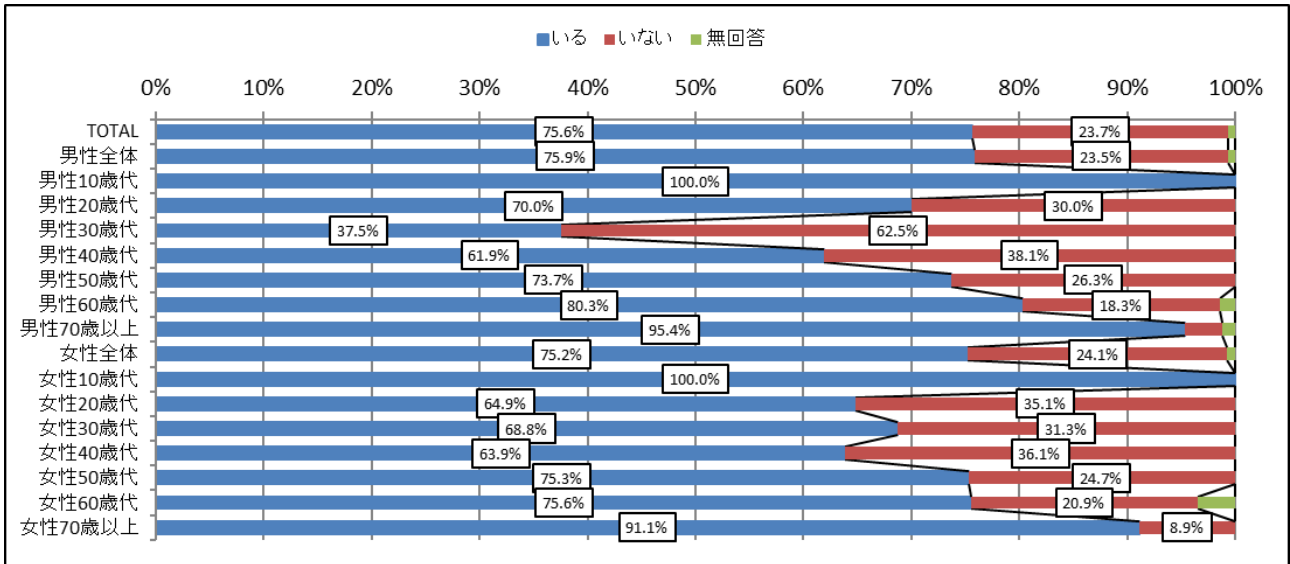
「いる」と回答した人の割合は 75.6%、「いない」と回答した人の割合は 23.7%となっています。

多くの市民にかかりつけ医がいる一方、約 4 人に 1 人はかかりつけ医がないという状況がうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「いる」と回答した人の割合は 72.1%であり、「前年度アンケート」と比較して増加しています。

母集団		いる	いない	無回答	合計
TOTAL	809	75.6%	23.7%	0.6%	100.0%
男性全体	311	75.9%	23.5%	0.6%	100.0%
男性10歳代	2	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	20	70.0%	30.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	32	37.5%	62.5%	0.0%	100.0%
男性40歳代	42	61.9%	38.1%	0.0%	100.0%
男性50歳代	57	73.7%	26.3%	0.0%	100.0%
男性60歳代	71	80.3%	18.3%	1.4%	100.0%
男性70歳以上	87	95.4%	3.4%	1.1%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—
女性全体	424	75.2%	24.1%	0.7%	100.0%
女性10歳代	2	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	37	64.9%	35.1%	0.0%	100.0%
女性30歳代	48	68.8%	31.3%	0.0%	100.0%
女性40歳代	72	63.9%	36.1%	0.0%	100.0%
女性50歳代	89	75.3%	24.7%	0.0%	100.0%
女性60歳代	86	75.6%	20.9%	3.5%	100.0%
女性70歳以上	90	91.1%	8.9%	0.0%	100.0%
女性年齢不詳		—	—	—	—
深谷地区	194	74.7%	25.3%	0.0%	100.0%
藤沢地区	61	86.9%	11.5%	1.6%	100.0%
幡羅地区	85	76.5%	23.5%	0.0%	100.0%
明戸地区	28	82.1%	17.9%	0.0%	100.0%
大寄地区	25	92.0%	8.0%	0.0%	100.0%
八基地区	15	60.0%	40.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	60.0%	32.0%	8.0%	100.0%
上柴地区	94	77.7%	21.3%	1.1%	100.0%
南地区	49	73.5%	26.5%	0.0%	100.0%
岡部地区	77	71.4%	28.6%	0.0%	100.0%
川本地区	63	76.2%	22.2%	1.6%	100.0%
花園地区	75	74.7%	25.3%	0.0%	100.0%
無回答	18	61.1%	38.9%	0.0%	100.0%

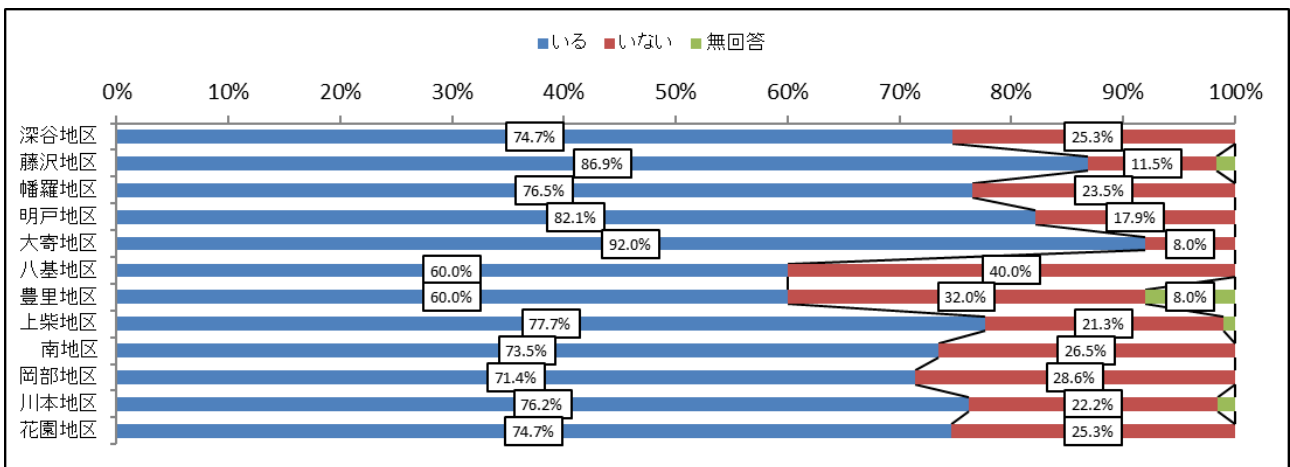
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「いる」と回答した人の割合は、男性が 75.9%であるのに対して、女性は 75.2%となっています。

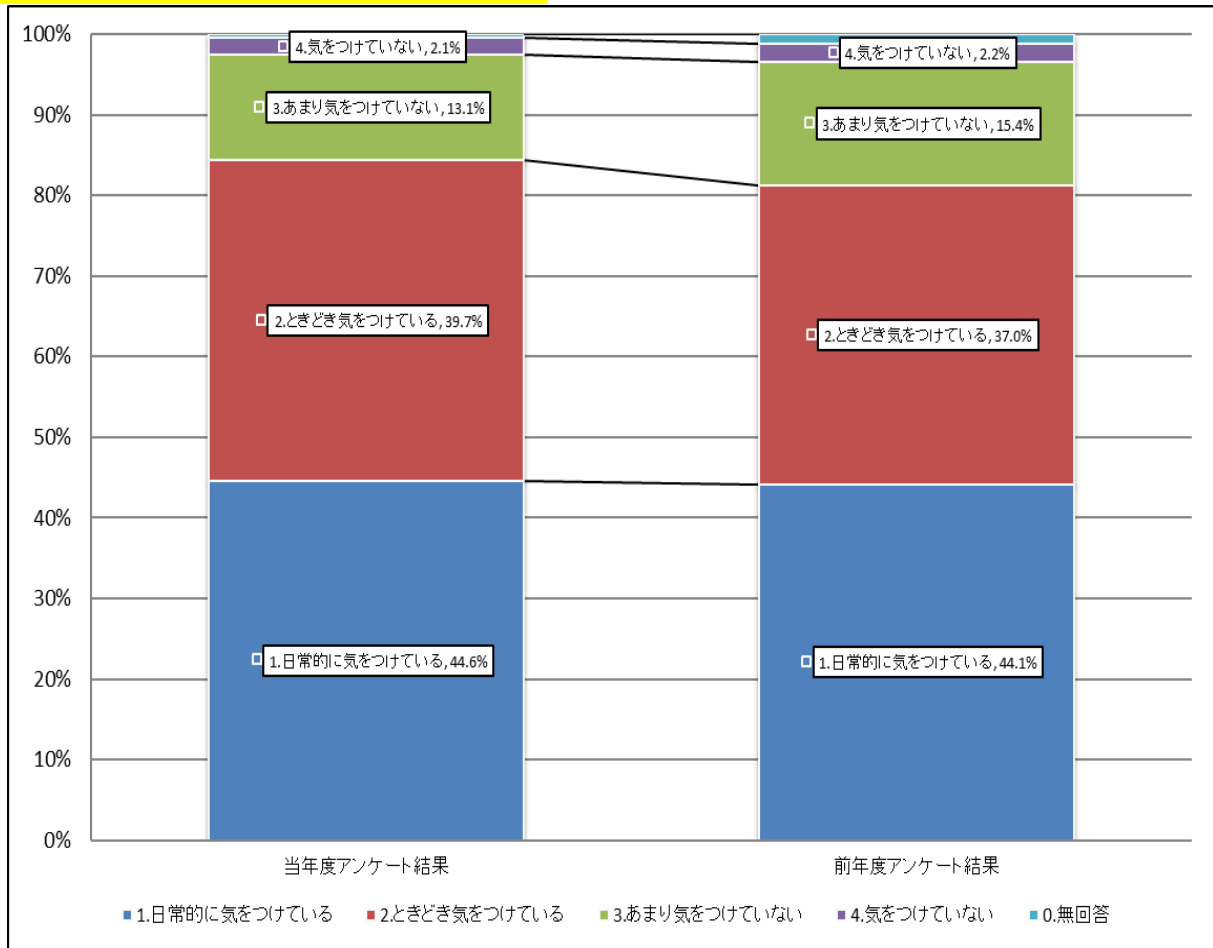
また、「いる」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性 30 歳代 (37.5%)、女性 40 歳代 (63.9%) であり、一方で最も多い世代は、男性 10 歳代 (100.0%)、女性 10 歳代 (100.0%) となっています。世代によって差があることがうかがえます。

➤ 地区別



地区別にみると、「いる」と回答した人の割合が最も少ない地区は、八基地区・豊里地区ともに (60.0%) であり、次いで岡部地区 (71.4%) となっています。最も多い地区は、大寄地区 (92.0%) であり、次いで藤沢地区 (86.9%) となっています。地域によって差があることがうかがえます。

健康的な食生活に気をつけていますか。



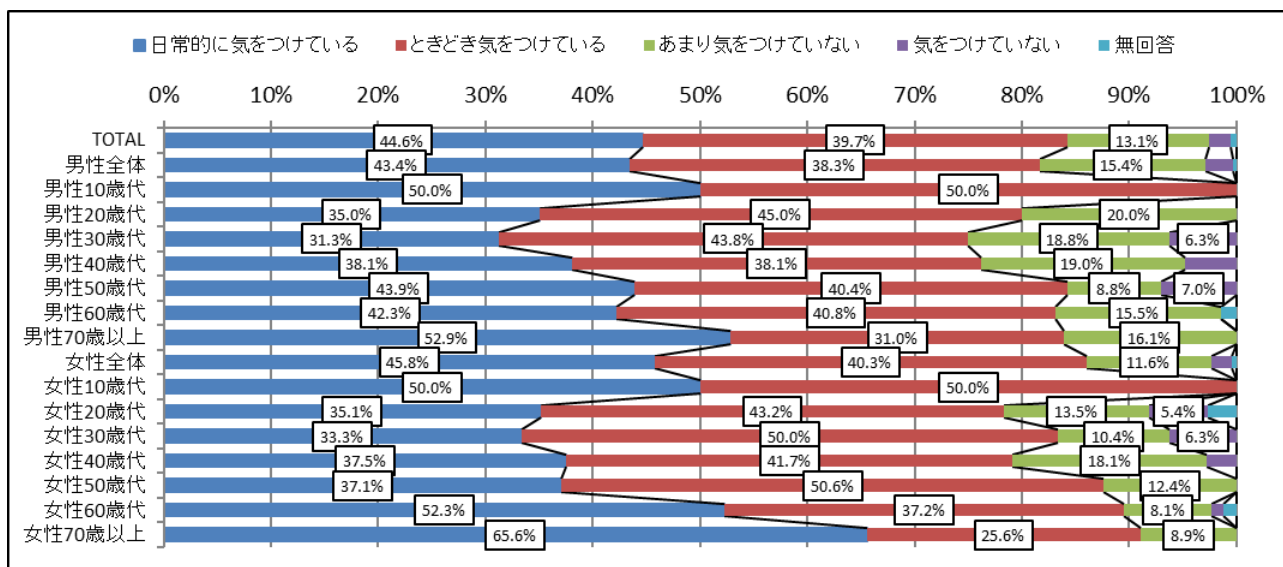
「日常的に気をつけている」と回答した人の割合が 44.6%と最も多く、次いで「ときどき気をつけている」と回答した人の割合が 39.7%、「あまり気をつけていない」と回答した人の割合が 13.1%、「気をつけていない」と回答した人の割合が最も少なく 2.1%となっています。

「日常的に気をつけている」または「ときどき気をつけている」と回答した人の割合の合計は、84.3%であり、8割以上の市民が健康的な食生活に気をつけていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「日常的に気をつけている」または「ときどき気をつけている」と回答した人の割合の合計は 81.1%であり、「前年度アンケート」と比較して増加しています。

母集団		日常的に気をつけている	ときどき気をつけている	あまり気をつけていない	気をつけていない	無回答	合計
TOTAL	809	44.6%	39.7%	13.1%	2.1%	0.5%	100.0%
男性全体	311	43.4%	38.3%	15.4%	2.6%	0.3%	100.0%
男性10歳代	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	20	35.0%	45.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	32	31.3%	43.8%	18.8%	6.3%	0.0%	100.0%
男性40歳代	42	38.1%	38.1%	19.0%	4.8%	0.0%	100.0%
男性50歳代	57	43.9%	40.4%	8.8%	7.0%	0.0%	100.0%
男性60歳代	71	42.3%	40.8%	15.5%	0.0%	1.4%	100.0%
男性70歳以上	87	52.9%	31.0%	16.1%	0.0%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	424	45.8%	40.3%	11.6%	1.9%	0.5%	100.0%
女性10歳代	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	37	35.1%	43.2%	13.5%	5.4%	2.7%	100.0%
女性30歳代	48	33.3%	50.0%	10.4%	6.3%	0.0%	100.0%
女性40歳代	72	37.5%	41.7%	18.1%	2.8%	0.0%	100.0%
女性50歳代	89	37.1%	50.6%	12.4%	0.0%	0.0%	100.0%
女性60歳代	86	52.3%	37.2%	8.1%	1.2%	1.2%	100.0%
女性70歳以上	90	65.6%	25.6%	8.9%	0.0%	0.0%	100.0%
女性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
深谷地区	194	38.1%	42.3%	17.0%	2.6%	0.0%	100.0%
藤沢地区	61	54.1%	27.9%	13.1%	4.9%	0.0%	100.0%
幡羅地区	85	43.5%	41.2%	15.3%	0.0%	0.0%	100.0%
明戸地区	28	50.0%	32.1%	14.3%	3.6%	0.0%	100.0%
大寄地区	25	56.0%	32.0%	12.0%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	15	46.7%	46.7%	6.7%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	28.0%	40.0%	20.0%	8.0%	4.0%	100.0%
上柴地区	94	50.0%	41.5%	5.3%	2.1%	1.1%	100.0%
南地区	49	51.0%	32.7%	16.3%	0.0%	0.0%	100.0%
岡部地区	77	46.8%	39.0%	13.0%	1.3%	0.0%	100.0%
川本地区	63	46.0%	39.7%	12.7%	0.0%	1.6%	100.0%
花園地区	75	44.0%	42.7%	9.3%	4.0%	0.0%	100.0%
無回答	18	27.8%	61.1%	5.6%	0.0%	5.6%	100.0%

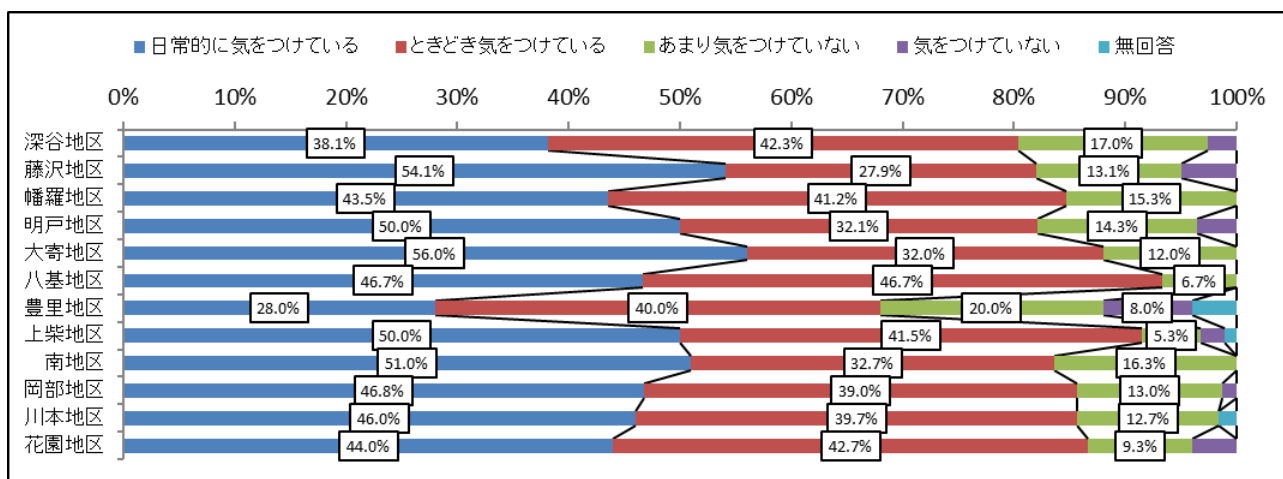
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「日常的に気をつけている」または「ときどき気をつけている」と回答した人の割合の合計は、男性が 81.7% であるのに対して、女性は 86.1% となっています。

また、「日常的に気をつけている」または「ときどき気をつけている」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性 30 歳代 (75.1%)、女性 20 歳代 (78.3%) であり、一方で最も多い世代は、男性 10 歳代 (100.0%)、女性 10 歳代 (100.0%) となっています。

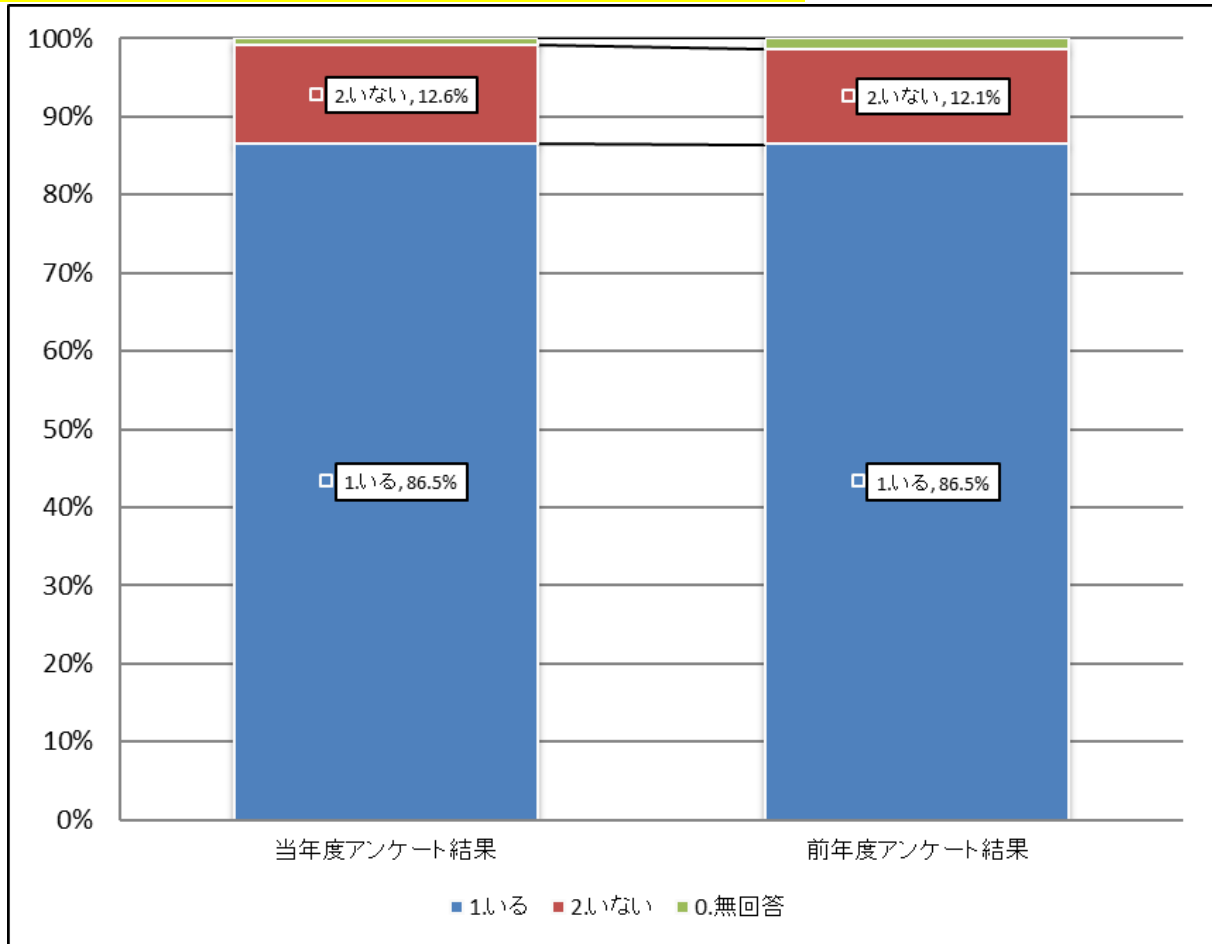
➤ 地区別



地区別にみると、「日常的に気をつけている」または「ときどき気をつけている」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、豊里地区 (68.0%) であり、次いで深谷地区 (80.4%) となっています。最も多い地区は、八基地区 (93.4%) であり、次いで上柴地区 (91.5%) となっています。

③ 福祉について（2. 問8～9）

悩みごとを相談できる人（家族や友人など）はいますか。



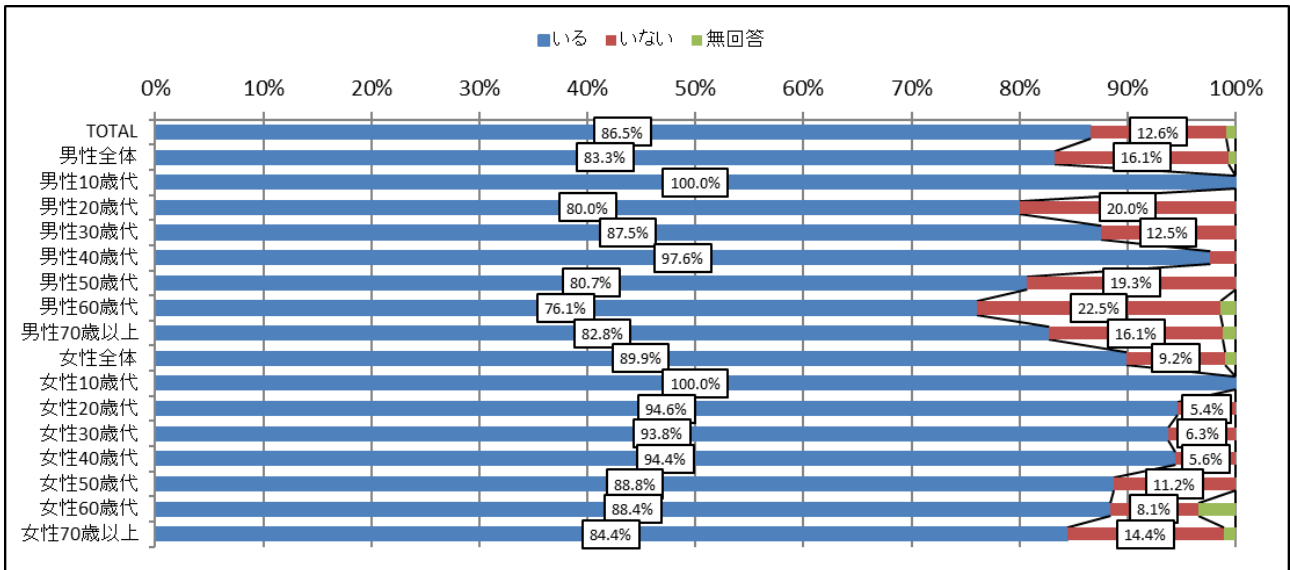
「いる」と回答した人の割合は86.5%、「いない」と回答した人の割合は12.6%となっています。

9割近くの市民に悩みごとを相談できる人がいることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「いる」と回答した人の割合は86.5%であり、「前年度アンケート」と比較して変化はありませんでした。

母集団		いる	いない	無回答	合計
TOTAL	809	86.5%	12.6%	0.9%	100.0%
男性全体	311	83.3%	16.1%	0.6%	100.0%
男性10歳代	2	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	20	80.0%	20.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	32	87.5%	12.5%	0.0%	100.0%
男性40歳代	42	97.6%	2.4%	0.0%	100.0%
男性50歳代	57	80.7%	19.3%	0.0%	100.0%
男性60歳代	71	76.1%	22.5%	1.4%	100.0%
男性70歳以上	87	82.8%	16.1%	1.1%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—
女性全体	424	89.9%	9.2%	0.9%	100.0%
女性10歳代	2	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	37	94.6%	5.4%	0.0%	100.0%
女性30歳代	48	93.8%	6.3%	0.0%	100.0%
女性40歳代	72	94.4%	5.6%	0.0%	100.0%
女性50歳代	89	88.8%	11.2%	0.0%	100.0%
女性60歳代	86	88.4%	8.1%	3.5%	100.0%
女性70歳以上	90	84.4%	14.4%	1.1%	100.0%
女性年齢不詳		—	—	—	—
深谷地区	194	89.2%	9.3%	1.5%	100.0%
藤沢地区	61	80.3%	19.7%	0.0%	100.0%
幡羅地区	85	84.7%	15.3%	0.0%	100.0%
明戸地区	28	92.9%	7.1%	0.0%	100.0%
大寄地区	25	72.0%	28.0%	0.0%	100.0%
八基地区	15	80.0%	20.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	88.0%	8.0%	4.0%	100.0%
上柴地区	94	88.3%	10.6%	1.1%	100.0%
南地区	49	91.8%	6.1%	2.0%	100.0%
岡部地区	77	88.3%	11.7%	0.0%	100.0%
川本地区	63	82.5%	15.9%	1.6%	100.0%
花園地区	75	86.7%	13.3%	0.0%	100.0%
無回答	18	83.3%	16.7%	0.0%	100.0%

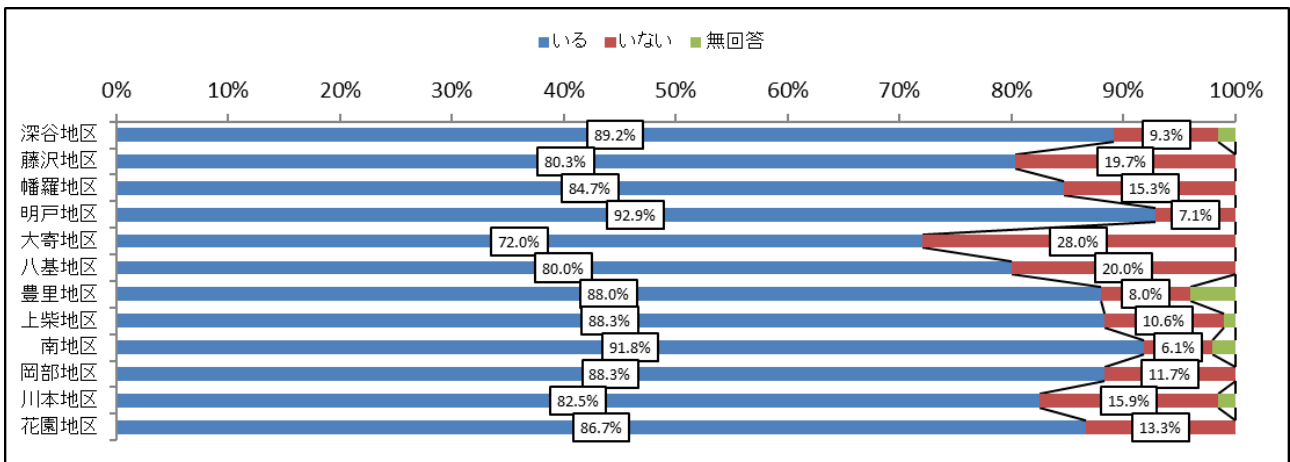
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「いる」と回答した人の割合は、男性が 83.3%であるのに対して、女性は 89.9%となっています。

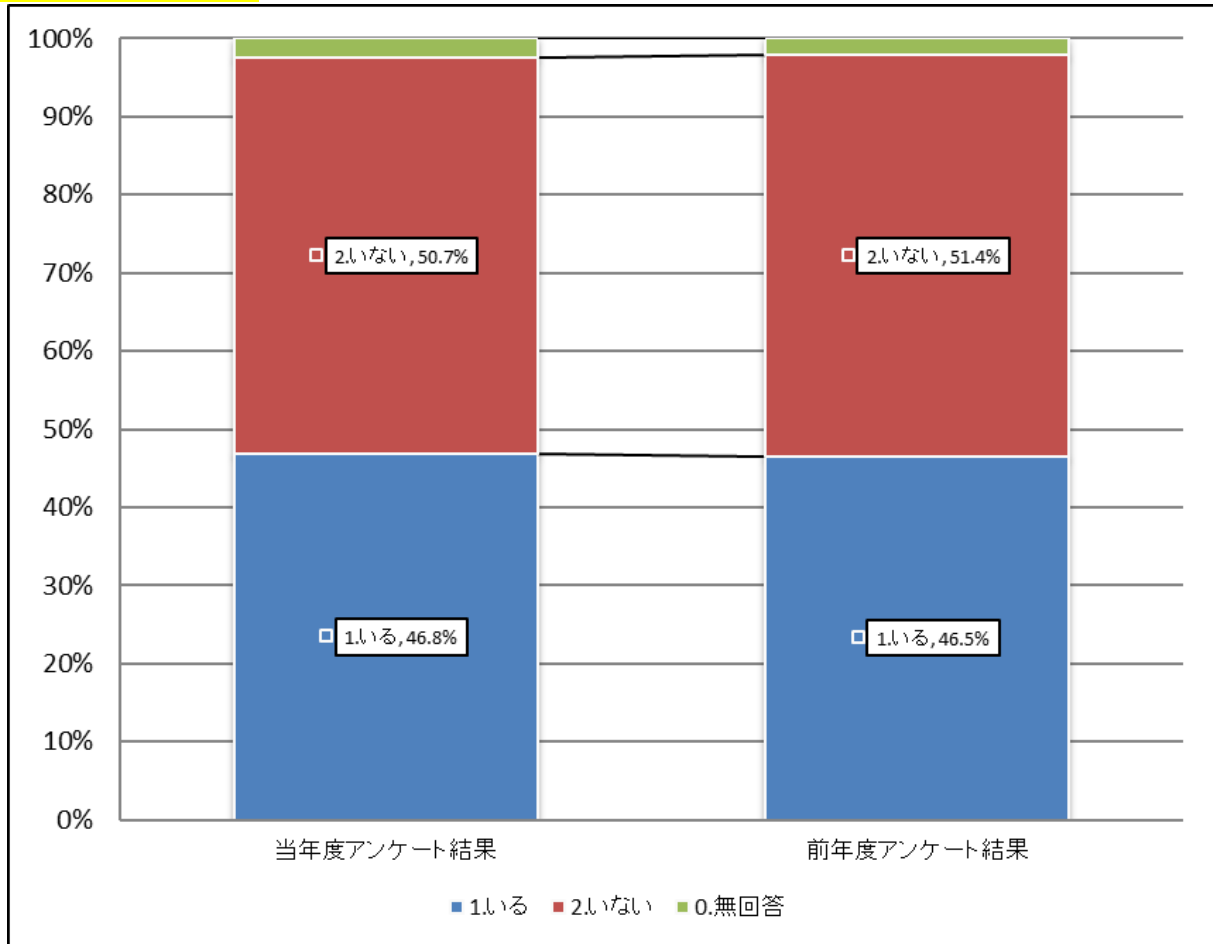
また、「いる」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性 60 歳代 (76.1%)、女性 70 歳以上 (84.4%) であり、一方で最も割合の多い世代は、男性 10 歳代 (100.0%)、女性 10 歳代 (100.0%) となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「いる」と回答した人の割合が最も少ない地区は、大寄地区 (72.0%) であり、次いで八基地区 (80.0%) となっています。最も多い地区は、明戸地区 (92.9%) であり、次いで南地区 (91.8%) となっています。

日常生活で困ったことがあった時に、手助けしてくれる人（民生委員・児童委員や自治会など）はいますか。



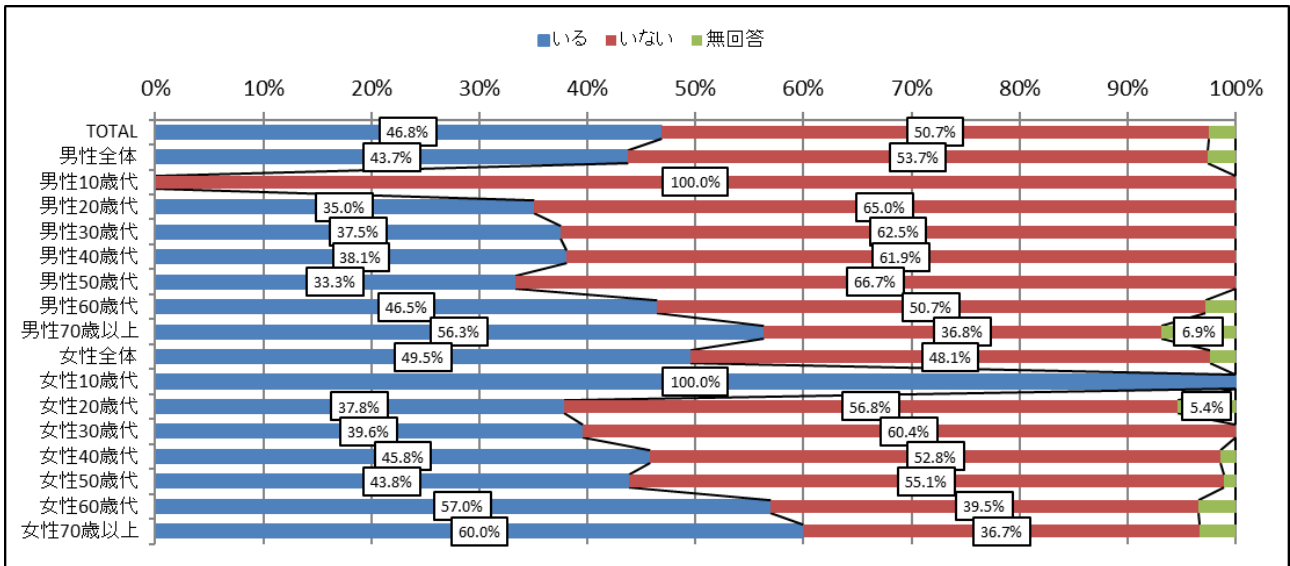
「いる」と回答した人の割合は46.8%、「いない」と回答した人の割合は50.7%となっています。

日常生活に困ったことがあった時に、手助けしてくれる人が「いる」市民は半数未満という状況がうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「いる」と回答した人の割合は46.5%であり、「前年度アンケート」と比較してほぼ変化はありませんでした。

母集団		いる	いない	無回答	合計
TOTAL	809	46.8%	50.7%	2.5%	100.0%
男性全体	311	43.7%	53.7%	2.6%	100.0%
男性10歳代	2	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	20	35.0%	65.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	32	37.5%	62.5%	0.0%	100.0%
男性40歳代	42	38.1%	61.9%	0.0%	100.0%
男性50歳代	57	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%
男性60歳代	71	46.5%	50.7%	2.8%	100.0%
男性70歳以上	87	56.3%	36.8%	6.9%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—
女性全体	424	49.5%	48.1%	2.4%	100.0%
女性10歳代	2	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	37	37.8%	56.8%	5.4%	100.0%
女性30歳代	48	39.6%	60.4%	0.0%	100.0%
女性40歳代	72	45.8%	52.8%	1.4%	100.0%
女性50歳代	89	43.8%	55.1%	1.1%	100.0%
女性60歳代	86	57.0%	39.5%	3.5%	100.0%
女性70歳以上	90	60.0%	36.7%	3.3%	100.0%
女性年齢不詳		—	—	—	—
深谷地区	194	36.6%	60.3%	3.1%	100.0%
藤沢地区	61	63.9%	34.4%	1.6%	100.0%
幡羅地区	85	40.0%	58.8%	1.2%	100.0%
明戸地区	28	64.3%	35.7%	0.0%	100.0%
大寄地区	25	52.0%	48.0%	0.0%	100.0%
八基地区	15	60.0%	33.3%	6.7%	100.0%
豊里地区	25	68.0%	24.0%	8.0%	100.0%
上柴地区	94	44.7%	52.1%	3.2%	100.0%
南地区	49	38.8%	59.2%	2.0%	100.0%
岡部地区	77	46.8%	53.2%	0.0%	100.0%
川本地区	63	60.3%	38.1%	1.6%	100.0%
花園地区	75	45.3%	49.3%	5.3%	100.0%
無回答	18	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%

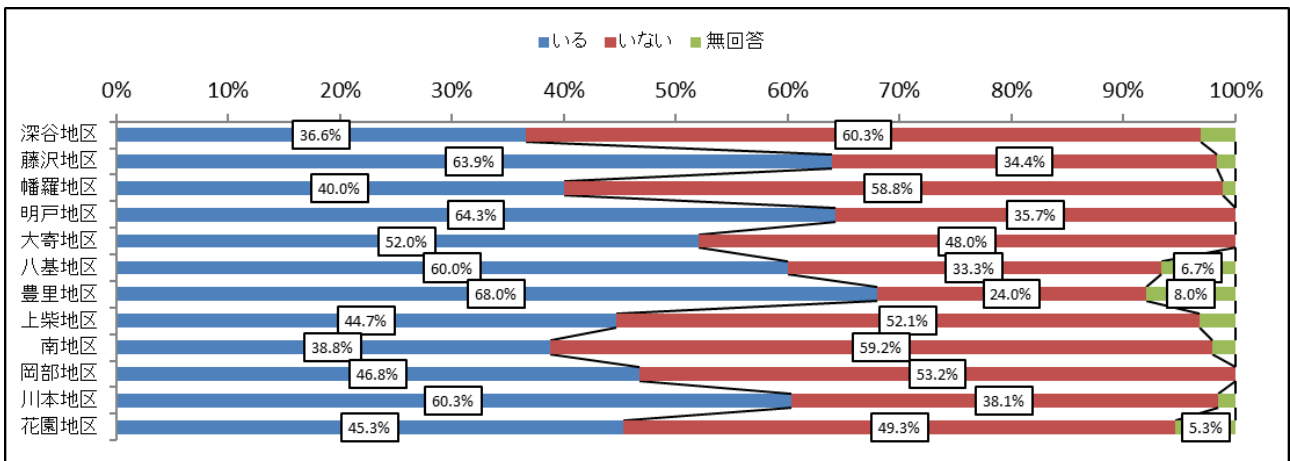
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「いる」と回答した人の割合は、男性が 43.7%であるのに対して、女性は 49.5%となっています。

また、「いる」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性 10 歳代 (0.0%)、女性 20 歳代 (37.8%) であり、一方で最も多い世代は、男性 70 歳以上 (56.3%)、女性 10 歳代 (100.0%) となっています。男女ともに 60 歳代から、手助けしてくれる人がいると回答する割合が高くなっていることがうかがえます。

➤ 地区別

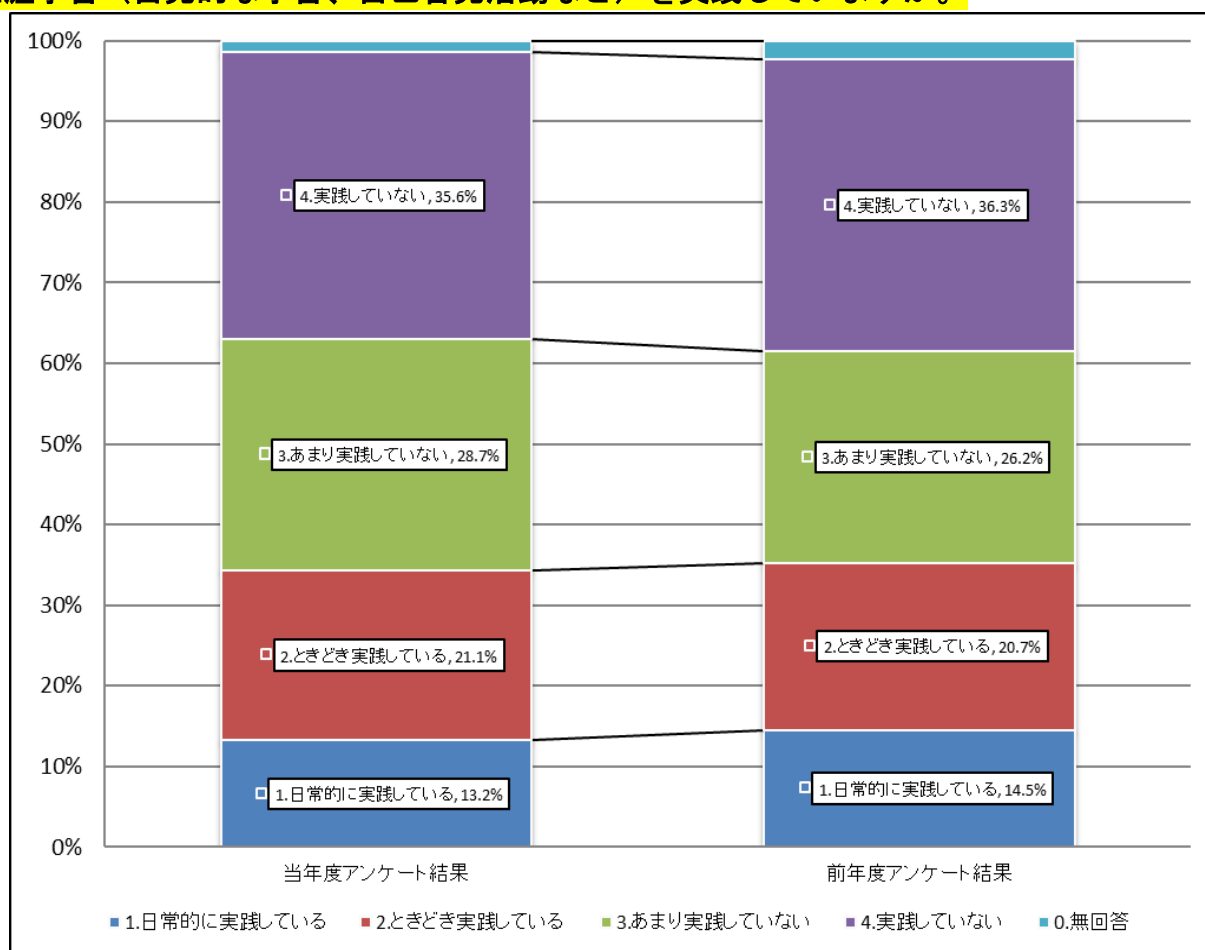


地区別にみると、「いる」と回答した人の割合が最も少ない地区は、深谷地区 (36.6%) であり、次いで南地区 (38.8%) となっています。最も多い地区は、豊里地区 (68.0%) であり、次いで明戸地区 (64.3%) となっています。地域によって差があることがうかがえます。

(3) 教育・文化について

① 生涯学習の振興（3. 問1）

生涯学習（自発的な学習、自己啓発活動など）を実践していますか。



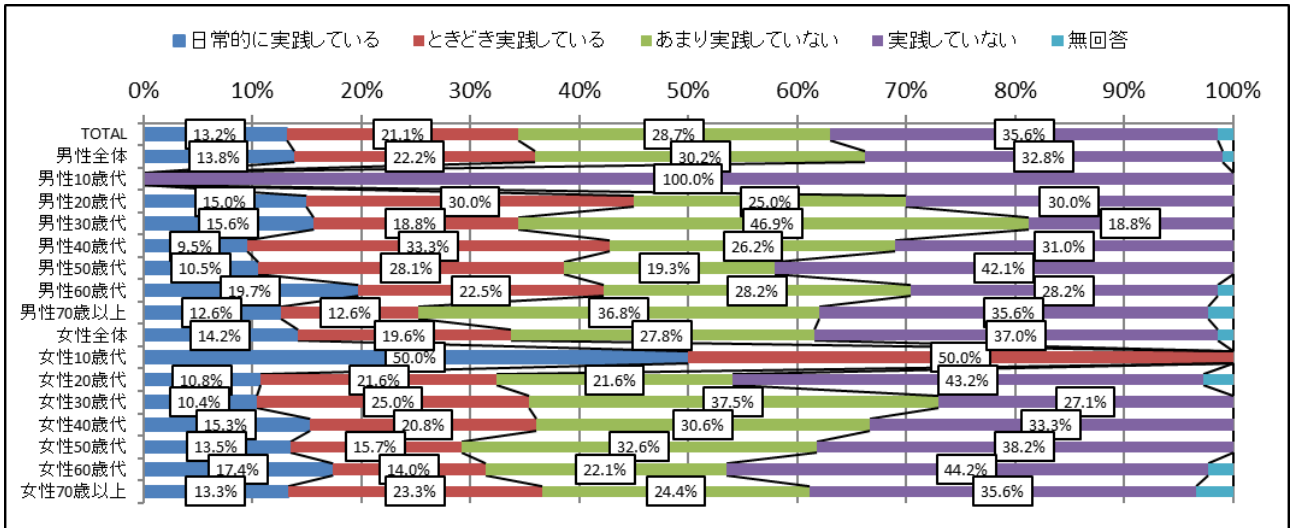
「実践していない」と回答した人の割合が 35.6%と最も多く、次いで「あまり実践していない」と回答した人の割合が 28.7%、「ときどき実践している」と回答した人の割合が 21.1%、「日常的に実践している」と回答した人の割合が最も少なく 13.2%となっています。

「日常的に実践している」または「ときどき実践している」と回答した人の割合の合計は 34.3%であり、生涯学習を実践している市民は約 3 割にとどまっているという状況がうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「日常的に実践している」または「ときどき実践している」と回答した人の割合の合計は 35.2%であり、「前年度アンケート」と比較してほぼ変化はありませんでした。

母集団		日常的に実践している	ときどき実践している	あまり実践していない	実践していない	無回答	合計
TOTAL	809	13.2%	21.1%	28.7%	35.6%	1.4%	100.0%
男性全体	311	13.8%	22.2%	30.2%	32.8%	1.0%	100.0%
男性10歳代	2	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	20	15.0%	30.0%	25.0%	30.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	32	15.6%	18.8%	46.9%	18.8%	0.0%	100.0%
男性40歳代	42	9.5%	33.3%	26.2%	31.0%	0.0%	100.0%
男性50歳代	57	10.5%	28.1%	19.3%	42.1%	0.0%	100.0%
男性60歳代	71	19.7%	22.5%	28.2%	28.2%	1.4%	100.0%
男性70歳以上	87	12.6%	12.6%	36.8%	35.6%	2.3%	100.0%
男性年齢不詳	—	—	—	—	—	—	—
女性全体	424	14.2%	19.6%	27.8%	37.0%	1.4%	100.0%
女性10歳代	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	37	10.8%	21.6%	21.6%	43.2%	2.7%	100.0%
女性30歳代	48	10.4%	25.0%	37.5%	27.1%	0.0%	100.0%
女性40歳代	72	15.3%	20.8%	30.6%	33.3%	0.0%	100.0%
女性50歳代	89	13.5%	15.7%	32.6%	38.2%	0.0%	100.0%
女性60歳代	86	17.4%	14.0%	22.1%	44.2%	2.3%	100.0%
女性70歳以上	90	13.3%	23.3%	24.4%	35.6%	3.3%	100.0%
女性年齢不詳	—	—	—	—	—	—	—
深谷地区	194	10.8%	20.6%	26.8%	39.2%	2.6%	100.0%
藤沢地区	61	14.8%	13.1%	32.8%	37.7%	1.6%	100.0%
幡羅地区	85	17.6%	16.5%	31.8%	34.1%	0.0%	100.0%
明戸地区	28	3.6%	25.0%	35.7%	35.7%	0.0%	100.0%
大寄地区	25	24.0%	24.0%	32.0%	20.0%	0.0%	100.0%
八基地区	15	6.7%	20.0%	13.3%	60.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	12.0%	8.0%	40.0%	36.0%	4.0%	100.0%
上柴地区	94	18.1%	26.6%	21.3%	31.9%	2.1%	100.0%
南地区	49	16.3%	30.6%	16.3%	32.7%	4.1%	100.0%
岡部地区	77	14.3%	18.2%	37.7%	29.9%	0.0%	100.0%
川本地区	63	11.1%	20.6%	25.4%	42.9%	0.0%	100.0%
花園地区	75	8.0%	21.3%	33.3%	37.3%	0.0%	100.0%
無回答	18	11.1%	44.4%	27.8%	16.7%	0.0%	100.0%

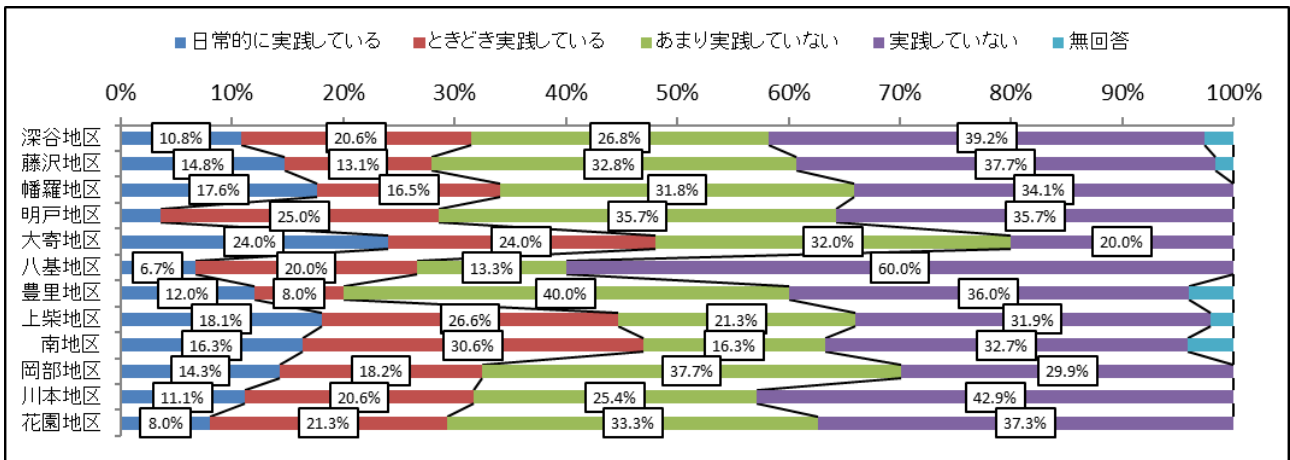
性別・世代別



性別・世代別にみると、「日常的に実践している」または「ときどき実践している」と回答した人の割合の合計は、男性が 36.0%であるのに対して、女性は 33.8%となっています。

また、「日常的に実践している」または「ときどき実践している」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性 10 歳代 (0.0%)、女性 50 歳代 (29.2%) であり、一方で最も多い世代は、男性 20 歳代 (45.0%)、女性 10 歳代 (100.0%) となっています。

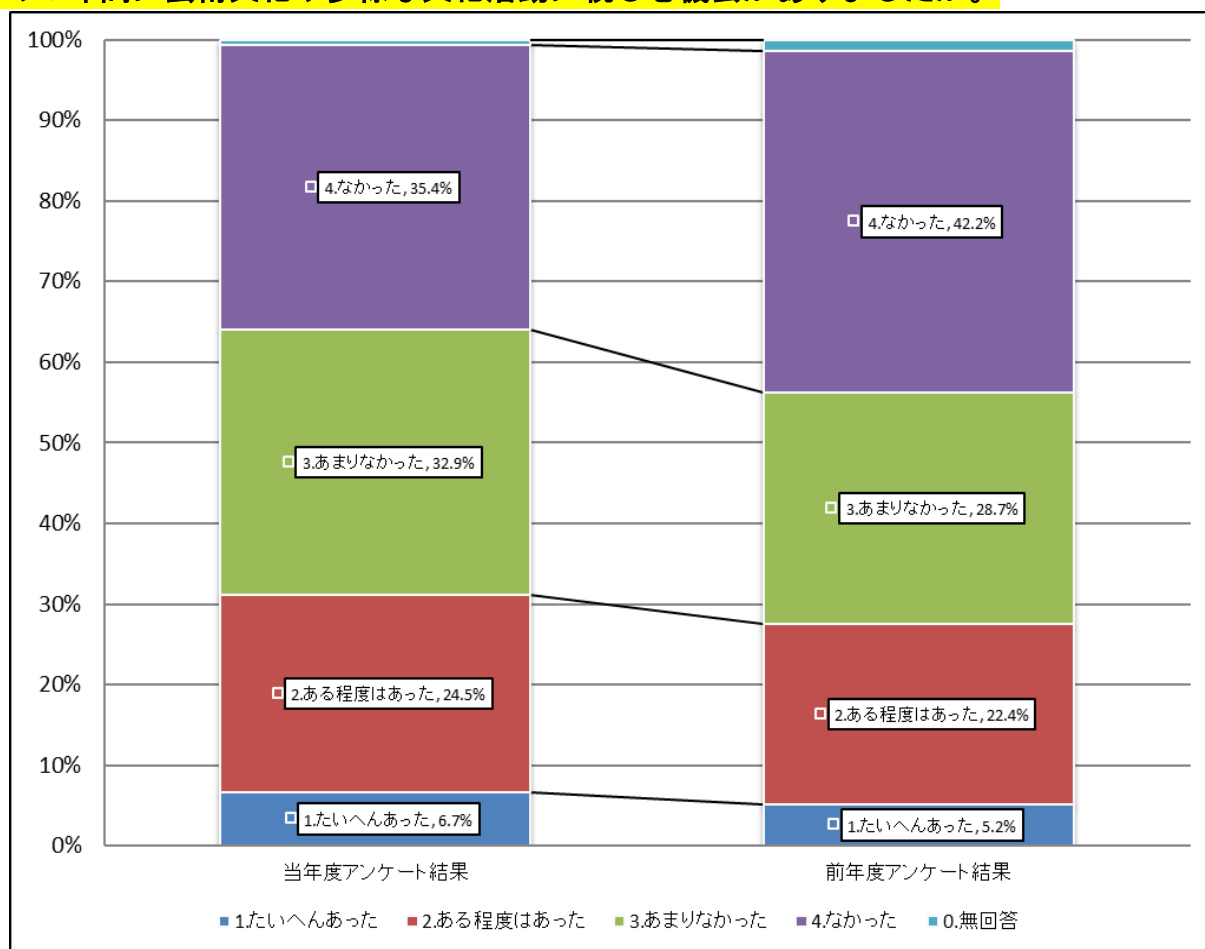
地区別



地区別にみると、「日常的に実践している」または「ときどき実践している」と回答した人の割合の合計が最も少ないのは、豊里地区 (20.0%) であり、次いで八基地区 (26.7%) となっています。最も多いのは、大寄地区 (48.0%) であり、次いで南地区 (46.9%) となっています。

② 文化の振興（3. 問2）

この1年間に芸術文化や多様な文化活動に親しむ機会がありましたか。



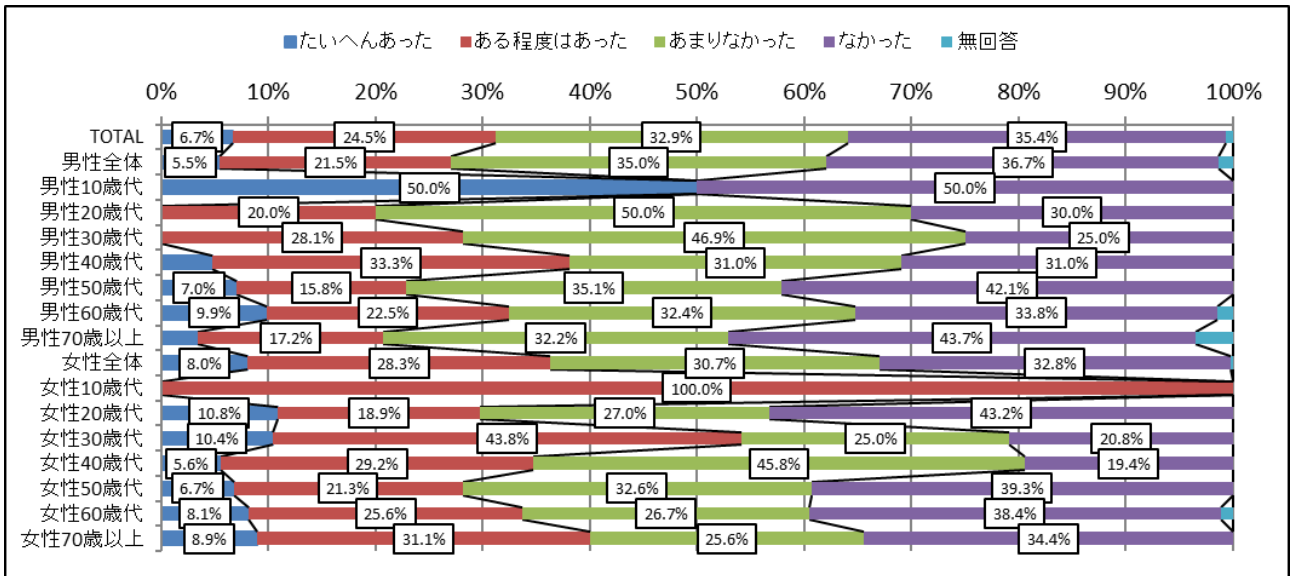
「なかった」と回答した人の割合が 35.4%と最も多く、次いで「あまりなかった」と回答した人の割合が 32.9%、「ある程度はあった」と回答した人の割合が 24.5%、「たいへんあった」と回答した人の割合が最も少なく 6.7%となっています。

「たいへんあった」または「ある程度はあった」と回答した人の割合の合計は 31.2%であり、この1年間に芸術文化や多様な文化活動に親しむ機会があった市民は約3割にとどまっているという状況がうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「たいへんあった」または「ある程度はあった」と回答した人の割合の合計は 27.6%であり、「前年度アンケート」と比較して増加しています。

母集団		たいへんあった	ある程度はあった	あまりなかった	なかった	無回答	合計
TOTAL	809	6.7%	24.5%	32.9%	35.4%	0.6%	100.0%
男性全体	311	5.5%	21.5%	35.0%	36.7%	1.3%	100.0%
男性10歳代	2	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	20	0.0%	20.0%	50.0%	30.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	32	0.0%	28.1%	46.9%	25.0%	0.0%	100.0%
男性40歳代	42	4.8%	33.3%	31.0%	31.0%	0.0%	100.0%
男性50歳代	57	7.0%	15.8%	35.1%	42.1%	0.0%	100.0%
男性60歳代	71	9.9%	22.5%	32.4%	33.8%	1.4%	100.0%
男性70歳以上	87	3.4%	17.2%	32.2%	43.7%	3.4%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	424	8.0%	28.3%	30.7%	32.8%	0.2%	100.0%
女性10歳代	2	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	37	10.8%	18.9%	27.0%	43.2%	0.0%	100.0%
女性30歳代	48	10.4%	43.8%	25.0%	20.8%	0.0%	100.0%
女性40歳代	72	5.6%	29.2%	45.8%	19.4%	0.0%	100.0%
女性50歳代	89	6.7%	21.3%	32.6%	39.3%	0.0%	100.0%
女性60歳代	86	8.1%	25.6%	26.7%	38.4%	1.2%	100.0%
女性70歳以上	90	8.9%	31.1%	25.6%	34.4%	0.0%	100.0%
女性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
深谷地区	194	5.2%	23.2%	30.9%	39.7%	1.0%	100.0%
藤沢地区	61	4.9%	29.5%	24.6%	41.0%	0.0%	100.0%
幡羅地区	85	10.6%	22.4%	32.9%	34.1%	0.0%	100.0%
明戸地区	28	7.1%	21.4%	39.3%	32.1%	0.0%	100.0%
大寄地区	25	20.0%	16.0%	36.0%	28.0%	0.0%	100.0%
八基地区	15	6.7%	13.3%	46.7%	33.3%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	0.0%	48.0%	28.0%	20.0%	4.0%	100.0%
上柴地区	94	5.3%	26.6%	37.2%	29.8%	1.1%	100.0%
南地区	49	8.2%	18.4%	46.9%	26.5%	0.0%	100.0%
岡部地区	77	6.5%	26.0%	32.5%	35.1%	0.0%	100.0%
川本地区	63	6.3%	25.4%	27.0%	39.7%	1.6%	100.0%
花園地区	75	6.7%	25.3%	26.7%	41.3%	0.0%	100.0%
無回答	18	5.6%	16.7%	50.0%	27.8%	0.0%	100.0%

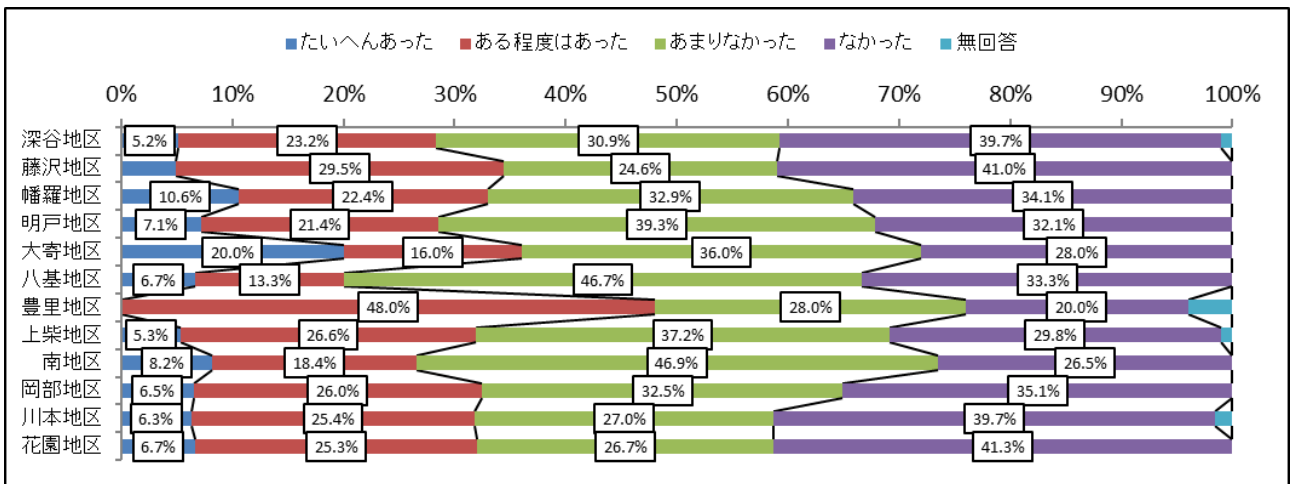
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「たいへんあった」または「ある程度はあった」と回答した人の割合の合計は、男性が 27.0%であるのに対して、女性は 36.3%と男女によって差があることがうかがえます。

また、「たいへんあった」または「ある程度はあった」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性 20 歳代 (20.0%)、女性 50 歳代 (28.0%) であり、一方で最も多い世代は、男性 10 歳代 (50.0%)、女性 10 歳代 (100.0%) となっています。

➤ 地区別



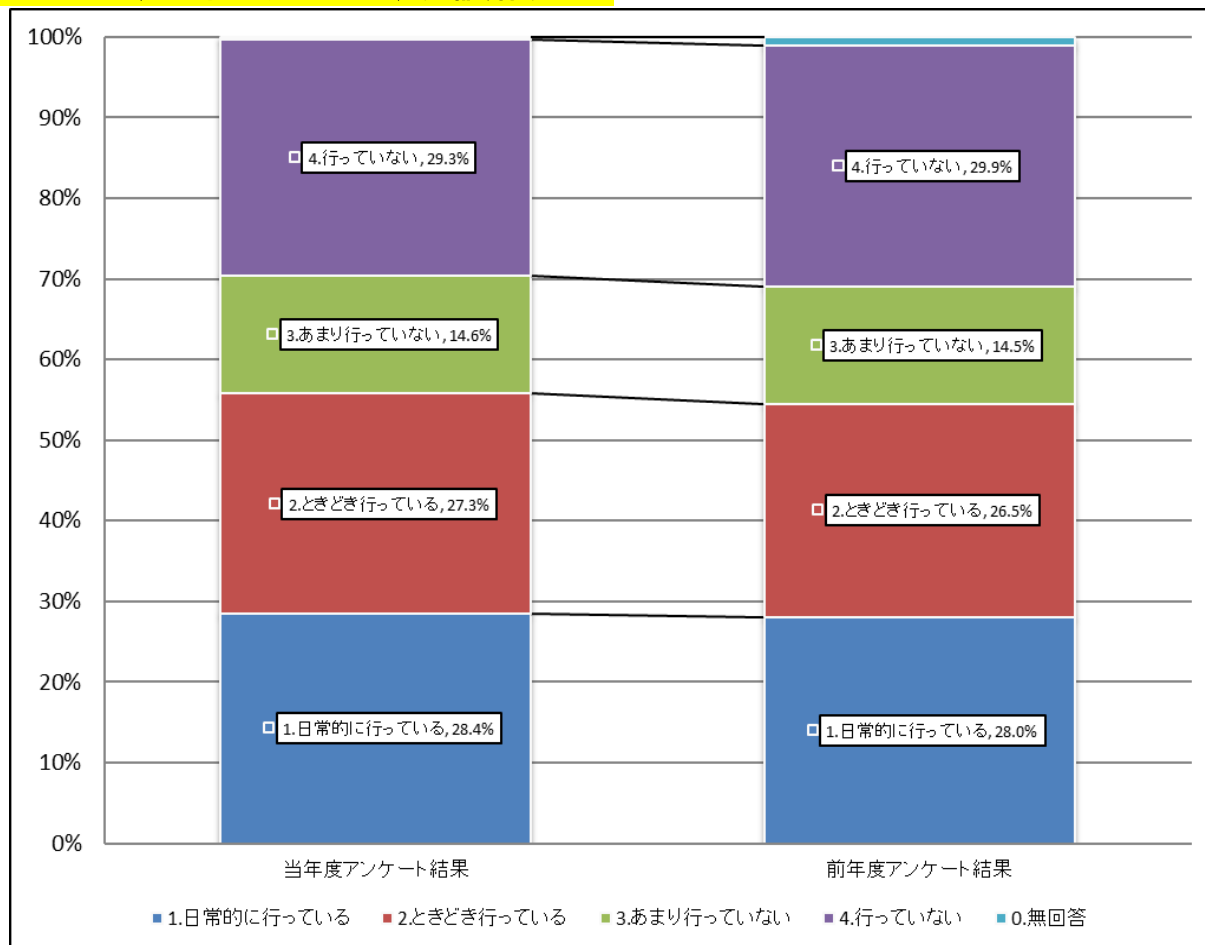
地区別にみると、「たいへんあった」または「ある程度はあった」と回答した人の割合の合計が最も少ないのは、八基地区 (20.0%) であり、次いで南地区 (26.6%) となっています。最も多いのは、豊里地区 (48.0%) であり、次いで大寄地区 (36.0%) となっています。

③ スポーツの振興（3. 問3）

スポーツやレクリエーションをどの程度行っていますか。

※スポーツ・レクリエーション活動は、以下のような活動も含まれます。

散歩・ウォーキング、ジョギング・ランニング、軽い体操、筋力トレーニング、ヨガ、ゲートボール、フォークダンス、民謡踊りなど



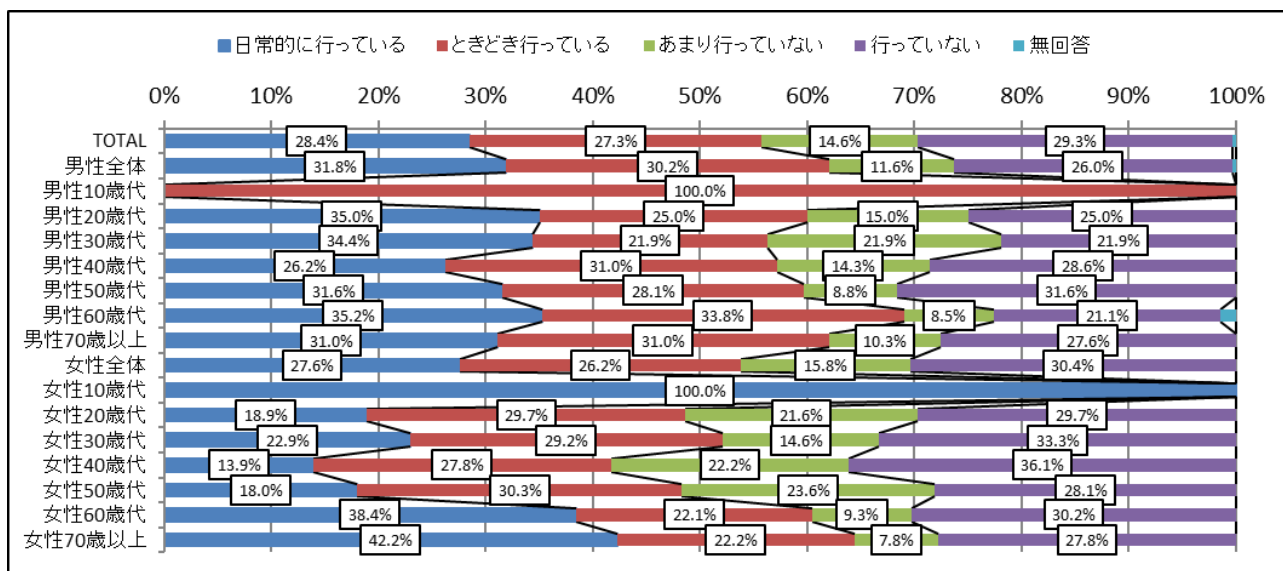
「行っていない」と回答した人の割合が 29.3%と最も多く、次いで、「日常的に行っている」と回答した人の割合が 28.4%、「ときどき行っている」と回答した人の割合が 27.3%、「あまり行っていない」と回答した人の割合が最も少なく 14.6%となっています。

「日常的に行っている」または「ときどき行っている」とした人の割合の合計は 55.7%であり、6 割近くの市民が日頃からスポーツやレクリエーション活動を行っていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」とした人の割合の合計は 54.5%であり、「前年度アンケート」と比較して僅かに増加しています。

母集団		日常的に行っている	ときどき行っている	あまり行っていない	行っていない	無回答	合計
TOTAL	809	28.4%	27.3%	14.6%	29.3%	0.4%	100.0%
男性全体	311	31.8%	30.2%	11.6%	26.0%	0.3%	100.0%
男性10歳代	2	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	20	35.0%	25.0%	15.0%	25.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	32	34.4%	21.9%	21.9%	21.9%	0.0%	100.0%
男性40歳代	42	26.2%	31.0%	14.3%	28.6%	0.0%	100.0%
男性50歳代	57	31.6%	28.1%	8.8%	31.6%	0.0%	100.0%
男性60歳代	71	35.2%	33.8%	8.5%	21.1%	1.4%	100.0%
男性70歳以上	87	31.0%	31.0%	10.3%	27.6%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	424	27.6%	26.2%	15.8%	30.4%	0.0%	100.0%
女性10歳代	2	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	37	18.9%	29.7%	21.6%	29.7%	0.0%	100.0%
女性30歳代	48	22.9%	29.2%	14.6%	33.3%	0.0%	100.0%
女性40歳代	72	13.9%	27.8%	22.2%	36.1%	0.0%	100.0%
女性50歳代	89	18.0%	30.3%	23.6%	28.1%	0.0%	100.0%
女性60歳代	86	38.4%	22.1%	9.3%	30.2%	0.0%	100.0%
女性70歳以上	90	42.2%	22.2%	7.8%	27.8%	0.0%	100.0%
女性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
深谷地区	194	22.2%	26.3%	16.0%	35.6%	0.0%	100.0%
藤沢地区	61	27.9%	23.0%	14.8%	34.4%	0.0%	100.0%
幡羅地区	85	31.8%	28.2%	15.3%	24.7%	0.0%	100.0%
明戸地区	28	32.1%	28.6%	17.9%	21.4%	0.0%	100.0%
大寄地区	25	40.0%	20.0%	16.0%	24.0%	0.0%	100.0%
八基地区	15	20.0%	33.3%	6.7%	33.3%	6.7%	100.0%
豊里地区	25	32.0%	20.0%	12.0%	36.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	94	28.7%	31.9%	13.8%	24.5%	1.1%	100.0%
南地区	49	38.8%	34.7%	14.3%	12.2%	0.0%	100.0%
岡部地区	77	28.6%	26.0%	16.9%	28.6%	0.0%	100.0%
川本地区	63	23.8%	33.3%	9.5%	33.3%	0.0%	100.0%
花園地区	75	34.7%	21.3%	13.3%	30.7%	0.0%	100.0%
無回答	18	22.2%	27.8%	16.7%	27.8%	5.6%	100.0%

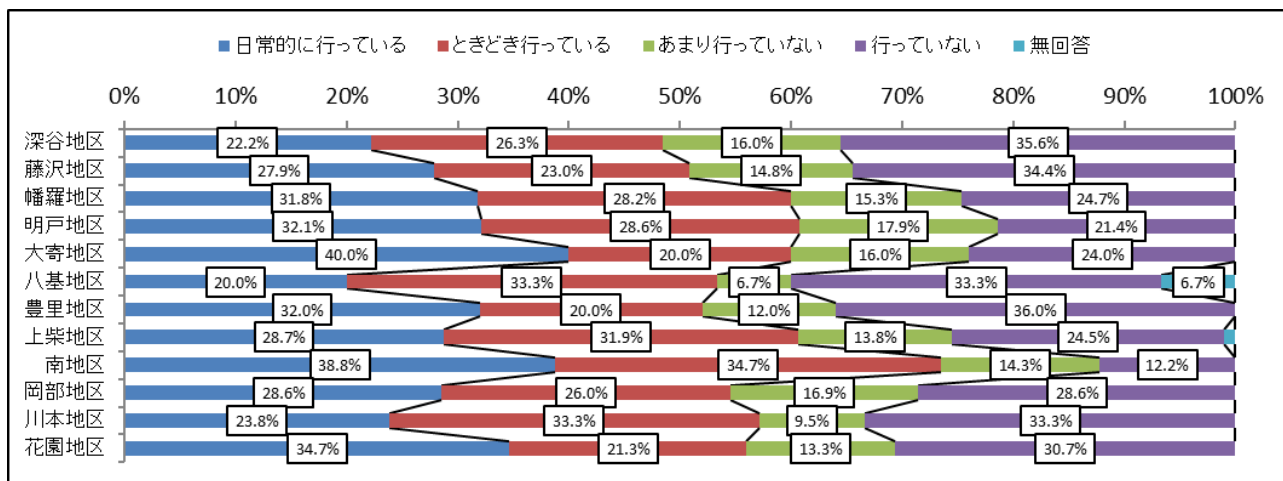
▶ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合の合計は、男性が 62.0%であるのに対して、女性は 53.8%と男女によって差があることがうかがえます。

また、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性 30 歳代 (56.3%)、女性 40 歳代 (41.7%) であり、一方で最も多い世代は、男性 10 歳代 (100.0%)、女性 10 歳代 (100.0%) となっています。

▶ 地区別

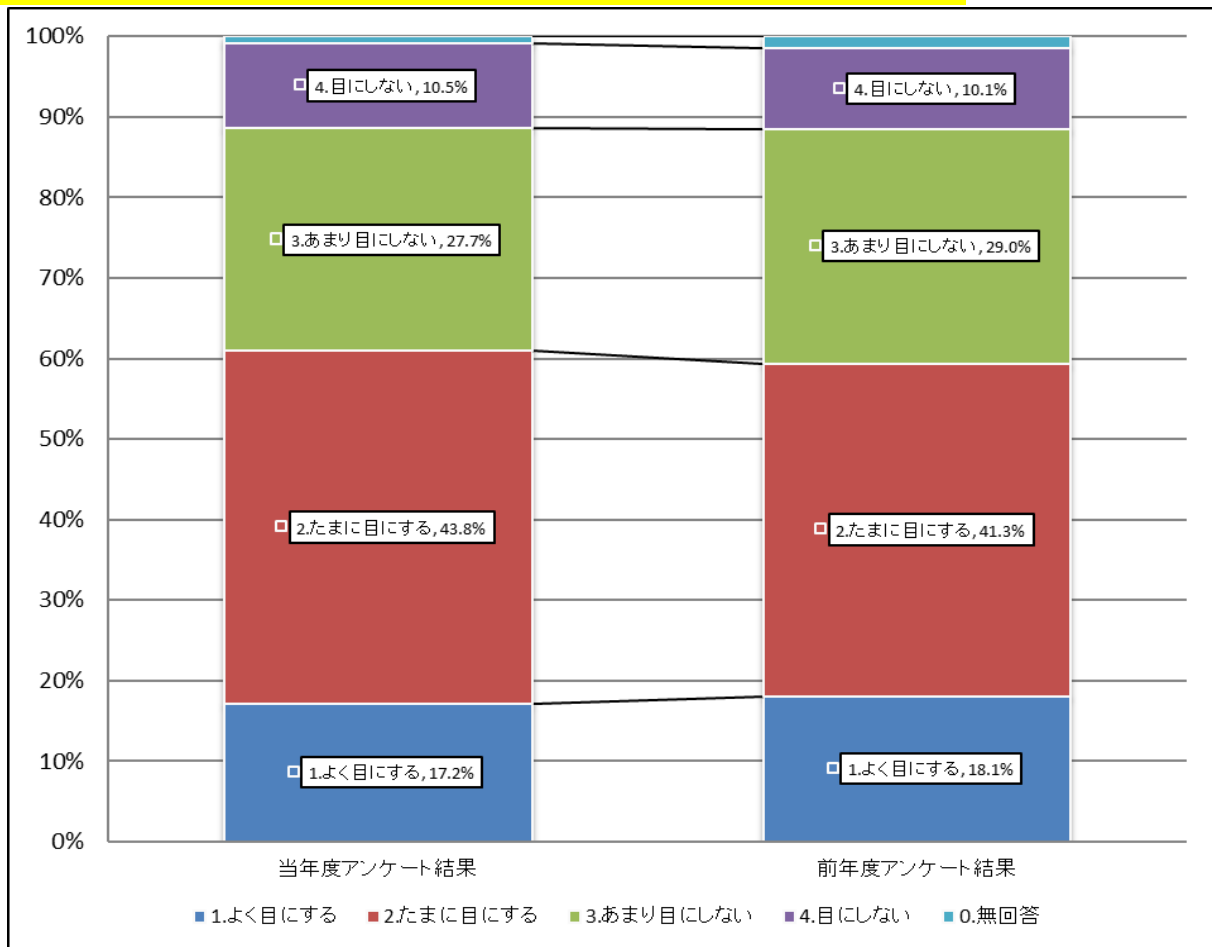


地区別にみると、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、深谷地区 (48.5%) であり、次いで藤沢地区 (50.9%) となっています。最も多い地区は、南地区 (73.5%) であり、次いで明戸地区 (60.7%) となっています。

(4) 産業振興について

① 全国に誇る農業の振興（4. 問1～2）

市外の店舗で深谷産の農畜産物の販売を目にすることがありますか。



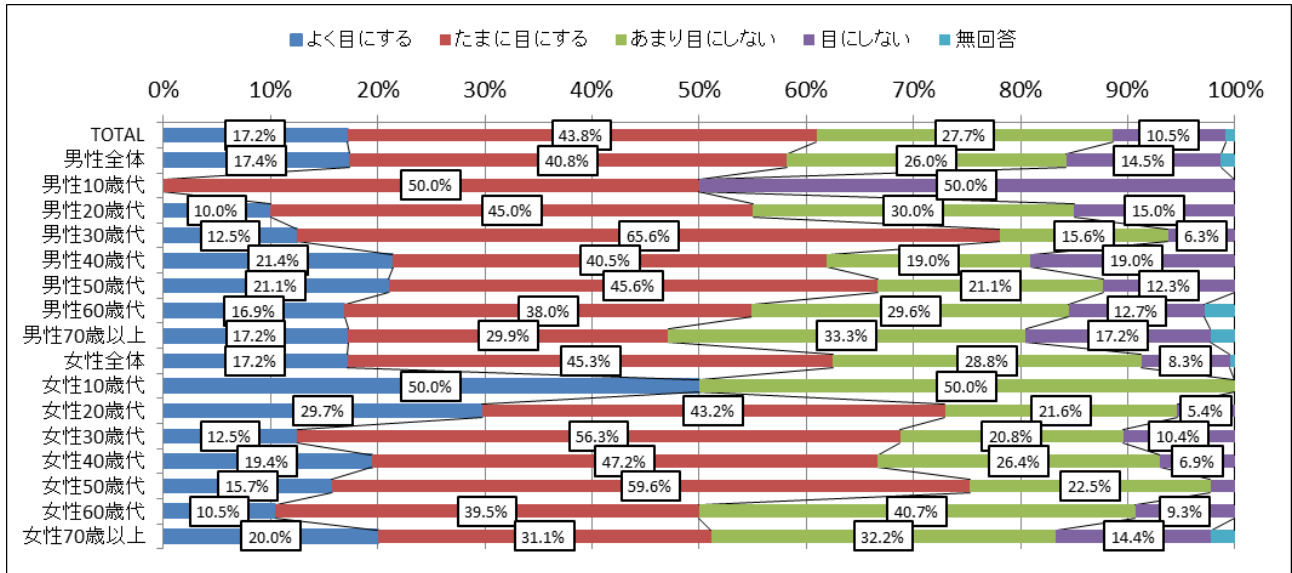
「たまに目にする」と回答した人の割合が 43.8%と最も多く、次いで「あまり目にしない」と回答した人の割合が 27.7%、「よく目にする」と回答した人の割合が 17.2%、「目にしない」と回答した人の割合が最も少なく 10.5%となっています。

「よく目にする」または「たまに目にする」と回答した人の割合の合計は 61.0%であり、6 割の市民が市外の店舗で深谷産の農畜産物の販売を目にしていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「よく目にする」または「たまに目にする」と回答した人の割合の合計は 59.4%であり、「前年度アンケート」と比較して僅かに増加しています。

母集団		よく目にする	たまに目にする	あまり目に見えない	目に見えない	無回答	合計
TOTAL	809	17.2%	43.8%	27.7%	10.5%	0.9%	100.0%
男性全体	311	17.4%	40.8%	26.0%	14.5%	1.3%	100.0%
男性10歳代	2	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	20	10.0%	45.0%	30.0%	15.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	32	12.5%	65.6%	15.6%	6.3%	0.0%	100.0%
男性40歳代	42	21.4%	40.5%	19.0%	19.0%	0.0%	100.0%
男性50歳代	57	21.1%	45.6%	21.1%	12.3%	0.0%	100.0%
男性60歳代	71	16.9%	38.0%	29.6%	12.7%	2.8%	100.0%
男性70歳以上	87	17.2%	29.9%	33.3%	17.2%	2.3%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	424	17.2%	45.3%	28.8%	8.3%	0.5%	100.0%
女性10歳代	2	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	37	29.7%	43.2%	21.6%	5.4%	0.0%	100.0%
女性30歳代	48	12.5%	56.3%	20.8%	10.4%	0.0%	100.0%
女性40歳代	72	19.4%	47.2%	26.4%	6.9%	0.0%	100.0%
女性50歳代	89	15.7%	59.6%	22.5%	2.2%	0.0%	100.0%
女性60歳代	86	10.5%	39.5%	40.7%	9.3%	0.0%	100.0%
女性70歳以上	90	20.0%	31.1%	32.2%	14.4%	2.2%	100.0%
女性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
深谷地区	194	13.9%	43.3%	28.4%	13.9%	0.5%	100.0%
藤沢地区	61	19.7%	39.3%	14.8%	21.3%	4.9%	100.0%
幡羅地区	85	21.2%	37.6%	24.7%	16.5%	0.0%	100.0%
明戸地区	28	39.3%	35.7%	21.4%	3.6%	0.0%	100.0%
大寄地区	25	36.0%	44.0%	12.0%	4.0%	4.0%	100.0%
八基地区	15	6.7%	60.0%	26.7%	6.7%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	24.0%	32.0%	40.0%	4.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	94	17.0%	45.7%	30.9%	5.3%	1.1%	100.0%
南地区	49	14.3%	49.0%	34.7%	2.0%	0.0%	100.0%
岡部地区	77	14.3%	48.1%	28.6%	9.1%	0.0%	100.0%
川本地区	63	12.7%	42.9%	34.9%	9.5%	0.0%	100.0%
花園地区	75	14.7%	45.3%	28.0%	10.7%	1.3%	100.0%
無回答	18	11.1%	61.1%	27.8%	0.0%	0.0%	100.0%

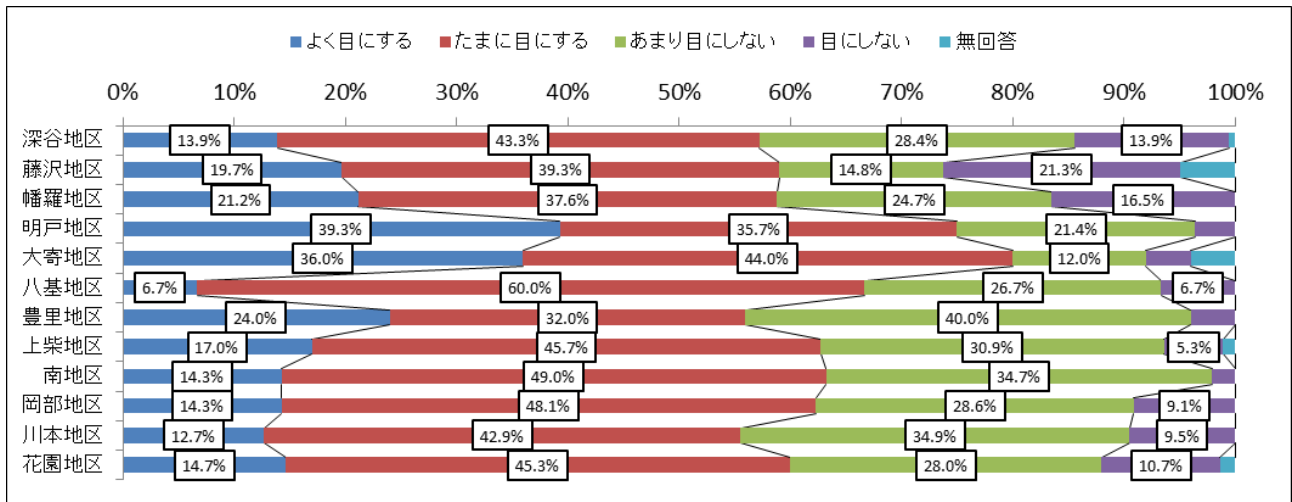
性別・世代別



性別・世代別にみると、「よく目にする」または「たまに目にする」と回答した人の割合の合計は、男性が58.2%であるのに対して、女性は62.5%となっています。

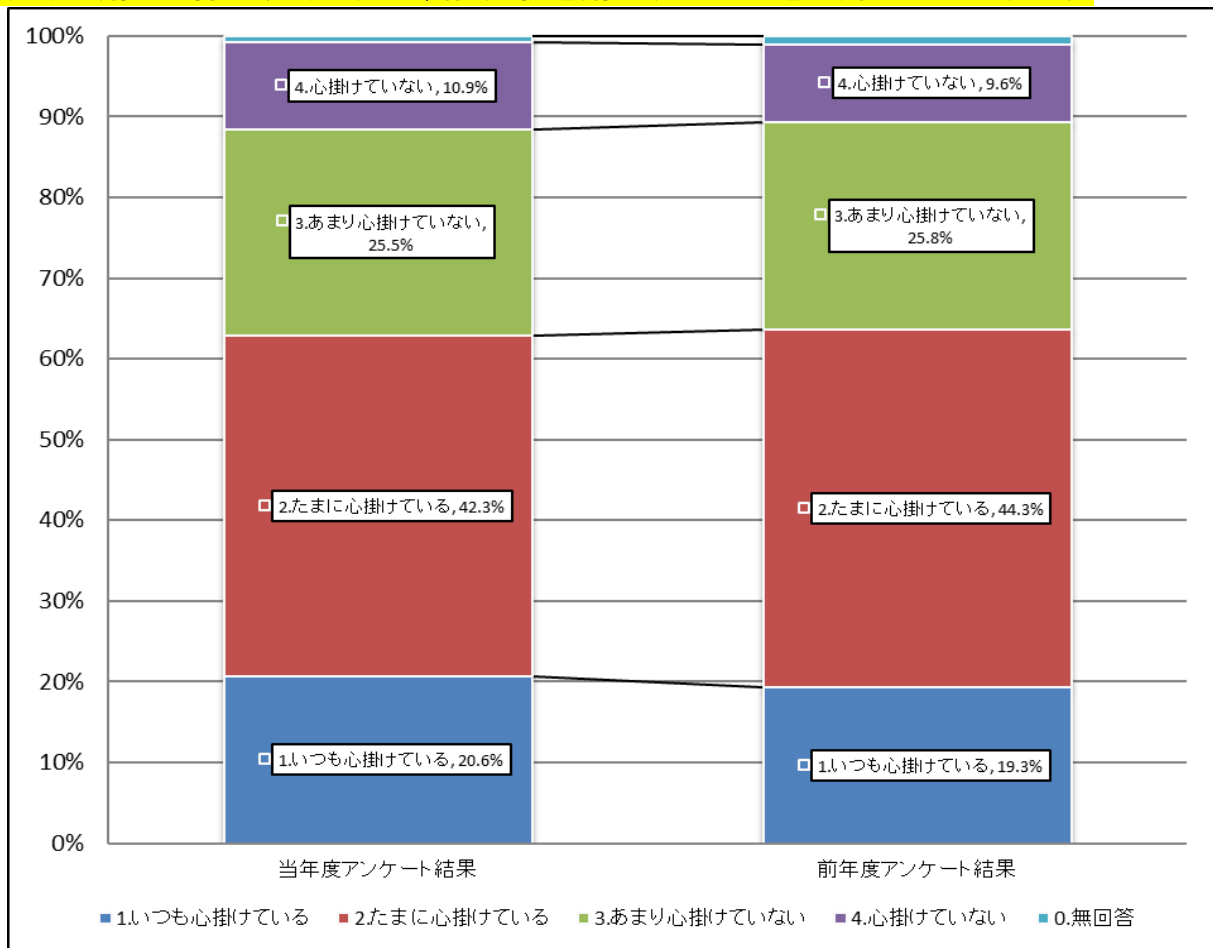
また、「よく目にする」または「たまに目にする」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性70歳以上（47.1%）、女性10歳代・60歳代ともに（50.0%）であり、一方で最も多い世代は、男性30歳代（78.1%）、女性50歳代（75.3%）となっています。世代によって差があることがうかがえます。

地区別



地区別にみると、「よく目にする」または「たまに目にする」と回答した人の割合の合計が最も少ないのは、川本地区（55.6%）であり、次いで豊里地区（56.0%）となっています。最も多いのは大寄地区（80.0%）であり、次いで明戸地区（75.0%）となっています。

食材等の購入の際に、深谷産の農畜産物を購入することを心掛けていますか。



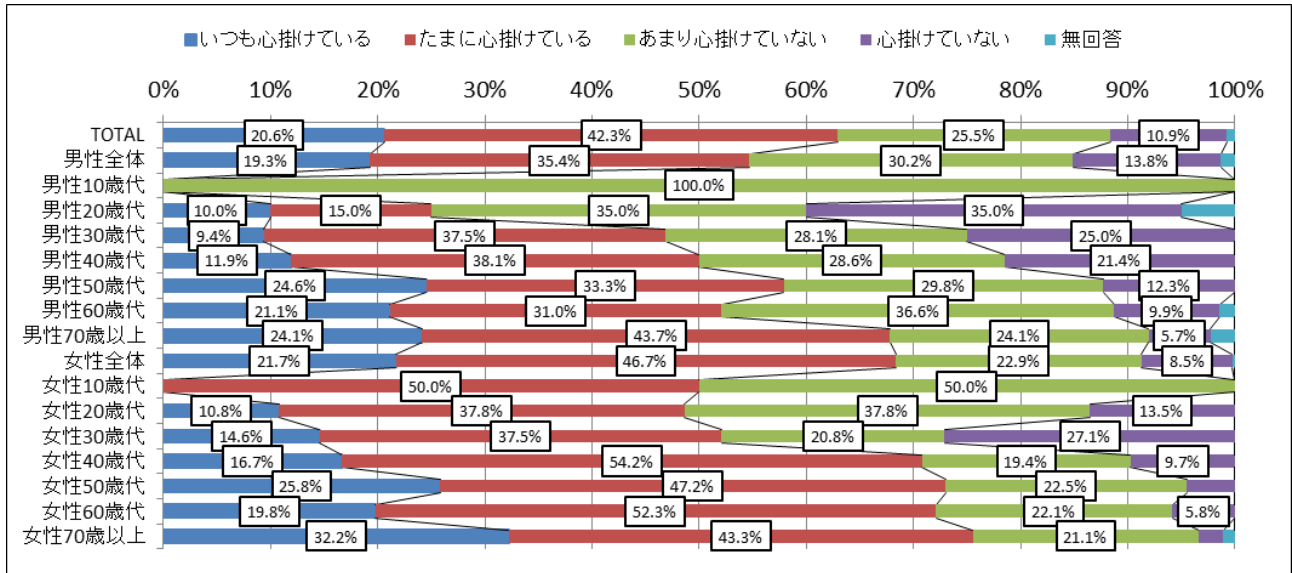
「たまに心掛けている」と回答した人の割合が 42.3%と最も多く、次いで「あまり心掛けていない」と回答した人の割合が 25.5%、「いつも心掛けている」と回答した人の割合が 20.6%、「心掛けていない」と回答した人の割合が最も少なく 10.9%となっています。

「いつも心掛けている」または「たまに心掛けている」と回答した人の割合の合計は 62.9%であり、6割以上の市民が食材等の購入の際に、深谷産の農畜産物を購入することを心掛けていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「いつも心掛けている」または「たまに心掛けている」と回答した人の割合の合計は 63.6%であり、「前年度アンケート」と比較してほぼ変化はありませんでした。

母集団		いつも心掛けている	たまに心掛けている	あまり心掛けている	心掛けていない	無回答	合計
TOTAL	809	20.6%	42.3%	25.5%	10.9%	0.7%	100.0%
男性全体	311	19.3%	35.4%	30.2%	13.8%	1.3%	100.0%
男性10歳代	2	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	20	10.0%	15.0%	35.0%	35.0%	5.0%	100.0%
男性30歳代	32	9.4%	37.5%	28.1%	25.0%	0.0%	100.0%
男性40歳代	42	11.9%	38.1%	28.6%	21.4%	0.0%	100.0%
男性50歳代	57	24.6%	33.3%	29.8%	12.3%	0.0%	100.0%
男性60歳代	71	21.1%	31.0%	36.6%	9.9%	1.4%	100.0%
男性70歳以上	87	24.1%	43.7%	24.1%	5.7%	2.3%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	424	21.7%	46.7%	22.9%	8.5%	0.2%	100.0%
女性10歳代	2	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	37	10.8%	37.8%	37.8%	13.5%	0.0%	100.0%
女性30歳代	48	14.6%	37.5%	20.8%	27.1%	0.0%	100.0%
女性40歳代	72	16.7%	54.2%	19.4%	9.7%	0.0%	100.0%
女性50歳代	89	25.8%	47.2%	22.5%	4.5%	0.0%	100.0%
女性60歳代	86	19.8%	52.3%	22.1%	5.8%	0.0%	100.0%
女性70歳以上	90	32.2%	43.3%	21.1%	2.2%	1.1%	100.0%
女性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
深谷地区	194	18.6%	35.1%	30.9%	14.4%	1.0%	100.0%
藤沢地区	61	16.4%	52.5%	18.0%	9.8%	3.3%	100.0%
幡羅地区	85	25.9%	44.7%	15.3%	14.1%	0.0%	100.0%
明戸地区	28	28.6%	53.6%	7.1%	10.7%	0.0%	100.0%
大寄地区	25	32.0%	28.0%	32.0%	4.0%	4.0%	100.0%
八基地区	15	33.3%	40.0%	20.0%	6.7%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	16.0%	36.0%	32.0%	16.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	94	16.0%	52.1%	22.3%	8.5%	1.1%	100.0%
南地区	49	34.7%	42.9%	18.4%	4.1%	0.0%	100.0%
岡部地区	77	22.1%	41.6%	26.0%	10.4%	0.0%	100.0%
川本地区	63	12.7%	44.4%	34.9%	7.9%	0.0%	100.0%
花園地区	75	18.7%	40.0%	32.0%	9.3%	0.0%	100.0%
無回答	18	16.7%	38.9%	27.8%	16.7%	0.0%	100.0%

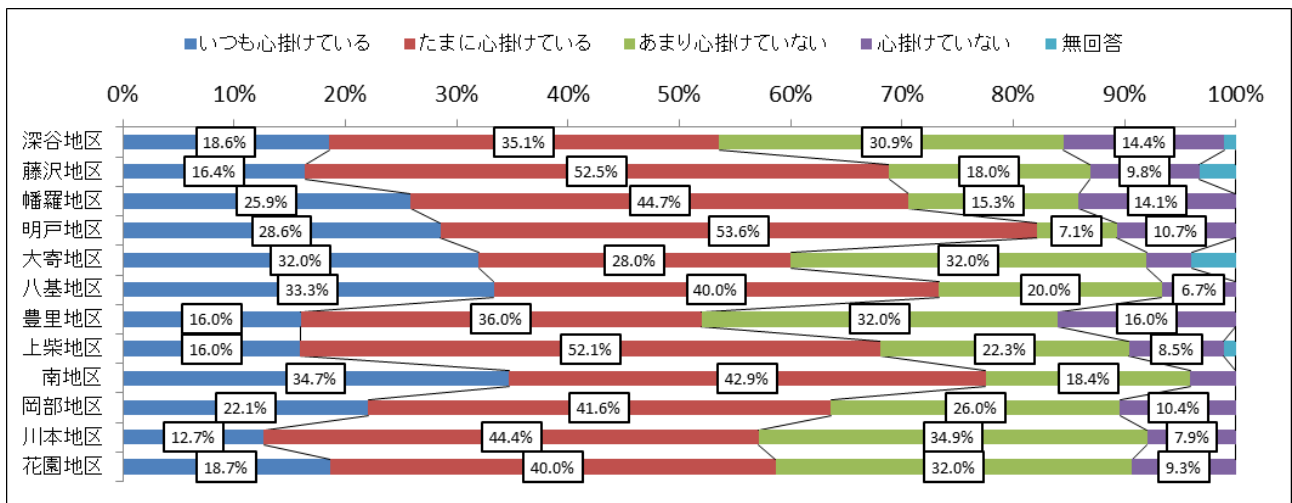
性別・世代別



性別・世代別にみると、「いつも心掛けている」または「たまに心掛けている」と回答した人の割合の合計は、男性が 54.7%であるのに対して、女性は 68.4%と男女によって差があることがうかがえます。

また、「いつも心掛けている」または「たまに心掛けている」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性 10 歳代 (0.0%)、女性 20 歳代 (48.6%) であり、一方で最も多い世代は、男性 70 歳以上 (67.8%)、女性 70 歳以上 (75.5%) となっています。世代によっても差があることがうかがえます。

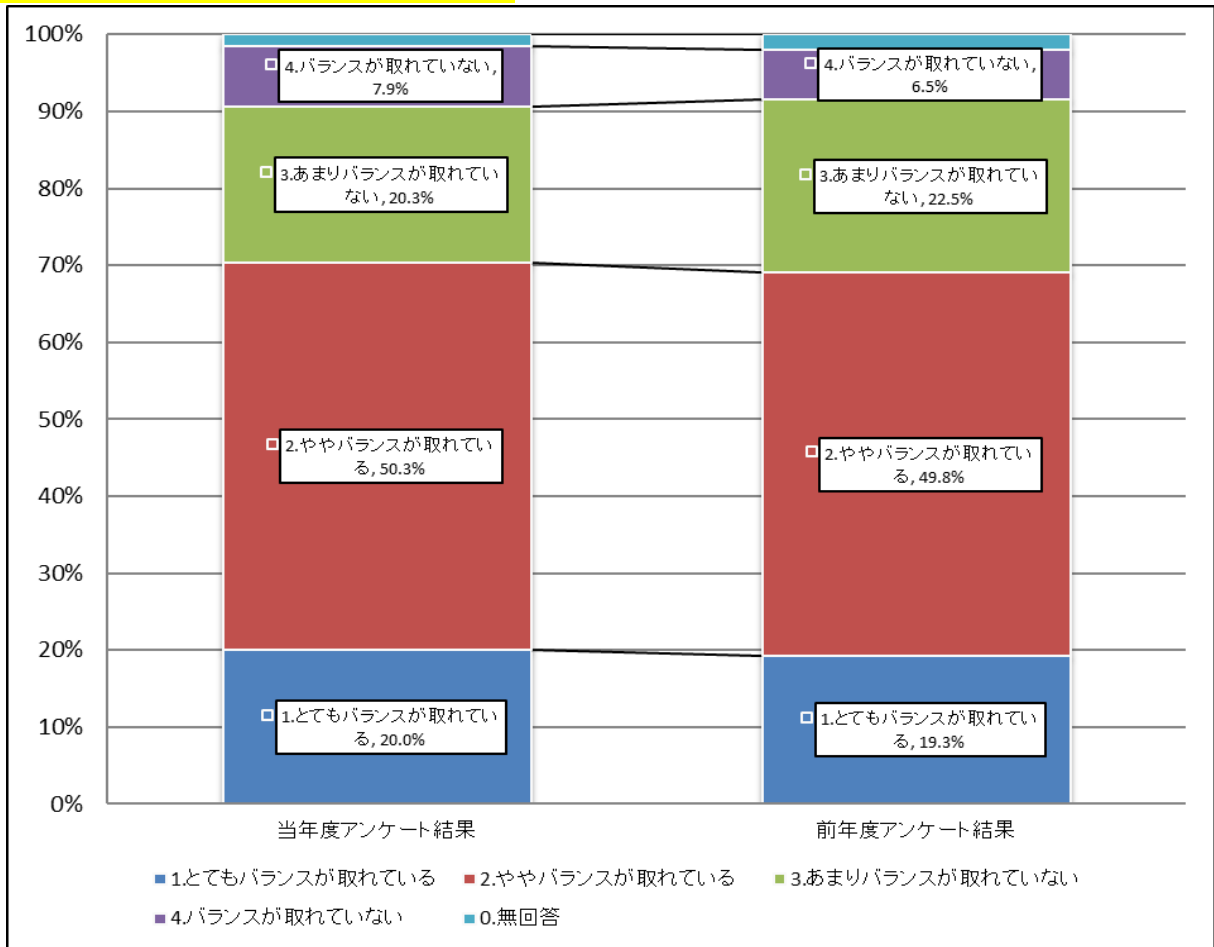
地区別



地区別にみると、「いつも心掛けている」または「たまに心掛けている」と回答した人の割合の合計が最も少ないのは、豊里地区 (52.0%) であり、次いで深谷地区 (53.7%) となっています。最も多いのは明戸地区 (82.2%) であり、次いで南地区 (77.6%) となっています。

② 雇用の創出・安定と勤労者への支援（4. 問3）

ご自身またはご家族の仕事と生活のバランスは取れていますか（休暇の取得状況や家族と過ごす時間の確保などは十分ですか）。



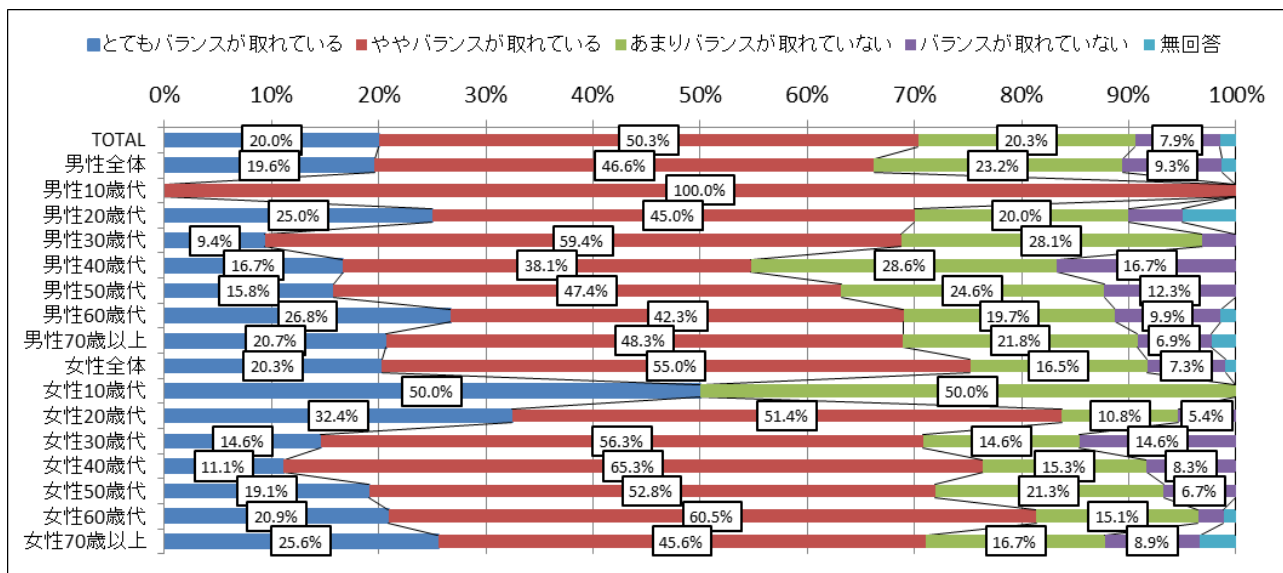
「ややバランスが取れている」と回答した人の割合が 50.3%と最も多く、次いで「あまりバランスが取れていない」と回答した人の割合が 20.3%、「とてもバランスが取れている」と回答した人の割合が 20.0%、「バランスが取れていない」と回答した人の割合が最も少なく 7.9%となっています。

「とてもバランスが取れている」または「ややバランスが取れている」と回答した人の割合の合計は 70.3%であり、7 割の市民が、ご自身またはご家族の仕事と生活のバランスが取れていると感じていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「とてもバランスが取れている」または「ややバランスが取れている」と回答した人の割合の合計は 69.1%であり、「前年度アンケート」と比較して僅かに増加しています。

母集団		とてもバランスが 取れている	ややバランスが取れている	あまりバランスが 取れていない	バランスが取れていない	無回答	合計
TOTAL	809	20.0%	50.3%	20.3%	7.9%	1.5%	100.0%
男性全体	311	19.6%	46.6%	23.2%	9.3%	1.3%	100.0%
男性10歳代	2	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	20	25.0%	45.0%	20.0%	5.0%	5.0%	100.0%
男性30歳代	32	9.4%	59.4%	28.1%	3.1%	0.0%	100.0%
男性40歳代	42	16.7%	38.1%	28.6%	16.7%	0.0%	100.0%
男性50歳代	57	15.8%	47.4%	24.6%	12.3%	0.0%	100.0%
男性60歳代	71	26.8%	42.3%	19.7%	9.9%	1.4%	100.0%
男性70歳以上	87	20.7%	48.3%	21.8%	6.9%	2.3%	100.0%
男性年齢不詳	—	—	—	—	—	—	—
女性全体	424	20.3%	55.0%	16.5%	7.3%	0.9%	100.0%
女性10歳代	2	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	37	32.4%	51.4%	10.8%	5.4%	0.0%	100.0%
女性30歳代	48	14.6%	56.3%	14.6%	14.6%	0.0%	100.0%
女性40歳代	72	11.1%	65.3%	15.3%	8.3%	0.0%	100.0%
女性50歳代	89	19.1%	52.8%	21.3%	6.7%	0.0%	100.0%
女性60歳代	86	20.9%	60.5%	15.1%	2.3%	1.2%	100.0%
女性70歳以上	90	25.6%	45.6%	16.7%	8.9%	3.3%	100.0%
女性年齢不詳	—	—	—	—	—	—	—
深谷地区	194	21.1%	51.5%	17.5%	8.8%	1.0%	100.0%
藤沢地区	61	24.6%	52.5%	11.5%	9.8%	1.6%	100.0%
幡羅地区	85	16.5%	51.8%	16.5%	14.1%	1.2%	100.0%
明戸地区	28	25.0%	46.4%	17.9%	7.1%	3.6%	100.0%
大寄地区	25	24.0%	36.0%	28.0%	8.0%	4.0%	100.0%
八基地区	15	20.0%	46.7%	26.7%	6.7%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	8.0%	68.0%	16.0%	4.0%	4.0%	100.0%
上柴地区	94	17.0%	55.3%	20.2%	3.2%	4.3%	100.0%
南地区	49	20.4%	55.1%	24.5%	0.0%	0.0%	100.0%
岡部地区	77	22.1%	41.6%	27.3%	9.1%	0.0%	100.0%
川本地区	63	17.5%	49.2%	22.2%	9.5%	1.6%	100.0%
花園地区	75	22.7%	50.7%	18.7%	8.0%	0.0%	100.0%
無回答	18	16.7%	27.8%	50.0%	5.6%	0.0%	100.0%

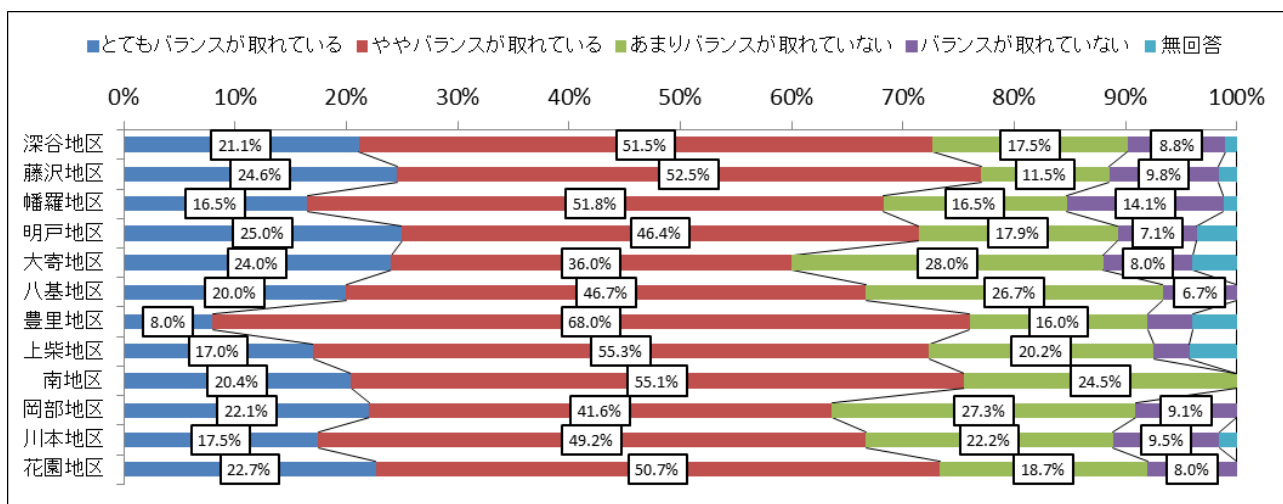
性別・世代別



性別・世代別にみると、「とてもバランスが取れている」または「ややバランスが取れている」と回答した人の割合の合計は、男性が 66.2%であるのに対して、女性は 75.3%と男女によって差があることがうかがえます。

また、「とてもバランスが取れている」または「ややバランスが取れている」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性 40 歳代 (54.8%)、女性 10 歳代 (50.0%) であり、一方で最も多い世代は、男性 10 歳代 (100.0%)、女性 20 歳代 (83.8%) となっています。

地区別

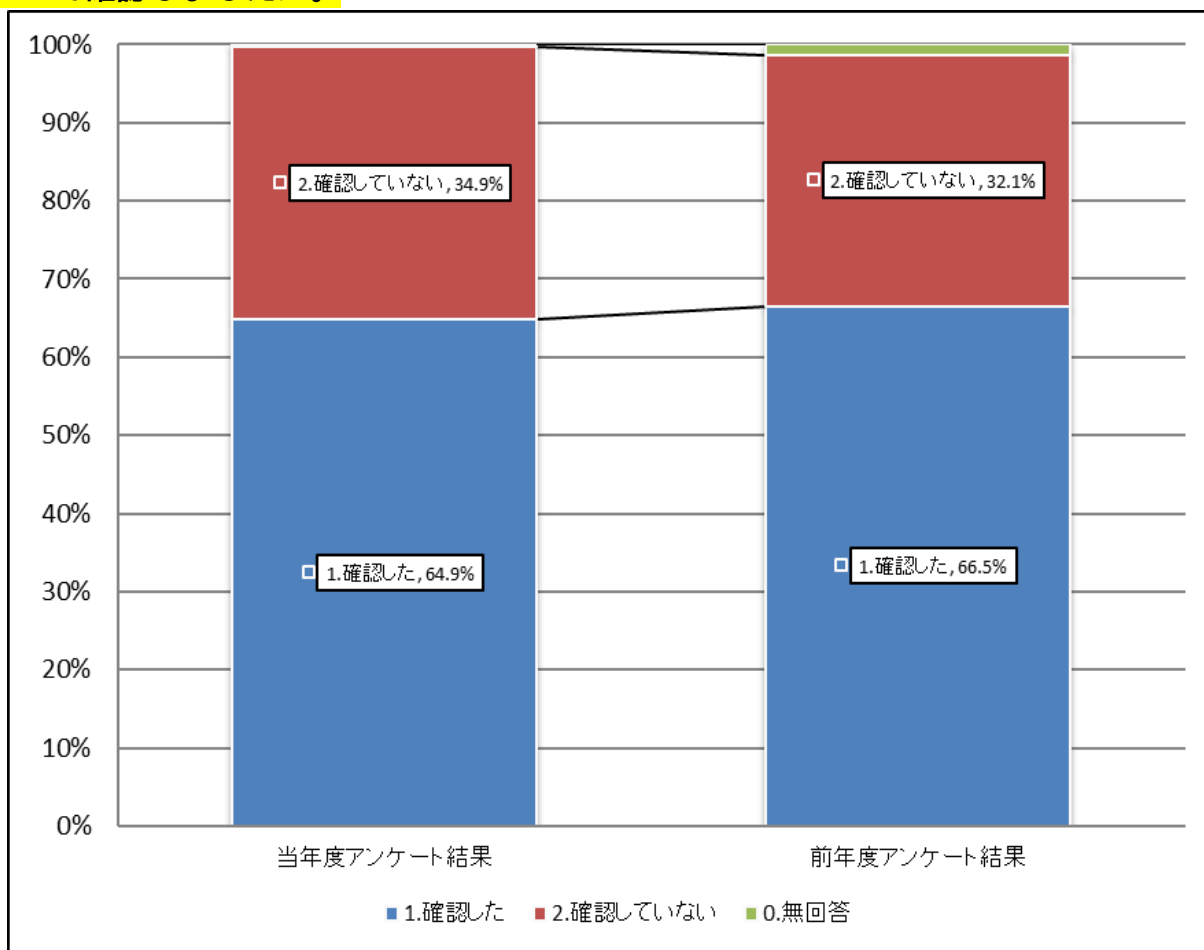


地区別にみると、「とてもバランスが取れている」または「ややバランスが取れている」と回答した人の割合の合計が最も少ないのは、大寄地区 (60.0%) であり、次いで岡部地区 (63.7%) となっています。最も多いのは藤沢地区 (77.1%) であり、次いで豊里地区 (76.0%) となっています。

(5) 暮らし・環境について

① 防災対策の推進 (5. 問1~2)

ハザードマップで自宅等の災害の危険性 (自宅等の浸水想定が地震時の揺れやすさなど) について確認しましたか。



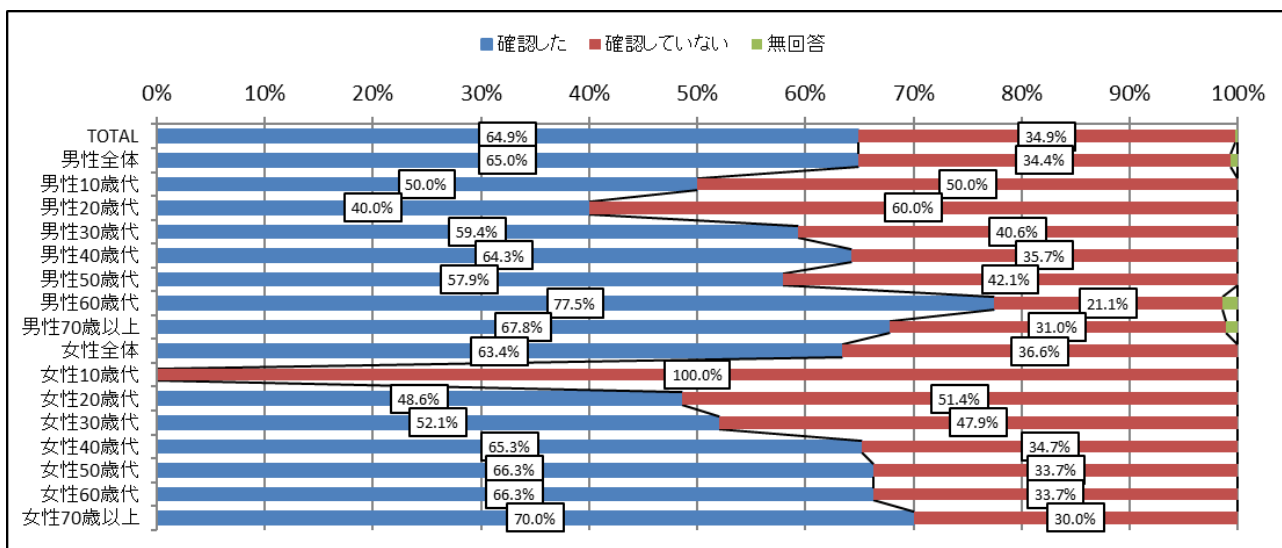
「確認した」と回答した人の割合が 64.9%、「確認していない」と回答した人の割合が 34.9%となっています。

6 割以上の市民がハザードマップで自宅等の災害の危険性を確認している一方、3 割以上の市民は確認していないことがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「確認した」と回答した人の割合は 66.5%であり、「前年度アンケート」と比較して僅かに減少しています。

母集団		確認した	確認していない	無回答	合計
TOTAL	809	64.9%	34.9%	0.2%	100.0%
男性全体	311	65.0%	34.4%	0.6%	100.0%
男性10歳代	2	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	20	40.0%	60.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	32	59.4%	40.6%	0.0%	100.0%
男性40歳代	42	64.3%	35.7%	0.0%	100.0%
男性50歳代	57	57.9%	42.1%	0.0%	100.0%
男性60歳代	71	77.5%	21.1%	1.4%	100.0%
男性70歳以上	87	67.8%	31.0%	1.1%	100.0%
男性年齢不詳	—	—	—	—	—
女性全体	424	63.4%	36.6%	0.0%	100.0%
女性10歳代	2	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	37	48.6%	51.4%	0.0%	100.0%
女性30歳代	48	52.1%	47.9%	0.0%	100.0%
女性40歳代	72	65.3%	34.7%	0.0%	100.0%
女性50歳代	89	66.3%	33.7%	0.0%	100.0%
女性60歳代	86	66.3%	33.7%	0.0%	100.0%
女性70歳以上	90	70.0%	30.0%	0.0%	100.0%
女性年齢不詳	—	—	—	—	—
深谷地区	194	58.2%	41.8%	0.0%	100.0%
藤沢地区	61	52.5%	45.9%	1.6%	100.0%
幡羅地区	85	76.5%	23.5%	0.0%	100.0%
明戸地区	28	71.4%	28.6%	0.0%	100.0%
大寄地区	25	72.0%	28.0%	0.0%	100.0%
八基地区	15	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	92.0%	8.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	94	62.8%	36.2%	1.1%	100.0%
南地区	49	69.4%	30.6%	0.0%	100.0%
岡部地区	77	62.3%	37.7%	0.0%	100.0%
川本地区	63	73.0%	27.0%	0.0%	100.0%
花園地区	75	56.0%	44.0%	0.0%	100.0%
無回答	18	83.3%	16.7%	0.0%	100.0%

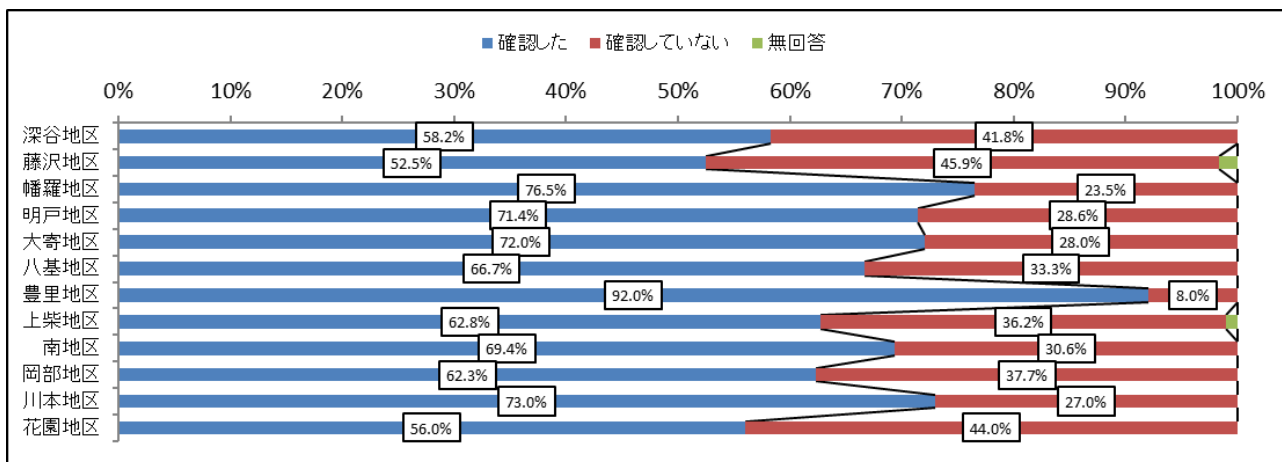
性別・世代別



性別・世代別にみると、「確認した」と回答した人の割合は、男性が 65.0%であるのに対して、女性は 63.4%となっています。

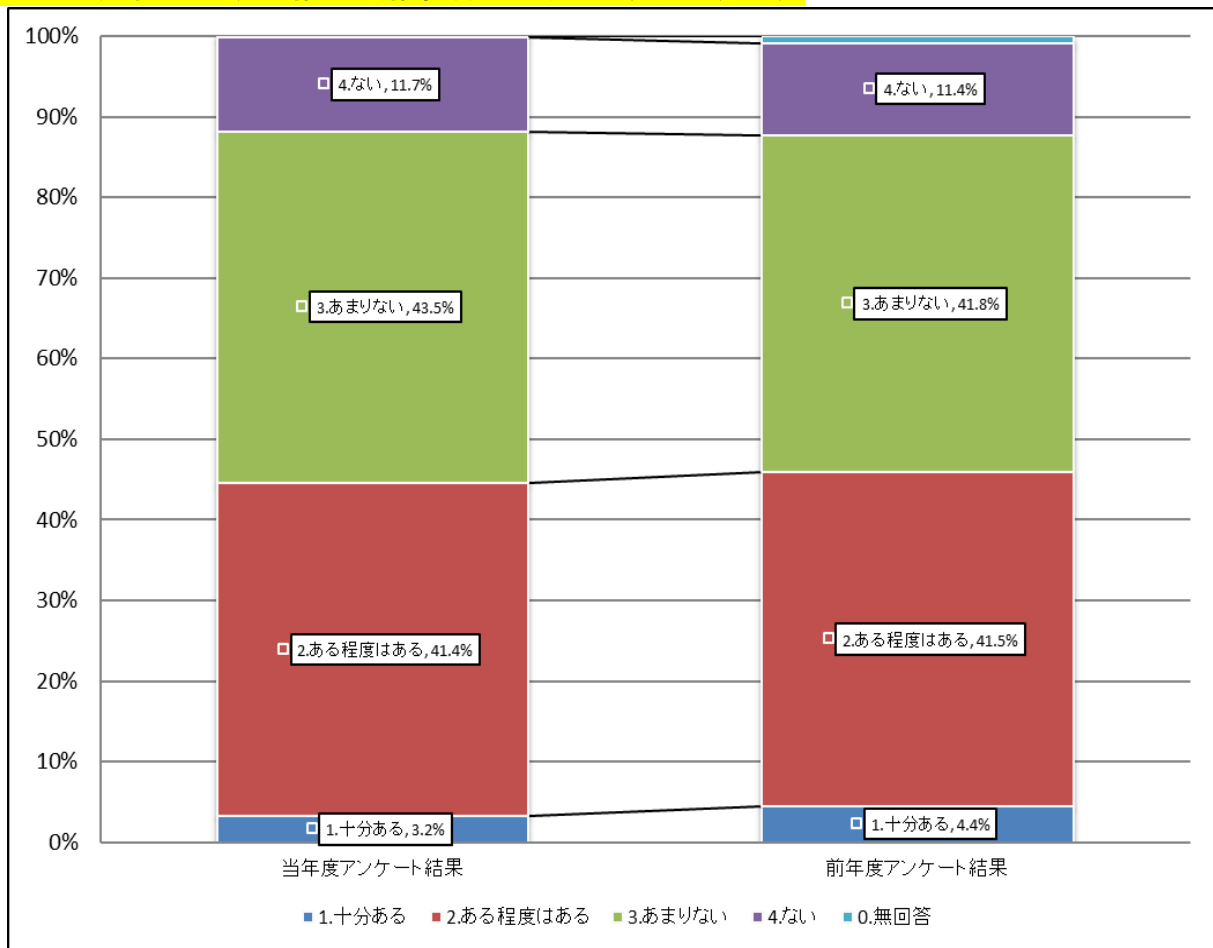
また、「確認した」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性 20 歳代 (40.0%)、女性 10 歳代 (0.0%) であり、一方で最も多い世代は、男性 60 歳代 (77.5%)、女性 70 歳以上 (70.0%) となっています。世代によって差があることがうかがえます。

地区別



地区別にみると、「確認した」と回答した人の割合が最も少ないのは、藤沢地区 (52.5%) であり、次いで花園地区 (56.0%) となっています。最も多いのは豊里地区 (92.0%) であり、次いで幡羅地区 (76.5%) となっています。地域によって大きな差があることがうかがえます。

ご自宅に災害に対する備え（備蓄品など）はありますか。



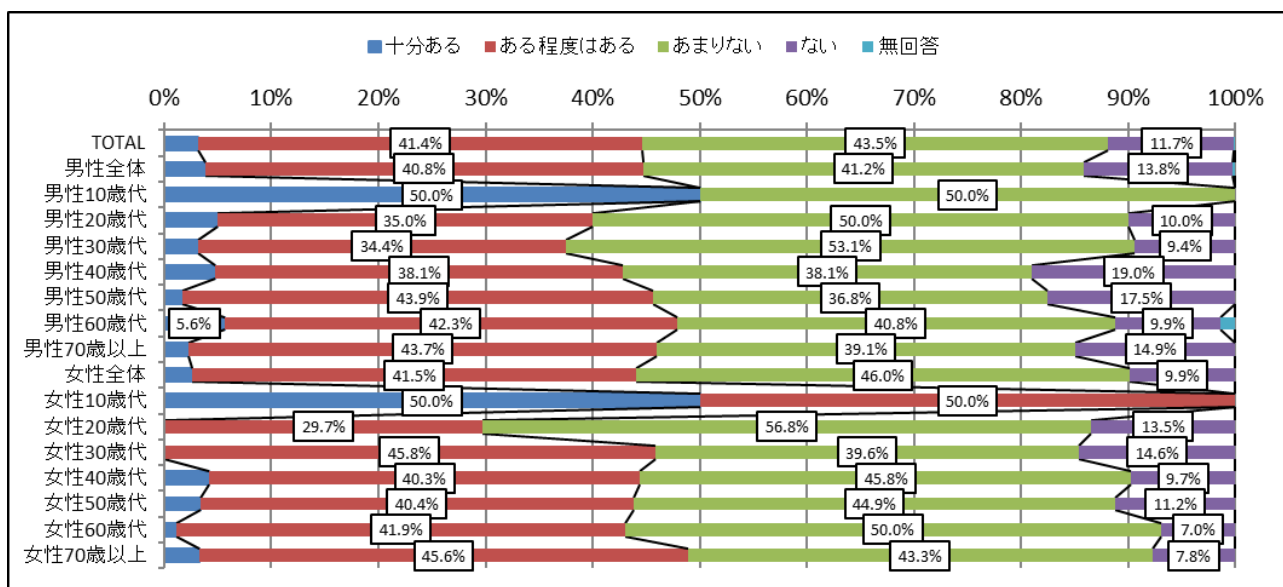
「あまりない」と回答した人の割合が 43.5%と最も多く、次いで「ある程度はある」と回答した人の割合が 41.4%、「ない」と回答した人の割合が 11.7%、「十分ある」と回答した人の割合が最も少なく 3.2%となっています。

「十分ある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計は 44.6%であり、ご自宅に災害に対する備え（備蓄品など）が「ある」市民は、半数にも満たないという状況がうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「十分ある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計は 45.9%であり、「前年度アンケート」と比較して僅かに減少しています。

母集団		十分ある	ある程度はある	あまりない	ない	無回答	合計
TOTAL	809	3.2%	41.4%	43.5%	11.7%	0.1%	100.0%
男性全体	311	3.9%	40.8%	41.2%	13.8%	0.3%	100.0%
男性10歳代	2	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	20	5.0%	35.0%	50.0%	10.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	32	3.1%	34.4%	53.1%	9.4%	0.0%	100.0%
男性40歳代	42	4.8%	38.1%	38.1%	19.0%	0.0%	100.0%
男性50歳代	57	1.8%	43.9%	36.8%	17.5%	0.0%	100.0%
男性60歳代	71	5.6%	42.3%	40.8%	9.9%	1.4%	100.0%
男性70歳以上	87	2.3%	43.7%	39.1%	14.9%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	424	2.6%	41.5%	46.0%	9.9%	0.0%	100.0%
女性10歳代	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	37	0.0%	29.7%	56.8%	13.5%	0.0%	100.0%
女性30歳代	48	0.0%	45.8%	39.6%	14.6%	0.0%	100.0%
女性40歳代	72	4.2%	40.3%	45.8%	9.7%	0.0%	100.0%
女性50歳代	89	3.4%	40.4%	44.9%	11.2%	0.0%	100.0%
女性60歳代	86	1.2%	41.9%	50.0%	7.0%	0.0%	100.0%
女性70歳以上	90	3.3%	45.6%	43.3%	7.8%	0.0%	100.0%
女性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
深谷地区	194	2.1%	32.5%	49.5%	16.0%	0.0%	100.0%
藤沢地区	61	8.2%	41.0%	34.4%	16.4%	0.0%	100.0%
幡羅地区	85	4.7%	47.1%	40.0%	8.2%	0.0%	100.0%
明戸地区	28	0.0%	53.6%	35.7%	10.7%	0.0%	100.0%
大寄地区	25	4.0%	44.0%	48.0%	4.0%	0.0%	100.0%
八基地区	15	0.0%	46.7%	53.3%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	4.0%	40.0%	44.0%	12.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	94	3.2%	44.7%	40.4%	10.6%	1.1%	100.0%
南地区	49	4.1%	42.9%	49.0%	4.1%	0.0%	100.0%
岡部地区	77	2.6%	42.9%	41.6%	13.0%	0.0%	100.0%
川本地区	63	3.2%	42.9%	38.1%	15.9%	0.0%	100.0%
花園地区	75	1.3%	41.3%	46.7%	10.7%	0.0%	100.0%
無回答	18	5.6%	55.6%	38.9%	0.0%	0.0%	100.0%

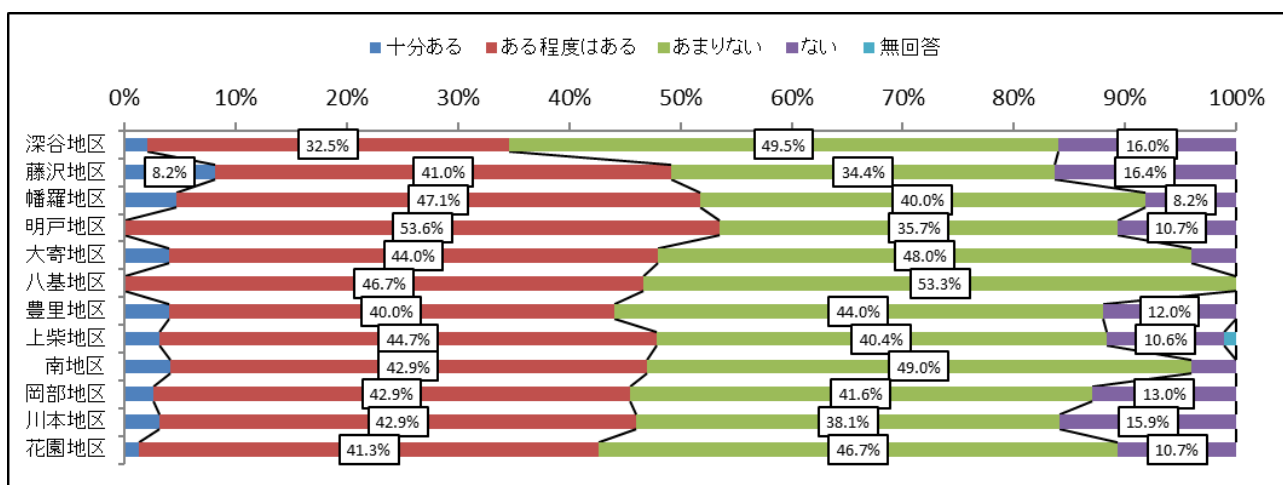
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「十分ある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計は、男性が44.7%であるのに対して、女性は44.1%となっています。

また、「十分ある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性30歳代(37.5%)、女性20歳代(29.7%)であり、一方で最も多い世代は、男性10歳代(50.0%)、女性10歳代(100.0%)となっています。

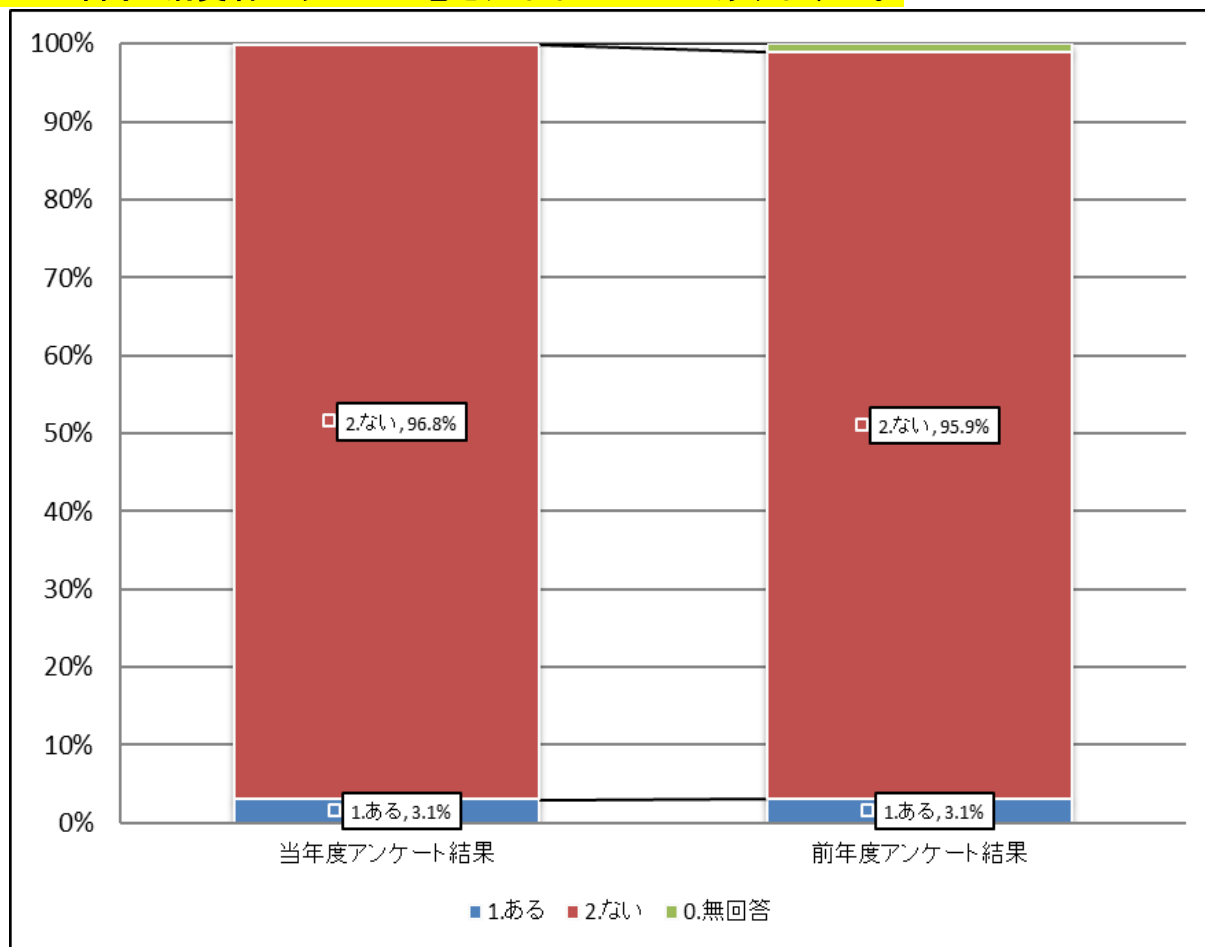
➤ 地区別



地区別にみると、「十分ある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計が最も少ないのは、深谷地区(34.6%)であり、次いで花園地区(42.6%)となっています。最も多いのは、明戸地区(53.6%)、次いで幡羅地区(51.8%)となっています。

② 暮らしの安全対策の推進（5. 問3～4）

この1年間で消費者トラブルに巻き込まれたことはありますか。



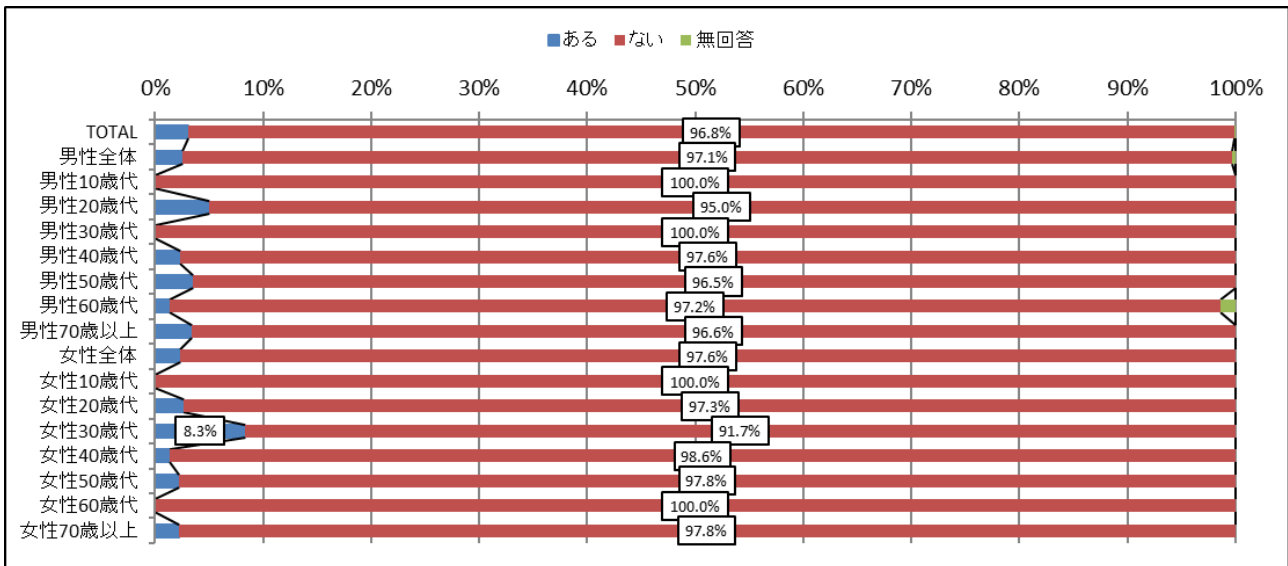
「ある」と回答した人の割合は 3.1%、「ない」と回答した人の割合は 96.8%となっています。

ほとんどの市民が、この1年間で消費者トラブルに巻き込まれたことは「ない」と回答している一方、巻き込まれたことが「ある」市民が少数いることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「ある」と回答した人の割合は 3.1%であり、「前年度アンケート」と比較して変化はありませんでした。

母集団		ある	ない	無回答	合計
TOTAL	809	3.1%	96.8%	0.1%	100.0%
男性全体	311	2.6%	97.1%	0.3%	100.0%
男性10歳代	2	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	20	5.0%	95.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	32	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
男性40歳代	42	2.4%	97.6%	0.0%	100.0%
男性50歳代	57	3.5%	96.5%	0.0%	100.0%
男性60歳代	71	1.4%	97.2%	1.4%	100.0%
男性70歳以上	87	3.4%	96.6%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—
女性全体	424	2.4%	97.6%	0.0%	100.0%
女性10歳代	2	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	37	2.7%	97.3%	0.0%	100.0%
女性30歳代	48	8.3%	91.7%	0.0%	100.0%
女性40歳代	72	1.4%	98.6%	0.0%	100.0%
女性50歳代	89	2.2%	97.8%	0.0%	100.0%
女性60歳代	86	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性70歳以上	90	2.2%	97.8%	0.0%	100.0%
女性年齢不詳		—	—	—	—
深谷地区	194	3.1%	96.9%	0.0%	100.0%
藤沢地区	61	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
幡羅地区	85	7.1%	92.9%	0.0%	100.0%
明戸地区	28	3.6%	96.4%	0.0%	100.0%
大寄地区	25	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
八基地区	15	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	4.0%	96.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	94	2.1%	96.8%	1.1%	100.0%
南地区	49	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
岡部地区	77	2.6%	97.4%	0.0%	100.0%
川本地区	63	1.6%	98.4%	0.0%	100.0%
花園地区	75	5.3%	94.7%	0.0%	100.0%
無回答	18	11.1%	88.9%	0.0%	100.0%

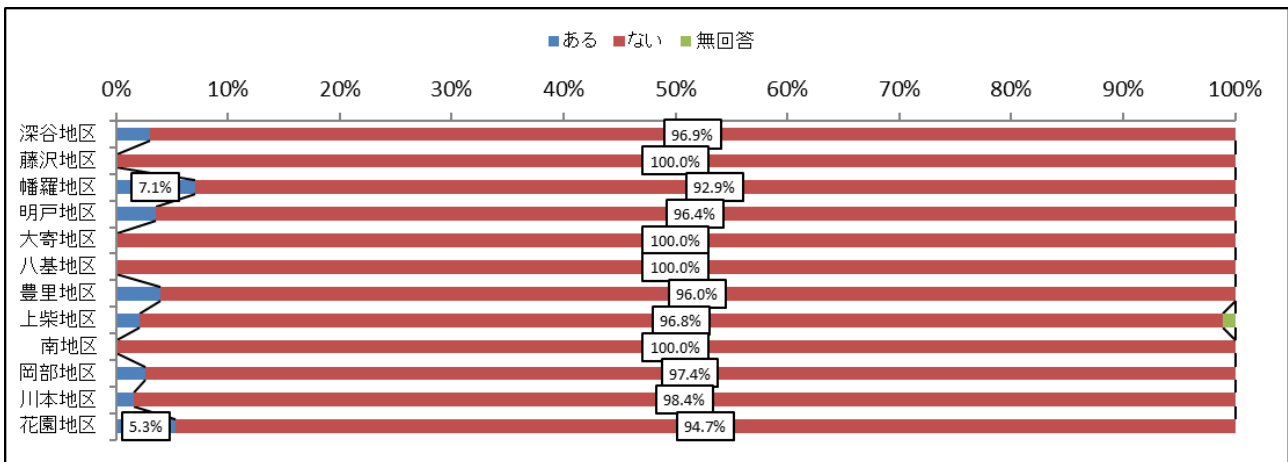
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「ある」と回答した人の割合は、男性が 2.6%であるのに対して、女性は 2.4%となっています。

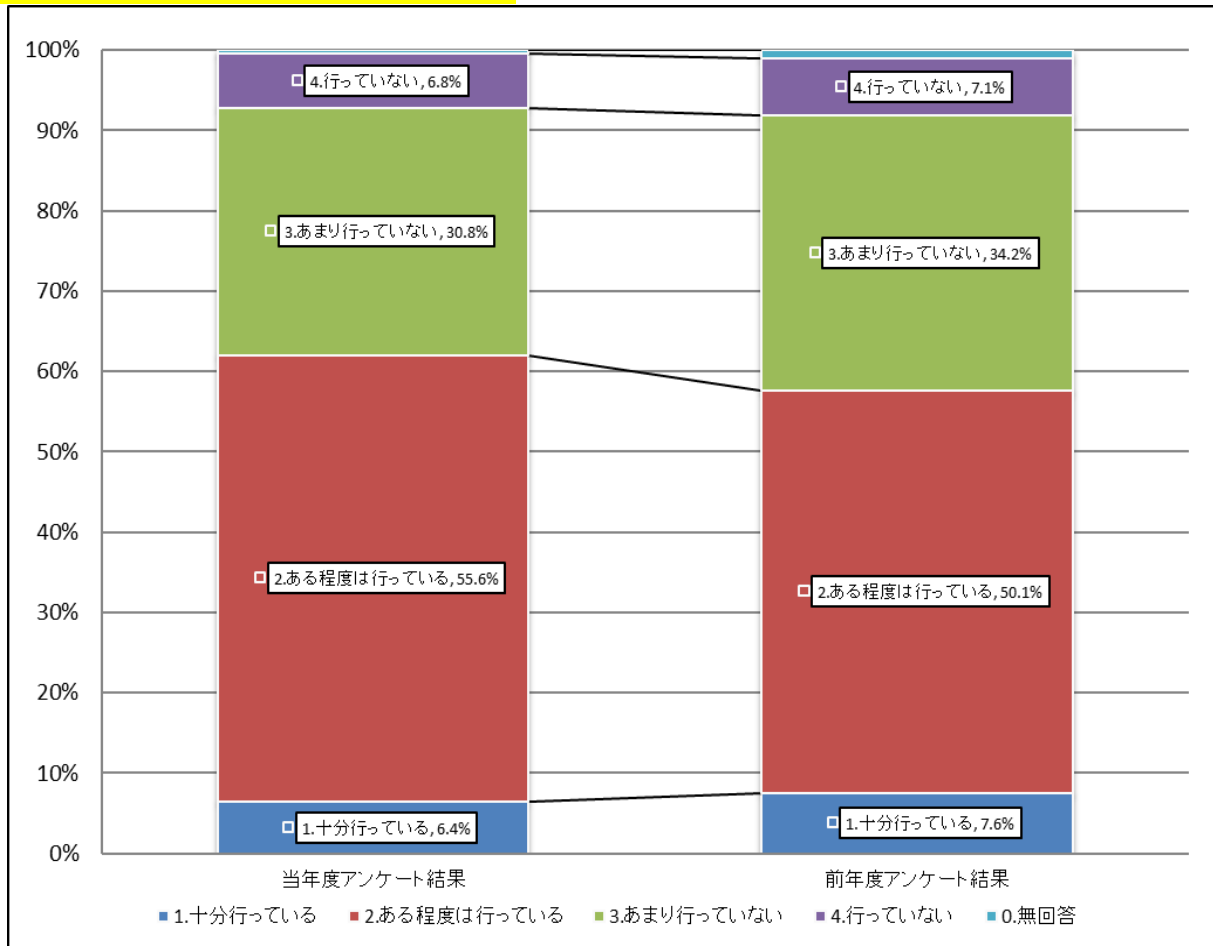
また、「ある」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性 10 歳代・30 歳代ともに (0.0%)、女性 10 歳代・60 歳代ともに (0.0%) であり、一方で最も多い世代は、男性 20 歳代 (5.0%)、女性 30 歳代 (8.3%) となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「ある」と回答した人の割合が最も少ないのは、藤沢地区、大寄地区、八基地区、南地区の 4 地区 (0.0%) であり、次いで川本地区 (1.6%) となっています。最も多いのは、幡羅地区 (7.1%) であり、次いで花園地区 (5.3%) となっています。

日ごろ、防犯対策を行っていますか。



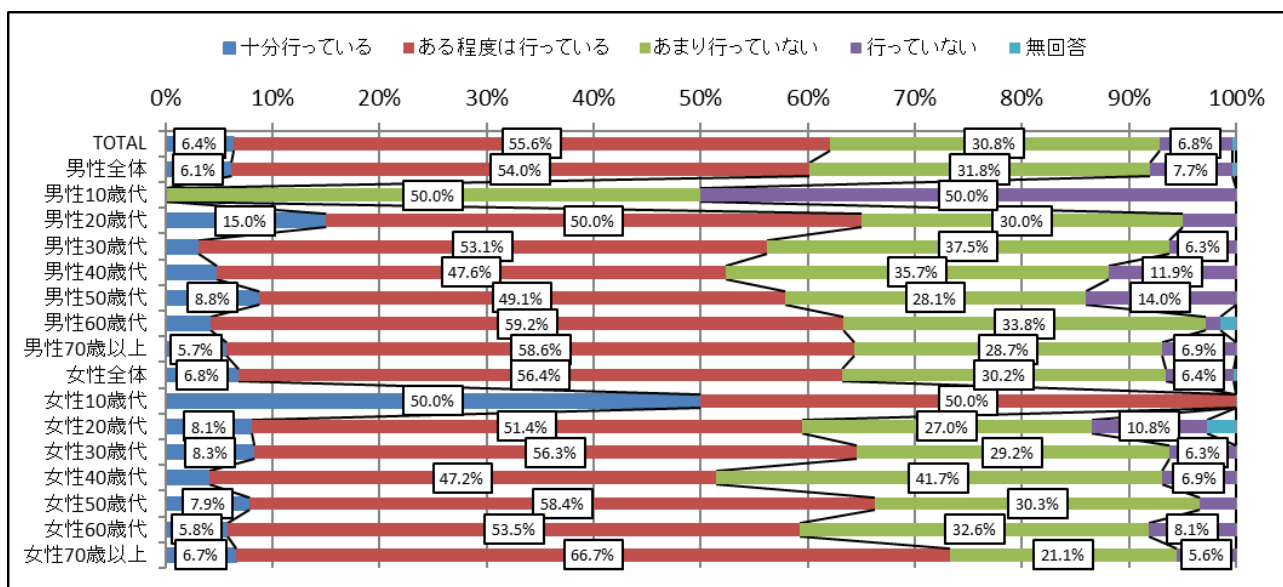
「ある程度は行っている」と回答した人の割合が 55.6%と最も多く、次いで「あまり行っていない」と回答した人の割合が 30.8%、「行っていない」と回答した人の割合が 6.8%、「十分行っている」と回答した人の割合が最も少なく 6.4%となっています。

「十分行っている」または「ある程度は行っている」と回答した人の割合の合計は 62.0%であり、6割以上の市民が日ごろから防犯対策を行っていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「十分行っている」または「ある程度は行っている」と回答した人の割合の合計は 57.7%であり、「前年度アンケート」と比較して増加しています。

母集団		十分行っている	ある程度は 行っている	行っていない あまり	行っていない	無回答	合計
TOTAL	809	6.4%	55.6%	30.8%	6.8%	0.4%	100.0%
男性全体	311	6.1%	54.0%	31.8%	7.7%	0.3%	100.0%
男性10歳代	2	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	20	15.0%	50.0%	30.0%	5.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	32	3.1%	53.1%	37.5%	6.3%	0.0%	100.0%
男性40歳代	42	4.8%	47.6%	35.7%	11.9%	0.0%	100.0%
男性50歳代	57	8.8%	49.1%	28.1%	14.0%	0.0%	100.0%
男性60歳代	71	4.2%	59.2%	33.8%	1.4%	1.4%	100.0%
男性70歳以上	87	5.7%	58.6%	28.7%	6.9%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	424	6.8%	56.4%	30.2%	6.4%	0.2%	100.0%
女性10歳代	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	37	8.1%	51.4%	27.0%	10.8%	2.7%	100.0%
女性30歳代	48	8.3%	56.3%	29.2%	6.3%	0.0%	100.0%
女性40歳代	72	4.2%	47.2%	41.7%	6.9%	0.0%	100.0%
女性50歳代	89	7.9%	58.4%	30.3%	3.4%	0.0%	100.0%
女性60歳代	86	5.8%	53.5%	32.6%	8.1%	0.0%	100.0%
女性70歳以上	90	6.7%	66.7%	21.1%	5.6%	0.0%	100.0%
女性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
深谷地区	194	6.7%	46.4%	36.6%	9.8%	0.5%	100.0%
藤沢地区	61	8.2%	39.3%	44.3%	6.6%	1.6%	100.0%
幡羅地区	85	5.9%	55.3%	34.1%	4.7%	0.0%	100.0%
明戸地区	28	7.1%	53.6%	32.1%	7.1%	0.0%	100.0%
大寄地区	25	16.0%	68.0%	16.0%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	15	6.7%	73.3%	13.3%	6.7%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	0.0%	64.0%	24.0%	12.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	94	4.3%	56.4%	34.0%	4.3%	1.1%	100.0%
南地区	49	6.1%	57.1%	32.7%	4.1%	0.0%	100.0%
岡部地区	77	5.2%	64.9%	19.5%	10.4%	0.0%	100.0%
川本地区	63	6.3%	65.1%	20.6%	7.9%	0.0%	100.0%
花園地区	75	6.7%	62.7%	26.7%	4.0%	0.0%	100.0%
無回答	18	11.1%	61.1%	27.8%	0.0%	0.0%	100.0%

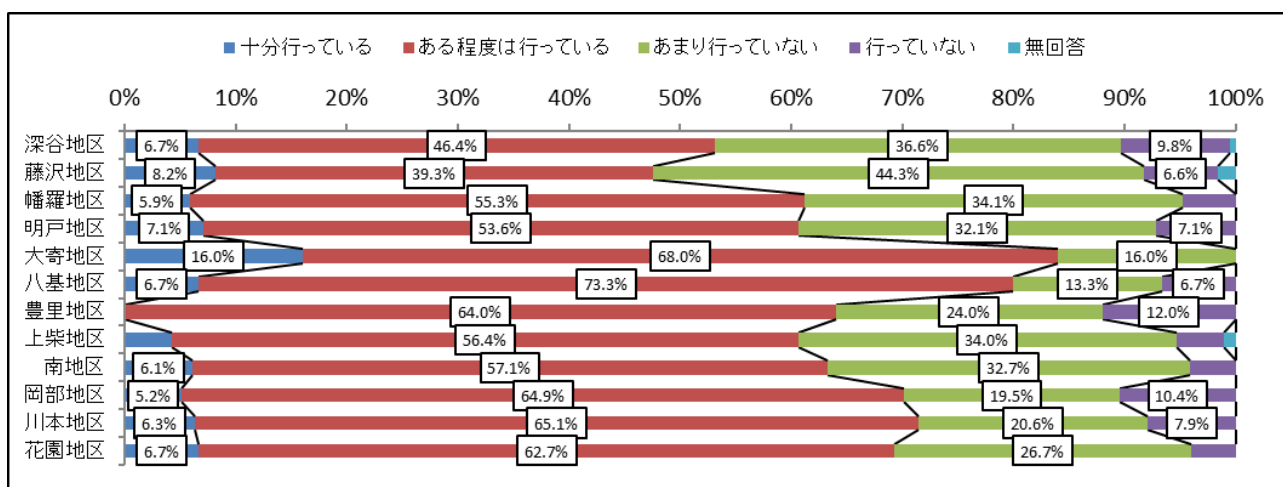
性別・世代別



性別・世代別にみると、「十分行っている」または「ある程度は行っている」と回答した人の割合の合計は、男性が60.1%であるのに対して、女性は63.2%となっています。

また、「十分行っている」または「ある程度は行っている」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性10歳代(0.0%)、女性40歳代(51.4%)であり、一方で最も多い世代は、男性20歳代(65.0%)、女性10歳代(100.0%)となっています。

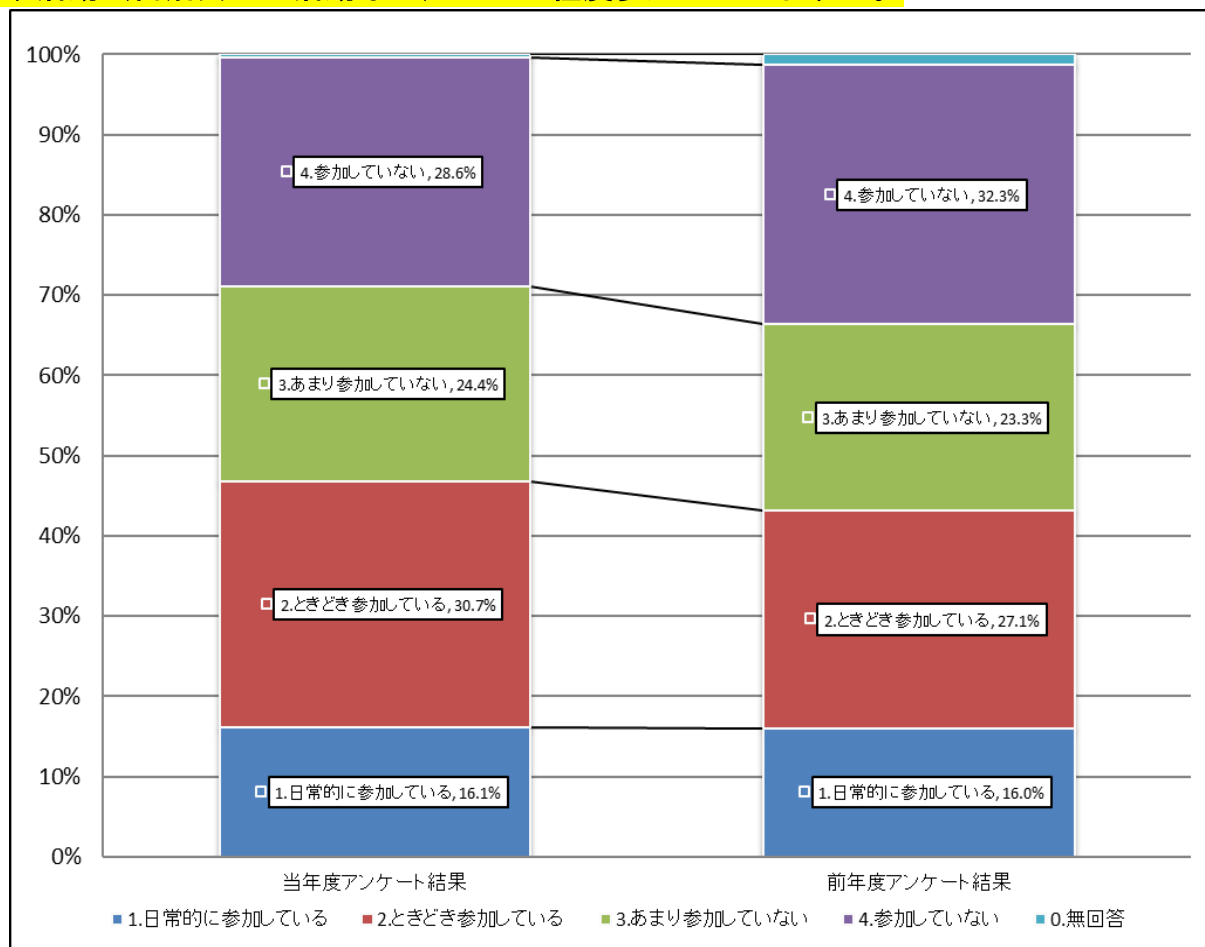
地区別



地区別にみると、「十分行っている」または「ある程度は行っている」と回答した人の割合の合計が最も少ないのは、藤沢地区(47.5%)であり、次いで深谷地区(53.1%)となっています。最も多いのは、大寄地区(84.0%)であり、次いで八基地区(80.0%)となっています。地域によって大きな差があることがうかがえます。

③ 絆でつながるひとづくり（5. 問5）

地域活動（自治会での活動など）への程度参加していますか。



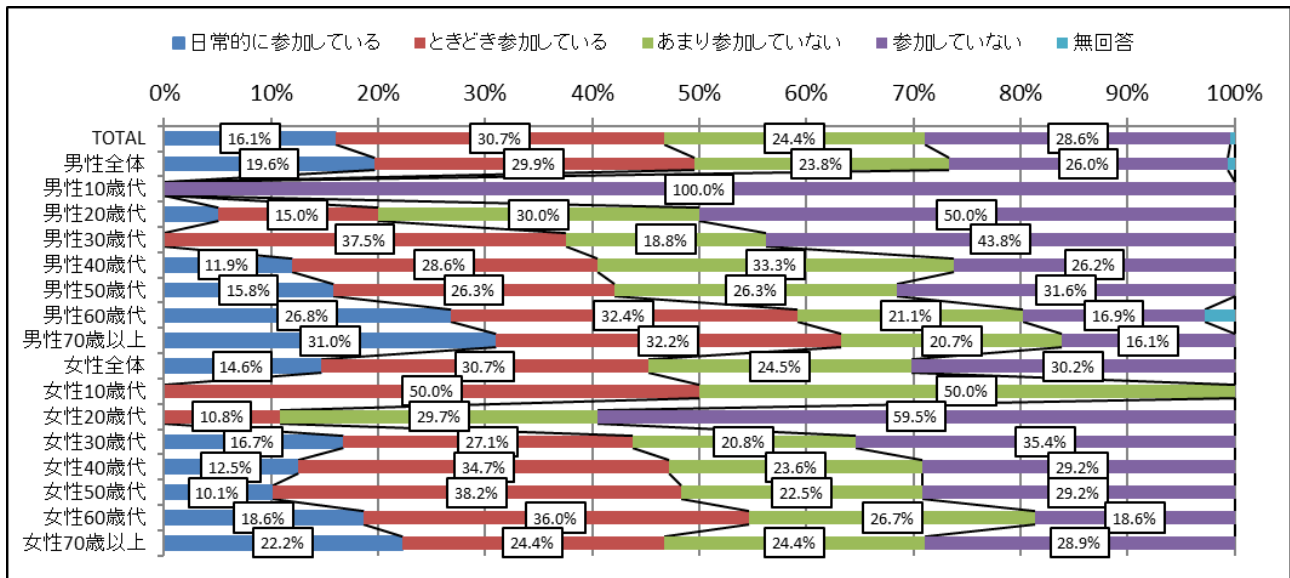
「ときどき参加している」と回答した人の割合が 30.7%と最も多く、次いで「参加していない」と回答した人の割合が 28.6%、「あまり参加していない」と回答した人の割合が 24.4%、「日常的に参加している」と回答した人の割合が最も少なく 16.1%となっています。

また、「日常的に参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合の合計は 46.8%であり、地域活動に参加している市民は半数未満という状況がうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「日常的に参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合の合計は 43.1%であり、「前年度アンケート」と比較して増加しています。

母集団		日常的に参加している	ときどき参加している	あまり参加していない	参加していない	無回答	合計
TOTAL	809	16.1%	30.7%	24.4%	28.6%	0.4%	100.0%
男性全体	311	19.6%	29.9%	23.8%	26.0%	0.6%	100.0%
男性10歳代	2	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	20	5.0%	15.0%	30.0%	50.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	32	0.0%	37.5%	18.8%	43.8%	0.0%	100.0%
男性40歳代	42	11.9%	28.6%	33.3%	26.2%	0.0%	100.0%
男性50歳代	57	15.8%	26.3%	26.3%	31.6%	0.0%	100.0%
男性60歳代	71	26.8%	32.4%	21.1%	16.9%	2.8%	100.0%
男性70歳以上	87	31.0%	32.2%	20.7%	16.1%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	424	14.6%	30.7%	24.5%	30.2%	0.0%	100.0%
女性10歳代	2	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	37	0.0%	10.8%	29.7%	59.5%	0.0%	100.0%
女性30歳代	48	16.7%	27.1%	20.8%	35.4%	0.0%	100.0%
女性40歳代	72	12.5%	34.7%	23.6%	29.2%	0.0%	100.0%
女性50歳代	89	10.1%	38.2%	22.5%	29.2%	0.0%	100.0%
女性60歳代	86	18.6%	36.0%	26.7%	18.6%	0.0%	100.0%
女性70歳以上	90	22.2%	24.4%	24.4%	28.9%	0.0%	100.0%
女性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
深谷地区	194	7.7%	21.1%	25.8%	45.4%	0.0%	100.0%
藤沢地区	61	19.7%	41.0%	21.3%	16.4%	1.6%	100.0%
幡羅地区	85	9.4%	29.4%	30.6%	30.6%	0.0%	100.0%
明戸地区	28	32.1%	35.7%	14.3%	17.9%	0.0%	100.0%
大寄地区	25	24.0%	36.0%	20.0%	20.0%	0.0%	100.0%
八基地区	15	53.3%	13.3%	20.0%	13.3%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	24.0%	52.0%	8.0%	16.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	94	6.4%	30.9%	27.7%	34.0%	1.1%	100.0%
南地区	49	6.1%	24.5%	49.0%	18.4%	2.0%	100.0%
岡部地区	77	18.2%	32.5%	27.3%	22.1%	0.0%	100.0%
川本地区	63	23.8%	39.7%	14.3%	22.2%	0.0%	100.0%
花園地区	75	36.0%	33.3%	12.0%	18.7%	0.0%	100.0%
無回答	18	5.6%	38.9%	27.8%	27.8%	0.0%	100.0%

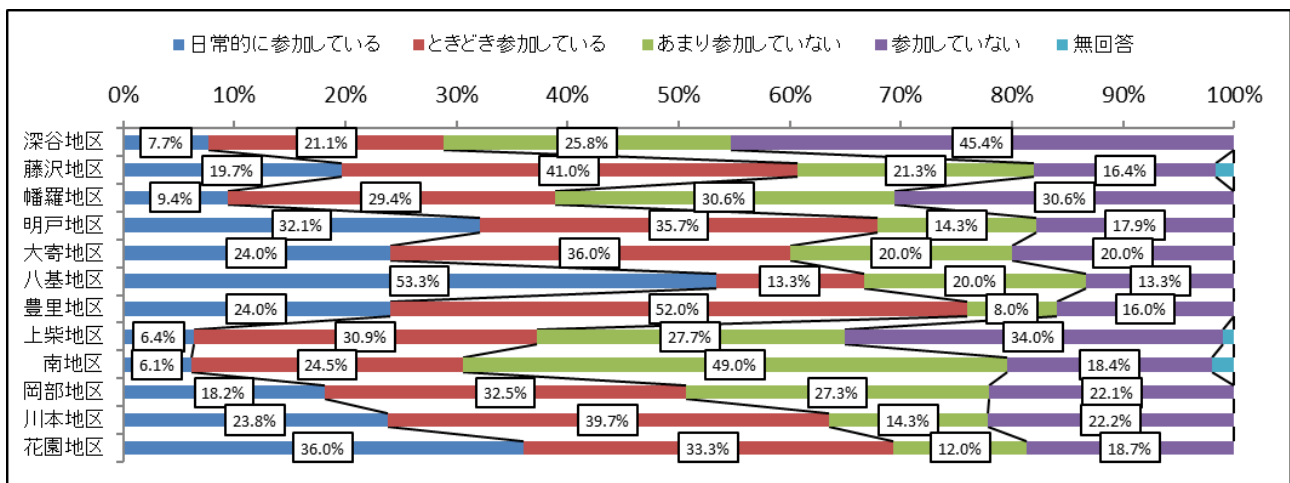
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「日常的に参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合の合計は、男性が 49.5% であるのに対して、女性は 45.3% となっています。

また、「日常的に参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性 10 歳代 (0.0%)、女性 20 歳代 (10.8%) であり、一方で最も多い世代は、男性 70 歳以上 (63.2%)、女性 60 歳代 (54.6%) となっています。世代によって差があることがうかがえます。

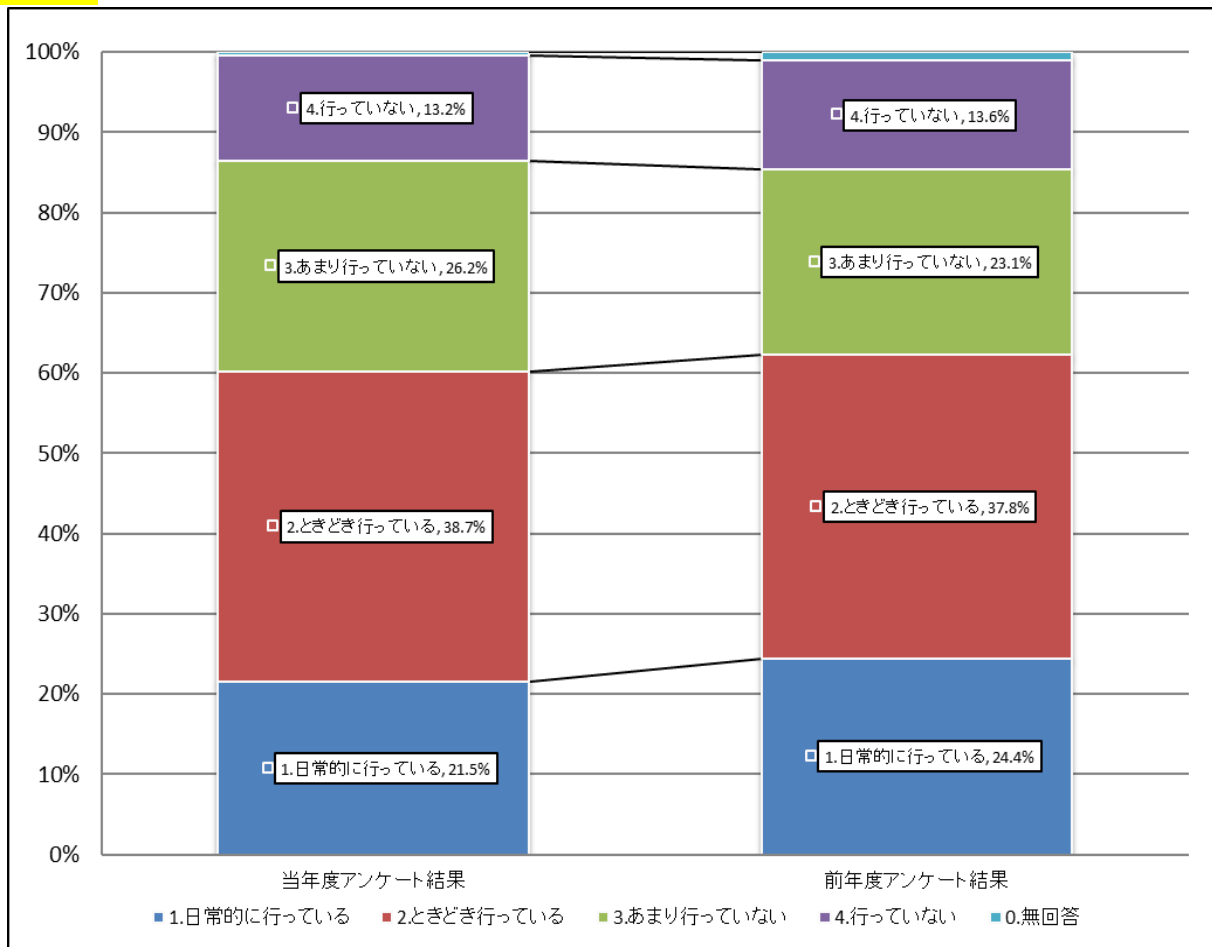
➤ 地区別



地区別にみると、「日常的に参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合の合計が最も少ないのは、深谷地区 (28.8%) であり、次いで南地区 (30.6%) となっています。最も多いのは、豊里地区 (76.0%) であり、次いで花園地区 (69.3%) となっています。地域によって大きな差があることがうかがえます。

④ 生活環境の保全と配慮（5. 問6～8）

環境に配慮した取組（省エネ（節電を含みます）、自然や川の保全活動など）を行っていますか。



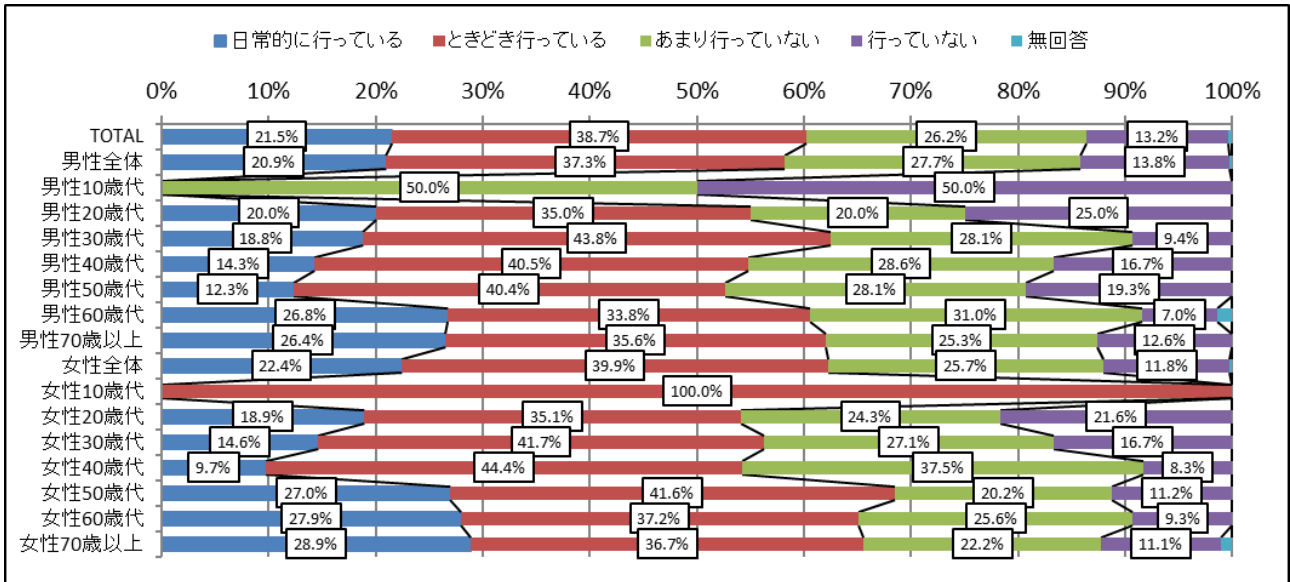
「ときどき行っている」と回答した人の割合が 38.7%と最も多く、次いで「あまり行っていない」と回答した人の割合が 26.2%、「日常的に行っている」と回答した人の割合が 21.5%、「行っていない」と回答した人の割合が最も少なく 13.2%となっています。

「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合の合計は、60.2%であり、6割の市民が環境に配慮した取組を行っていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合の合計は、62.2%であり、「前年度アンケート」と比較して僅かに減少しています。

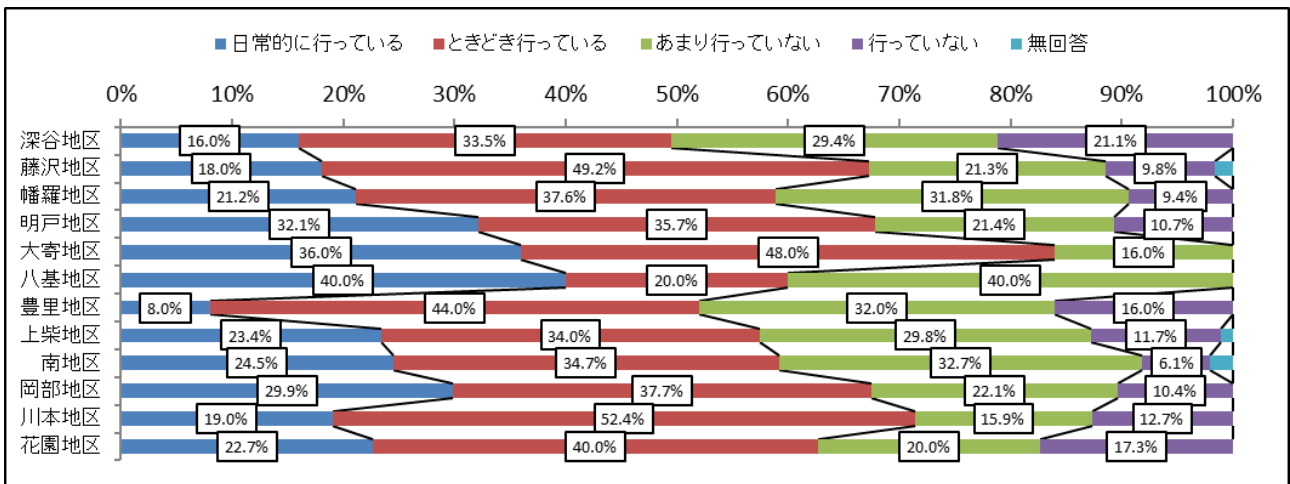
母集団		日常的に行っている	ときどき行っている	あまり行っていない	行っていない	無回答	合計
TOTAL	809	21.5%	38.7%	26.2%	13.2%	0.4%	100.0%
男性全体	311	20.9%	37.3%	27.7%	13.8%	0.3%	100.0%
男性10歳代	2	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	20	20.0%	35.0%	20.0%	25.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	32	18.8%	43.8%	28.1%	9.4%	0.0%	100.0%
男性40歳代	42	14.3%	40.5%	28.6%	16.7%	0.0%	100.0%
男性50歳代	57	12.3%	40.4%	28.1%	19.3%	0.0%	100.0%
男性60歳代	71	26.8%	33.8%	31.0%	7.0%	1.4%	100.0%
男性70歳以上	87	26.4%	35.6%	25.3%	12.6%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	424	22.4%	39.9%	25.7%	11.8%	0.2%	100.0%
女性10歳代	2	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	37	18.9%	35.1%	24.3%	21.6%	0.0%	100.0%
女性30歳代	48	14.6%	41.7%	27.1%	16.7%	0.0%	100.0%
女性40歳代	72	9.7%	44.4%	37.5%	8.3%	0.0%	100.0%
女性50歳代	89	27.0%	41.6%	20.2%	11.2%	0.0%	100.0%
女性60歳代	86	27.9%	37.2%	25.6%	9.3%	0.0%	100.0%
女性70歳以上	90	28.9%	36.7%	22.2%	11.1%	1.1%	100.0%
女性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
深谷地区	194	16.0%	33.5%	29.4%	21.1%	0.0%	100.0%
藤沢地区	61	18.0%	49.2%	21.3%	9.8%	1.6%	100.0%
幡羅地区	85	21.2%	37.6%	31.8%	9.4%	0.0%	100.0%
明戸地区	28	32.1%	35.7%	21.4%	10.7%	0.0%	100.0%
大寄地区	25	36.0%	48.0%	16.0%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	15	40.0%	20.0%	40.0%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	8.0%	44.0%	32.0%	16.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	94	23.4%	34.0%	29.8%	11.7%	1.1%	100.0%
南地区	49	24.5%	34.7%	32.7%	6.1%	2.0%	100.0%
岡部地区	77	29.9%	37.7%	22.1%	10.4%	0.0%	100.0%
川本地区	63	19.0%	52.4%	15.9%	12.7%	0.0%	100.0%
花園地区	75	22.7%	40.0%	20.0%	17.3%	0.0%	100.0%
無回答	18	11.1%	50.0%	27.8%	11.1%	0.0%	100.0%

➤ 性別・世代別



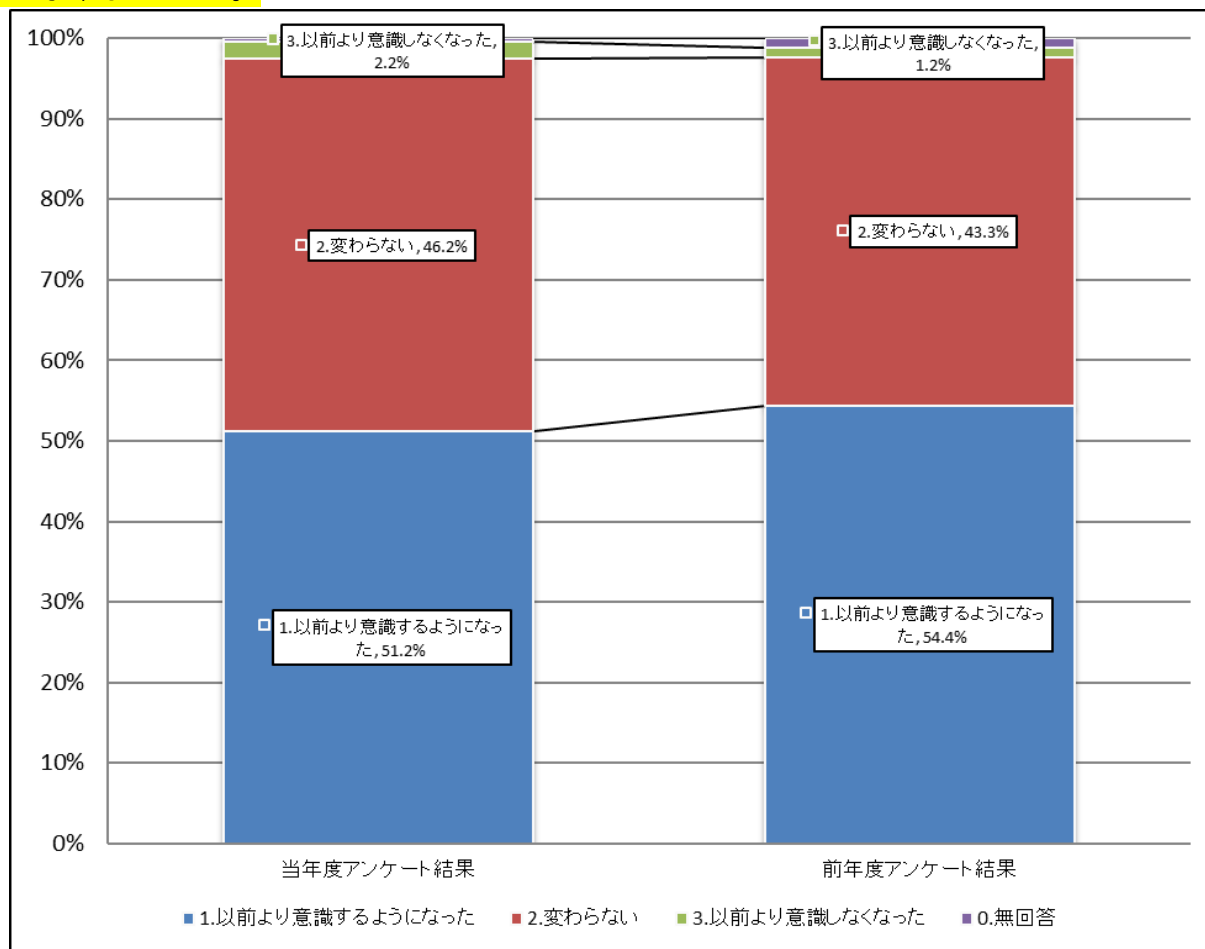
性別・世代別にみると、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合の合計は、男性が58.2%であるのに対して、女性は62.3%となっています。
 「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性10歳代(0.0%)、女性20歳代(54.0%)であり、一方で最も多い世代は、男性30歳代(62.6%)、女性10歳代(100.0%)となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、深谷地区(49.5%)であり、次いで豊里地区(52.0%)となっています。最も多い地区は、大寄地区(84.0%)であり、次いで川本地区(71.4%)となっています。地域によって大きな差があることがうかがえます。

環境問題（地球温暖化問題、エネルギー問題、生態系の問題など）を以前より意識するようになりましたか。



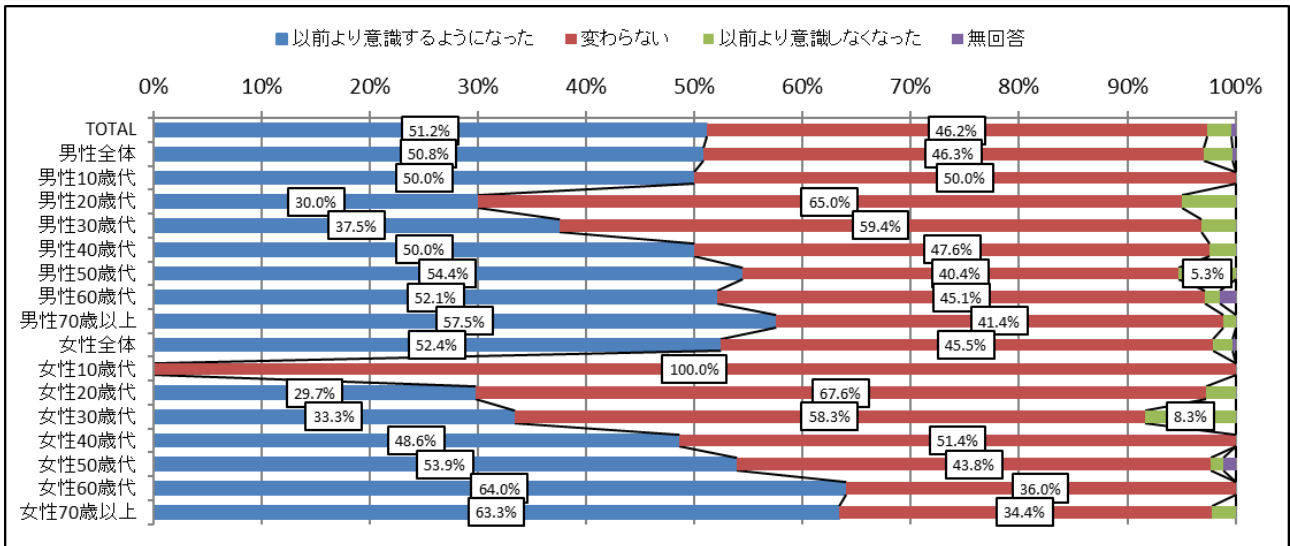
「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が 51.2%と最も多く、次いで「変わらない」と回答した人の割合が 46.2%、「以前より意識しなくなった」と回答した人の割合が最も少なく 2.2%となっています。

5 割以上の市民が環境問題を以前より意識するようになったことがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合は 54.4%であり、「前年度アンケート」と比較して減少しています。

母集団		意識するようになった 以前より	変わらない	意識しなくなった 以前より	無回答	合計
TOTAL	809	51.2%	46.2%	2.2%	0.4%	100.0%
男性全体	311	50.8%	46.3%	2.6%	0.3%	100.0%
男性10歳代	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	20	30.0%	65.0%	5.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	32	37.5%	59.4%	3.1%	0.0%	100.0%
男性40歳代	42	50.0%	47.6%	2.4%	0.0%	100.0%
男性50歳代	57	54.4%	40.4%	5.3%	0.0%	100.0%
男性60歳代	71	52.1%	45.1%	1.4%	1.4%	100.0%
男性70歳以上	87	57.5%	41.4%	1.1%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—
女性全体	424	52.4%	45.5%	1.9%	0.2%	100.0%
女性10歳代	2	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	37	29.7%	67.6%	2.7%	0.0%	100.0%
女性30歳代	48	33.3%	58.3%	8.3%	0.0%	100.0%
女性40歳代	72	48.6%	51.4%	0.0%	0.0%	100.0%
女性50歳代	89	53.9%	43.8%	1.1%	1.1%	100.0%
女性60歳代	86	64.0%	36.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性70歳以上	90	63.3%	34.4%	2.2%	0.0%	100.0%
女性年齢不詳		—	—	—	—	—
深谷地区	194	42.3%	55.2%	2.1%	0.5%	100.0%
藤沢地区	61	50.8%	47.5%	1.6%	0.0%	100.0%
幡羅地区	85	48.2%	49.4%	2.4%	0.0%	100.0%
明戸地区	28	60.7%	35.7%	3.6%	0.0%	100.0%
大寄地区	25	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	15	86.7%	13.3%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	44.0%	48.0%	8.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	94	51.1%	44.7%	3.2%	1.1%	100.0%
南地区	49	59.2%	36.7%	4.1%	0.0%	100.0%
岡部地区	77	54.5%	42.9%	1.3%	1.3%	100.0%
川本地区	63	57.1%	42.9%	0.0%	0.0%	100.0%
花園地区	75	49.3%	48.0%	2.7%	0.0%	100.0%
無回答	18	38.9%	61.1%	0.0%	0.0%	100.0%

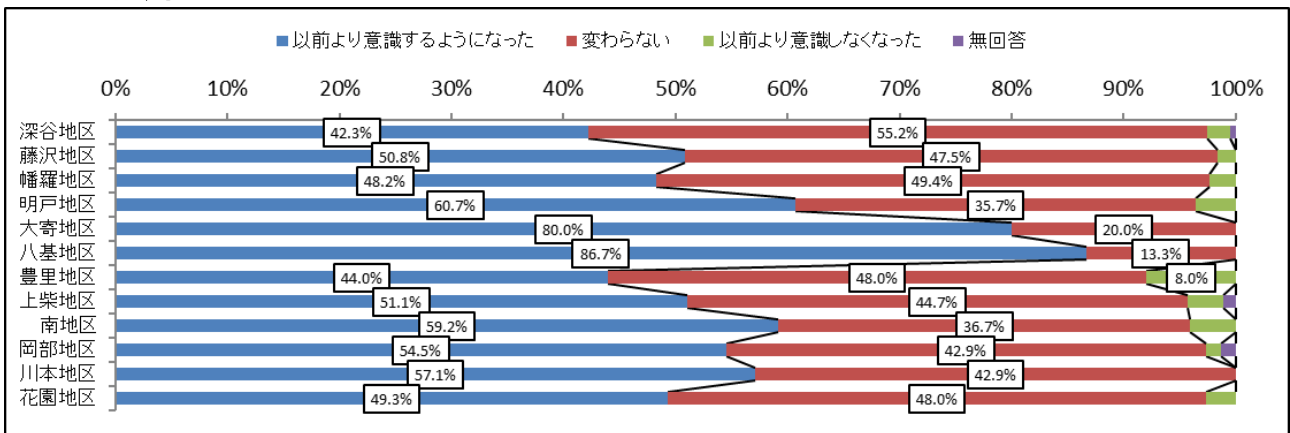
性別・世代別



性別・世代別にみると、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合は、男性が50.8%であるのに対して、女性は52.4%となっています。

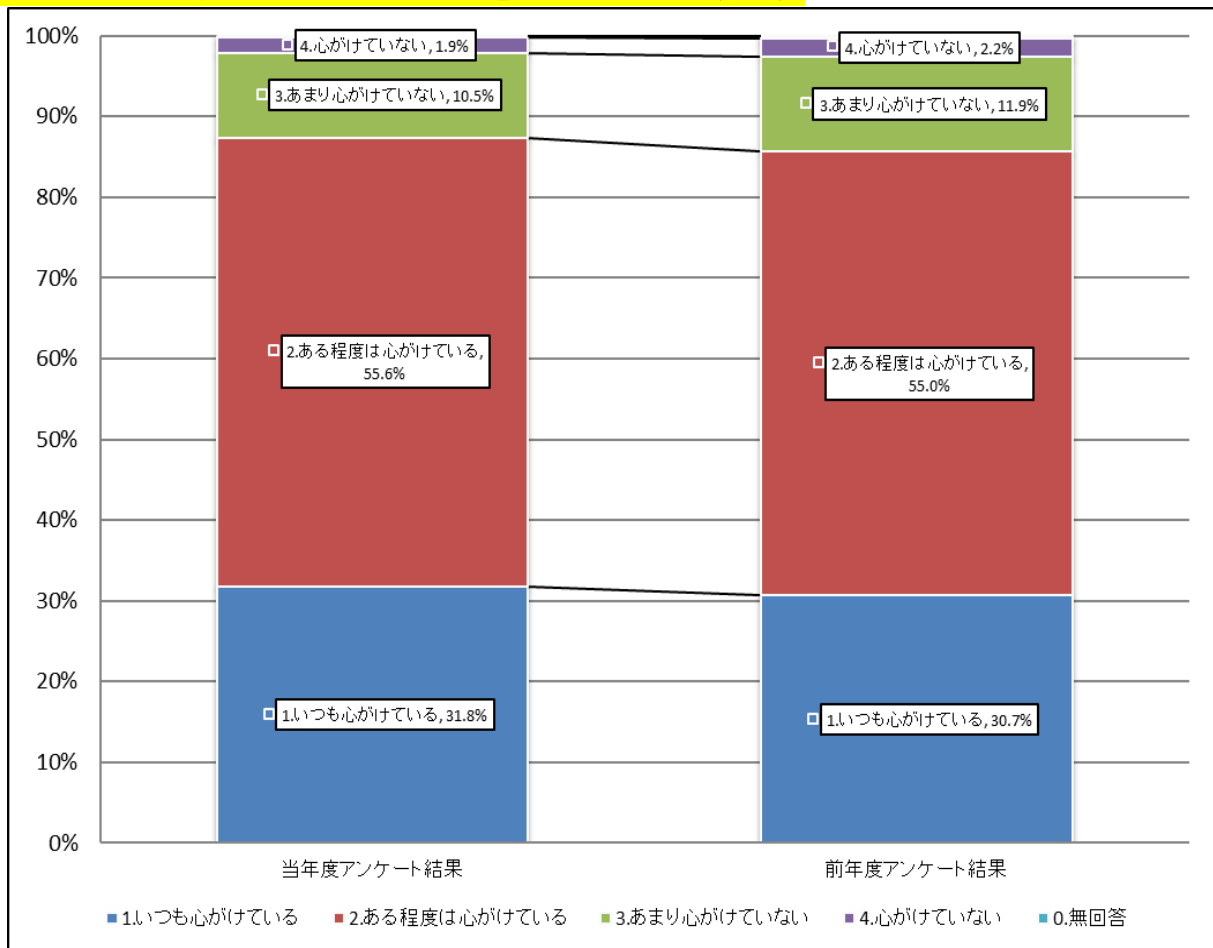
また、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性20歳代(30.0%)、女性10歳代(0.0%)であり、一方で最も多い世代は、男性70歳以上(57.5%)、女性60歳代(64.0%)となっています。世代によって差があることがうかがえます。

地区別



地区別にみると、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が最も少ない地区は、深谷地区(42.3%)であり、次いで豊里地区(44.0%)となっています。最も多い地区は、八基地区(86.7%)であり、次いで大寄地区(80.0%)となっています。地域によって大きな差があることがうかがえます。

普段からごみの減量化やリサイクルを心がけていますか。



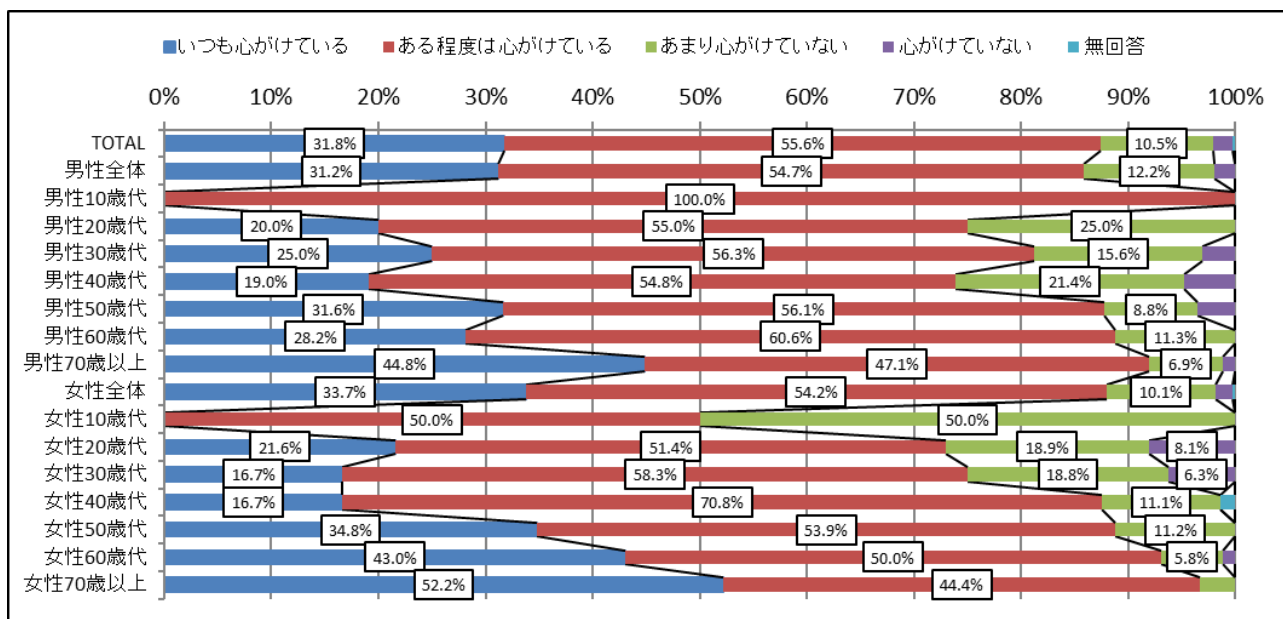
「ある程度は心がけている」と回答した人の割合が 55.6%と最も多く、次いで、「いつも心がけている」と回答した人の割合が 31.8%、「あまり心がけていない」と回答した人の割合が 10.5%、「心がけていない」と回答した人の割合が最も少なく 1.9%となっています。

「いつも心がけている」または「ある程度は心がけている」と回答した人の割合の合計は 87.4%であり、大多数の市民が普段からごみの減量化やリサイクルを心がけていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「いつも心がけている」または「ある程度は心がけている」と回答した人の割合の合計は 85.7%であり、「前年度アンケート」と比較して僅かに増加しています。

母集団		いつも心がけている	ある程度は心がけている	あまり心がけていない	心がけていない	無回答	合計
TOTAL	809	31.8%	55.6%	10.5%	1.9%	0.2%	100.0%
男性全体	311	31.2%	54.7%	12.2%	1.9%	0.0%	100.0%
男性10歳代	2	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	20	20.0%	55.0%	25.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	32	25.0%	56.3%	15.6%	3.1%	0.0%	100.0%
男性40歳代	42	19.0%	54.8%	21.4%	4.8%	0.0%	100.0%
男性50歳代	57	31.6%	56.1%	8.8%	3.5%	0.0%	100.0%
男性60歳代	71	28.2%	60.6%	11.3%	0.0%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	87	44.8%	47.1%	6.9%	1.1%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	424	33.7%	54.2%	10.1%	1.7%	0.2%	100.0%
女性10歳代	2	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	37	21.6%	51.4%	18.9%	8.1%	0.0%	100.0%
女性30歳代	48	16.7%	58.3%	18.8%	6.3%	0.0%	100.0%
女性40歳代	72	16.7%	70.8%	11.1%	0.0%	1.4%	100.0%
女性50歳代	89	34.8%	53.9%	11.2%	0.0%	0.0%	100.0%
女性60歳代	86	43.0%	50.0%	5.8%	1.2%	0.0%	100.0%
女性70歳以上	90	52.2%	44.4%	3.3%	0.0%	0.0%	100.0%
女性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
深谷地区	194	23.2%	58.8%	15.5%	2.6%	0.0%	100.0%
藤沢地区	61	36.1%	49.2%	9.8%	1.6%	3.3%	100.0%
幡羅地区	85	31.8%	60.0%	5.9%	2.4%	0.0%	100.0%
明戸地区	28	39.3%	46.4%	14.3%	0.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	25	36.0%	56.0%	8.0%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	15	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	32.0%	56.0%	8.0%	4.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	94	31.9%	55.3%	11.7%	1.1%	0.0%	100.0%
南地区	49	30.6%	57.1%	12.2%	0.0%	0.0%	100.0%
岡部地区	77	36.4%	48.1%	10.4%	5.2%	0.0%	100.0%
川本地区	63	33.3%	61.9%	4.8%	0.0%	0.0%	100.0%
花園地区	75	37.3%	52.0%	9.3%	1.3%	0.0%	100.0%
無回答	18	16.7%	77.8%	5.6%	0.0%	0.0%	100.0%

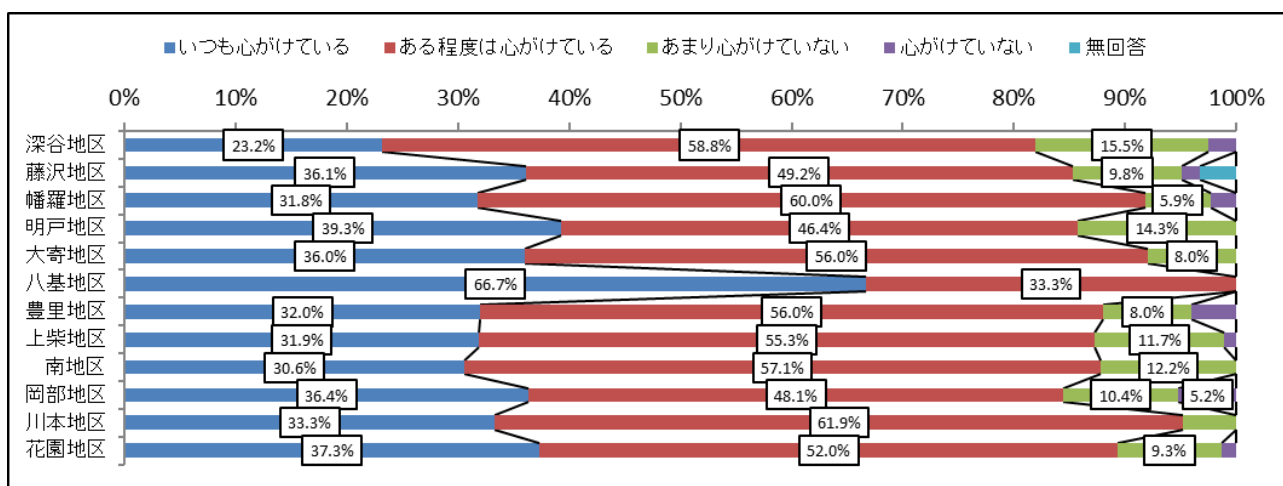
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「いつも心がけている」または「ある程度は心がけている」と回答した人の割合の合計は、男性が 85.9%であるのに対して、女性は 87.9%となっています。

また、「いつも心がけている」または「ある程度は心がけている」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性 40 歳代 (73.8%)、女性 10 歳代 (50.0%) であり、一方で最も多い世代は、男性 10 歳代 (100.0%)、女性 70 歳以上 (96.6%) となっています。

➤ 地区別

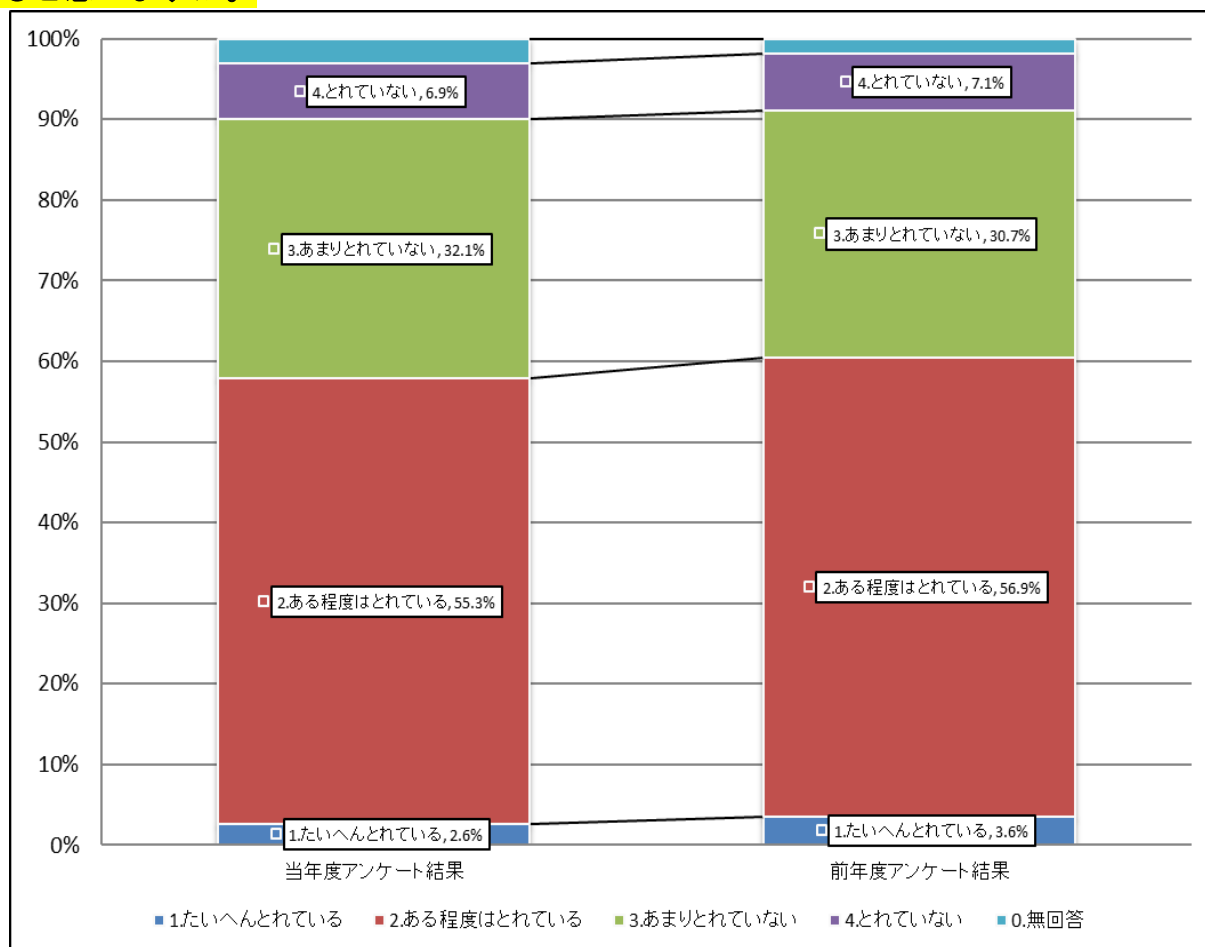


地区別にみると、「いつも心がけている」または「ある程度は心がけている」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、深谷地区 (82.0%) であり、次いで岡部地区 (84.5%) となっています。最も多い地区は、八基地区 (100.0%) であり、次いで川本地区 (95.2%) となっています。

(6) 都市・生活基盤について

① 快適な空間と景観づくり (6. 問1~4)

市内の住宅、商業、工業、農業、自然などの土地利用において、相互に調和がとれていると思いますか。



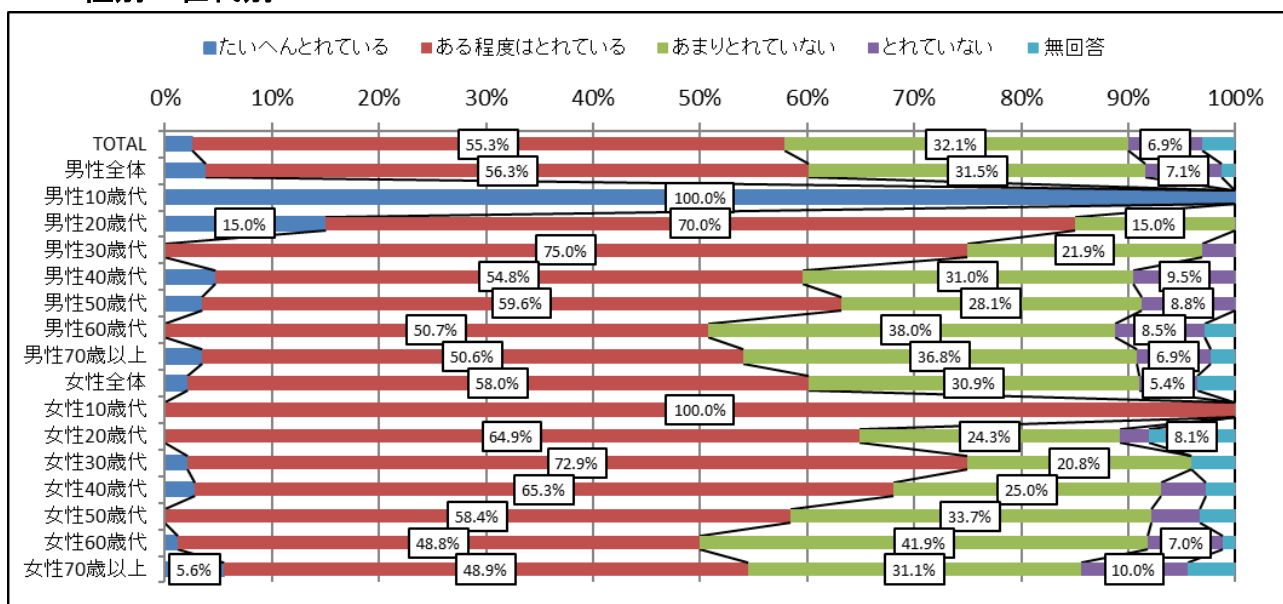
「ある程度はとれている」と回答した人の割合が 55.3%と最も多く、次いで「あまりとれていない」と回答した人の割合が 32.1%、「とれていない」と回答した人の割合が 6.9%、「たいへんとれている」と回答した人の割合が最も少なく 2.6%となっています。

「たいへんとれている」または「ある程度はとれている」と回答した人の割合の合計は 57.9%であり、6割近くの市民が市内の住宅、商業、工業、農業、自然などの土地利用において、相互に調和がとれていると感じていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「たいへんとれている」または「ある程度はとれている」と回答した人の割合の合計は 60.5%であり、「前年度アンケート」と比較して僅かに減少しています。

母集団		たいへんとれている	ある程度はとれている	あまりとれていない	とれていない	無回答	合計
TOTAL	809	2.6%	55.3%	32.1%	6.9%	3.1%	100.0%
男性全体	311	3.9%	56.3%	31.5%	7.1%	1.3%	100.0%
男性10歳代	2	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	20	15.0%	70.0%	15.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	32	0.0%	75.0%	21.9%	3.1%	0.0%	100.0%
男性40歳代	42	4.8%	54.8%	31.0%	9.5%	0.0%	100.0%
男性50歳代	57	3.5%	59.6%	28.1%	8.8%	0.0%	100.0%
男性60歳代	71	0.0%	50.7%	38.0%	8.5%	2.8%	100.0%
男性70歳以上	87	3.4%	50.6%	36.8%	6.9%	2.3%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	424	2.1%	58.0%	30.9%	5.4%	3.5%	100.0%
女性10歳代	2	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	37	0.0%	64.9%	24.3%	2.7%	8.1%	100.0%
女性30歳代	48	2.1%	72.9%	20.8%	0.0%	4.2%	100.0%
女性40歳代	72	2.8%	65.3%	25.0%	4.2%	2.8%	100.0%
女性50歳代	89	0.0%	58.4%	33.7%	4.5%	3.4%	100.0%
女性60歳代	86	1.2%	48.8%	41.9%	7.0%	1.2%	100.0%
女性70歳以上	90	5.6%	48.9%	31.1%	10.0%	4.4%	100.0%
女性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
深谷地区	194	1.0%	55.2%	34.5%	6.2%	3.1%	100.0%
藤沢地区	61	3.3%	49.2%	34.4%	9.8%	3.3%	100.0%
幡羅地区	85	8.2%	60.0%	24.7%	5.9%	1.2%	100.0%
明戸地区	28	0.0%	50.0%	42.9%	3.6%	3.6%	100.0%
大寄地区	25	4.0%	44.0%	28.0%	12.0%	12.0%	100.0%
八基地区	15	20.0%	20.0%	46.7%	6.7%	6.7%	100.0%
豊里地区	25	12.0%	48.0%	36.0%	4.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	94	0.0%	67.0%	26.6%	4.3%	2.1%	100.0%
南地区	49	0.0%	57.1%	34.7%	4.1%	4.1%	100.0%
岡部地区	77	2.6%	55.8%	22.1%	14.3%	5.2%	100.0%
川本地区	63	1.6%	46.0%	39.7%	11.1%	1.6%	100.0%
花園地区	75	0.0%	62.7%	32.0%	4.0%	1.3%	100.0%
無回答	18	0.0%	50.0%	44.4%	0.0%	5.6%	100.0%

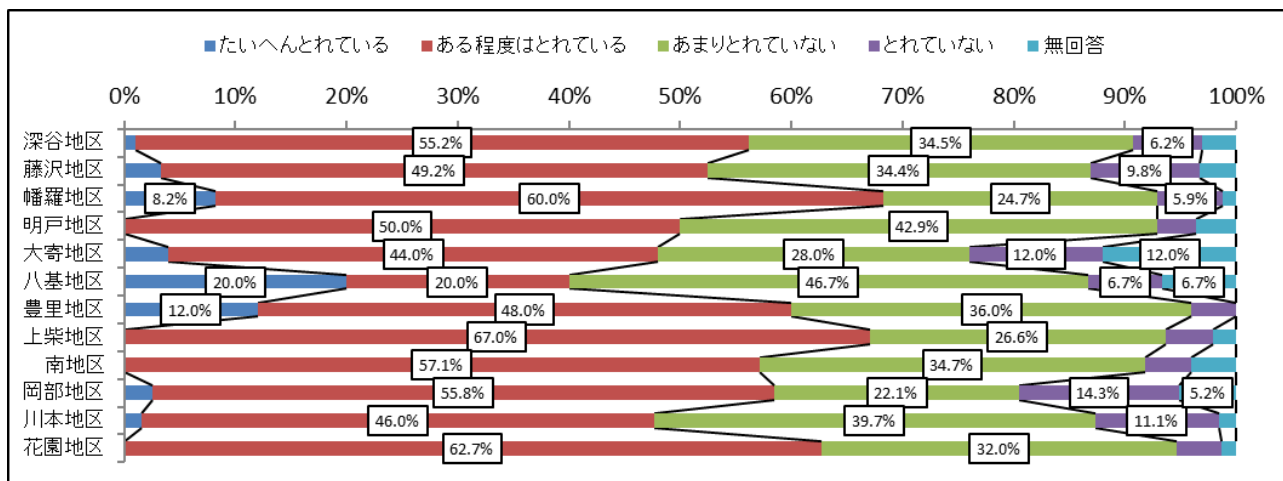
性別・世代別



性別・世代別にみると、「たいへんとれている」または「ある程度はとれている」と回答した人の割合の合計は、男性が 60.2%であるのに対して、女性は 60.1%となっています。

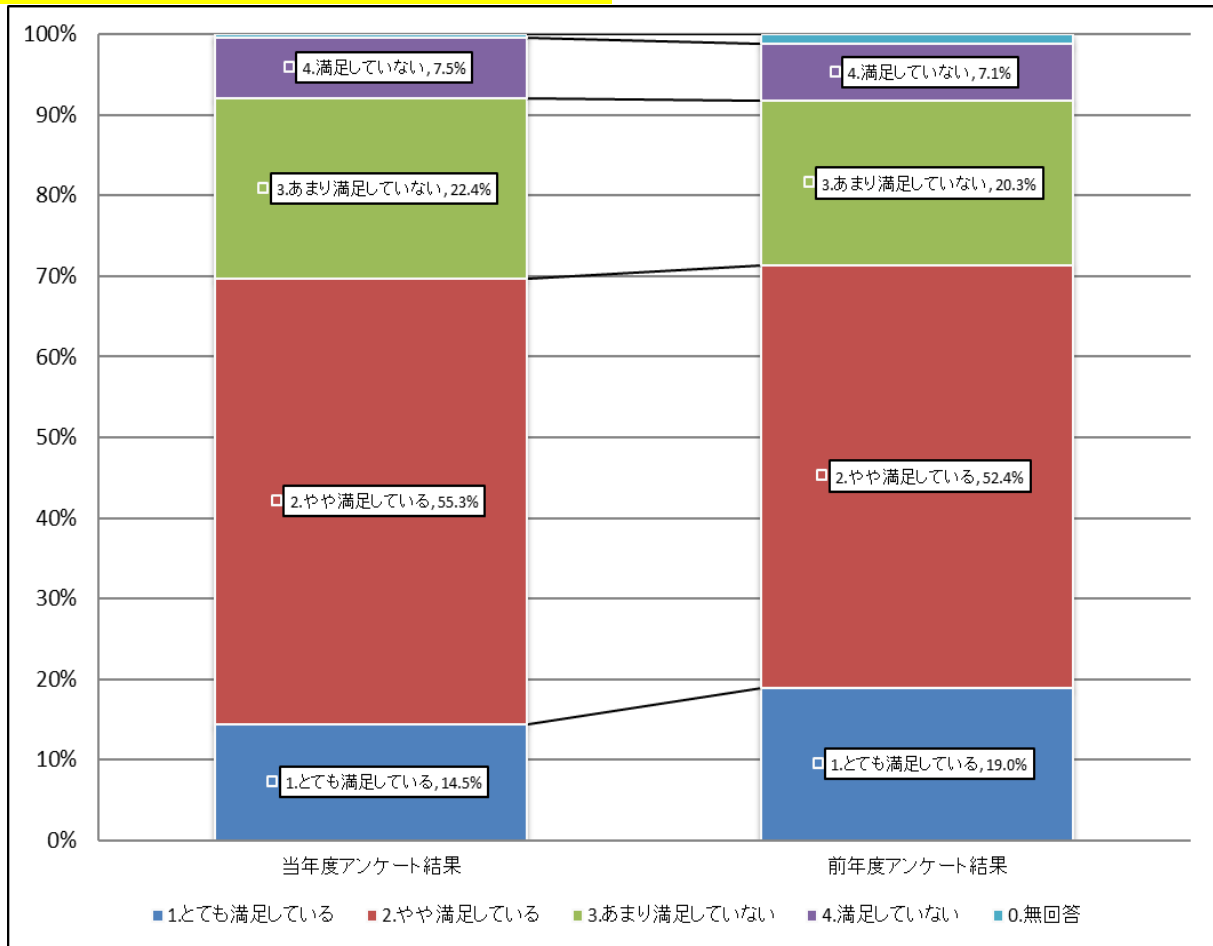
また、「たいへんとれている」または「ある程度はとれている」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性 60 歳代 (50.7%)、女性 60 歳代 (50.0%) であり、一方で最も多い世代は、男性 10 歳代 (100.0%)、女性 10 歳代 (100.0%) となっています。世代によって差があることがうかがえます。

地区別



地区別にみると、「たいへんとれている」または「ある程度はとれている」と回答した人の割合の合計が最も少ないのは、八基地区 (40.0%) であり、次いで川本地区 (47.6%) となっています。最も多いのは、幡羅地区 (68.2%) であり、次いで上柴地区 (67.0%) となっています。

お住まい周辺の住環境に満足していますか。



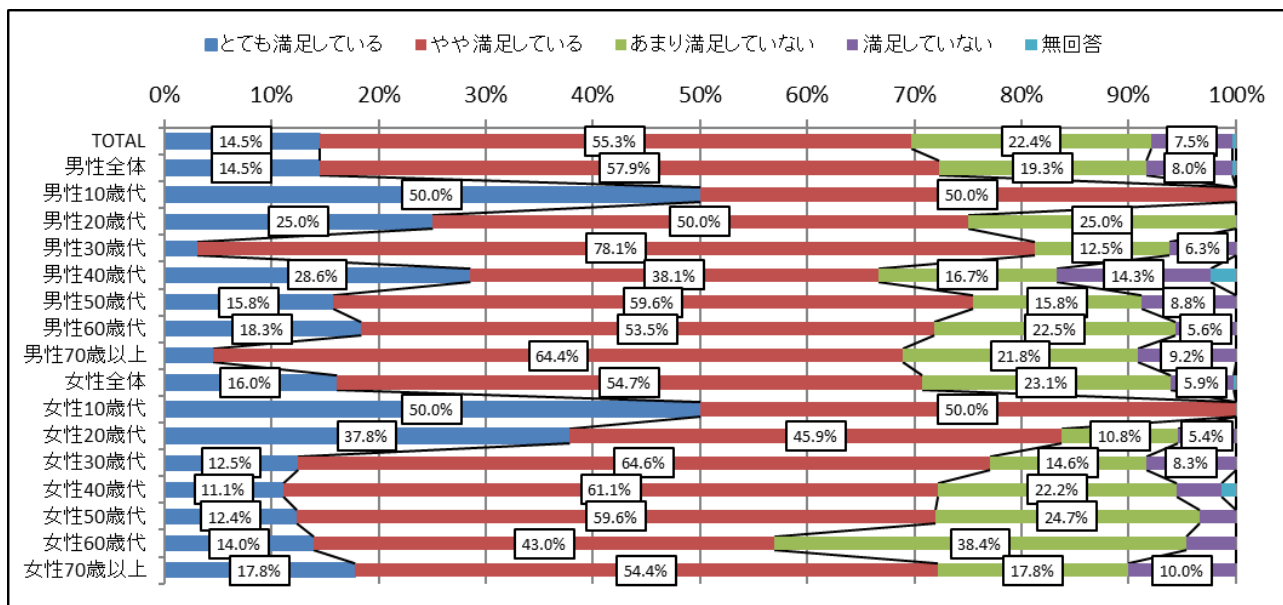
「やや満足している」と回答した人の割合が 55.3%と最も多く、次いで「あまり満足していない」と回答した人の割合が 22.4%、「とても満足している」と回答した人の割合が 14.5%、「満足していない」と回答した人の割合が最も少なく 7.5%となっています。

「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合の合計は 69.8%であり、7 割近くの市民がお住まい周辺の住環境に満足していることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合の合計は 71.4%であり、「前年度アンケート」と比較して僅かに減少しています。

母集団		とても満足している	やや満足している	あまり満足していない	満足していない	無回答	合計
TOTAL	809	14.5%	55.3%	22.4%	7.5%	0.4%	100.0%
男性全体	311	14.5%	57.9%	19.3%	8.0%	0.3%	100.0%
男性10歳代	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	20	25.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	32	3.1%	78.1%	12.5%	6.3%	0.0%	100.0%
男性40歳代	42	28.6%	38.1%	16.7%	14.3%	2.4%	100.0%
男性50歳代	57	15.8%	59.6%	15.8%	8.8%	0.0%	100.0%
男性60歳代	71	18.3%	53.5%	22.5%	5.6%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	87	4.6%	64.4%	21.8%	9.2%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	424	16.0%	54.7%	23.1%	5.9%	0.2%	100.0%
女性10歳代	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	37	37.8%	45.9%	10.8%	5.4%	0.0%	100.0%
女性30歳代	48	12.5%	64.6%	14.6%	8.3%	0.0%	100.0%
女性40歳代	72	11.1%	61.1%	22.2%	4.2%	1.4%	100.0%
女性50歳代	89	12.4%	59.6%	24.7%	3.4%	0.0%	100.0%
女性60歳代	86	14.0%	43.0%	38.4%	4.7%	0.0%	100.0%
女性70歳以上	90	17.8%	54.4%	17.8%	10.0%	0.0%	100.0%
女性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
深谷地区	194	19.1%	58.2%	16.0%	6.7%	0.0%	100.0%
藤沢地区	61	6.6%	50.8%	34.4%	4.9%	3.3%	100.0%
幡羅地区	85	25.9%	64.7%	3.5%	4.7%	1.2%	100.0%
明戸地区	28	7.1%	35.7%	42.9%	14.3%	0.0%	100.0%
大寄地区	25	8.0%	16.0%	52.0%	24.0%	0.0%	100.0%
八基地区	15	6.7%	46.7%	40.0%	6.7%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	24.0%	32.0%	32.0%	12.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	94	16.0%	70.2%	12.8%	1.1%	0.0%	100.0%
南地区	49	20.4%	51.0%	24.5%	4.1%	0.0%	100.0%
岡部地区	77	10.4%	48.1%	32.5%	9.1%	0.0%	100.0%
川本地区	63	4.8%	58.7%	23.8%	12.7%	0.0%	100.0%
花園地区	75	8.0%	58.7%	24.0%	9.3%	0.0%	100.0%
無回答	18	5.6%	55.6%	27.8%	11.1%	0.0%	100.0%

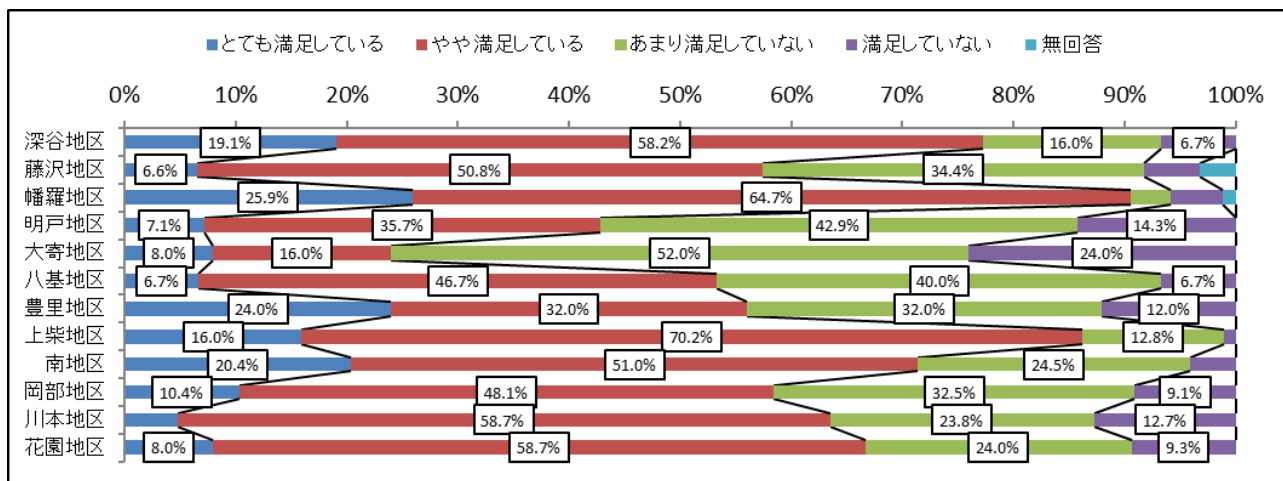
▶ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合の合計は、男性が72.4%であるのに対して、女性は70.7%となっています。

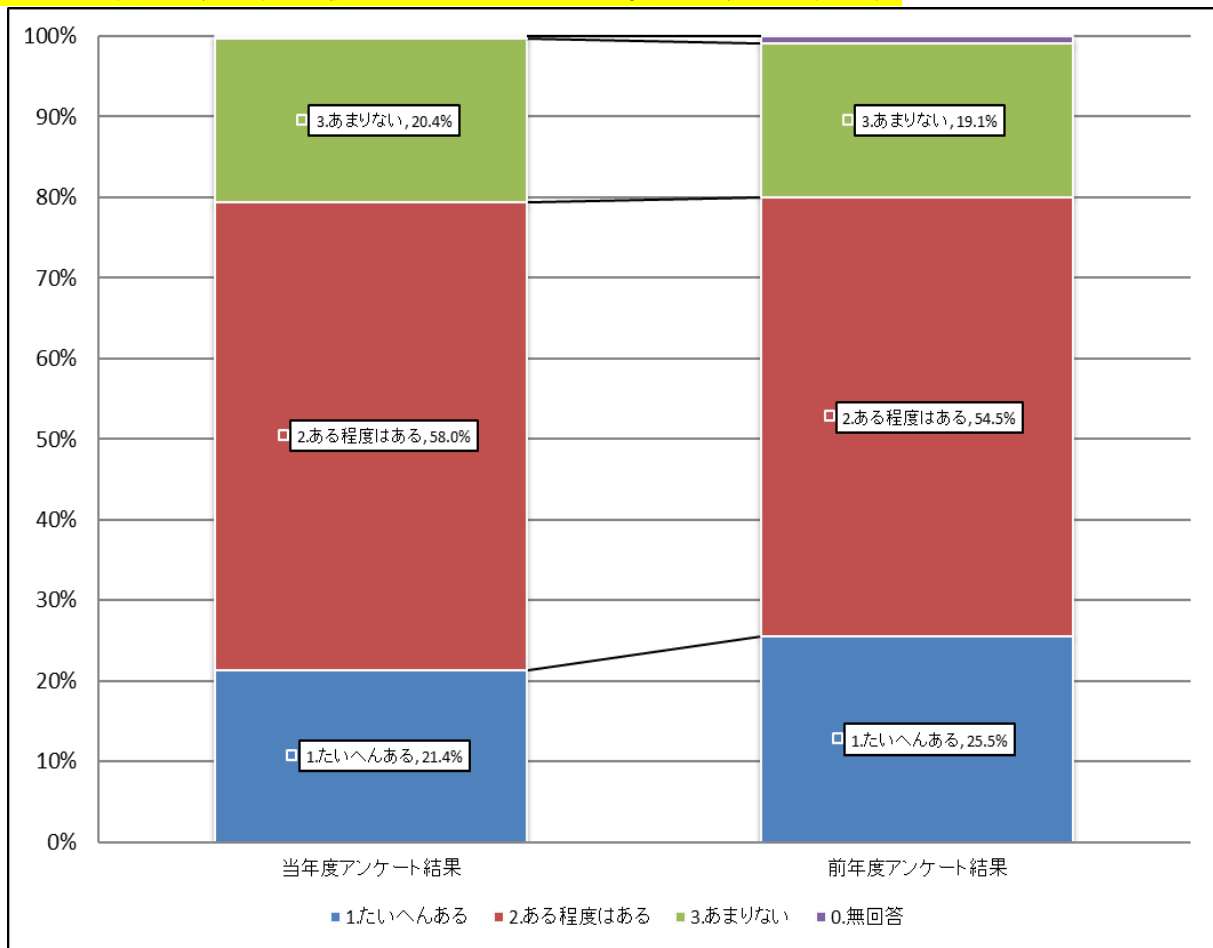
また、「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性40歳代(66.7%)、女性60歳代(57.0%)であり、一方で最も多い世代は、男性10歳代(100.0%)、女性10歳代(100.0%)となっています。

▶ 地区別



地区別にみると、「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合の合計が最も少ないのは、大寄地区(24.0%)であり、次いで明戸地区(42.8%)となっています。最も多いのは、幡羅地区(90.6%)であり、次いで上柴地区(86.2%)となっています。地域によって大きな差があることがうかがえます。

あなたの身近に、自然に親しむことができる環境はありますか。



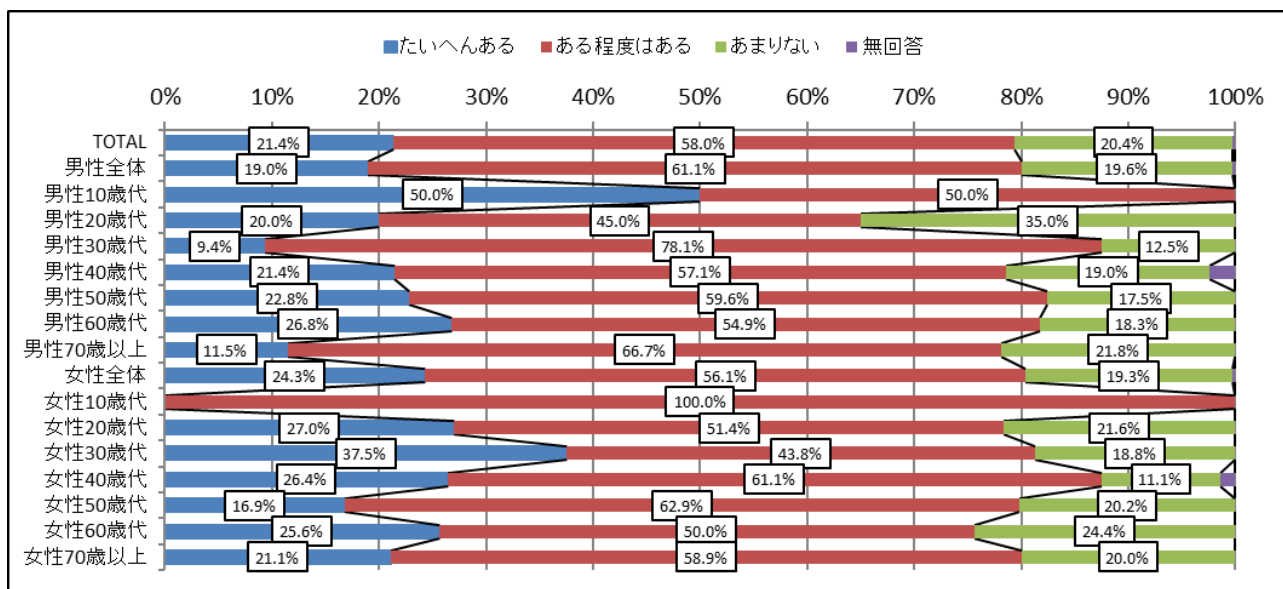
「ある程度はある」と回答した人の割合が 58.0%と最も多く、次いで「たいへんある」が 21.4%、「あまりない」と回答した人の割合が最も少なく 20.4% となっています。

「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計は 79.4%であり、8割近くの市民の身近に、自然に親しむことができる環境があることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計は 80.0%であり、「前年度アンケート」と比較してほぼ変化はありませんでした。

母集団		たいへんある	ある程度はある	あまりない	無回答	合計
TOTAL	809	21.4%	58.0%	20.4%	0.2%	100.0%
男性全体	311	19.0%	61.1%	19.6%	0.3%	100.0%
男性10歳代	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	20	20.0%	45.0%	35.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	32	9.4%	78.1%	12.5%	0.0%	100.0%
男性40歳代	42	21.4%	57.1%	19.0%	2.4%	100.0%
男性50歳代	57	22.8%	59.6%	17.5%	0.0%	100.0%
男性60歳代	71	26.8%	54.9%	18.3%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	87	11.5%	66.7%	21.8%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—
女性全体	424	24.3%	56.1%	19.3%	0.2%	100.0%
女性10歳代	2	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	37	27.0%	51.4%	21.6%	0.0%	100.0%
女性30歳代	48	37.5%	43.8%	18.8%	0.0%	100.0%
女性40歳代	72	26.4%	61.1%	11.1%	1.4%	100.0%
女性50歳代	89	16.9%	62.9%	20.2%	0.0%	100.0%
女性60歳代	86	25.6%	50.0%	24.4%	0.0%	100.0%
女性70歳以上	90	21.1%	58.9%	20.0%	0.0%	100.0%
女性年齢不詳		—	—	—	—	—
深谷地区	194	10.8%	57.2%	32.0%	0.0%	100.0%
藤沢地区	61	24.6%	63.9%	9.8%	1.6%	100.0%
幡羅地区	85	22.4%	61.2%	15.3%	1.2%	100.0%
明戸地区	28	28.6%	53.6%	17.9%	0.0%	100.0%
大寄地区	25	56.0%	36.0%	8.0%	0.0%	100.0%
八基地区	15	33.3%	60.0%	6.7%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	36.0%	52.0%	12.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	94	4.3%	71.3%	24.5%	0.0%	100.0%
南地区	49	12.2%	63.3%	24.5%	0.0%	100.0%
岡部地区	77	27.3%	51.9%	20.8%	0.0%	100.0%
川本地区	63	41.3%	46.0%	12.7%	0.0%	100.0%
花園地区	75	28.0%	57.3%	14.7%	0.0%	100.0%
無回答	18	22.2%	61.1%	16.7%	0.0%	100.0%

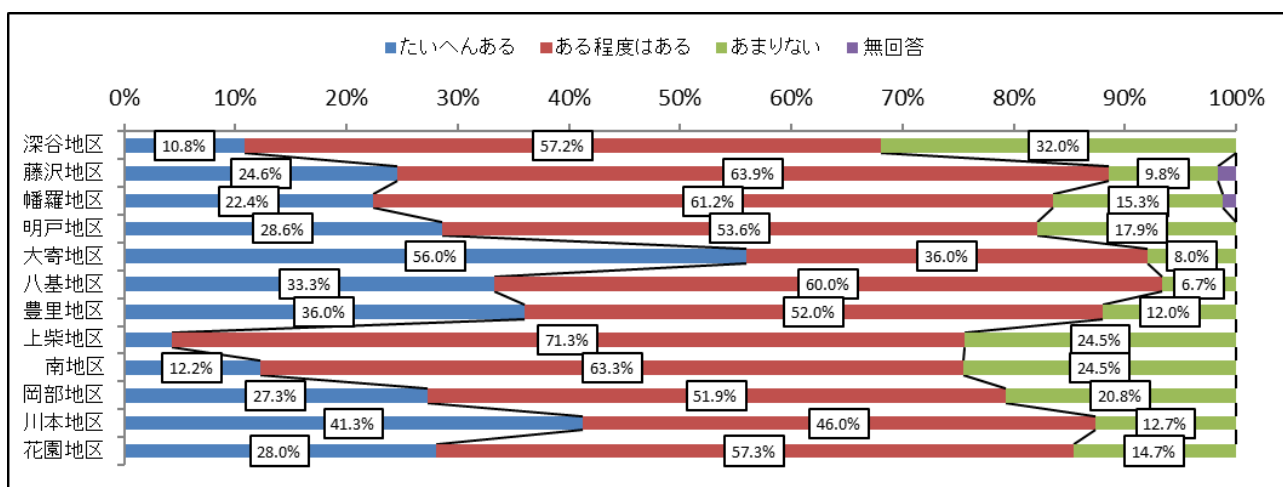
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計は、男性が80.1%であるのに対して、女性は80.4%となっています。

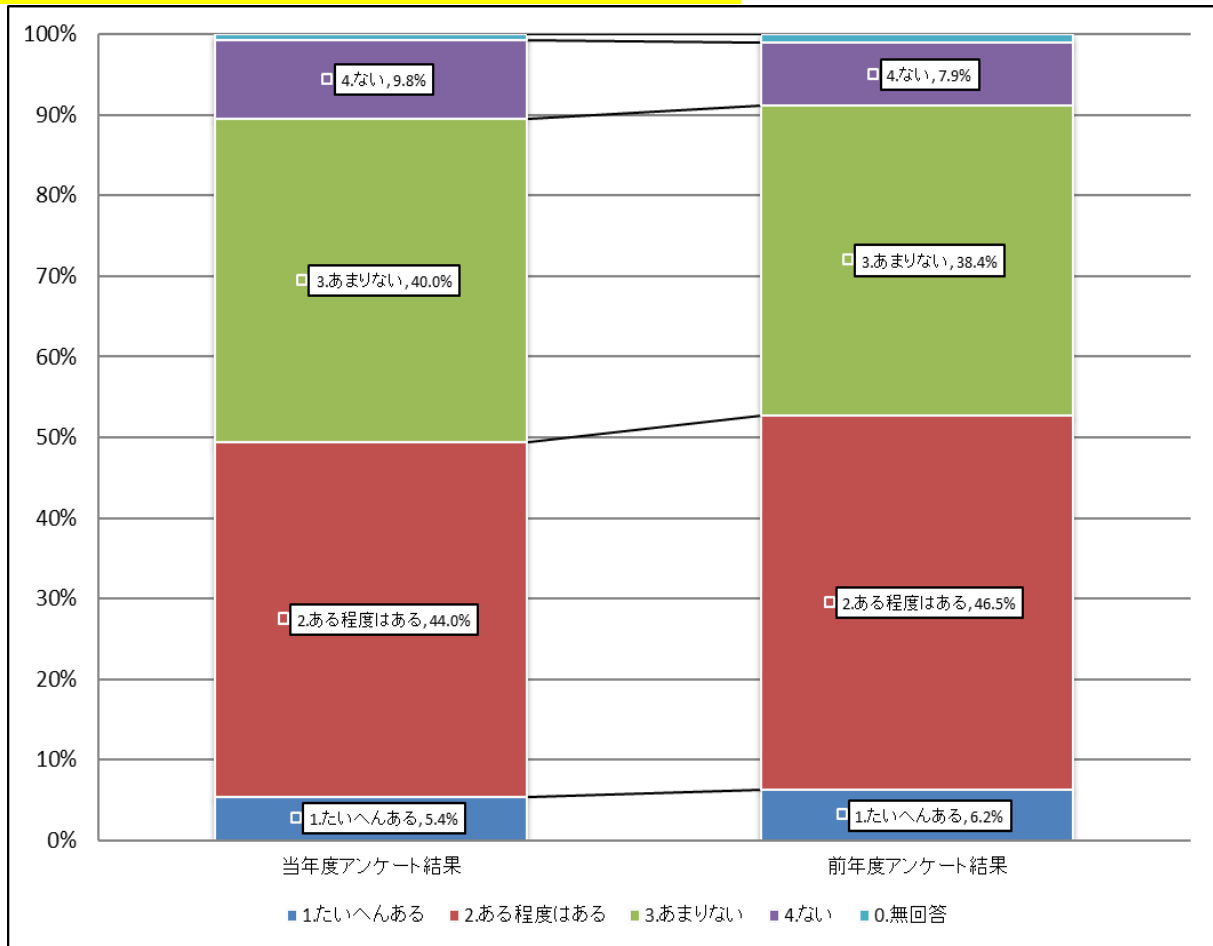
また、「たいへんある」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性は20歳代（65.0%）、女性は60歳代（75.6%）であり、一方で最も多い世代は、男性10歳代（100.0%）、女性10歳代（100.0%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計が最も少ないのは、深谷地区（68.0%）であり、次いで南地区（75.5%）となっています。最も多いのは、八基地区（93.3%）であり、次いで大寄地区（92.0%）となっています。

市内に魅力的なまち並みや景観があると思いますか。



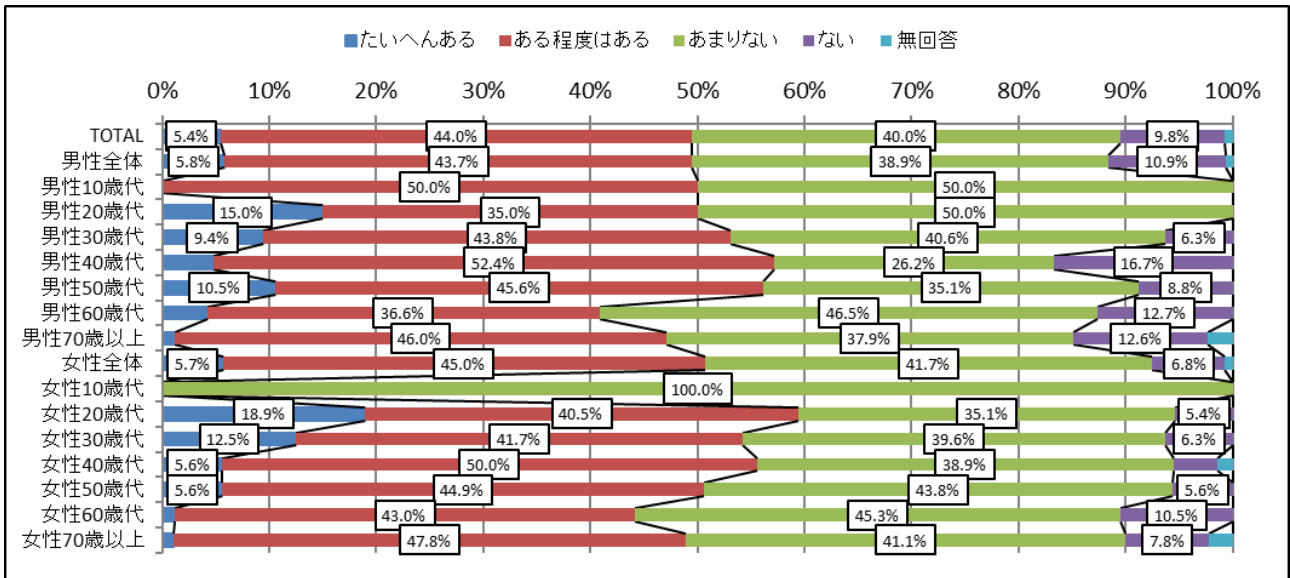
「ある程度はある」と回答した人の割合が 44.0%と最も多く、次いで「あまりない」と回答した人の割合が 40.0%、「ない」と回答した人の割合が 9.8%、「たいへんある」と回答した人の割合が最も少なく 5.4%となっています。

「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計は 49.4%であり、市内に魅力的なまち並みや景観があると感じている市民は半数未満という状況がうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計は 52.7%であり、「前年度アンケート」と比較して減少しています。

母集団		たいへんある	ある程度はある	あまりない	ない	無回答	合計
TOTAL	809	5.4%	44.0%	40.0%	9.8%	0.7%	100.0%
男性全体	311	5.8%	43.7%	38.9%	10.9%	0.6%	100.0%
男性10歳代	2	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	20	15.0%	35.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	32	9.4%	43.8%	40.6%	6.3%	0.0%	100.0%
男性40歳代	42	4.8%	52.4%	26.2%	16.7%	0.0%	100.0%
男性50歳代	57	10.5%	45.6%	35.1%	8.8%	0.0%	100.0%
男性60歳代	71	4.2%	36.6%	46.5%	12.7%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	87	1.1%	46.0%	37.9%	12.6%	2.3%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	424	5.7%	45.0%	41.7%	6.8%	0.7%	100.0%
女性10歳代	2	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	37	18.9%	40.5%	35.1%	5.4%	0.0%	100.0%
女性30歳代	48	12.5%	41.7%	39.6%	6.3%	0.0%	100.0%
女性40歳代	72	5.6%	50.0%	38.9%	4.2%	1.4%	100.0%
女性50歳代	89	5.6%	44.9%	43.8%	5.6%	0.0%	100.0%
女性60歳代	86	1.2%	43.0%	45.3%	10.5%	0.0%	100.0%
女性70歳以上	90	1.1%	47.8%	41.1%	7.8%	2.2%	100.0%
女性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
深谷地区	194	6.2%	38.1%	43.3%	12.4%	0.0%	100.0%
藤沢地区	61	4.9%	49.2%	32.8%	9.8%	3.3%	100.0%
幡羅地区	85	7.1%	48.2%	37.6%	7.1%	0.0%	100.0%
明戸地区	28	3.6%	57.1%	35.7%	3.6%	0.0%	100.0%
大寄地区	25	12.0%	32.0%	40.0%	12.0%	4.0%	100.0%
八基地区	15	13.3%	53.3%	26.7%	6.7%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	8.0%	28.0%	48.0%	16.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	94	3.2%	52.1%	36.2%	7.4%	1.1%	100.0%
南地区	49	4.1%	40.8%	42.9%	10.2%	2.0%	100.0%
岡部地区	77	6.5%	44.2%	37.7%	11.7%	0.0%	100.0%
川本地区	63	0.0%	47.6%	47.6%	3.2%	1.6%	100.0%
花園地区	75	4.0%	41.3%	41.3%	13.3%	0.0%	100.0%
無回答	18	11.1%	44.4%	38.9%	5.6%	0.0%	100.0%

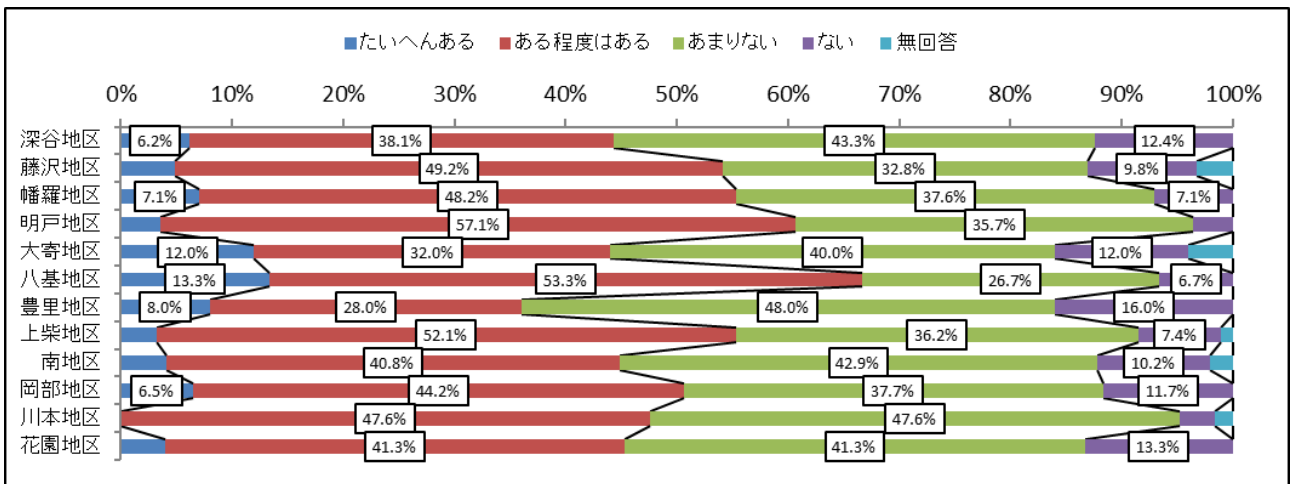
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計は、男性が49.5%であるのに対して、女性は50.7%となっています。

また、「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性が60歳代（40.8%）、女性が10歳代（0.0%）であり、一方で最も多い世代は、男性40歳代（57.2%）、女性20歳代（59.4%）となっています。

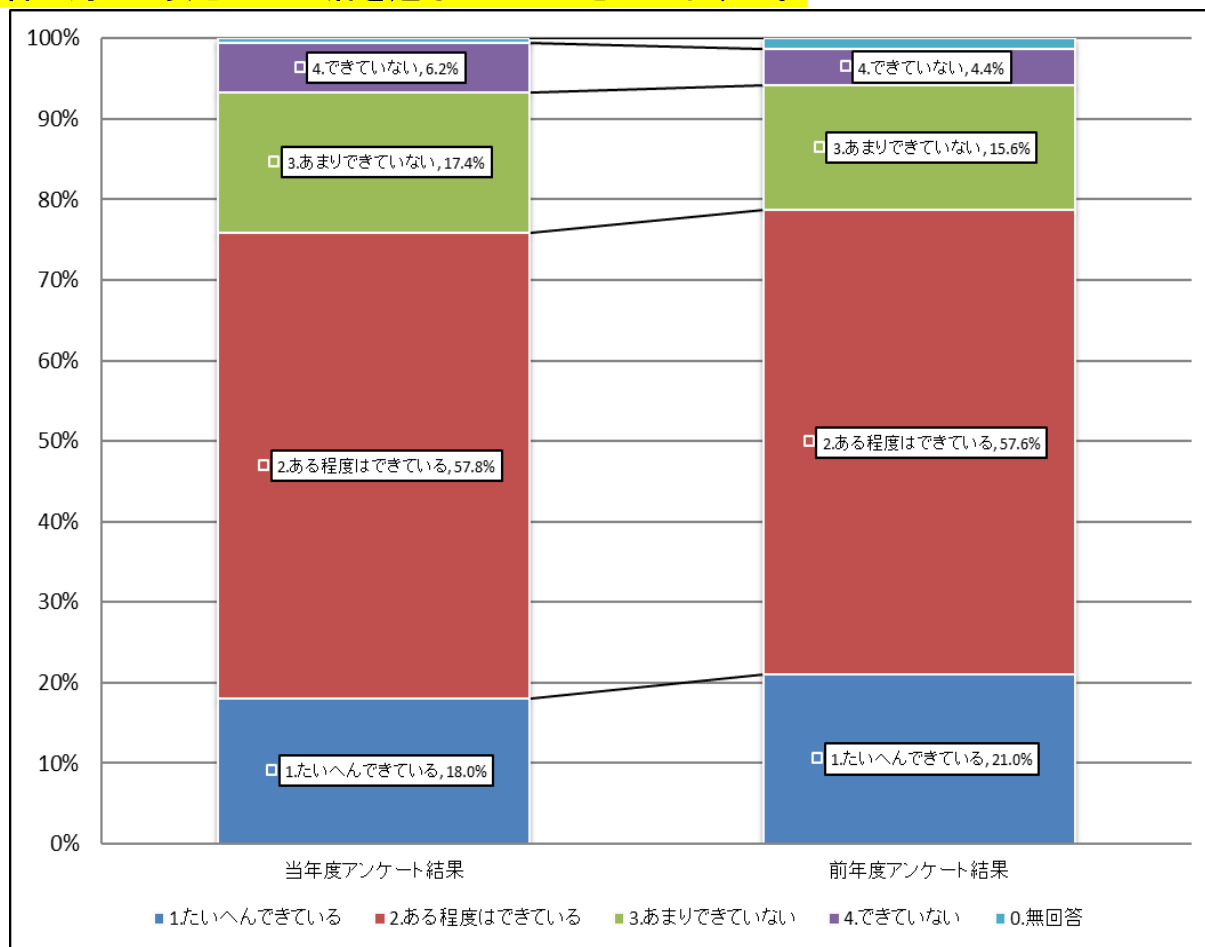
➤ 地区別



地区別にみると、「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計が最も少ないのは、豊里地区（36.0%）であり、次いで大寄地区（44.0%）となっています。最も多いのは、八基地区（66.6%）であり、次いで明戸地区（60.7%）となっています。

② 良好で快適な都市環境の形成（6. 問5～7）

水害に対して安心した生活を送ることができていますか。



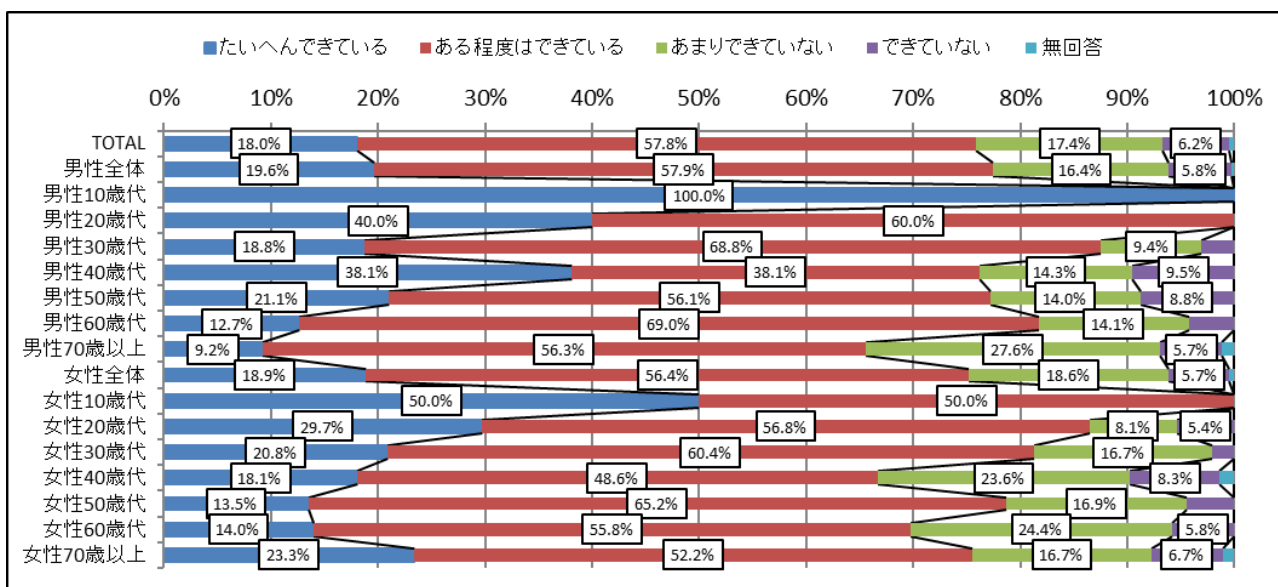
「ある程度はできている」と回答した人の割合が 57.8%と最も多く、次いで「たいへんできている」と回答した人の割合が 18.0%、「あまりできていない」と回答した人の割合が 17.4%、「できていない」と回答した人の割合が最も少なく 6.2%となっています。

「たいへんできている」または「ある程度はできている」と回答した人の割合の合計は 75.8%であり、8 割近くの市民が水害に対して安心した生活を送れていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「たいへんできている」または「ある程度はできている」と回答した人の割合の合計は 78.6%であり、「前年度アンケート」と比較して僅かに減少しています。

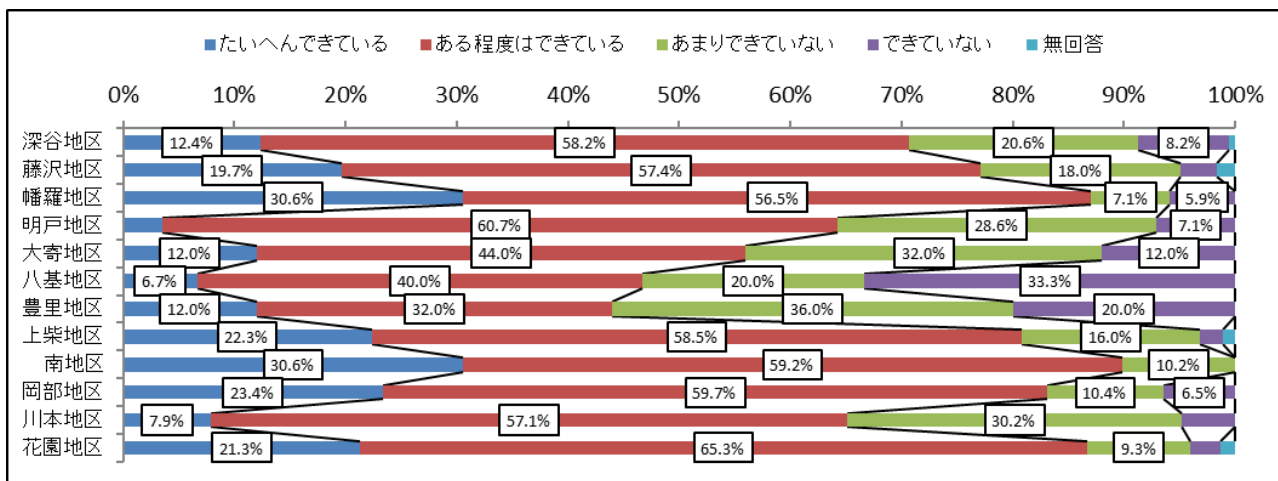
母集団		たいへんできている	ある程度はできている	あまりできていない	できていない	無回答	合計
TOTAL	809	18.0%	57.8%	17.4%	6.2%	0.5%	100.0%
男性全体	311	19.6%	57.9%	16.4%	5.8%	0.3%	100.0%
男性10歳代	2	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	20	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	32	18.8%	68.8%	9.4%	3.1%	0.0%	100.0%
男性40歳代	42	38.1%	38.1%	14.3%	9.5%	0.0%	100.0%
男性50歳代	57	21.1%	56.1%	14.0%	8.8%	0.0%	100.0%
男性60歳代	71	12.7%	69.0%	14.1%	4.2%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	87	9.2%	56.3%	27.6%	5.7%	1.1%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	424	18.9%	56.4%	18.6%	5.7%	0.5%	100.0%
女性10歳代	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	37	29.7%	56.8%	8.1%	5.4%	0.0%	100.0%
女性30歳代	48	20.8%	60.4%	16.7%	2.1%	0.0%	100.0%
女性40歳代	72	18.1%	48.6%	23.6%	8.3%	1.4%	100.0%
女性50歳代	89	13.5%	65.2%	16.9%	4.5%	0.0%	100.0%
女性60歳代	86	14.0%	55.8%	24.4%	5.8%	0.0%	100.0%
女性70歳以上	90	23.3%	52.2%	16.7%	6.7%	1.1%	100.0%
女性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
深谷地区	194	12.4%	58.2%	20.6%	8.2%	0.5%	100.0%
藤沢地区	61	19.7%	57.4%	18.0%	3.3%	1.6%	100.0%
幡羅地区	85	30.6%	56.5%	7.1%	5.9%	0.0%	100.0%
明戸地区	28	3.6%	60.7%	28.6%	7.1%	0.0%	100.0%
大寄地区	25	12.0%	44.0%	32.0%	12.0%	0.0%	100.0%
八基地区	15	6.7%	40.0%	20.0%	33.3%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	12.0%	32.0%	36.0%	20.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	94	22.3%	58.5%	16.0%	2.1%	1.1%	100.0%
南地区	49	30.6%	59.2%	10.2%	0.0%	0.0%	100.0%
岡部地区	77	23.4%	59.7%	10.4%	6.5%	0.0%	100.0%
川本地区	63	7.9%	57.1%	30.2%	4.8%	0.0%	100.0%
花園地区	75	21.3%	65.3%	9.3%	2.7%	1.3%	100.0%
無回答	18	5.6%	83.3%	11.1%	0.0%	0.0%	100.0%

➤ 性別・世代別



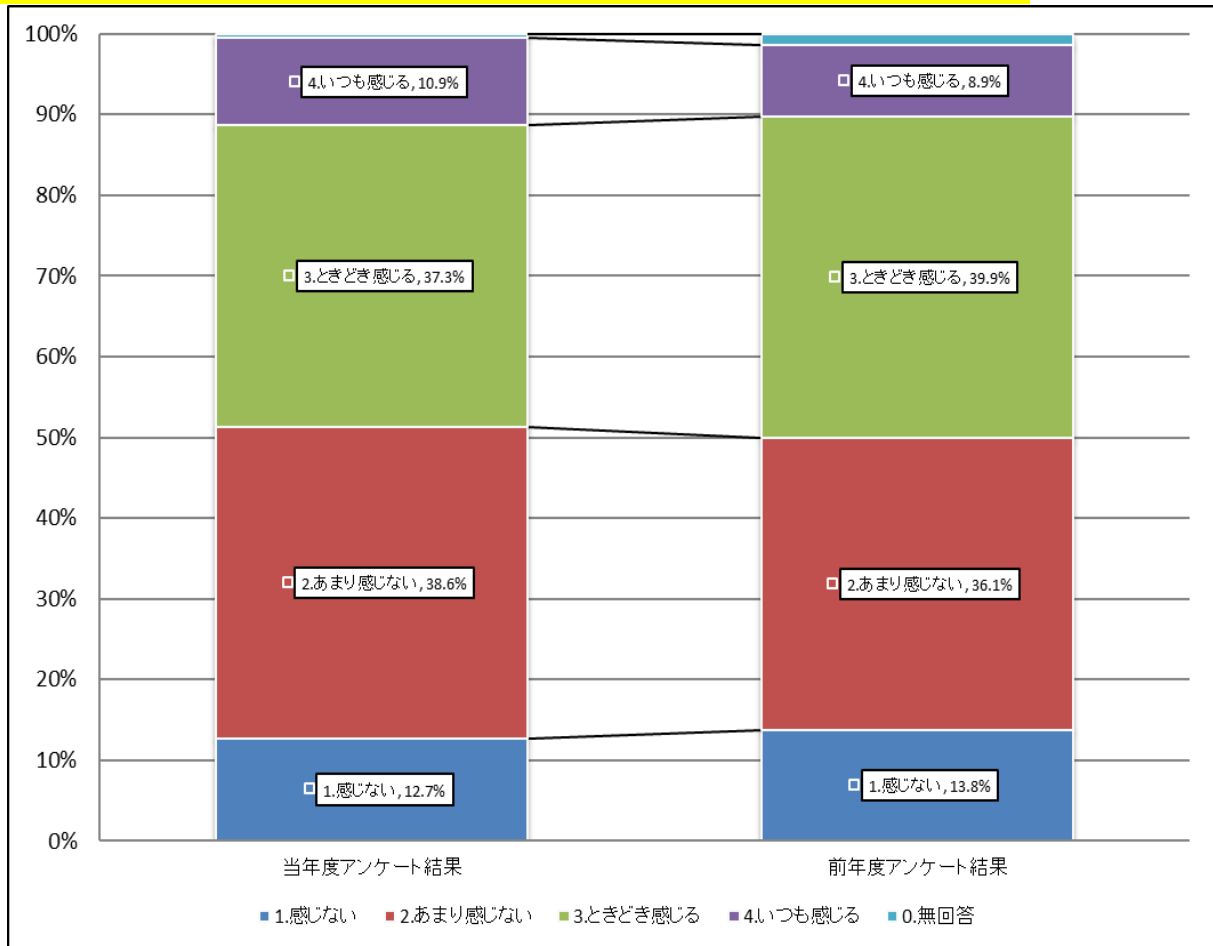
性別・世代別にみると、「たいへんできている」または「ある程度はできている」と回答した人の割合の合計は、男性が 77.5%であるのに対して、女性は 75.3%となっています。また、「たいへんできている」または「ある程度はできている」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性 70 歳以上 (65.5%)、女性 40 歳代 (66.7%) であり、一方で最も多い世代は、男性 10 歳代・20 歳代ともに (100.0%)、女性 10 歳代 (100.0%) となっています。世代によって差があることがうかがえます。

➤ 地区別



地区別にみると、「たいへんできている」または「ある程度はできている」と回答した人の割合の合計が最も少ないのは、豊里地区 (44.0%) であり、次いで八基地区 (46.7%) となっています。最も多いのは、南地区 (89.8%) であり、次いで幡羅地区 (87.1%) となっています。地域によって大きな差があることがうかがえます。

市内の道路を普段利用する際に、特に不便を感じることはありませんか。



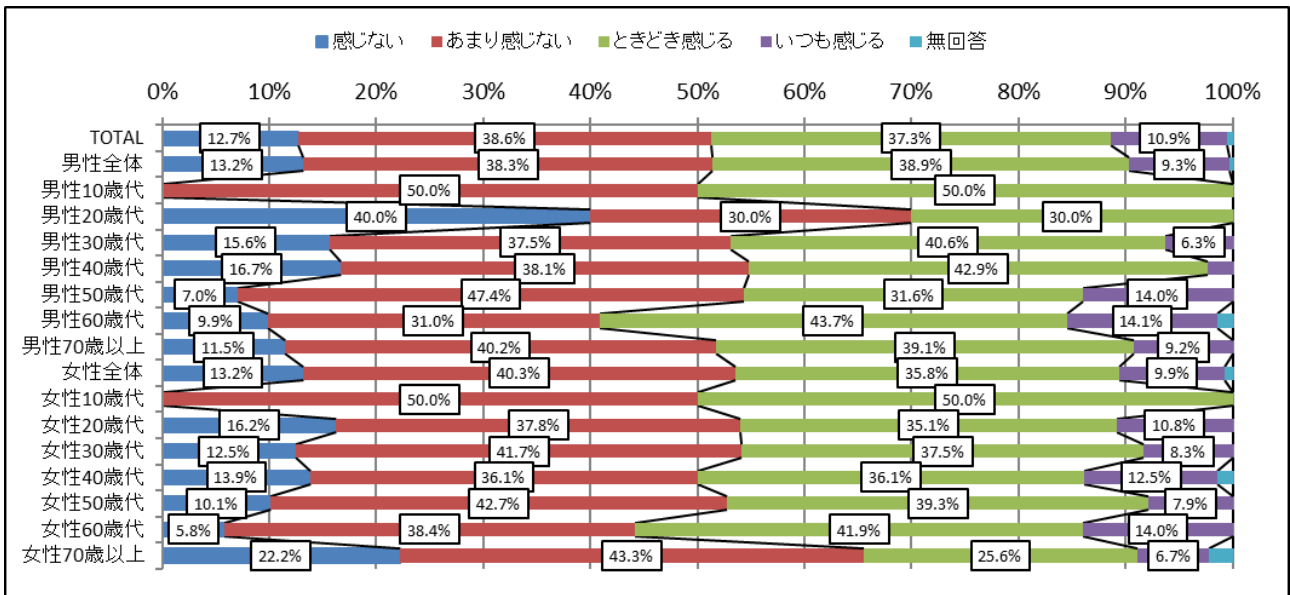
「あまり感じない」と回答した人の割合が 38.6%と最も多く、次いで「ときどき感じる」と回答した人の割合が 37.3%、「感じない」と回答した人の割合が 12.7%、「いつも感じる」と回答した人の割合が最も少なく 10.9%となっています。

「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合の合計は 51.3%である一方、半数近くの市民が、市内の道路を普段利用する際に不便を感じていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合の合計は 49.9%であり、「前年度アンケート」と比較して僅かに増加しています。

母集団		感じない	あまり感じない	ときどき感じる	いつも感じる	無回答	合計
TOTAL	809	12.7%	38.6%	37.3%	10.9%	0.5%	100.0%
男性全体	311	13.2%	38.3%	38.9%	9.3%	0.3%	100.0%
男性10歳代	2	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	20	40.0%	30.0%	30.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	32	15.6%	37.5%	40.6%	6.3%	0.0%	100.0%
男性40歳代	42	16.7%	38.1%	42.9%	2.4%	0.0%	100.0%
男性50歳代	57	7.0%	47.4%	31.6%	14.0%	0.0%	100.0%
男性60歳代	71	9.9%	31.0%	43.7%	14.1%	1.4%	100.0%
男性70歳以上	87	11.5%	40.2%	39.1%	9.2%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	424	13.2%	40.3%	35.8%	9.9%	0.7%	100.0%
女性10歳代	2	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	37	16.2%	37.8%	35.1%	10.8%	0.0%	100.0%
女性30歳代	48	12.5%	41.7%	37.5%	8.3%	0.0%	100.0%
女性40歳代	72	13.9%	36.1%	36.1%	12.5%	1.4%	100.0%
女性50歳代	89	10.1%	42.7%	39.3%	7.9%	0.0%	100.0%
女性60歳代	86	5.8%	38.4%	41.9%	14.0%	0.0%	100.0%
女性70歳以上	90	22.2%	43.3%	25.6%	6.7%	2.2%	100.0%
女性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
深谷地区	194	12.9%	33.0%	36.6%	16.5%	1.0%	100.0%
藤沢地区	61	16.4%	34.4%	44.3%	3.3%	1.6%	100.0%
幡羅地区	85	12.9%	48.2%	29.4%	9.4%	0.0%	100.0%
明戸地区	28	7.1%	35.7%	46.4%	10.7%	0.0%	100.0%
大寄地区	25	20.0%	20.0%	48.0%	12.0%	0.0%	100.0%
八基地区	15	20.0%	26.7%	40.0%	13.3%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	20.0%	48.0%	16.0%	16.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	94	8.5%	52.1%	35.1%	4.3%	0.0%	100.0%
南地区	49	14.3%	46.9%	34.7%	4.1%	0.0%	100.0%
岡部地区	77	11.7%	40.3%	37.7%	10.4%	0.0%	100.0%
川本地区	63	7.9%	31.7%	46.0%	14.3%	0.0%	100.0%
花園地区	75	13.3%	34.7%	41.3%	9.3%	1.3%	100.0%
無回答	18	16.7%	33.3%	27.8%	22.2%	0.0%	100.0%

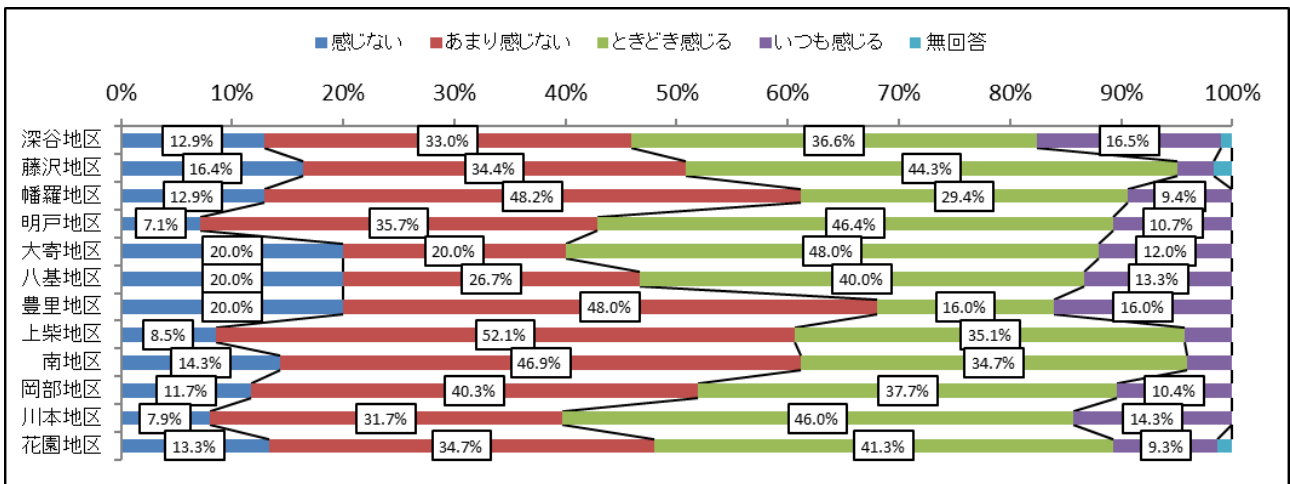
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合の合計は、男性が51.5%であるのに対して、女性は53.5%となっています。

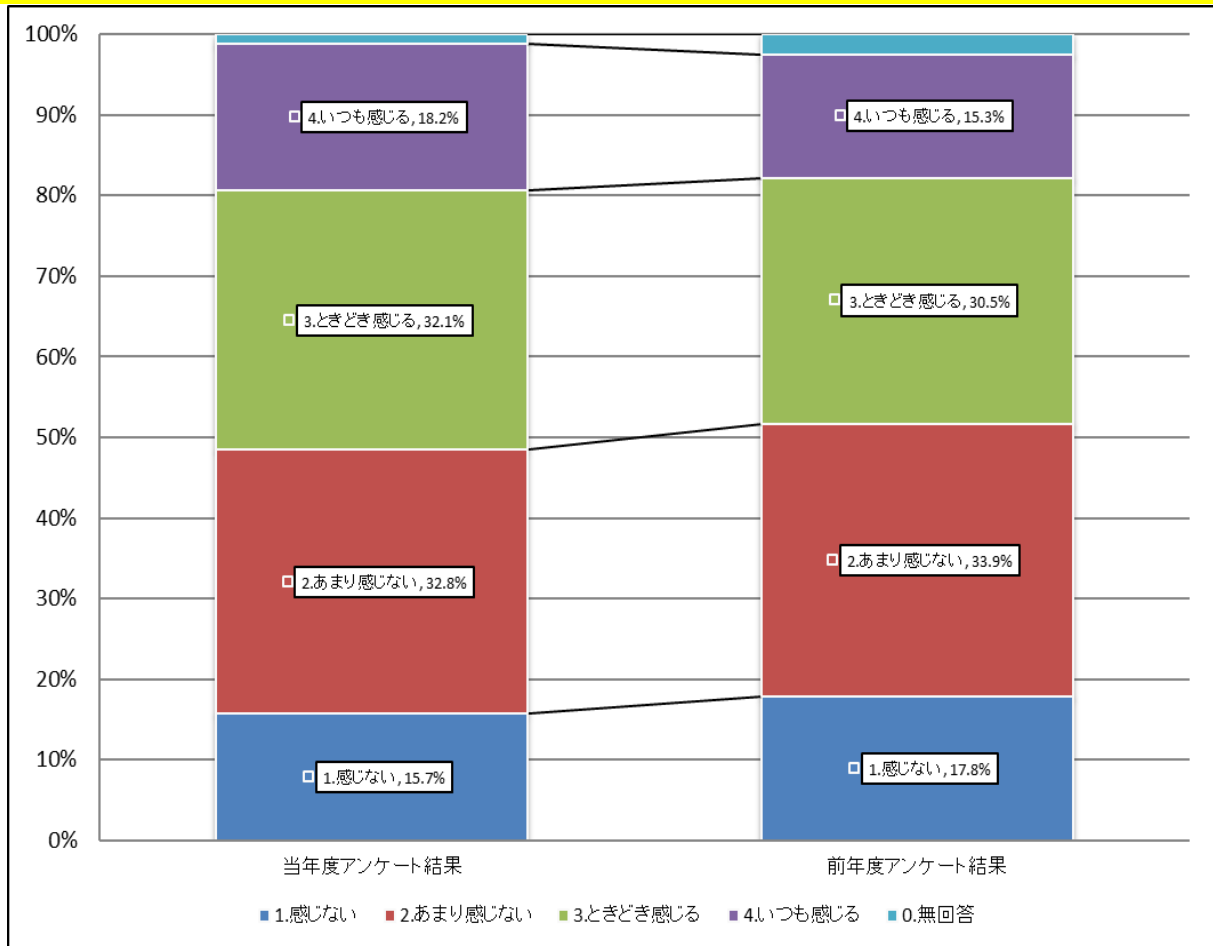
また、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性が60歳代（40.9%）、女性が60歳代（44.2%）であり、一方で最も多い世代は、男性20歳代（70.0%）、女性70歳以上（65.6%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合の合計が最も少ないのは、川本地区（39.6%）であり、次いで大寄地区（40.0%）となっています。最も多いのは、豊里地区（68.0%）であり、次いで南地区（61.2%）となっています。

市内の公共交通機関の利便性（時間・本数・路線・サービス）に不便を感じていますか。



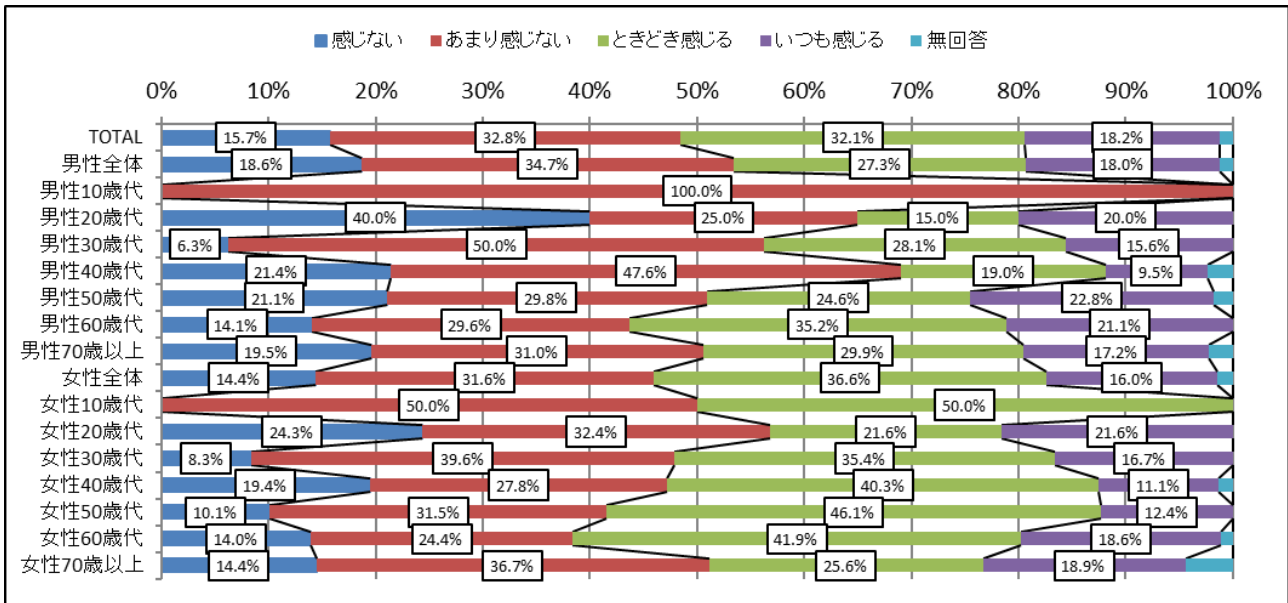
「あまり感じない」と回答した人の割合が 32.8%と最も多く、次いで「ときどき感じる」と回答した人の割合が 32.1%、「いつも感じる」と回答した人の割合が 18.2%、「感じない」と回答した人の割合が最も少なく 15.7%となっています。

「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合の合計は 48.5%にとどまり、半数以上の市民が、市内の公共交通機関の利便性に不便を感じていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合の合計は 51.7%であり、「前年度アンケート」と比較して減少しています。

母集団		感じない	あまり感じない	ときどき感じる	いつも感じる	無回答	合計
TOTAL	809	15.7%	32.8%	32.1%	18.2%	1.2%	100.0%
男性全体	311	18.6%	34.7%	27.3%	18.0%	1.3%	100.0%
男性10歳代	2	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	20	40.0%	25.0%	15.0%	20.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	32	6.3%	50.0%	28.1%	15.6%	0.0%	100.0%
男性40歳代	42	21.4%	47.6%	19.0%	9.5%	2.4%	100.0%
男性50歳代	57	21.1%	29.8%	24.6%	22.8%	1.8%	100.0%
男性60歳代	71	14.1%	29.6%	35.2%	21.1%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	87	19.5%	31.0%	29.9%	17.2%	2.3%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	424	14.4%	31.6%	36.6%	16.0%	1.4%	100.0%
女性10歳代	2	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	37	24.3%	32.4%	21.6%	21.6%	0.0%	100.0%
女性30歳代	48	8.3%	39.6%	35.4%	16.7%	0.0%	100.0%
女性40歳代	72	19.4%	27.8%	40.3%	11.1%	1.4%	100.0%
女性50歳代	89	10.1%	31.5%	46.1%	12.4%	0.0%	100.0%
女性60歳代	86	14.0%	24.4%	41.9%	18.6%	1.2%	100.0%
女性70歳以上	90	14.4%	36.7%	25.6%	18.9%	4.4%	100.0%
女性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
深谷地区	194	19.6%	38.7%	30.4%	10.3%	1.0%	100.0%
藤沢地区	61	18.0%	24.6%	45.9%	8.2%	3.3%	100.0%
幡羅地区	85	16.5%	30.6%	30.6%	22.4%	0.0%	100.0%
明戸地区	28	10.7%	28.6%	28.6%	28.6%	3.6%	100.0%
大寄地区	25	4.0%	20.0%	40.0%	32.0%	4.0%	100.0%
八基地区	15	26.7%	33.3%	20.0%	20.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	16.0%	28.0%	28.0%	28.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	94	14.9%	37.2%	33.0%	13.8%	1.1%	100.0%
南地区	49	16.3%	42.9%	32.7%	8.2%	0.0%	100.0%
岡部地区	77	14.3%	32.5%	31.2%	19.5%	2.6%	100.0%
川本地区	63	11.1%	28.6%	27.0%	33.3%	0.0%	100.0%
花園地区	75	13.3%	26.7%	30.7%	28.0%	1.3%	100.0%
無回答	18	11.1%	27.8%	44.4%	16.7%	0.0%	100.0%

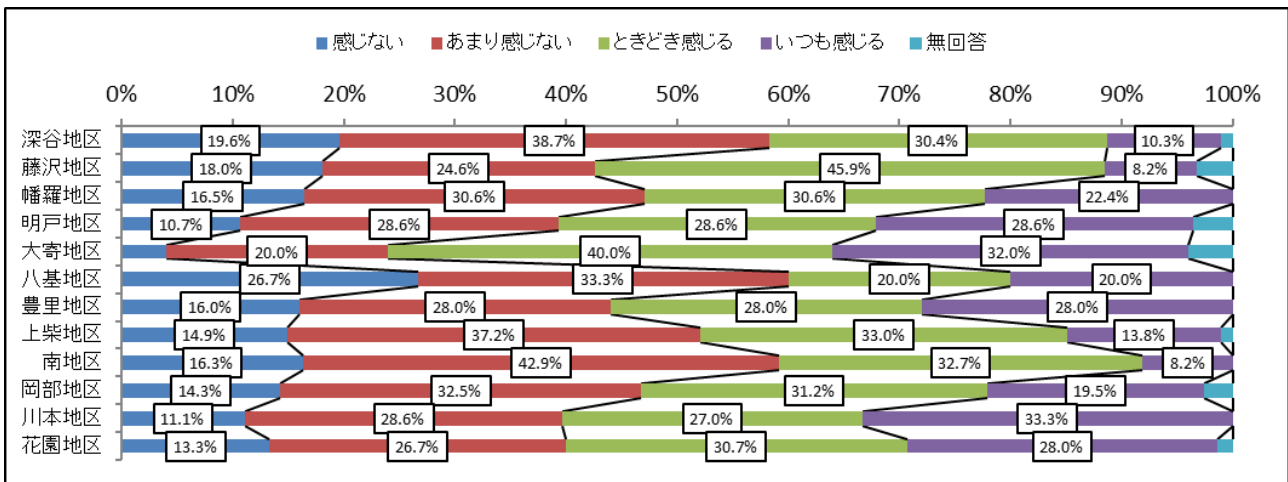
性別・世代別



性別・世代別にみると、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合の合計は、男性が53.3%であるのに対して、女性は46.0%となっています。

また、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性60歳代（43.7%）、女性60歳代（38.4%）であり、一方で最も多い世代は、男性10歳代（100.0%）女性20歳代（56.7%）となっています。

地区別

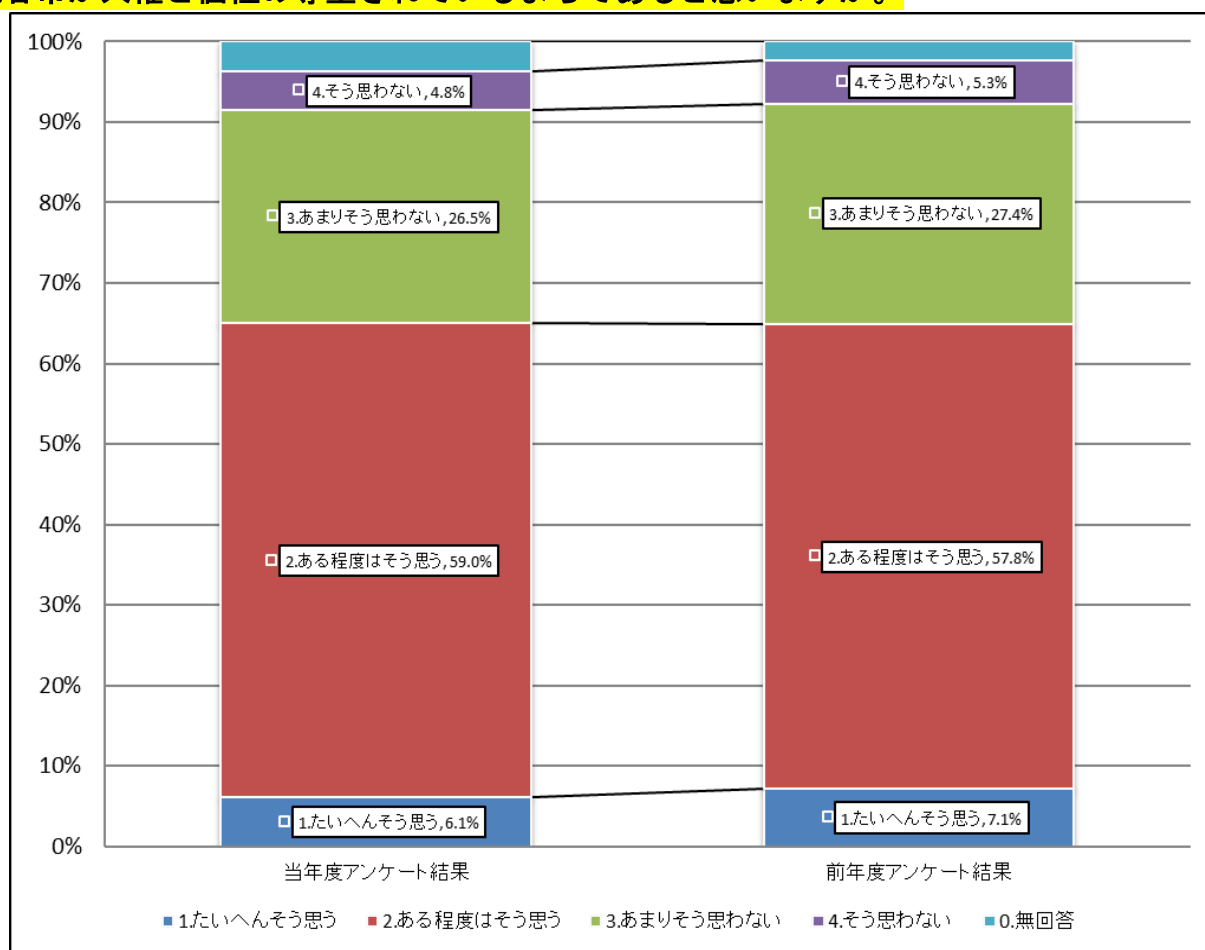


地区別にみると、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合の合計が最も少ないのは、大寄地区（24.0%）であり、次いで明戸地区（39.3%）となっています。最も多いのは、八基地区（60.0%）であり、次いで南地区（59.2%）となっています。地域によって大きな差があることがうかがえます。

(7) 協働・行政経営について

① 人権を尊重する社会づくり (7. 問1~4)

深谷市が人権と個性の尊重されているまちであると思いますか。



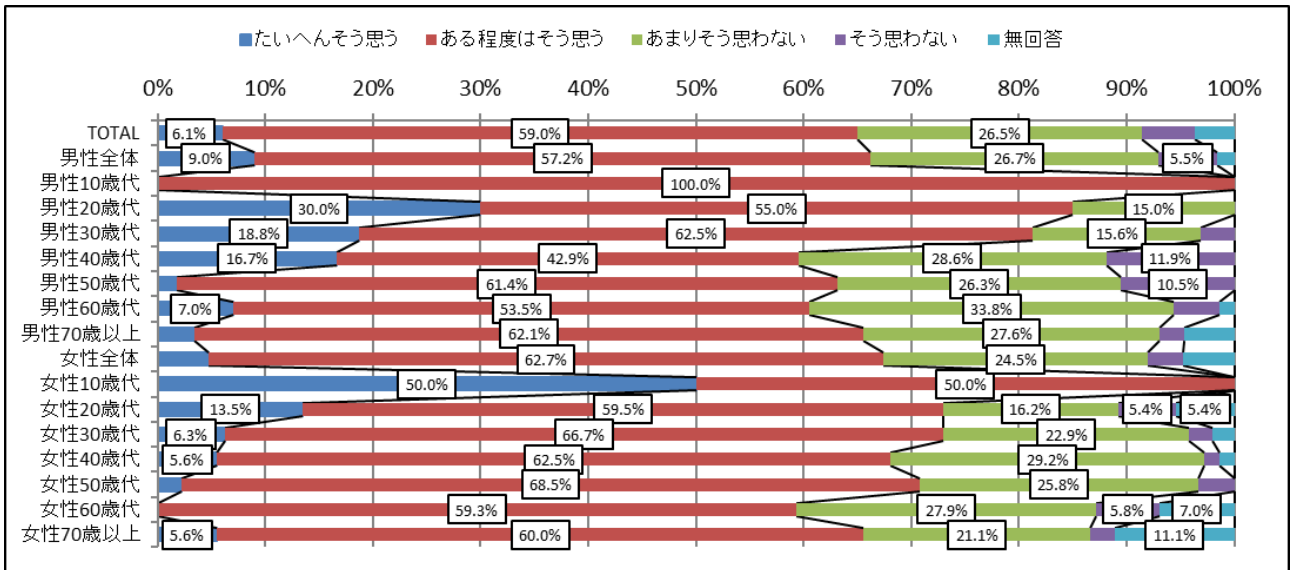
「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が 59.0%と最も多く、次いで「あまりそう思わない」と回答した人の割合が 26.5%、「たいへんそう思う」と回答した人の割合が 6.1%、「そう思わない」と回答した人の割合が最も少なく 4.8%となっています。

「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は 65.1%であり、7 割近くの市民が深谷市は人権と個性の尊重されているまちであると感じていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は 64.9%であり、「前年度アンケート」と比較してほぼ変化はありませんでした。

母集団		たいへんそう思う	ある程度はそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	合計
TOTAL	809	6.1%	59.0%	26.5%	4.8%	3.7%	100.0%
男性全体	311	9.0%	57.2%	26.7%	5.5%	1.6%	100.0%
男性10歳代	2	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	20	30.0%	55.0%	15.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	32	18.8%	62.5%	15.6%	3.1%	0.0%	100.0%
男性40歳代	42	16.7%	42.9%	28.6%	11.9%	0.0%	100.0%
男性50歳代	57	1.8%	61.4%	26.3%	10.5%	0.0%	100.0%
男性60歳代	71	7.0%	53.5%	33.8%	4.2%	1.4%	100.0%
男性70歳以上	87	3.4%	62.1%	27.6%	2.3%	4.6%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	424	4.7%	62.7%	24.5%	3.3%	4.7%	100.0%
女性10歳代	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	37	13.5%	59.5%	16.2%	5.4%	5.4%	100.0%
女性30歳代	48	6.3%	66.7%	22.9%	2.1%	2.1%	100.0%
女性40歳代	72	5.6%	62.5%	29.2%	1.4%	1.4%	100.0%
女性50歳代	89	2.2%	68.5%	25.8%	3.4%	0.0%	100.0%
女性60歳代	86	0.0%	59.3%	27.9%	5.8%	7.0%	100.0%
女性70歳以上	90	5.6%	60.0%	21.1%	2.2%	11.1%	100.0%
女性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
深谷地区	194	7.7%	54.1%	28.4%	5.2%	4.6%	100.0%
藤沢地区	61	3.3%	63.9%	23.0%	3.3%	6.6%	100.0%
幡羅地区	85	5.9%	62.4%	27.1%	3.5%	1.2%	100.0%
明戸地区	28	17.9%	46.4%	25.0%	0.0%	10.7%	100.0%
大寄地区	25	4.0%	56.0%	24.0%	12.0%	4.0%	100.0%
八基地区	15	6.7%	60.0%	26.7%	6.7%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	12.0%	56.0%	24.0%	4.0%	4.0%	100.0%
上柴地区	94	6.4%	62.8%	24.5%	2.1%	4.3%	100.0%
南地区	49	0.0%	59.2%	34.7%	0.0%	6.1%	100.0%
岡部地区	77	6.5%	51.9%	32.5%	6.5%	2.6%	100.0%
川本地区	63	3.2%	63.5%	23.8%	7.9%	1.6%	100.0%
花園地区	75	5.3%	65.3%	20.0%	8.0%	1.3%	100.0%
無回答	18	0.0%	72.2%	22.2%	5.6%	0.0%	100.0%

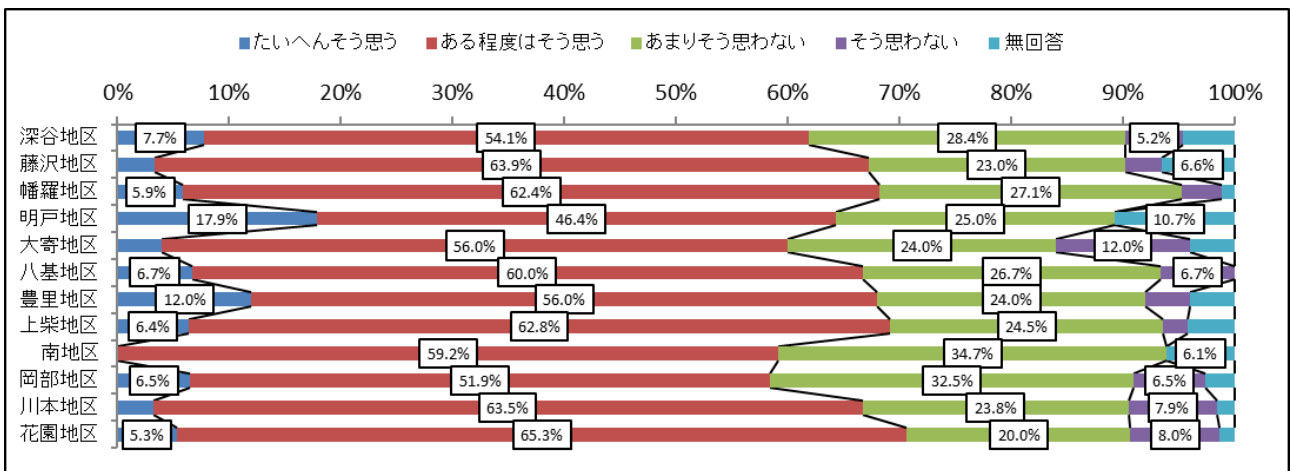
性別・世代別



性別・世代別にみると、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は、男性が66.2%であるのに対して、女性は67.4%となっています。

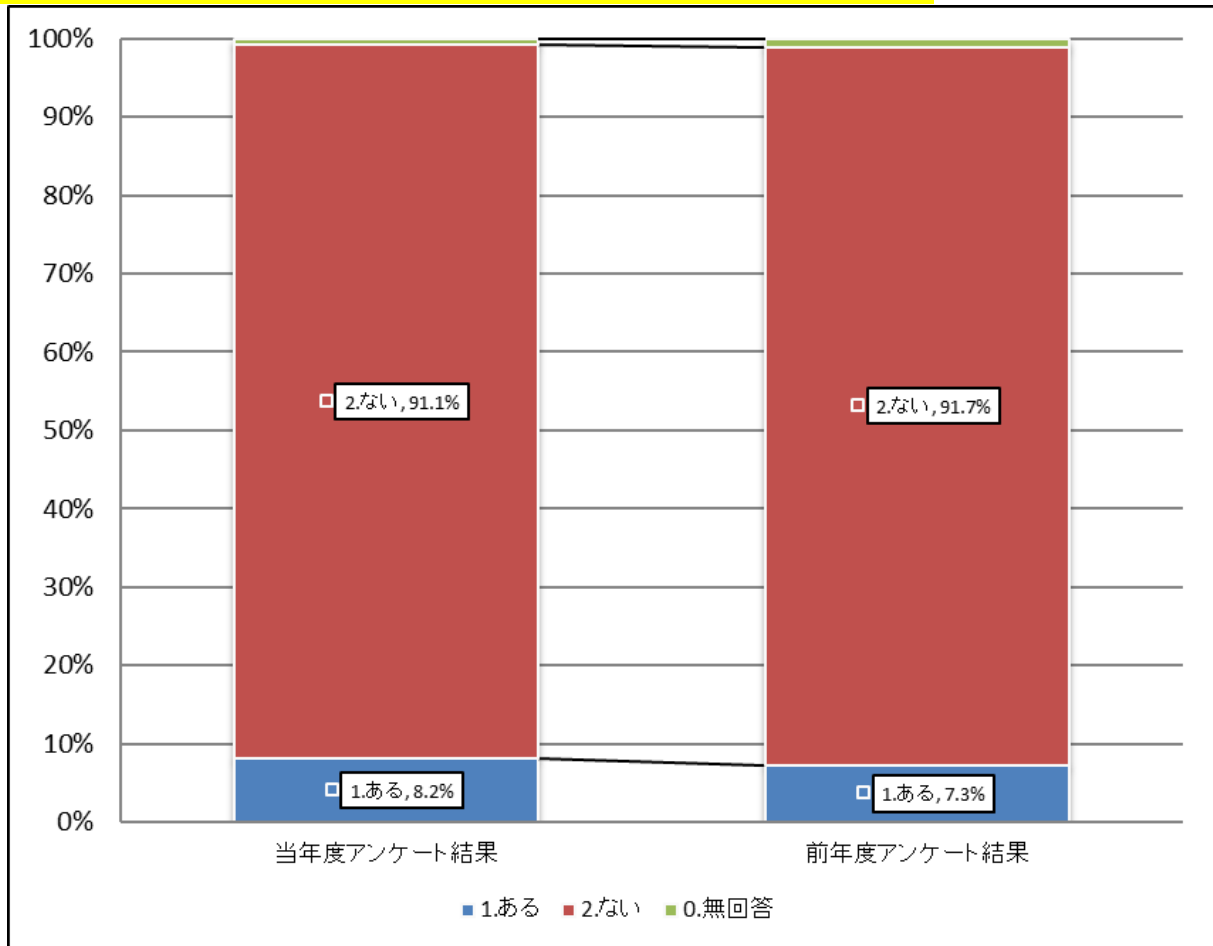
また、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性40歳代（59.6%）、女性60歳代（59.3%）であり、一方で最も多い世代は、男性10歳代（100.0%）、女性10歳代（100.0%）となっています。

地区別



地区別にみると、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計が最も少ないのは、岡部地区（58.4%）であり、次いで南地区（59.2%）となっています。最も多いのは花園地区（70.6%）であり、次いで上柴地区（69.2%）となっています。

この1年間に自分の人権が侵害されたと思ったことはありますか。



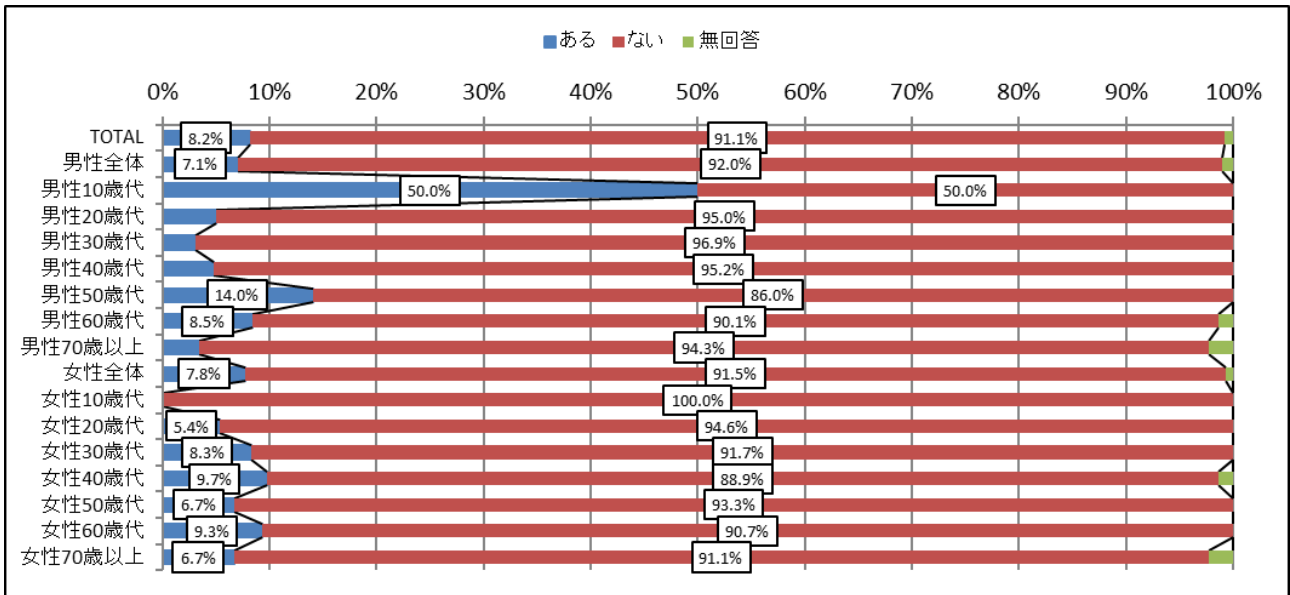
「ある」と回答した人の割合が 8.2%、「ない」と回答した人の割合が 91.1%となっています。

ほとんどの市民が、この1年間に自分の人権が侵害されたと思ったことは「ない」と回答している一方、侵害されたと感じている市民が1割近くいることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「ある」と回答した人の割合は 7.3%であり、「前年度アンケート」と比較して僅かに増加しています。

母集団		ある	ない	無回答	合計
TOTAL	809	8.2%	91.1%	0.7%	100.0%
男性全体	311	7.1%	92.0%	1.0%	100.0%
男性10歳代	2	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	20	5.0%	95.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	32	3.1%	96.9%	0.0%	100.0%
男性40歳代	42	4.8%	95.2%	0.0%	100.0%
男性50歳代	57	14.0%	86.0%	0.0%	100.0%
男性60歳代	71	8.5%	90.1%	1.4%	100.0%
男性70歳以上	87	3.4%	94.3%	2.3%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—
女性全体	424	7.8%	91.5%	0.7%	100.0%
女性10歳代	2	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	37	5.4%	94.6%	0.0%	100.0%
女性30歳代	48	8.3%	91.7%	0.0%	100.0%
女性40歳代	72	9.7%	88.9%	1.4%	100.0%
女性50歳代	89	6.7%	93.3%	0.0%	100.0%
女性60歳代	86	9.3%	90.7%	0.0%	100.0%
女性70歳以上	90	6.7%	91.1%	2.2%	100.0%
女性年齢不詳		—	—	—	—
深谷地区	194	8.2%	90.7%	1.0%	100.0%
藤沢地区	61	8.2%	90.2%	1.6%	100.0%
幡羅地区	85	7.1%	92.9%	0.0%	100.0%
明戸地区	28	7.1%	92.9%	0.0%	100.0%
大寄地区	25	8.0%	92.0%	0.0%	100.0%
八基地区	15	6.7%	93.3%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	12.0%	88.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	94	6.4%	93.6%	0.0%	100.0%
南地区	49	16.3%	83.7%	0.0%	100.0%
岡部地区	77	7.8%	92.2%	0.0%	100.0%
川本地区	63	9.5%	88.9%	1.6%	100.0%
花園地区	75	5.3%	92.0%	2.7%	100.0%
無回答	18	5.6%	94.4%	0.0%	100.0%

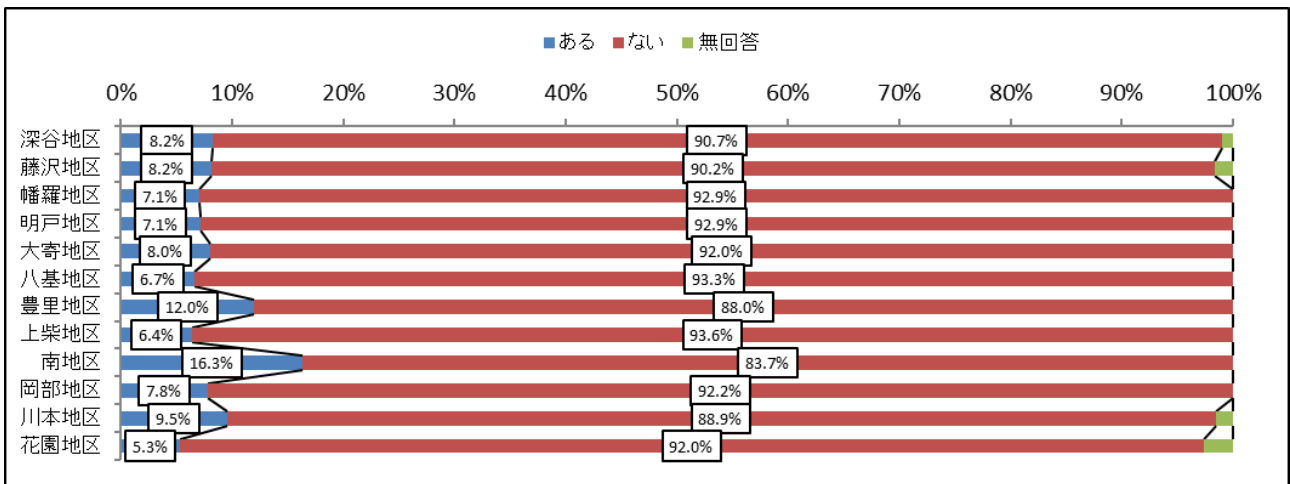
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「ある」と回答した人の割合は、男性が 7.1%であるのに対して、女性は 7.8%となっています。

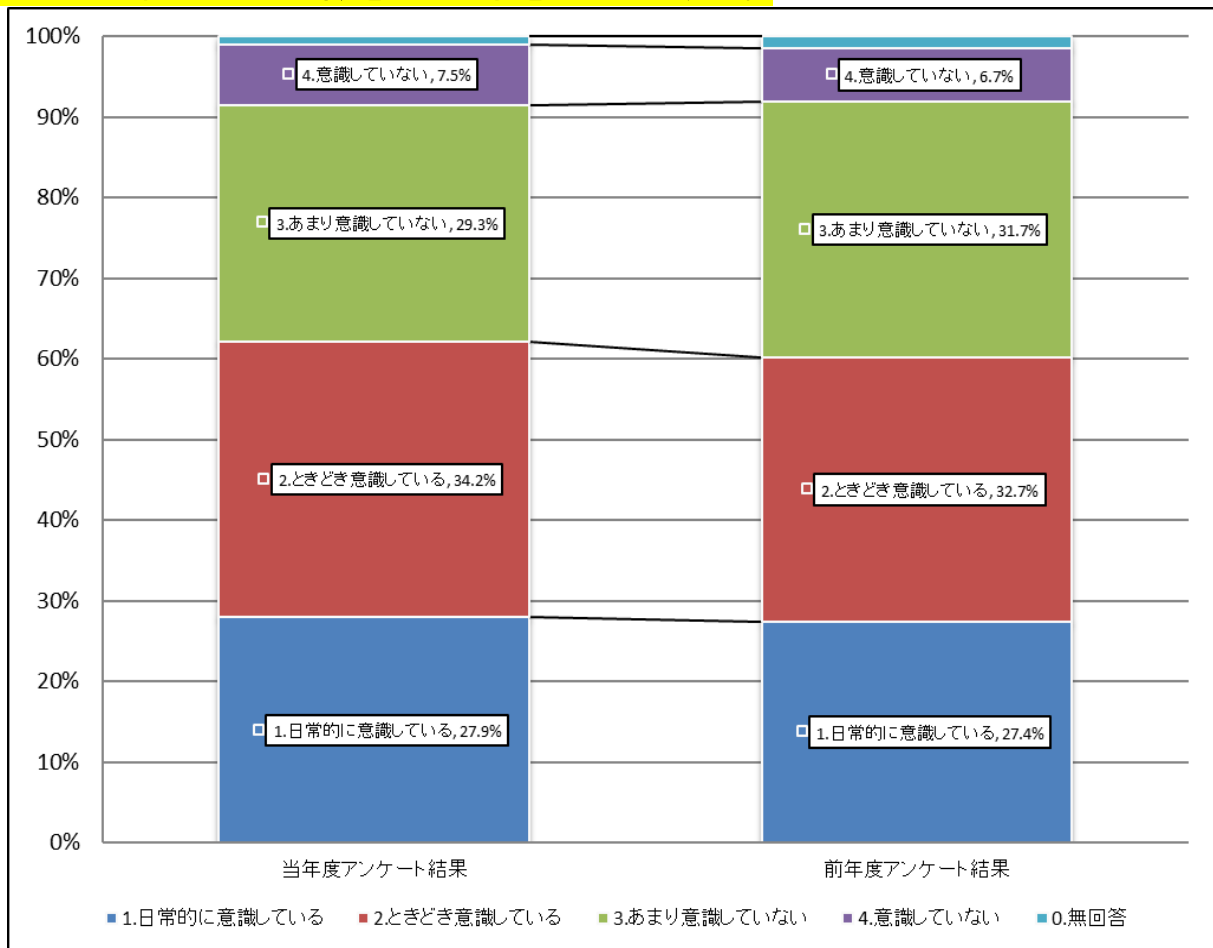
また、「ある」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性 30 歳代 (3.1%)、女性 10 歳代 (0.0%) であり、一方で最も多い世代は、男性 10 歳代 (50.0%)、女性 40 歳代 (9.7%) となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「ある」と回答した人の割合が最も少ないのは、花園地区 (5.3%) であり、次いで上柴地区 (6.4%) となっています。最も多いのは南地区 (16.3%) であり、次いで豊里地区 (12.0%) となっています。

お互いの人権について意識をして生活をしていますか。



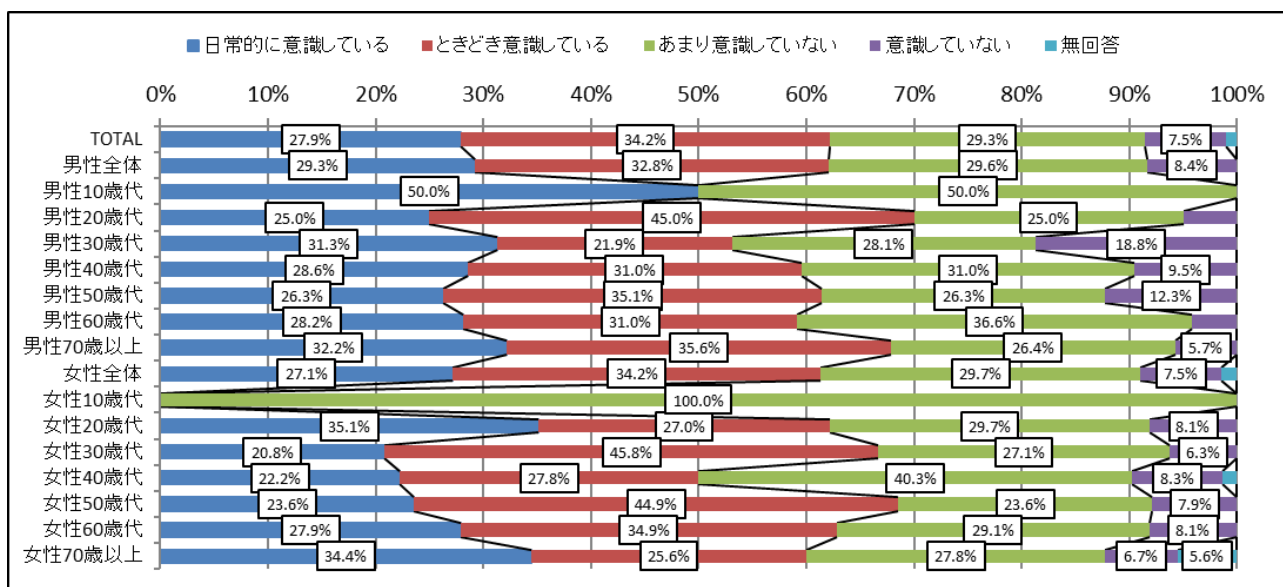
「ときどき意識している」と回答した人の割合が 34.2%と最も多く、次いで「あまり意識していない」と回答した人の割合が 29.3%、「日常的に意識している」と回答した人の割合が 27.9%、「意識していない」と回答した人の割合が最も少なく 7.5%となっています。

「日常的に意識している」または「ときどき意識している」と回答した人の割合の合計は 62.1%であり、6 割以上の市民がお互いの人権について意識をして生活をしていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「日常的に意識している」または「ときどき意識している」と回答した人の割合の合計は 60.1%であり、「前年度アンケート」と比較して僅かに増加しています。

母集団		日常的に意識している	ときどき意識している	あまり意識していない	意識していない	無回答	合計
TOTAL	809	27.9%	34.2%	29.3%	7.5%	1.0%	100.0%
男性全体	311	29.3%	32.8%	29.6%	8.4%	0.0%	100.0%
男性10歳代	2	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	20	25.0%	45.0%	25.0%	5.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	32	31.3%	21.9%	28.1%	18.8%	0.0%	100.0%
男性40歳代	42	28.6%	31.0%	31.0%	9.5%	0.0%	100.0%
男性50歳代	57	26.3%	35.1%	26.3%	12.3%	0.0%	100.0%
男性60歳代	71	28.2%	31.0%	36.6%	4.2%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	87	32.2%	35.6%	26.4%	5.7%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	424	27.1%	34.2%	29.7%	7.5%	1.4%	100.0%
女性10歳代	2	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	37	35.1%	27.0%	29.7%	8.1%	0.0%	100.0%
女性30歳代	48	20.8%	45.8%	27.1%	6.3%	0.0%	100.0%
女性40歳代	72	22.2%	27.8%	40.3%	8.3%	1.4%	100.0%
女性50歳代	89	23.6%	44.9%	23.6%	7.9%	0.0%	100.0%
女性60歳代	86	27.9%	34.9%	29.1%	8.1%	0.0%	100.0%
女性70歳以上	90	34.4%	25.6%	27.8%	6.7%	5.6%	100.0%
女性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
深谷地区	194	27.8%	29.9%	30.9%	10.3%	1.0%	100.0%
藤沢地区	61	21.3%	36.1%	31.1%	9.8%	1.6%	100.0%
幡羅地区	85	25.9%	36.5%	25.9%	11.8%	0.0%	100.0%
明戸地区	28	32.1%	21.4%	35.7%	7.1%	3.6%	100.0%
大寄地区	25	44.0%	24.0%	32.0%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	15	40.0%	40.0%	13.3%	6.7%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	40.0%	36.0%	12.0%	12.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	94	20.2%	35.1%	39.4%	5.3%	0.0%	100.0%
南地区	49	26.5%	38.8%	30.6%	2.0%	2.0%	100.0%
岡部地区	77	32.5%	33.8%	27.3%	5.2%	1.3%	100.0%
川本地区	63	34.9%	38.1%	23.8%	3.2%	0.0%	100.0%
花園地区	75	22.7%	41.3%	26.7%	8.0%	1.3%	100.0%
無回答	18	27.8%	33.3%	27.8%	5.6%	5.6%	100.0%

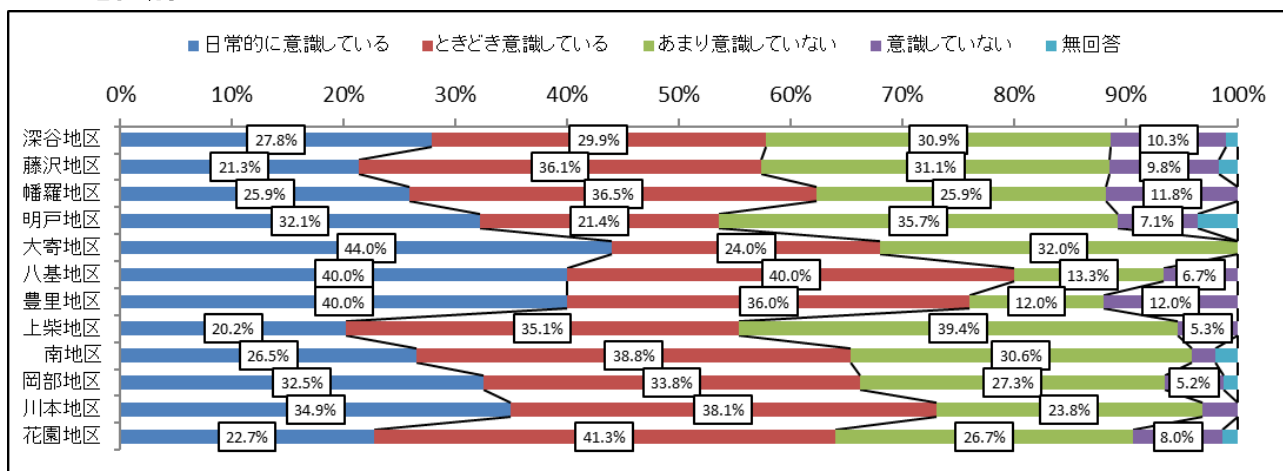
性別・世代別



性別・世代別にみると、「日常的に意識している」または「ときどき意識している」と回答した人の割合の合計は、男性が 62.1% であるのに対して、女性は 61.3% となっています。

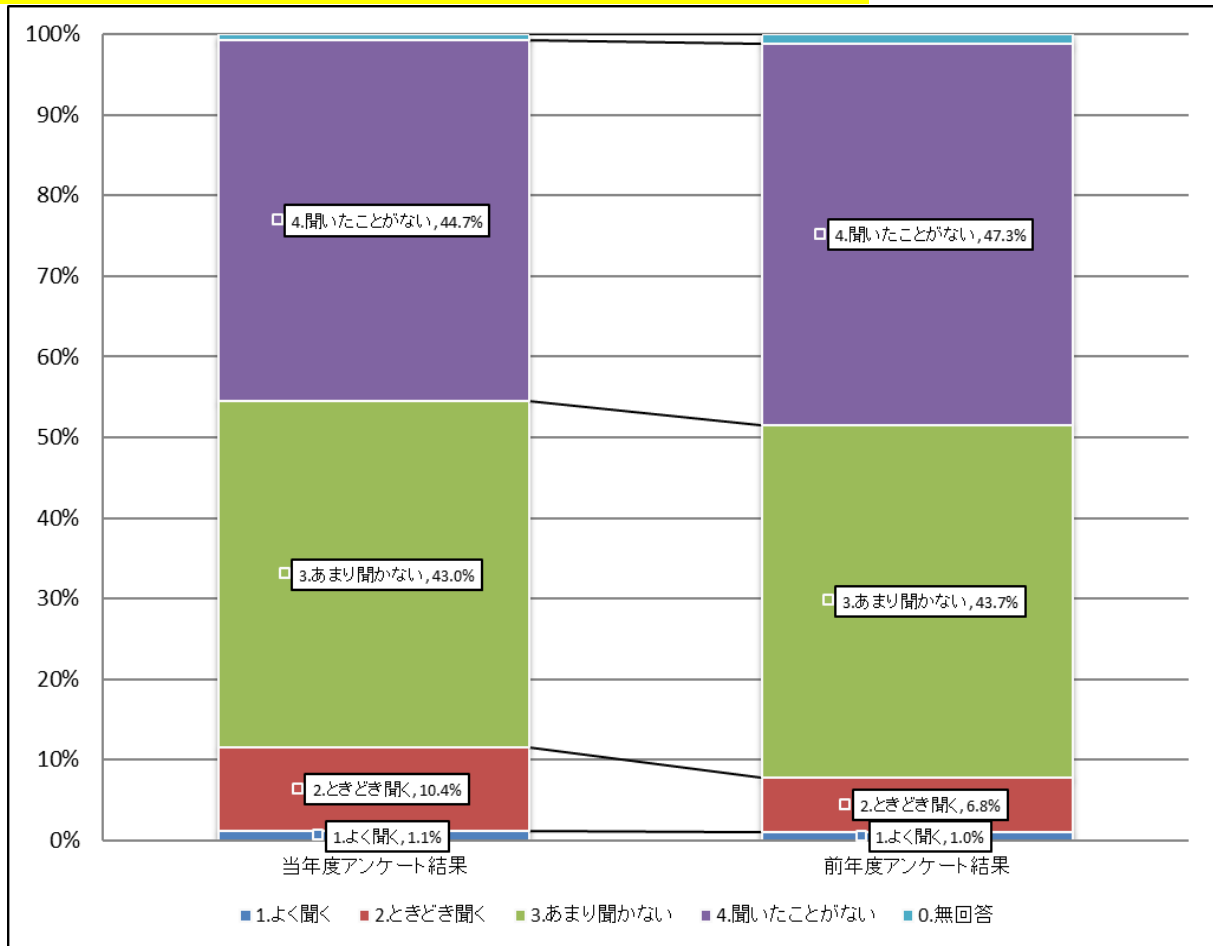
また、「日常的に意識している」または「ときどき意識している」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性 10 歳代 (50.0%)、女性 10 歳代 (0.0%) であり、一方で最も多い世代は、男性 20 歳代 (70.0%)、女性 50 歳代 (68.5%) となっています。

地区別



地区別にみると、「日常的に意識している」または「ときどき意識している」と回答した人の割合の合計が最も少ないのは、明戸地区 (53.5%) であり、次いで上柴地区 (55.3%) となっています。最も多いのは八基地区 (80.0%) であり、次に豊里地区 (76.0%) となっています。

市内で、外国人とのトラブルなどを聞いたことはありますか。



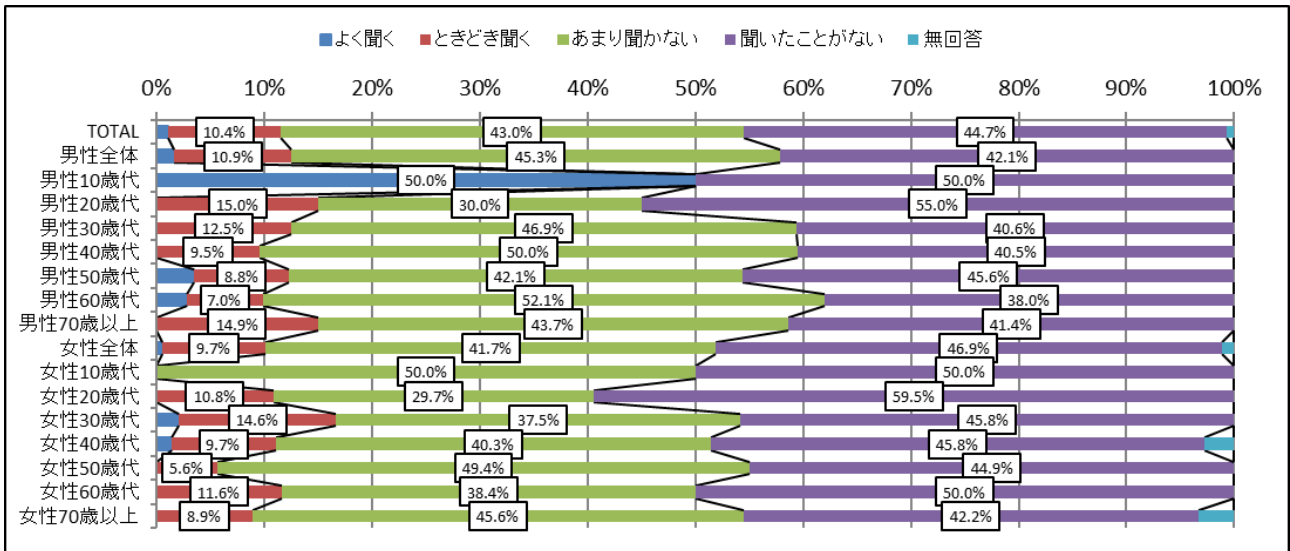
「聞いたことがない」と回答した人の割合が 44.7%と最も多く、次いで「あまり聞かない」と回答した人の割合が 43.0%、「ときどき聞く」と回答した人の割合が 10.4%、「よく聞く」と回答した人の割合が最も少なく 1.1%となっています。

「よく聞く」または「ときどき聞く」と回答した人の割合の合計は 11.5%であり、市内で、外国人とのトラブルなどを聞いたことがある市民は1割以上いることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「よく聞く」または「ときどき聞く」と回答した人の割合の合計は 7.8%であり、「前年度アンケート」と比較して増加しています。

母集団		よく聞く	ときどき聞く	あまり聞かない	聞いたことがない	無回答	合計
TOTAL	809	1.1%	10.4%	43.0%	44.7%	0.7%	100.0%
男性全体	311	1.6%	10.9%	45.3%	42.1%	0.0%	100.0%
男性10歳代	2	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	20	0.0%	15.0%	30.0%	55.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	32	0.0%	12.5%	46.9%	40.6%	0.0%	100.0%
男性40歳代	42	0.0%	9.5%	50.0%	40.5%	0.0%	100.0%
男性50歳代	57	3.5%	8.8%	42.1%	45.6%	0.0%	100.0%
男性60歳代	71	2.8%	7.0%	52.1%	38.0%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	87	0.0%	14.9%	43.7%	41.4%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	424	0.5%	9.7%	41.7%	46.9%	1.2%	100.0%
女性10歳代	2	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	37	0.0%	10.8%	29.7%	59.5%	0.0%	100.0%
女性30歳代	48	2.1%	14.6%	37.5%	45.8%	0.0%	100.0%
女性40歳代	72	1.4%	9.7%	40.3%	45.8%	2.8%	100.0%
女性50歳代	89	0.0%	5.6%	49.4%	44.9%	0.0%	100.0%
女性60歳代	86	0.0%	11.6%	38.4%	50.0%	0.0%	100.0%
女性70歳以上	90	0.0%	8.9%	45.6%	42.2%	3.3%	100.0%
女性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
深谷地区	194	0.5%	10.3%	40.7%	47.9%	0.5%	100.0%
藤沢地区	61	0.0%	3.3%	47.5%	47.5%	1.6%	100.0%
幡羅地区	85	1.2%	7.1%	37.6%	52.9%	1.2%	100.0%
明戸地区	28	3.6%	10.7%	39.3%	46.4%	0.0%	100.0%
大寄地区	25	12.0%	16.0%	32.0%	40.0%	0.0%	100.0%
八基地区	15	0.0%	20.0%	46.7%	33.3%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	0.0%	8.0%	36.0%	56.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	94	1.1%	6.4%	50.0%	42.6%	0.0%	100.0%
南地区	49	0.0%	16.3%	40.8%	42.9%	0.0%	100.0%
岡部地区	77	0.0%	14.3%	50.6%	32.5%	2.6%	100.0%
川本地区	63	1.6%	12.7%	39.7%	46.0%	0.0%	100.0%
花園地区	75	0.0%	10.7%	45.3%	42.7%	1.3%	100.0%
無回答	18	5.6%	16.7%	44.4%	33.3%	0.0%	100.0%

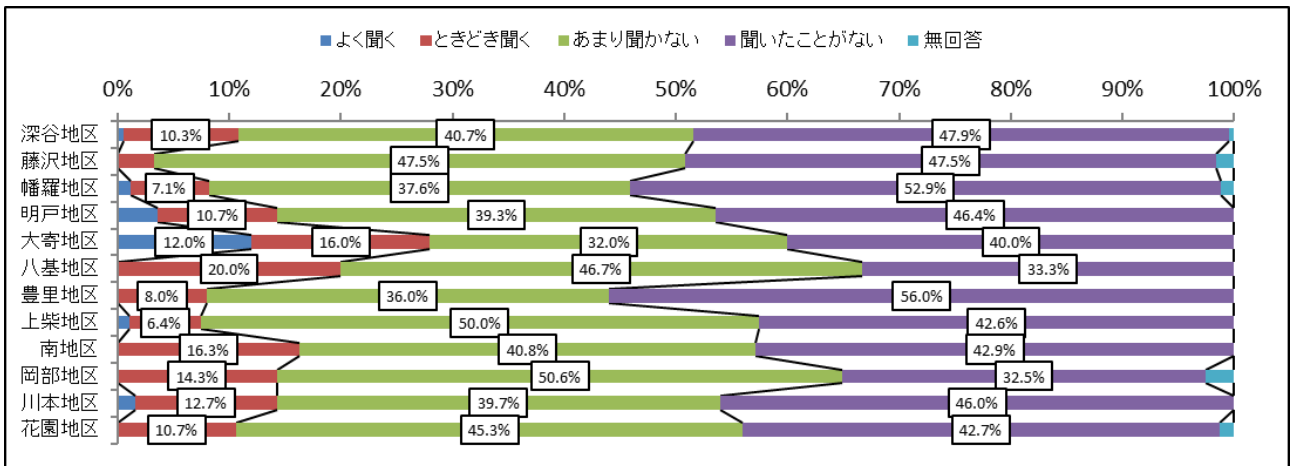
性別・世代別



性別・世代別にみると、「よく聞く」または「ときどき聞く」と回答した人の割合の合計は、男性が12.5%であるのに対して、女性は10.2%となっています。

また、「よく聞く」または「ときどき聞く」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性40歳代(9.5%)、女性10歳代(0.0%)であり、一方で最も多い世代は、男性10歳代(50.0%)、女性30歳代(16.7%)となっています。

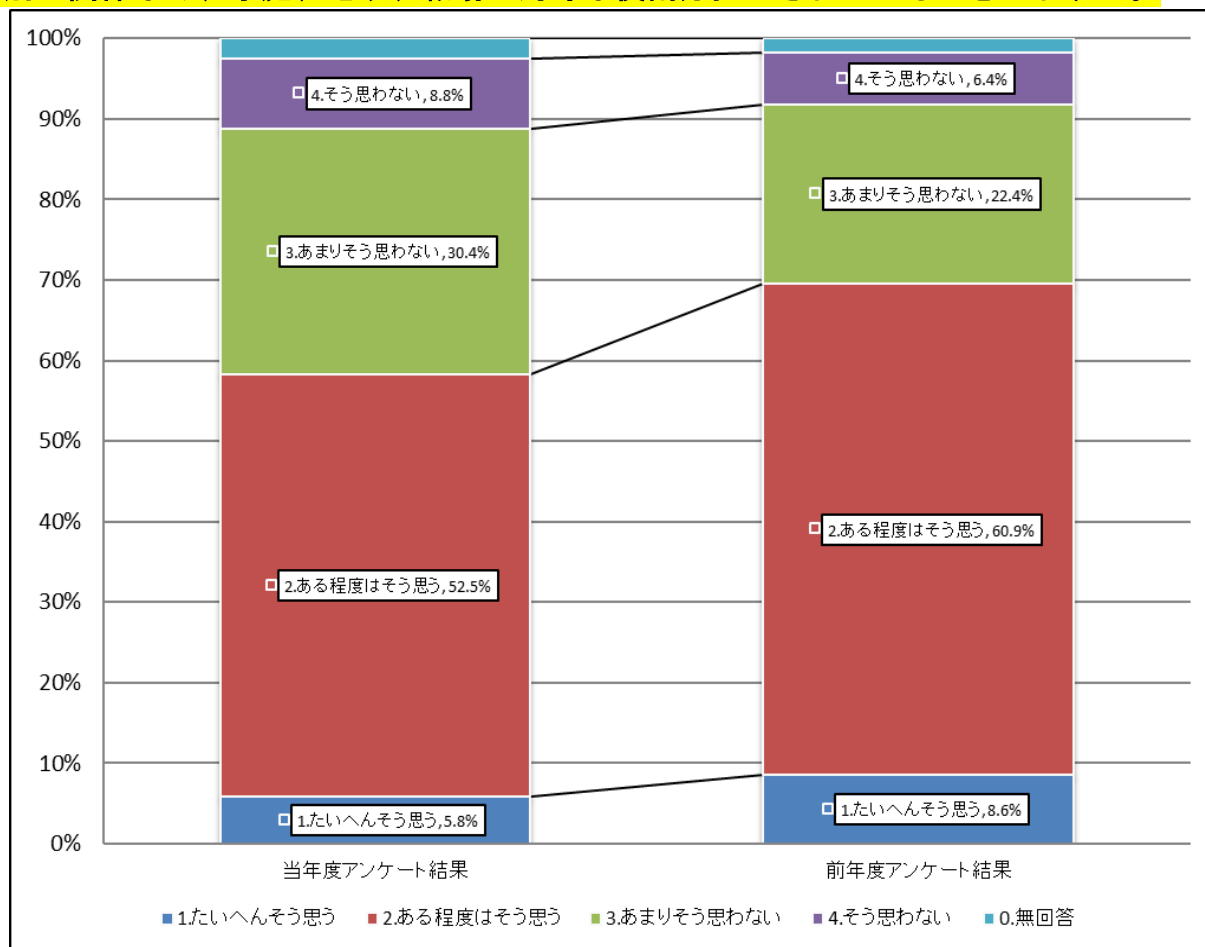
地区別



地区別にみると、「よく聞く」または「ときどき聞く」と回答した人の割合の合計が最も少ないのは、藤沢地区(3.3%)であり、次いで上柴地区(7.5%)となっています。最も多いのは大寄地区(28.0%)であり、次いで八基地区(20.0%)となっています。

② 男女がともに輝く社会づくり（7. 問5～7）

性別に関係なく、家庭、地域、職場で対等な役割分担がされていると思いますか。



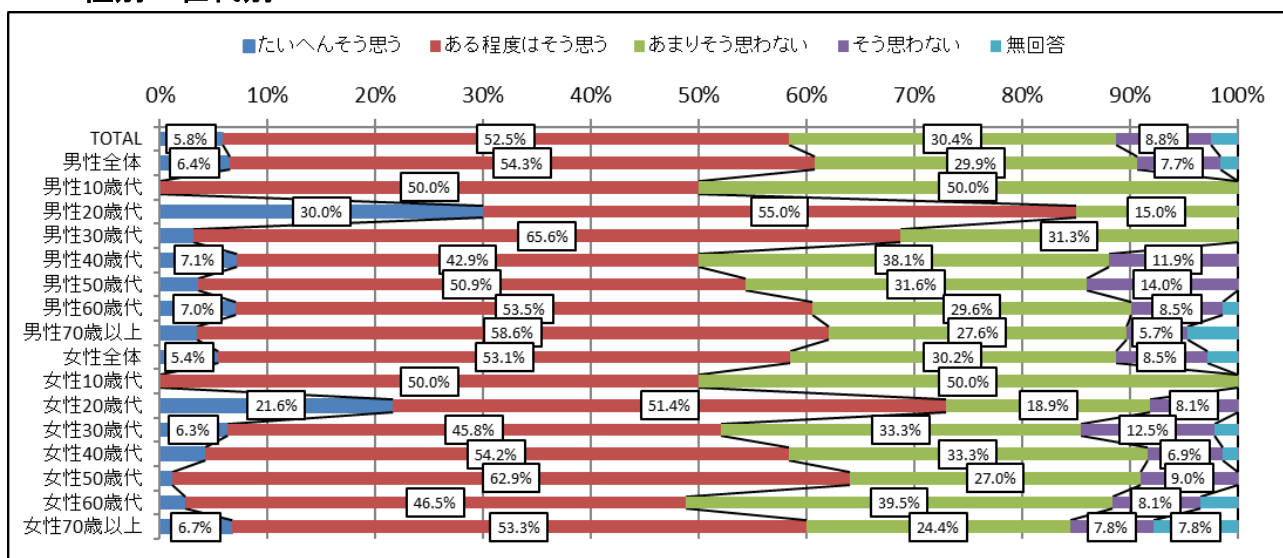
「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が 52.5%と最も多く、次いで「あまりそう思わない」と回答した人の割合が 30.4%、「そう思わない」と回答した人の割合が 8.8%、「たいへんそう思う」と回答した人の割合が最も少なく 5.8%となっています。

「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は 58.3%であり、6 割近くの市民が性別に関係なく、家庭、地域、職場で対等な役割分担がされていると感じていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は 69.5%であり、「前年度アンケート」と比較して大きく減少しています。

母集団		たいへんそう思う	ある程度はそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	合計
TOTAL	809	5.8%	52.5%	30.4%	8.8%	2.5%	100.0%
男性全体	311	6.4%	54.3%	29.9%	7.7%	1.6%	100.0%
男性10歳代	2	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	20	30.0%	55.0%	15.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	32	3.1%	65.6%	31.3%	0.0%	0.0%	100.0%
男性40歳代	42	7.1%	42.9%	38.1%	11.9%	0.0%	100.0%
男性50歳代	57	3.5%	50.9%	31.6%	14.0%	0.0%	100.0%
男性60歳代	71	7.0%	53.5%	29.6%	8.5%	1.4%	100.0%
男性70歳以上	87	3.4%	58.6%	27.6%	5.7%	4.6%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	424	5.4%	53.1%	30.2%	8.5%	2.8%	100.0%
女性10歳代	2	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	37	21.6%	51.4%	18.9%	8.1%	0.0%	100.0%
女性30歳代	48	6.3%	45.8%	33.3%	12.5%	2.1%	100.0%
女性40歳代	72	4.2%	54.2%	33.3%	6.9%	1.4%	100.0%
女性50歳代	89	1.1%	62.9%	27.0%	9.0%	0.0%	100.0%
女性60歳代	86	2.3%	46.5%	39.5%	8.1%	3.5%	100.0%
女性70歳以上	90	6.7%	53.3%	24.4%	7.8%	7.8%	100.0%
女性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
深谷地区	194	6.7%	49.0%	31.4%	8.8%	4.1%	100.0%
藤沢地区	61	4.9%	59.0%	23.0%	8.2%	4.9%	100.0%
幡羅地区	85	3.5%	52.9%	35.3%	8.2%	0.0%	100.0%
明戸地区	28	7.1%	57.1%	28.6%	0.0%	7.1%	100.0%
大寄地区	25	8.0%	52.0%	24.0%	12.0%	4.0%	100.0%
八基地区	15	6.7%	53.3%	33.3%	0.0%	6.7%	100.0%
豊里地区	25	8.0%	52.0%	24.0%	12.0%	4.0%	100.0%
上柴地区	94	3.2%	53.2%	33.0%	9.6%	1.1%	100.0%
南地区	49	2.0%	49.0%	32.7%	14.3%	2.0%	100.0%
岡部地区	77	7.8%	42.9%	36.4%	11.7%	1.3%	100.0%
川本地区	63	7.9%	57.1%	23.8%	11.1%	0.0%	100.0%
花園地区	75	6.7%	61.3%	28.0%	2.7%	1.3%	100.0%
無回答	18	5.6%	55.6%	27.8%	11.1%	0.0%	100.0%

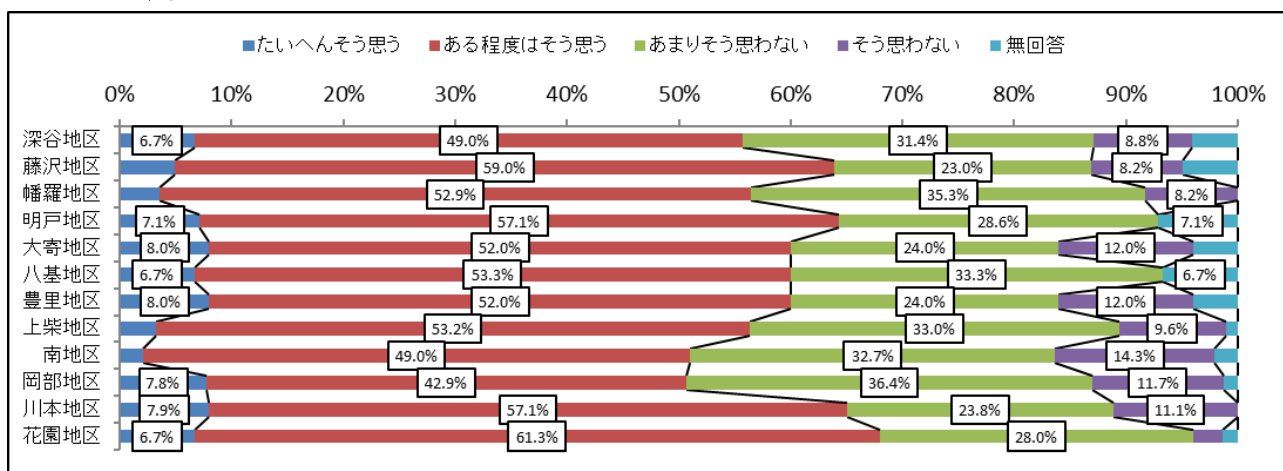
性別・世代別



性別・世代別にみると、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は、男性が60.7%であるのに対して、女性は58.5%となっています。

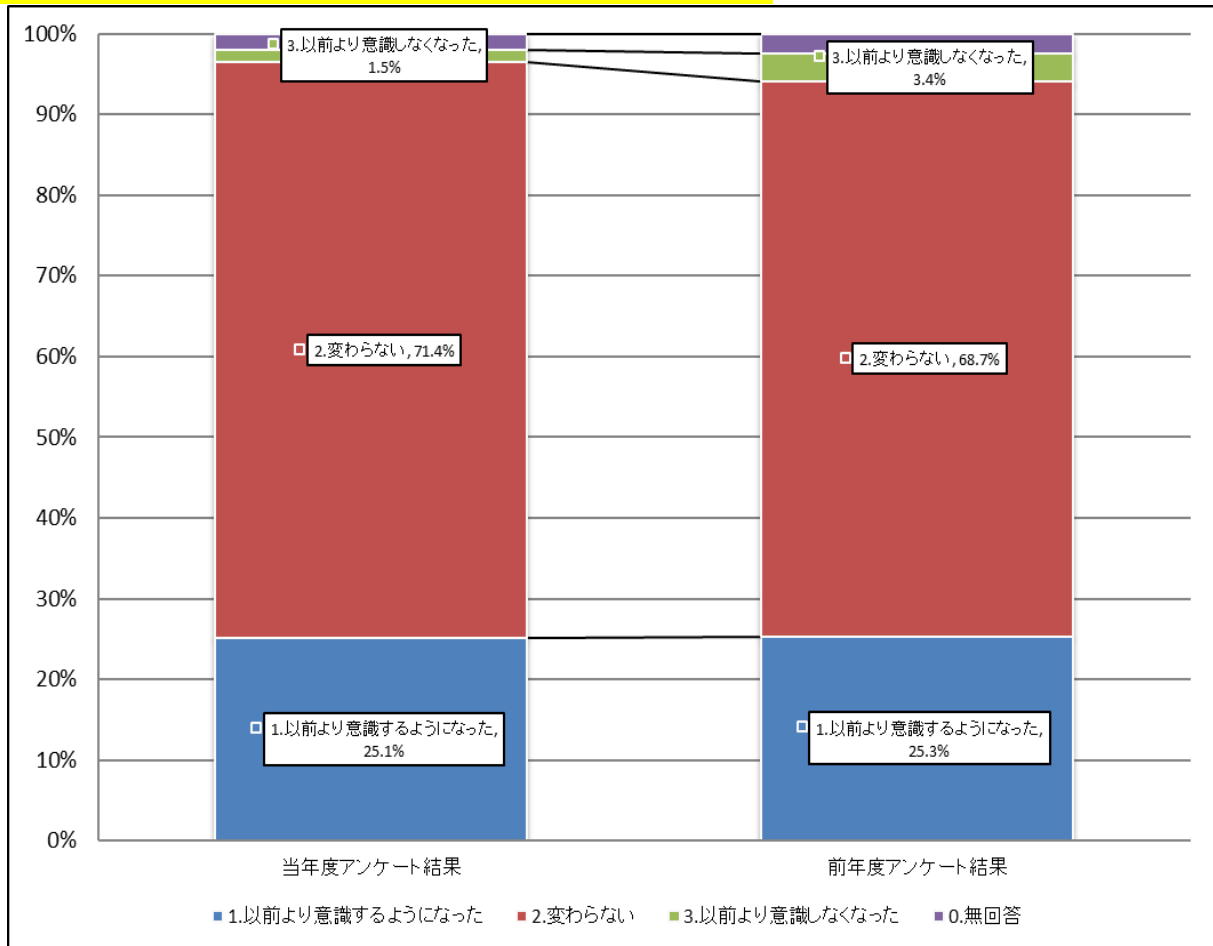
また、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性10歳代・40歳代ともに(50.0%)、女性60歳代(48.8%)であり、一方で最も多い世代は、男性20歳代(85.0%)、女性20歳代(73.0%)となっています。世代によって差があることがうかがえます。

地区別



地区別にみると、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計が最も少ないのは、岡部地区(50.7%)であり、次いで南地区(51.0%)となっています。最も多いのは花園地区(68.0%)であり、次いで川本地区(65.0%)となっています。

男女共同参画の意識は以前と比べて変化していますか。



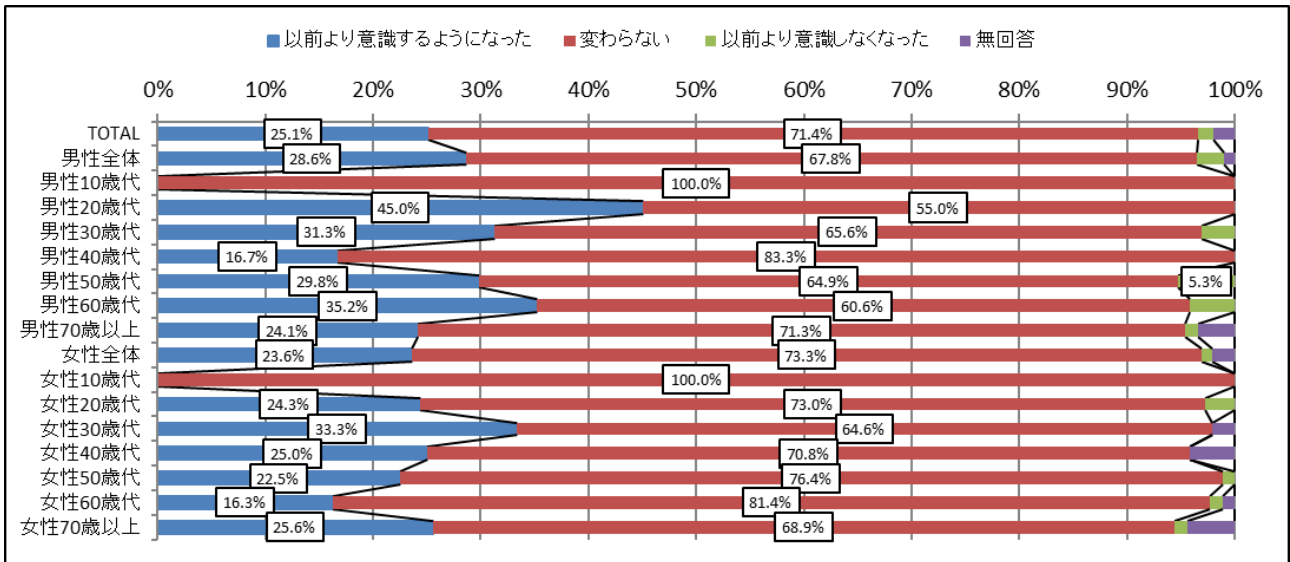
「変わらない」と回答した人の割合が 71.4%と最も多く、次いで「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が 25.1%、「以前より意識しなくなった」と回答した人の割合が最も少なく 1.5%となっています。

男女共同参画に対する意識は、以前から「変わらない」と感じている市民が7割以上を占めていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合は 25.3%であり、「前年度アンケート」と比較してほぼ変化はありませんでした。

母集団		以前より意識するようになった	変わらない	以前より意識しなくなった	無回答	合計
TOTAL	809	25.1%	71.4%	1.5%	2.0%	100.0%
男性全体	311	28.6%	67.8%	2.6%	1.0%	100.0%
男性10歳代	2	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	20	45.0%	55.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	32	31.3%	65.6%	3.1%	0.0%	100.0%
男性40歳代	42	16.7%	83.3%	0.0%	0.0%	100.0%
男性50歳代	57	29.8%	64.9%	5.3%	0.0%	100.0%
男性60歳代	71	35.2%	60.6%	4.2%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	87	24.1%	71.3%	1.1%	3.4%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—
女性全体	424	23.6%	73.3%	0.9%	2.1%	100.0%
女性10歳代	2	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	37	24.3%	73.0%	2.7%	0.0%	100.0%
女性30歳代	48	33.3%	64.6%	0.0%	2.1%	100.0%
女性40歳代	72	25.0%	70.8%	0.0%	4.2%	100.0%
女性50歳代	89	22.5%	76.4%	1.1%	0.0%	100.0%
女性60歳代	86	16.3%	81.4%	1.2%	1.2%	100.0%
女性70歳以上	90	25.6%	68.9%	1.1%	4.4%	100.0%
女性年齢不詳		—	—	—	—	—
深谷地区	194	22.7%	74.2%	1.5%	1.5%	100.0%
藤沢地区	61	21.3%	70.5%	0.0%	8.2%	100.0%
幡羅地区	85	22.4%	77.6%	0.0%	0.0%	100.0%
明戸地区	28	35.7%	57.1%	0.0%	7.1%	100.0%
大寄地区	25	28.0%	60.0%	8.0%	4.0%	100.0%
八基地区	15	53.3%	46.7%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	32.0%	60.0%	4.0%	4.0%	100.0%
上柴地区	94	26.6%	71.3%	1.1%	1.1%	100.0%
南地区	49	20.4%	71.4%	6.1%	2.0%	100.0%
岡部地区	77	24.7%	72.7%	2.6%	0.0%	100.0%
川本地区	63	25.4%	74.6%	0.0%	0.0%	100.0%
花園地区	75	26.7%	70.7%	0.0%	2.7%	100.0%
無回答	18	22.2%	77.8%	0.0%	0.0%	100.0%

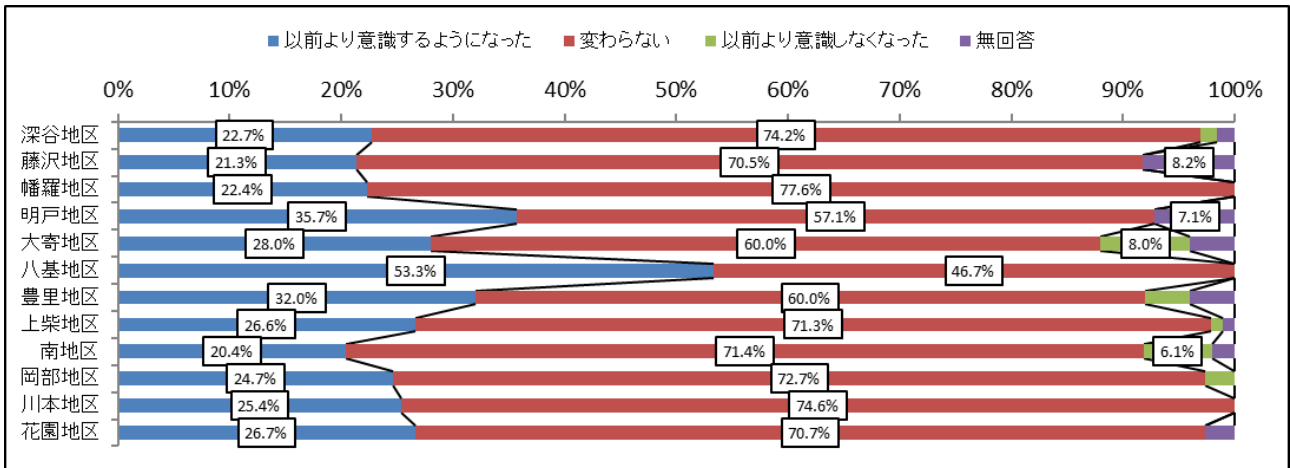
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合は、男性が 28.6%であるのに対して、女性は 23.6%となっています。男女間で 5 ポイントの差があることがうかがえます。

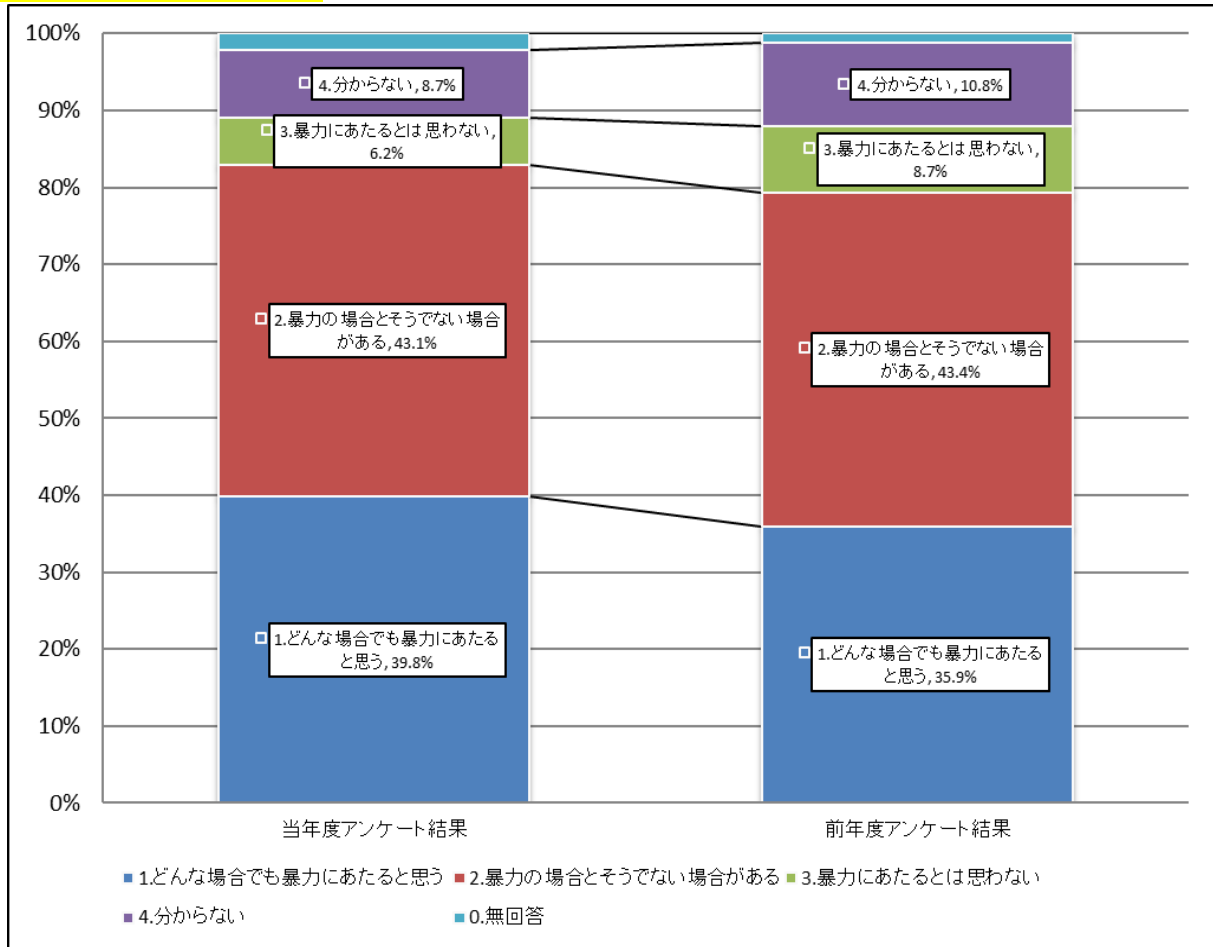
また、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性 10 歳代 (0.0%)、女性 10 歳代 (0.0%) であり、一方で最も多い世代は、男性 20 歳代 (45.0%)、女性 30 歳代 (33.3%) となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が最も少ないのは、南地区 (20.4%) であり、次いで藤沢地区 (21.3%) となっています。最も多いのは八基地区 (53.3%) であり、次いで明戸地区 (35.7%) となっています。

配偶者などによる「電話、メール等の細かい監視」「生活費を渡さない」などの行為が暴力であると思いますか。



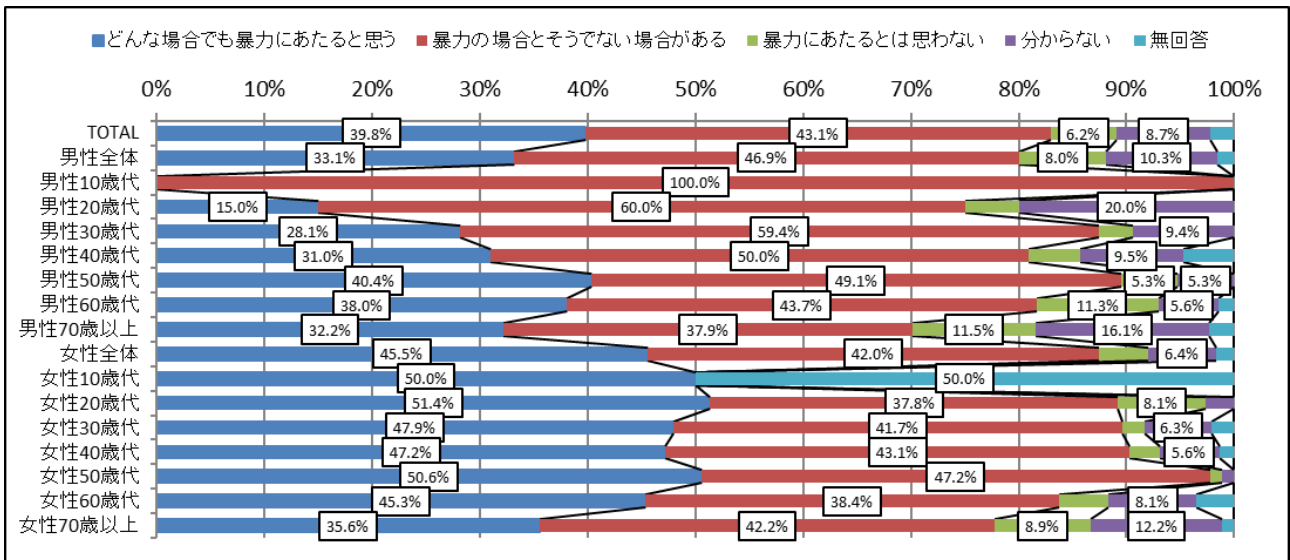
「暴力の場合とそうでない場合がある」と回答した人の割合が 43.1%と最も多く、次いで「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した人の割合が 39.8%、「分からない」と回答した人の割合が 8.7%、「暴力にあたるとは思わない」と回答した人の割合が最も少なく 6.2%となっています。

「どんな場合でも暴力にあたると思う」または「暴力の場合とそうでない場合がある」と回答した人の割合の合計は 82.9%であり、8 割以上の市民が、配偶者などによる「電話、メール等の細かい監視」「生活費を渡さない」などの行為が暴力であると感じていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」または「暴力の場合とそうでない場合がある」と回答した人の割合の合計は 79.3%であり、「前年度アンケート」と比較して増加しています。

母集団		暴力にあたると思う どんな場合でも	そうでない場合がある 暴力の場合と	暴力にあたるとは思わない	分からない	無回答	合計
TOTAL	809	39.8%	43.1%	6.2%	8.7%	2.2%	100.0%
男性全体	311	33.1%	46.9%	8.0%	10.3%	1.6%	100.0%
男性10歳代	2	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	20	15.0%	60.0%	5.0%	20.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	32	28.1%	59.4%	3.1%	9.4%	0.0%	100.0%
男性40歳代	42	31.0%	50.0%	4.8%	9.5%	4.8%	100.0%
男性50歳代	57	40.4%	49.1%	5.3%	5.3%	0.0%	100.0%
男性60歳代	71	38.0%	43.7%	11.3%	5.6%	1.4%	100.0%
男性70歳以上	87	32.2%	37.9%	11.5%	16.1%	2.3%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	424	45.5%	42.0%	4.5%	6.4%	1.7%	100.0%
女性10歳代	2	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	100.0%
女性20歳代	37	51.4%	37.8%	8.1%	2.7%	0.0%	100.0%
女性30歳代	48	47.9%	41.7%	2.1%	6.3%	2.1%	100.0%
女性40歳代	72	47.2%	43.1%	2.8%	5.6%	1.4%	100.0%
女性50歳代	89	50.6%	47.2%	1.1%	1.1%	0.0%	100.0%
女性60歳代	86	45.3%	38.4%	4.7%	8.1%	3.5%	100.0%
女性70歳以上	90	35.6%	42.2%	8.9%	12.2%	1.1%	100.0%
女性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
深谷地区	194	40.7%	42.3%	6.2%	8.2%	2.6%	100.0%
藤沢地区	61	37.7%	37.7%	6.6%	9.8%	8.2%	100.0%
幡羅地区	85	31.8%	50.6%	3.5%	12.9%	1.2%	100.0%
明戸地区	28	46.4%	32.1%	7.1%	14.3%	0.0%	100.0%
大寄地区	25	32.0%	44.0%	12.0%	8.0%	4.0%	100.0%
八基地区	15	53.3%	40.0%	0.0%	6.7%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	44.0%	36.0%	8.0%	4.0%	8.0%	100.0%
上柴地区	94	42.6%	35.1%	11.7%	8.5%	2.1%	100.0%
南地区	49	49.0%	40.8%	6.1%	4.1%	0.0%	100.0%
岡部地区	77	35.1%	53.2%	1.3%	10.4%	0.0%	100.0%
川本地区	63	41.3%	50.8%	6.3%	1.6%	0.0%	100.0%
花園地区	75	40.0%	42.7%	6.7%	9.3%	1.3%	100.0%
無回答	18	33.3%	44.4%	0.0%	16.7%	5.6%	100.0%

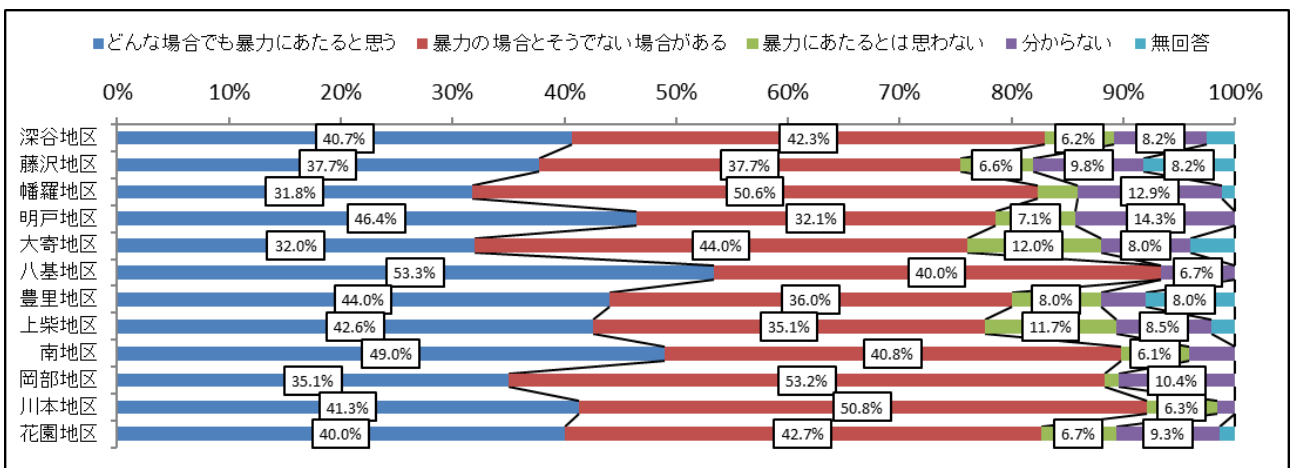
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」または「暴力の場合とそうでない場合がある」と回答した人の割合の合計は、男性が 80.0%であるのに対して、女性は 87.5%となっています。

また、「どんな場合でも暴力にあたると思う」または「暴力の場合とそうでない場合がある」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性 70 歳以上 (70.1%)、女性 10 歳代 (50.0%) であり、一方で最も多い世代は、男性 10 歳代 (100.0%)、女性 50 歳代 (97.8%) となっています。

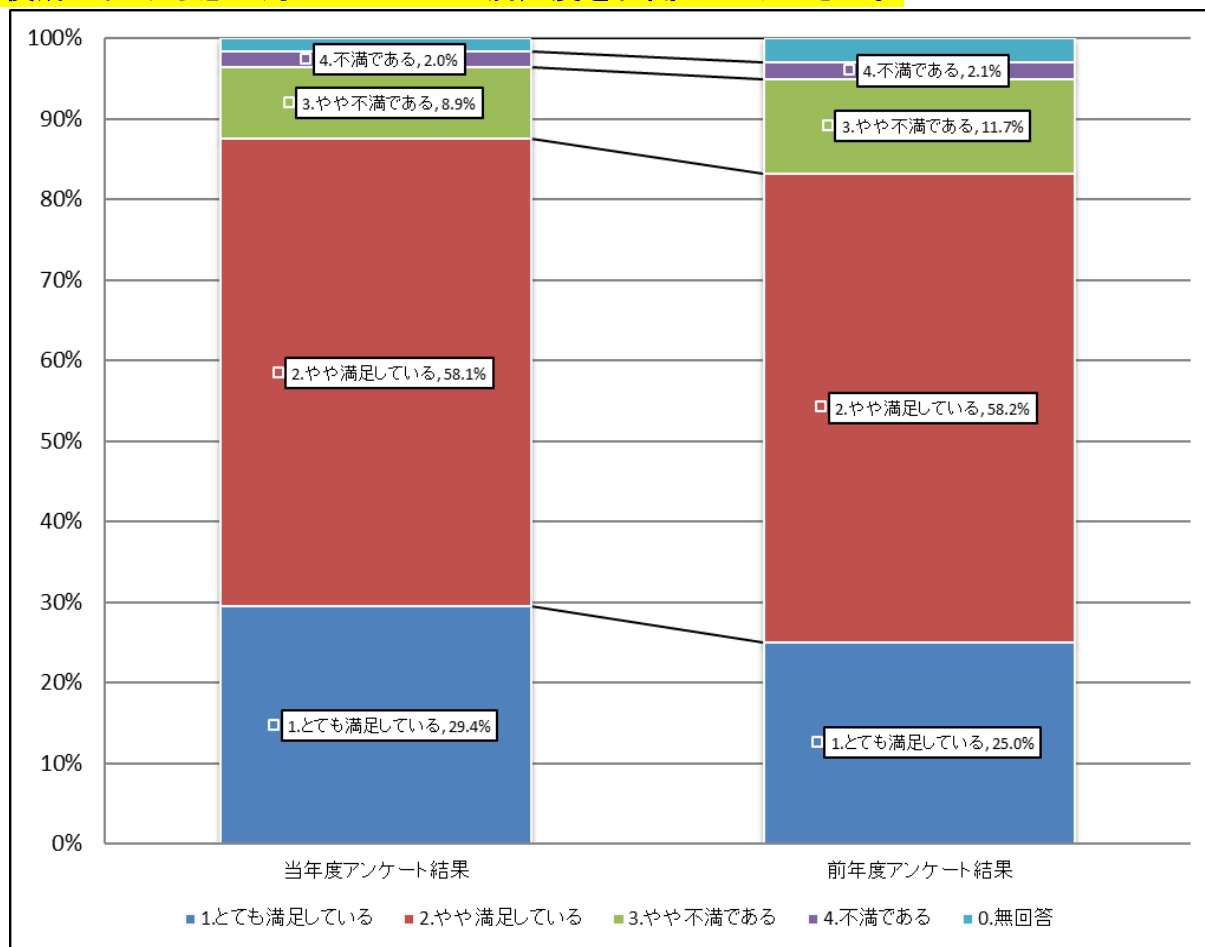
➤ 地区別



地区別にみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」または「暴力の場合とそうでない場合がある」と回答した人の割合の合計が最も少ないのは、藤沢地区 (75.4%) であり、次いで大寄地区 (76.0%) となっています。最も多いのは八基地区 (93.3%) であり、次いで川本地区 (92.1%) となっています。

③ 市民と行政との協働のまちづくり（7. 問8～9）

市役所における窓口対応についての満足度をお聞かせください。



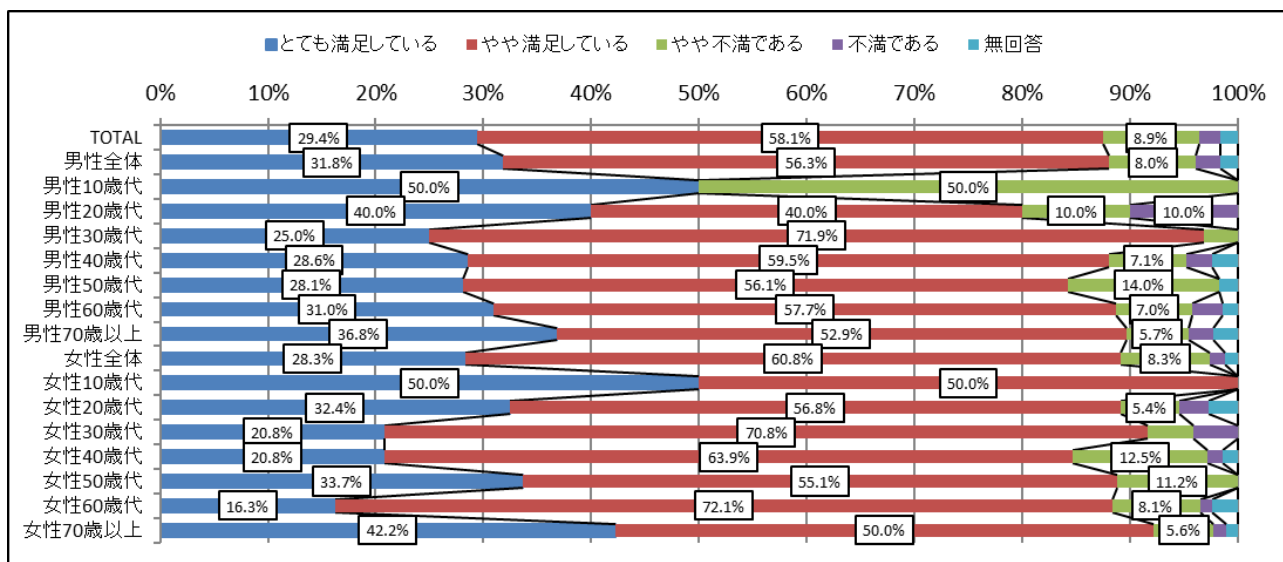
「やや満足している」と回答した人の割合が 58.1%と最も多く、次いで「とても満足している」と回答した人の割合が 29.4%、「やや不満である」と回答した人の割合が 8.9%、「不満である」が最も少なく 2.0%となっています。

「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合の合計は 87.5%であり、9 割近くの市民が市役所窓口の対応について満足していることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合の合計は 83.2%であり、「前年度アンケート」と比較して増加しています。

母集団		とても満足している	やや満足している	やや不満である	不満である	無回答	合計
TOTAL	809	29.4%	58.1%	8.9%	2.0%	1.6%	100.0%
男性全体	311	31.8%	56.3%	8.0%	2.3%	1.6%	100.0%
男性10歳代	2	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	20	40.0%	40.0%	10.0%	10.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	32	25.0%	71.9%	3.1%	0.0%	0.0%	100.0%
男性40歳代	42	28.6%	59.5%	7.1%	2.4%	2.4%	100.0%
男性50歳代	57	28.1%	56.1%	14.0%	0.0%	1.8%	100.0%
男性60歳代	71	31.0%	57.7%	7.0%	2.8%	1.4%	100.0%
男性70歳以上	87	36.8%	52.9%	5.7%	2.3%	2.3%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	424	28.3%	60.8%	8.3%	1.4%	1.2%	100.0%
女性10歳代	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	37	32.4%	56.8%	5.4%	2.7%	2.7%	100.0%
女性30歳代	48	20.8%	70.8%	4.2%	4.2%	0.0%	100.0%
女性40歳代	72	20.8%	63.9%	12.5%	1.4%	1.4%	100.0%
女性50歳代	89	33.7%	55.1%	11.2%	0.0%	0.0%	100.0%
女性60歳代	86	16.3%	72.1%	8.1%	1.2%	2.3%	100.0%
女性70歳以上	90	42.2%	50.0%	5.6%	1.1%	1.1%	100.0%
女性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
深谷地区	194	29.4%	58.8%	9.3%	1.5%	1.0%	100.0%
藤沢地区	61	31.1%	54.1%	8.2%	1.6%	4.9%	100.0%
幡羅地区	85	29.4%	56.5%	10.6%	2.4%	1.2%	100.0%
明戸地区	28	39.3%	53.6%	3.6%	0.0%	3.6%	100.0%
大寄地区	25	32.0%	48.0%	12.0%	8.0%	0.0%	100.0%
八基地区	15	46.7%	40.0%	13.3%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	40.0%	52.0%	4.0%	0.0%	4.0%	100.0%
上柴地区	94	28.7%	61.7%	4.3%	3.2%	2.1%	100.0%
南地区	49	28.6%	57.1%	8.2%	2.0%	4.1%	100.0%
岡部地区	77	29.9%	55.8%	13.0%	1.3%	0.0%	100.0%
川本地区	63	25.4%	63.5%	9.5%	1.6%	0.0%	100.0%
花園地区	75	21.3%	66.7%	8.0%	2.7%	1.3%	100.0%
無回答	18	27.8%	55.6%	16.7%	0.0%	0.0%	100.0%

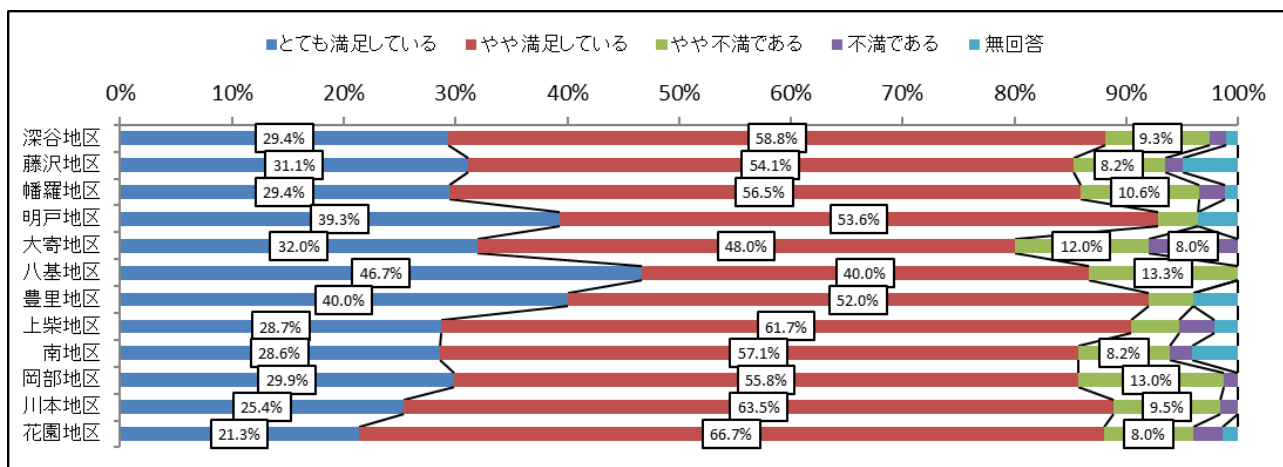
性別・世代別



性別・世代別にみると、「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合の合計は、男性が88.1%であるのに対して、女性は89.1%となっています。

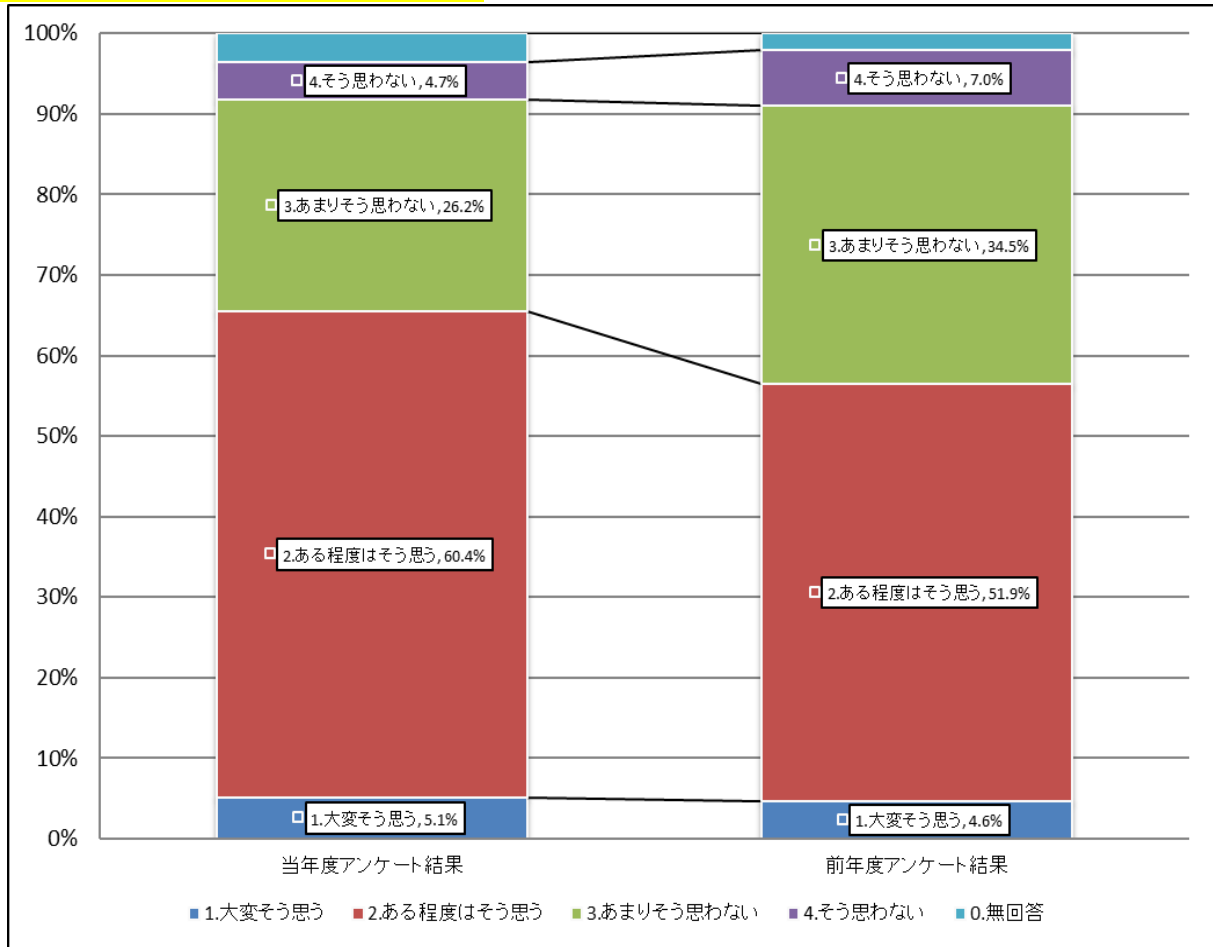
また、「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性10歳代(50.0%)、女性40歳代(84.7%)であり、一方で、最も多い世代は、男性30歳代(96.9%)、女性10歳代(100.0%)となっています。

地区別



地区別にみると、「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合の合計が最も少ないのは、大寄地区(80.0%)であり、次いで藤沢地区(85.2%)となっています。最も多いのは明戸地区(92.9%)であり、次いで豊里地区(92.0%)となっています。

市内において、市民と行政が互いに力を出し合い地域課題を解決すること（協働のまちづくり）ができていると思いますか。



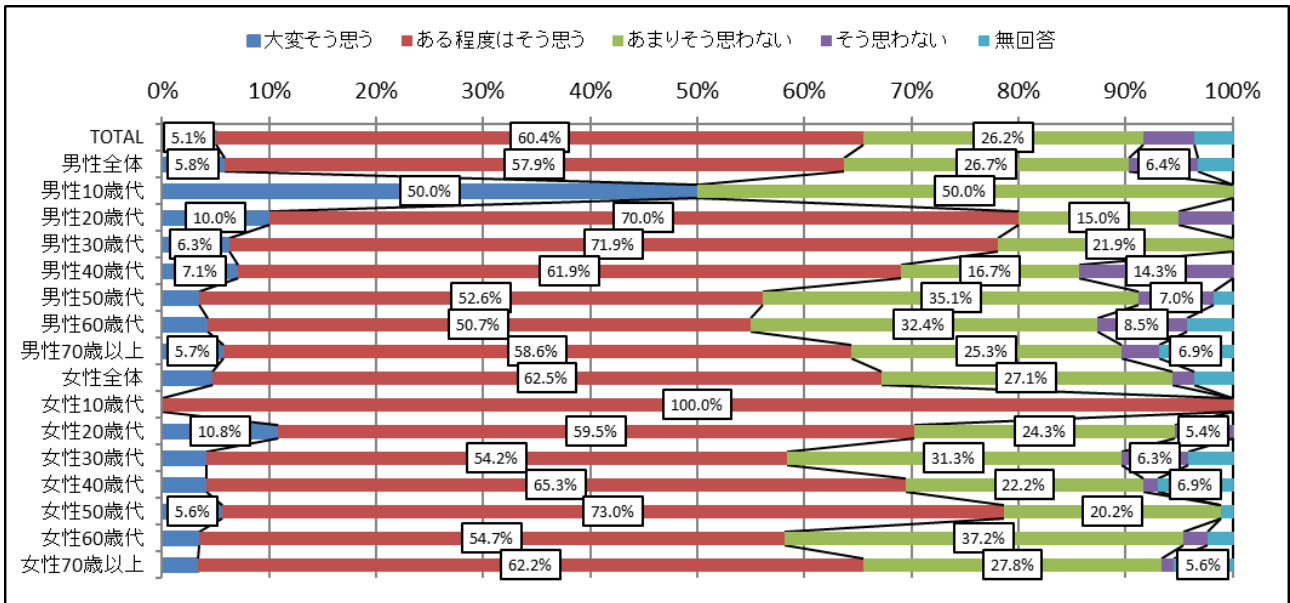
「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が 60.4%と最も多く、次いで「あまりそう思わない」と回答した人の割合が 26.2%、「大変そう思う」と回答した人の割合が 5.1%、「そう思わない」と回答した人の割合が最も少なく 4.7%となっています。

「大変そう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は 65.5%であり、7割近くの市民が市内において、市民と行政が互いに力を出し合い地域課題を解決することができていると感じていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は 56.5%であり、「前年度アンケート」と比較して増加しています。

母集団		大変そう思う	ある程度はそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	合計
TOTAL	809	5.1%	60.4%	26.2%	4.7%	3.6%	100.0%
男性全体	311	5.8%	57.9%	26.7%	6.4%	3.2%	100.0%
男性10歳代	2	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	20	10.0%	70.0%	15.0%	5.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	32	6.3%	71.9%	21.9%	0.0%	0.0%	100.0%
男性40歳代	42	7.1%	61.9%	16.7%	14.3%	0.0%	100.0%
男性50歳代	57	3.5%	52.6%	35.1%	7.0%	1.8%	100.0%
男性60歳代	71	4.2%	50.7%	32.4%	8.5%	4.2%	100.0%
男性70歳以上	87	5.7%	58.6%	25.3%	3.4%	6.9%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
女性全体	424	4.7%	62.5%	27.1%	2.1%	3.5%	100.0%
女性10歳代	2	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	37	10.8%	59.5%	24.3%	5.4%	0.0%	100.0%
女性30歳代	48	4.2%	54.2%	31.3%	6.3%	4.2%	100.0%
女性40歳代	72	4.2%	65.3%	22.2%	1.4%	6.9%	100.0%
女性50歳代	89	5.6%	73.0%	20.2%	0.0%	1.1%	100.0%
女性60歳代	86	3.5%	54.7%	37.2%	2.3%	2.3%	100.0%
女性70歳以上	90	3.3%	62.2%	27.8%	1.1%	5.6%	100.0%
女性年齢不詳		—	—	—	—	—	—
深谷地区	194	4.1%	60.8%	27.3%	3.6%	4.1%	100.0%
藤沢地区	61	1.6%	70.5%	16.4%	4.9%	6.6%	100.0%
幡羅地区	85	8.2%	61.2%	24.7%	4.7%	1.2%	100.0%
明戸地区	28	14.3%	53.6%	25.0%	0.0%	7.1%	100.0%
大寄地区	25	0.0%	44.0%	40.0%	8.0%	8.0%	100.0%
八基地区	15	20.0%	46.7%	20.0%	6.7%	6.7%	100.0%
豊里地区	25	8.0%	56.0%	28.0%	4.0%	4.0%	100.0%
上柴地区	94	4.3%	68.1%	18.1%	4.3%	5.3%	100.0%
南地区	49	0.0%	61.2%	36.7%	0.0%	2.0%	100.0%
岡部地区	77	7.8%	50.6%	31.2%	9.1%	1.3%	100.0%
川本地区	63	3.2%	65.1%	30.2%	1.6%	0.0%	100.0%
花園地区	75	4.0%	54.7%	29.3%	9.3%	2.7%	100.0%
無回答	18	5.6%	77.8%	5.6%	5.6%	5.6%	100.0%

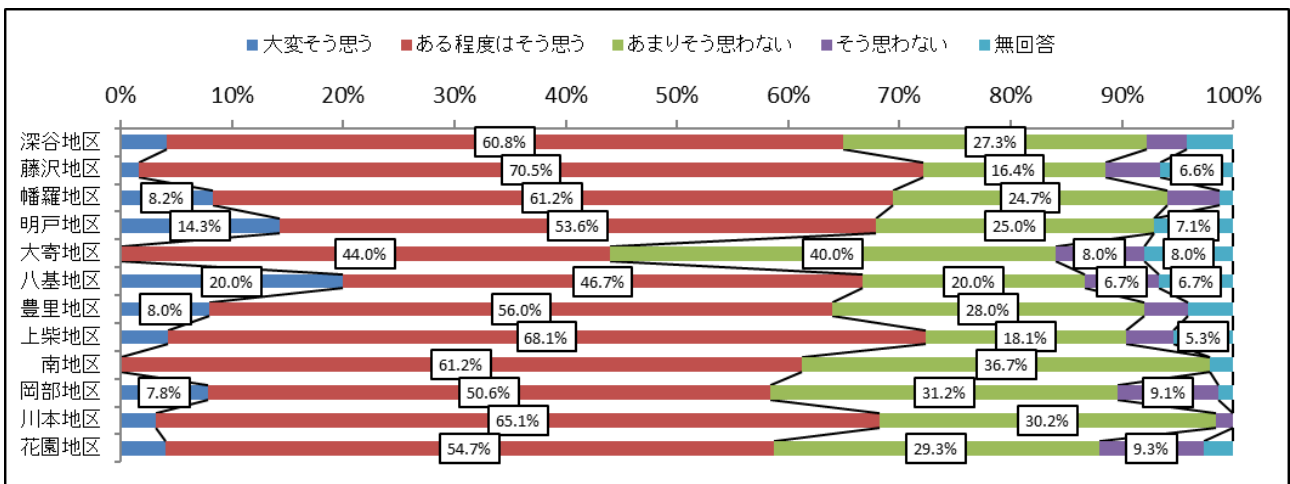
性別・世代別



性別・世代別にみると、「大変そう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は、男性が63.7%であるのに対して、女性は67.2%となっています。

また、「大変そう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性10歳代（50.0%）、女性60歳代（58.2%）であり、一方で最も多い世代は、男性20歳代（80.0%）、女性10歳代（100.0%）となっています。

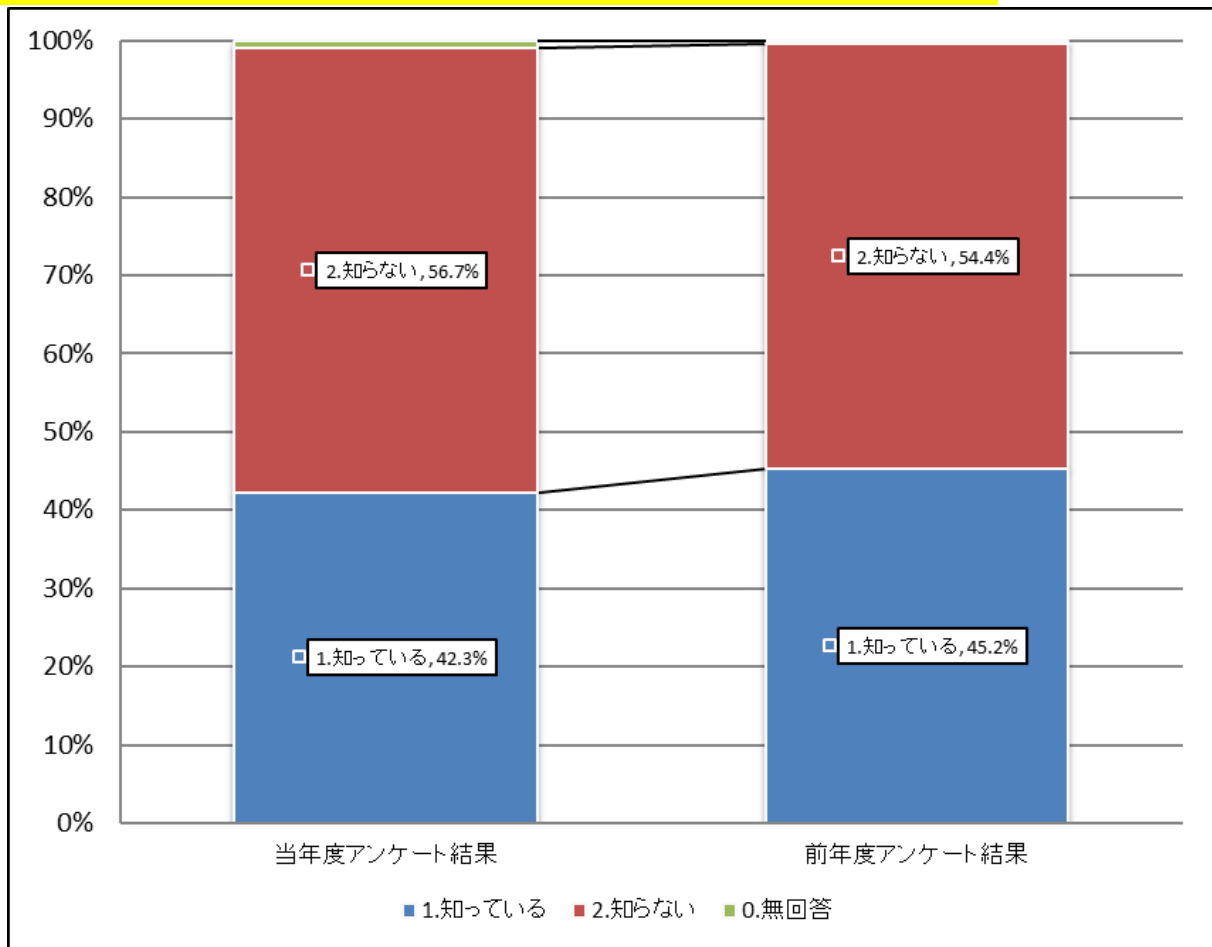
地区別



地区別にみると、「大変そう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計が最も少ないのは、大寄地区（44.0%）であり、次いで岡部地区（58.4%）となっています。最も多いのは上柴地区（72.4%）であり、次いで藤沢地区（72.1%）となっています。

④ 絆でつながるひとづくり（7. 問10～12）

市民ガーデニングボランティア、王国ボランティアを知っていますか。



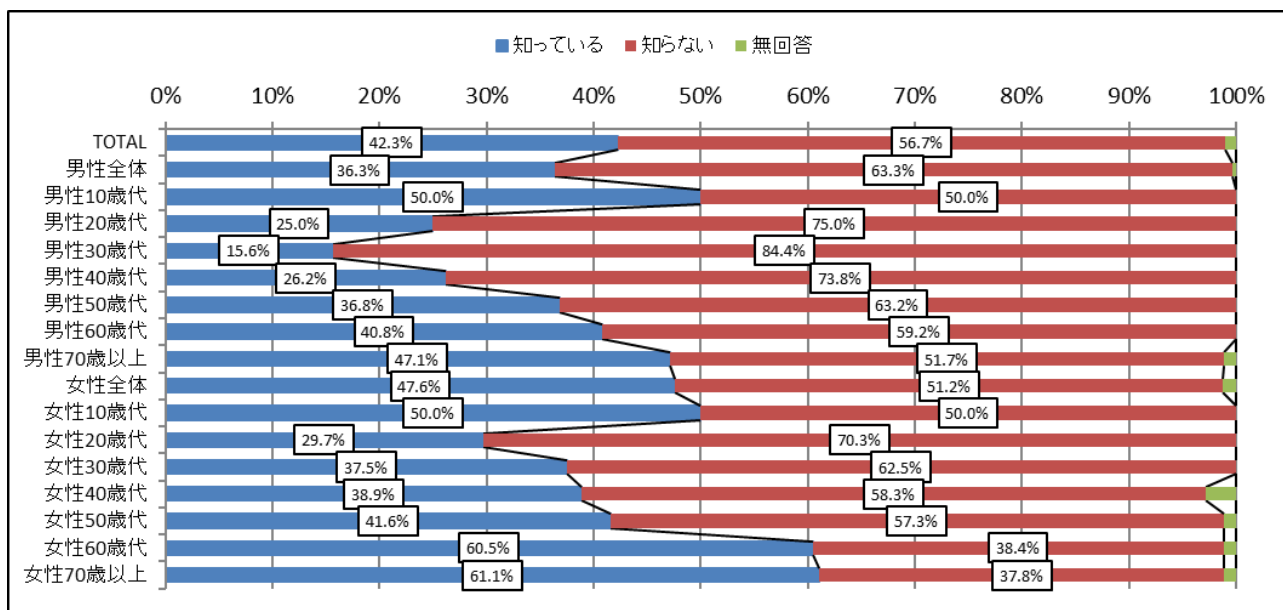
「知っている」と回答した人の割合は42.3%、「知らない」と回答した人の割合は56.7%となっています。

市民ガーデニングボランティア、王国ボランティアを知っている市民は約4割という状況がうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「知っている」と回答した人の割合は45.2%であり、「前年度アンケート」と比較して僅かに減少しています。

母集団		知っている	知らない	無回答	合計
TOTAL	809	42.3%	56.7%	1.0%	100.0%
男性全体	311	36.3%	63.3%	0.3%	100.0%
男性10歳代	2	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	20	25.0%	75.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	32	15.6%	84.4%	0.0%	100.0%
男性40歳代	42	26.2%	73.8%	0.0%	100.0%
男性50歳代	57	36.8%	63.2%	0.0%	100.0%
男性60歳代	71	40.8%	59.2%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	87	47.1%	51.7%	1.1%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—
女性全体	424	47.6%	51.2%	1.2%	100.0%
女性10歳代	2	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	37	29.7%	70.3%	0.0%	100.0%
女性30歳代	48	37.5%	62.5%	0.0%	100.0%
女性40歳代	72	38.9%	58.3%	2.8%	100.0%
女性50歳代	89	41.6%	57.3%	1.1%	100.0%
女性60歳代	86	60.5%	38.4%	1.2%	100.0%
女性70歳以上	90	61.1%	37.8%	1.1%	100.0%
女性年齢不詳		—	—	—	—
深谷地区	194	37.6%	62.4%	0.0%	100.0%
藤沢地区	61	55.7%	41.0%	3.3%	100.0%
幡羅地区	85	43.5%	55.3%	1.2%	100.0%
明戸地区	28	35.7%	64.3%	0.0%	100.0%
大寄地区	25	56.0%	44.0%	0.0%	100.0%
八基地区	15	46.7%	53.3%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	48.0%	48.0%	4.0%	100.0%
上柴地区	94	46.8%	53.2%	0.0%	100.0%
南地区	49	61.2%	38.8%	0.0%	100.0%
岡部地区	77	36.4%	62.3%	1.3%	100.0%
川本地区	63	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%
花園地区	75	34.7%	62.7%	2.7%	100.0%
無回答	18	33.3%	61.1%	5.6%	100.0%

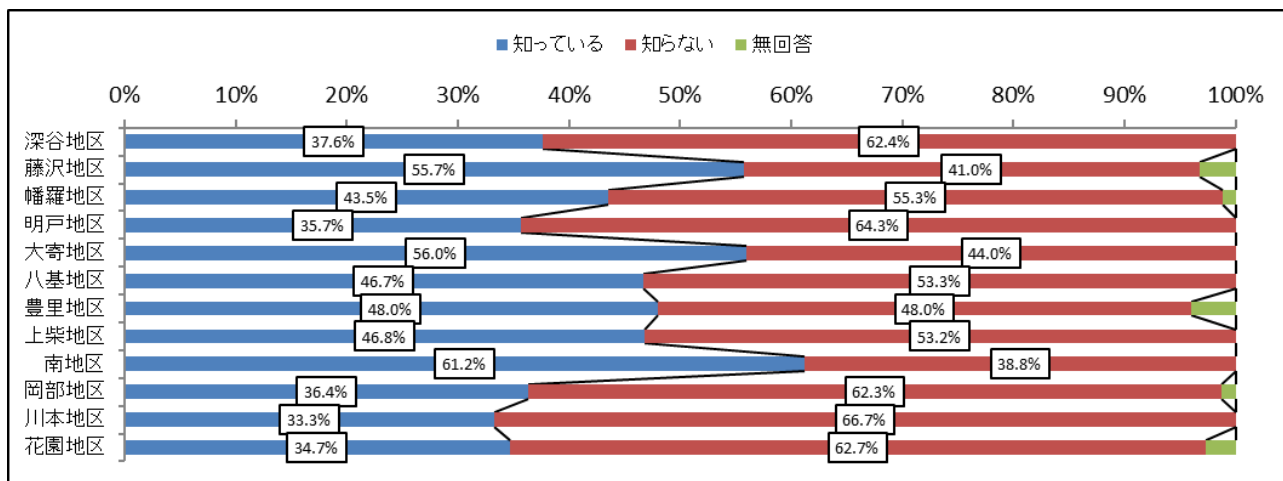
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「知っている」と回答した人の割合は、男性が 36.3%であるのに対して、女性は 47.6%と男女によって差があることがうかがえます。

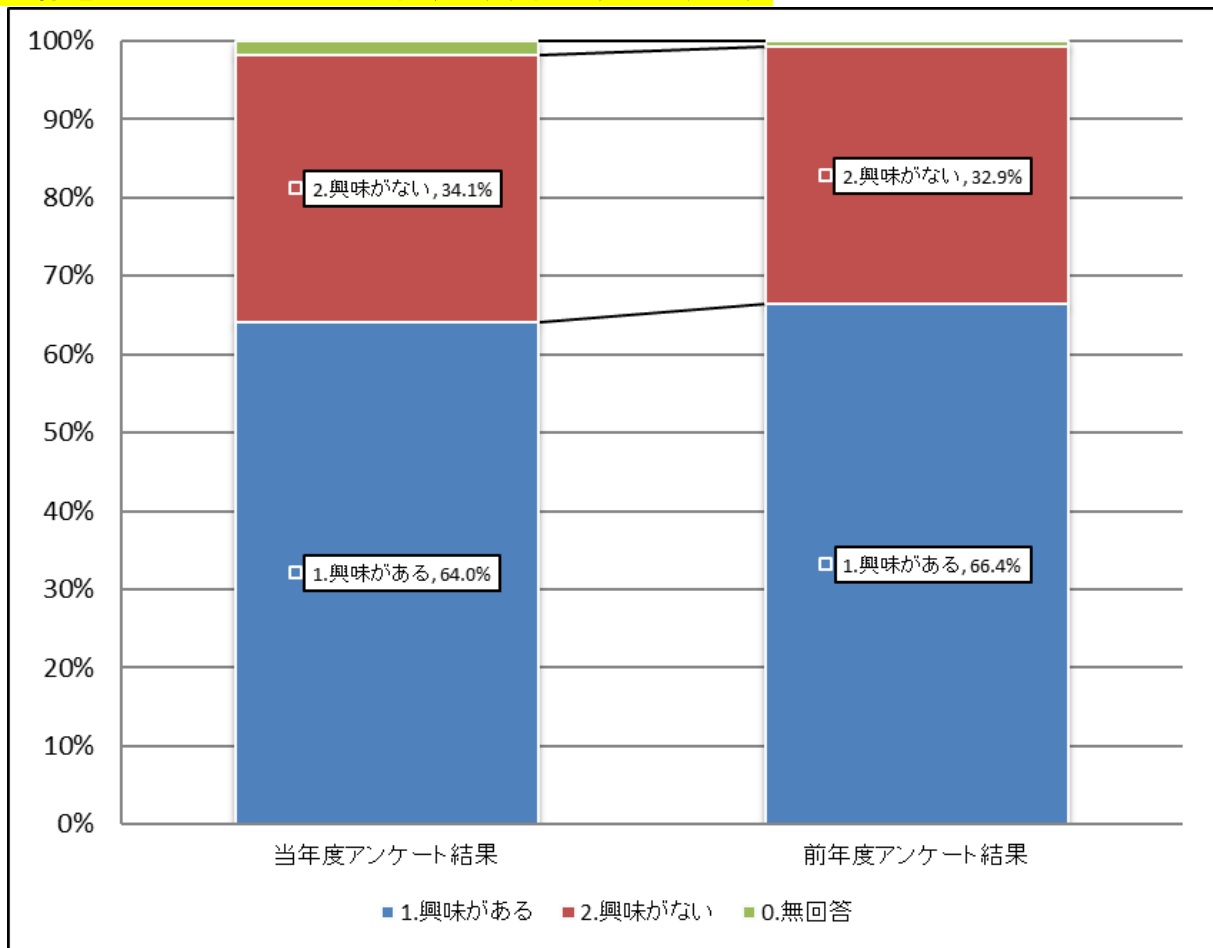
また、「知っている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性 30 歳代 (15.6%)、女性 20 歳代 (29.7%) であり、一方で最も多い世代は、男性 10 歳代 (50.0%)、女性 70 歳以上 (61.1%) となっています。世代によっても結果に差があることがうかがえます。

➤ 地区別



地区別にみると、「知っている」と回答した人の割合が最も少ないのは、川本地区 (33.3%) であり、次いで花園地区 (34.7%) となっています。最も多いのは南地区 (61.2%) であり、次いで大寄地区 (56.0%) となっています。

花と緑をいかしたまちづくり活動に興味はありますか。



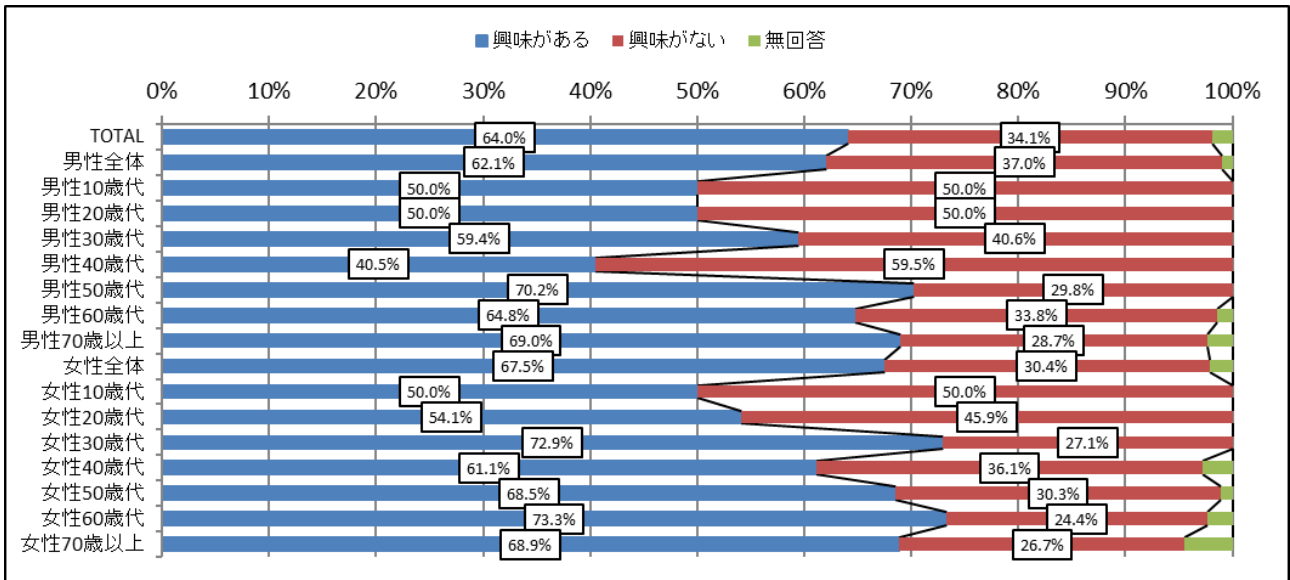
「興味がある」と回答した人の割合は 64.0%、「興味がない」と回答した人の割合は 34.1%となっています。

6 割以上の市民が花と緑をいかしたまちづくり活動に興味を持っていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「興味がある」と回答した人の割合は 66.4%であり、「前年度アンケート」と比較して僅かに減少しています。

母集団		興味がある	興味がない	無回答	合計
TOTAL	809	64.0%	34.1%	1.9%	100.0%
男性全体	311	62.1%	37.0%	1.0%	100.0%
男性10歳代	2	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	20	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	32	59.4%	40.6%	0.0%	100.0%
男性40歳代	42	40.5%	59.5%	0.0%	100.0%
男性50歳代	57	70.2%	29.8%	0.0%	100.0%
男性60歳代	71	64.8%	33.8%	1.4%	100.0%
男性70歳以上	87	69.0%	28.7%	2.3%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—
女性全体	424	67.5%	30.4%	2.1%	100.0%
女性10歳代	2	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	37	54.1%	45.9%	0.0%	100.0%
女性30歳代	48	72.9%	27.1%	0.0%	100.0%
女性40歳代	72	61.1%	36.1%	2.8%	100.0%
女性50歳代	89	68.5%	30.3%	1.1%	100.0%
女性60歳代	86	73.3%	24.4%	2.3%	100.0%
女性70歳以上	90	68.9%	26.7%	4.4%	100.0%
女性年齢不詳		—	—	—	—
深谷地区	194	62.9%	35.1%	2.1%	100.0%
藤沢地区	61	59.0%	36.1%	4.9%	100.0%
幡羅地区	85	62.4%	36.5%	1.2%	100.0%
明戸地区	28	67.9%	32.1%	0.0%	100.0%
大寄地区	25	76.0%	20.0%	4.0%	100.0%
八基地区	15	86.7%	13.3%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	64.0%	32.0%	4.0%	100.0%
上柴地区	94	70.2%	28.7%	1.1%	100.0%
南地区	49	65.3%	30.6%	4.1%	100.0%
岡部地区	77	59.7%	39.0%	1.3%	100.0%
川本地区	63	63.5%	36.5%	0.0%	100.0%
花園地区	75	65.3%	34.7%	0.0%	100.0%
無回答	18	38.9%	55.6%	5.6%	100.0%

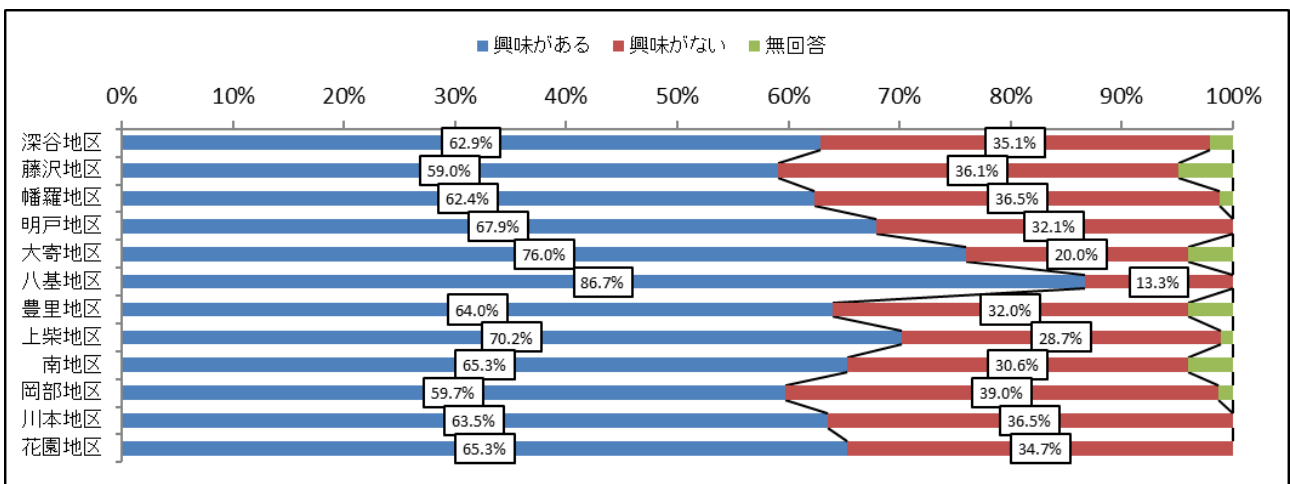
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「興味がある」と回答した人の割合は、男性が 62.1%であるのに対して、女性は 67.5%となっています。

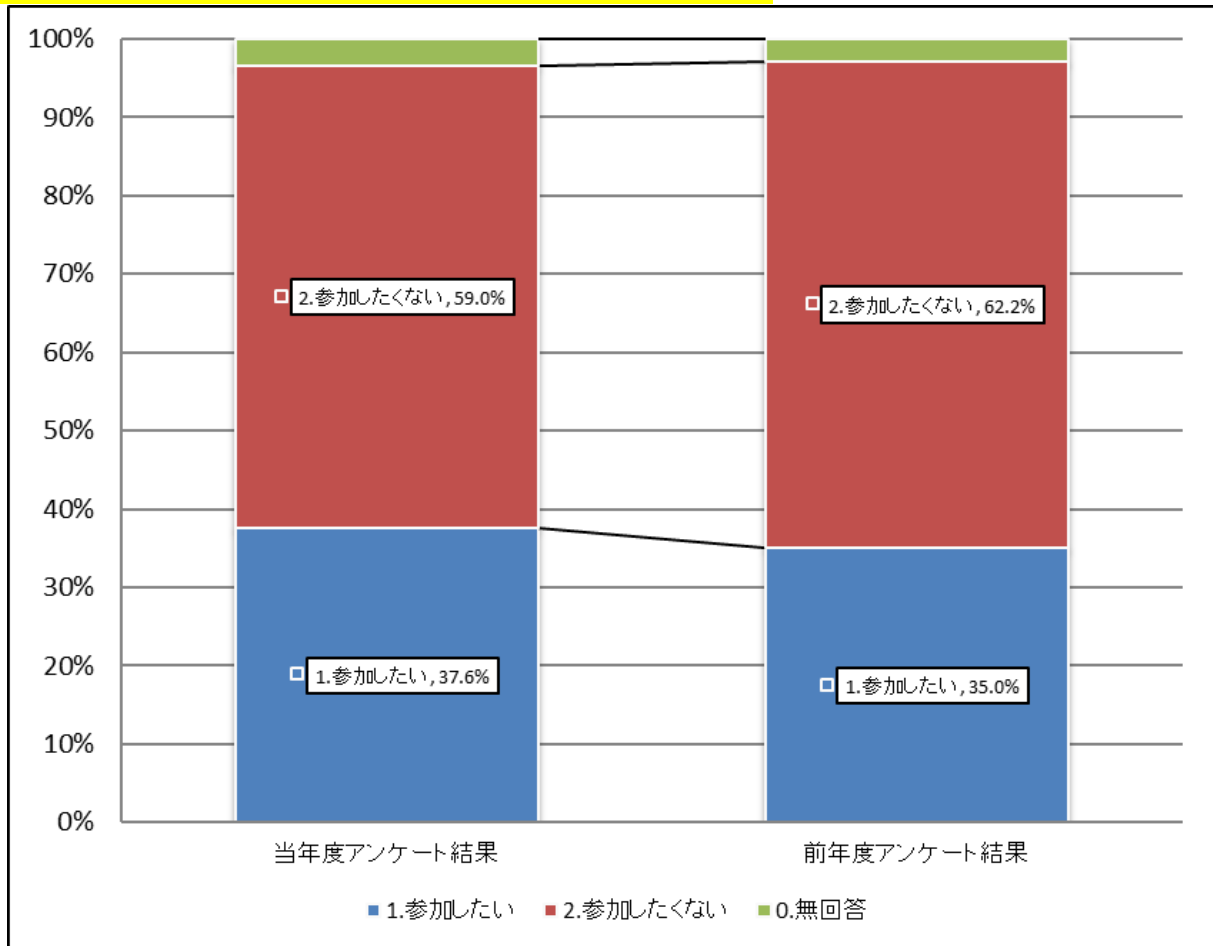
また、「興味がある」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性 40 歳代 (40.5%)、女性 10 歳代 (50.0%) であり、最も多い世代は、男性 50 歳代 (70.2%)、女性 60 歳代 (73.3%) となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「興味がある」と回答した人の割合が最も少ないのは、藤沢地区 (59.0%) であり、次いで岡部地区 (59.7%) となっています。最も多いのは八基地区 (86.7%) であり、次いで大寄地区 (76.0%) となっています。

花と緑をいかしたまちづくり活動に参加したいですか。



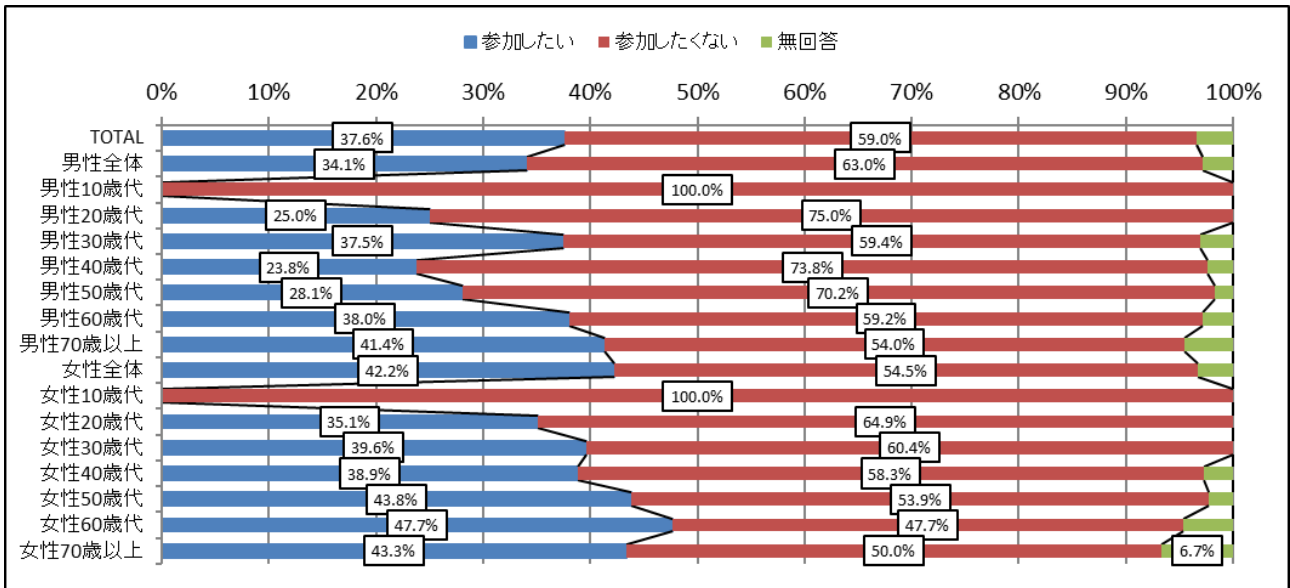
「参加したい」と回答した人の割合は 37.6%であり、「参加したくない」と回答した人の割合は 59.0%となっています。

前問の「花と緑をいかしたまちづくり活動に興味はありますか。」に対して、「興味がある」と回答した人は全体の 6 割以上を占めるものの、実際に活動に参加したい市民は 4 割未満にとどまっているという状況がうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「参加したい」と回答した人の割合は 35.0%であり、「前年度アンケート」と比較して僅かに増加しています。

母集団		参加したい	参加したくない	無回答	合計
TOTAL	809	37.6%	59.0%	3.5%	100.0%
男性全体	311	34.1%	63.0%	2.9%	100.0%
男性10歳代	2	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	20	25.0%	75.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	32	37.5%	59.4%	3.1%	100.0%
男性40歳代	42	23.8%	73.8%	2.4%	100.0%
男性50歳代	57	28.1%	70.2%	1.8%	100.0%
男性60歳代	71	38.0%	59.2%	2.8%	100.0%
男性70歳以上	87	41.4%	54.0%	4.6%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—
女性全体	424	42.2%	54.5%	3.3%	100.0%
女性10歳代	2	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	37	35.1%	64.9%	0.0%	100.0%
女性30歳代	48	39.6%	60.4%	0.0%	100.0%
女性40歳代	72	38.9%	58.3%	2.8%	100.0%
女性50歳代	89	43.8%	53.9%	2.2%	100.0%
女性60歳代	86	47.7%	47.7%	4.7%	100.0%
女性70歳以上	90	43.3%	50.0%	6.7%	100.0%
女性年齢不詳		—	—	—	—
深谷地区	194	36.1%	61.9%	2.1%	100.0%
藤沢地区	61	23.0%	68.9%	8.2%	100.0%
幡羅地区	85	30.6%	65.9%	3.5%	100.0%
明戸地区	28	42.9%	57.1%	0.0%	100.0%
大寄地区	25	40.0%	52.0%	8.0%	100.0%
八基地区	15	60.0%	33.3%	6.7%	100.0%
豊里地区	25	40.0%	56.0%	4.0%	100.0%
上柴地区	94	46.8%	51.1%	2.1%	100.0%
南地区	49	53.1%	42.9%	4.1%	100.0%
岡部地区	77	36.4%	61.0%	2.6%	100.0%
川本地区	63	38.1%	60.3%	1.6%	100.0%
花園地区	75	37.3%	60.0%	2.7%	100.0%
無回答	18	16.7%	66.7%	16.7%	100.0%

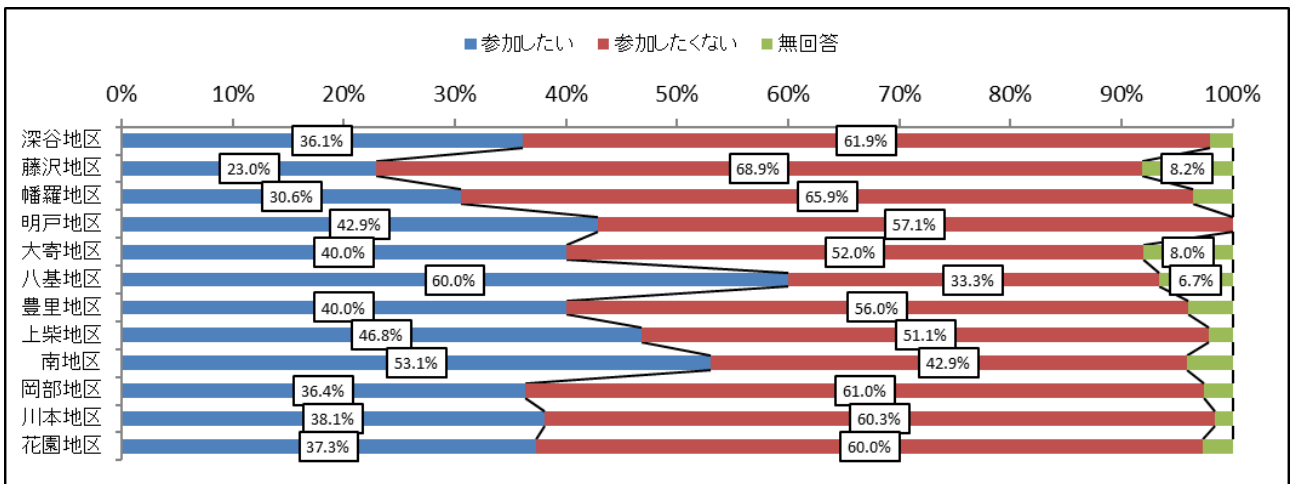
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「参加したい」と回答した人の割合は、男性が 34.1%であるのに対して、女性は 42.2%と男女によって差があることがうかがえます。

また、「参加したい」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性 10 歳代 (0.0%)、女性 10 歳代 (0.0%) であり、最も多い世代は、男性 70 歳以上 (41.4%)、女性 60 歳代 (47.7%) となっています。

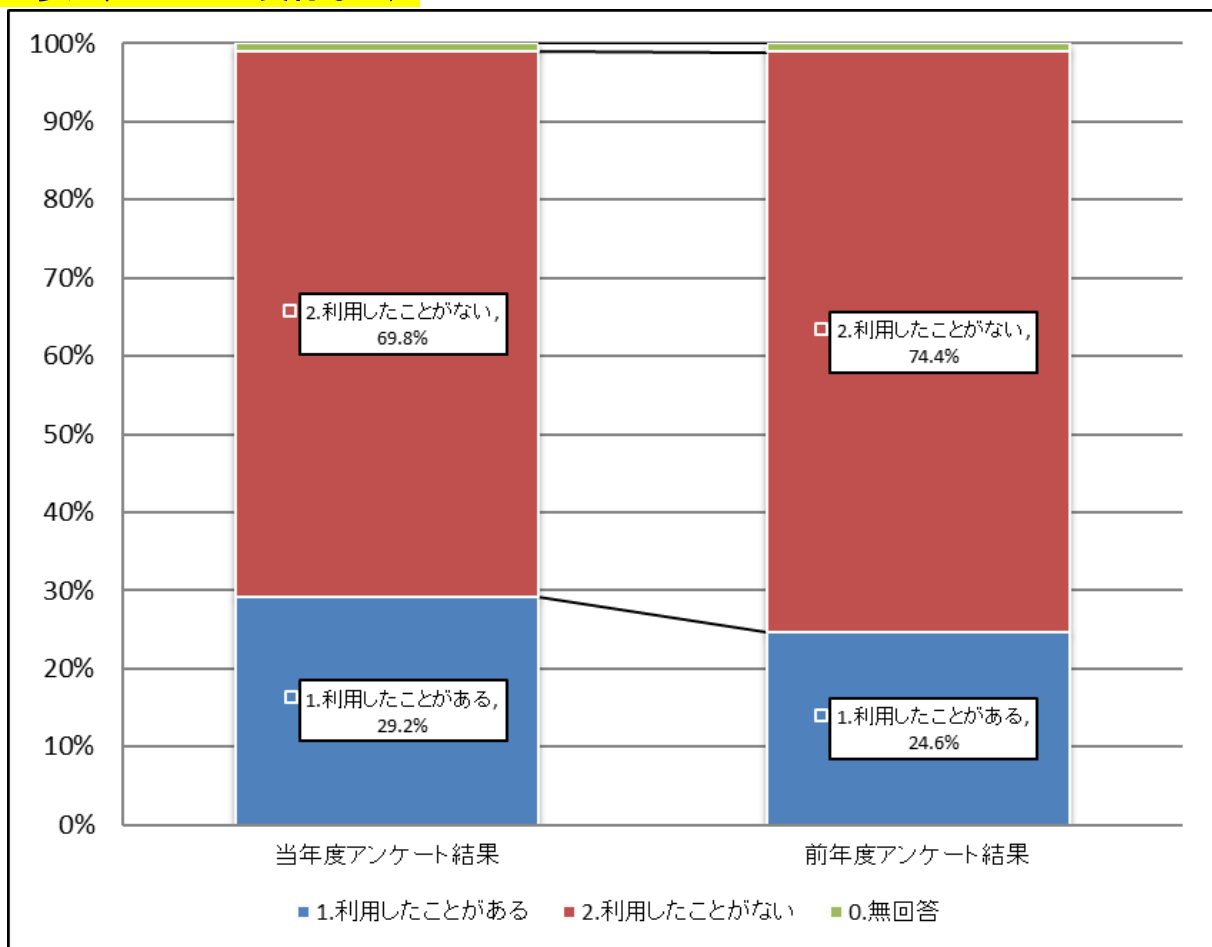
➤ 地区別



地区別にみると、「参加したい」と回答した人の割合が最も少ないのは、藤沢地区 (23.0%) であり、次いで幡羅地区 (30.6%) となっています。最も多いのは八基地区 (60.0%) であり、次いで南地区 (53.1%) となっています。地域によって大きな差があることがうかがえます。

⑤ 行財政運営の推進（7. 問13～14）

市のオンラインサービスを利用したことがありますか。（例：各種申請手続き、相談、イベント参加、コンビニ交付など）



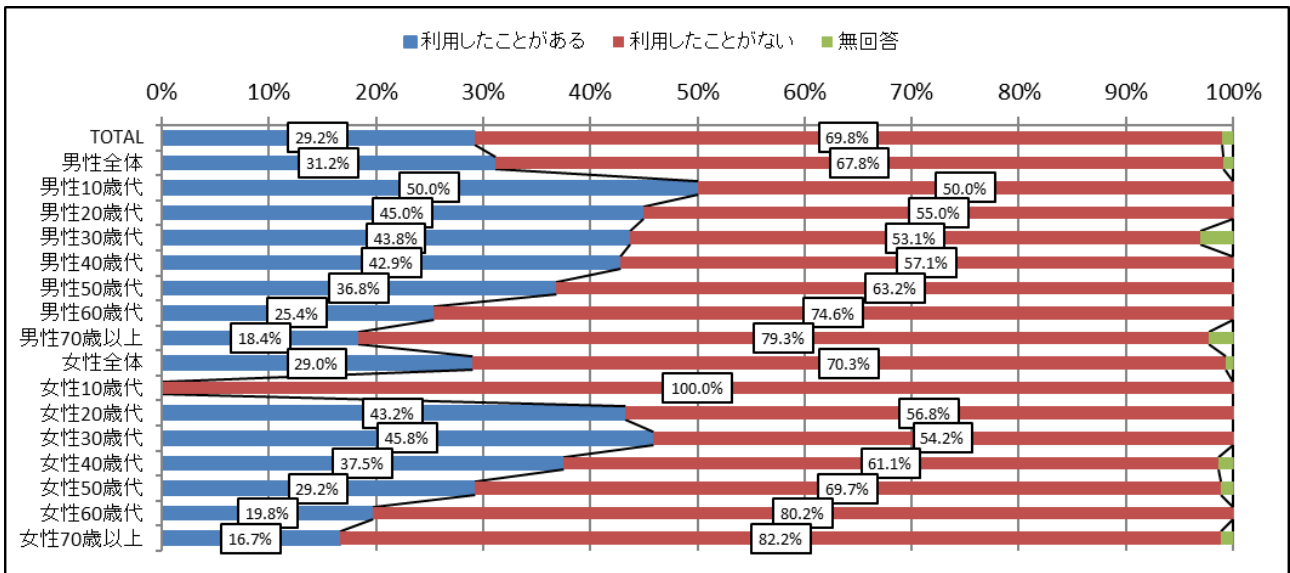
「利用したことがある」と回答した人の割合は 29.2%、「利用したことがない」と回答した人の割合は 69.8%となっています。

市のオンラインサービスを利用したことがある市民は3割未満という状況がうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「利用したことがある」と回答した人の割合は 24.6%であり、「前年度アンケート」と比較して増加しています。

母集団		利用したことがある	利用したことがない	無回答	合計
TOTAL	809	29.2%	69.8%	1.0%	100.0%
男性全体	311	31.2%	67.8%	1.0%	100.0%
男性10歳代	2	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	20	45.0%	55.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	32	43.8%	53.1%	3.1%	100.0%
男性40歳代	42	42.9%	57.1%	0.0%	100.0%
男性50歳代	57	36.8%	63.2%	0.0%	100.0%
男性60歳代	71	25.4%	74.6%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	87	18.4%	79.3%	2.3%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—
女性全体	424	29.0%	70.3%	0.7%	100.0%
女性10歳代	2	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	37	43.2%	56.8%	0.0%	100.0%
女性30歳代	48	45.8%	54.2%	0.0%	100.0%
女性40歳代	72	37.5%	61.1%	1.4%	100.0%
女性50歳代	89	29.2%	69.7%	1.1%	100.0%
女性60歳代	86	19.8%	80.2%	0.0%	100.0%
女性70歳以上	90	16.7%	82.2%	1.1%	100.0%
女性年齢不詳		—	—	—	—
深谷地区	194	32.0%	67.0%	1.0%	100.0%
藤沢地区	61	27.9%	68.9%	3.3%	100.0%
幡羅地区	85	36.5%	62.4%	1.2%	100.0%
明戸地区	28	32.1%	67.9%	0.0%	100.0%
大寄地区	25	28.0%	72.0%	0.0%	100.0%
八基地区	15	20.0%	73.3%	6.7%	100.0%
豊里地区	25	36.0%	64.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	94	29.8%	70.2%	0.0%	100.0%
南地区	49	26.5%	71.4%	2.0%	100.0%
岡部地区	77	28.6%	71.4%	0.0%	100.0%
川本地区	63	20.6%	79.4%	0.0%	100.0%
花園地区	75	26.7%	73.3%	0.0%	100.0%
無回答	18	11.1%	83.3%	5.6%	100.0%

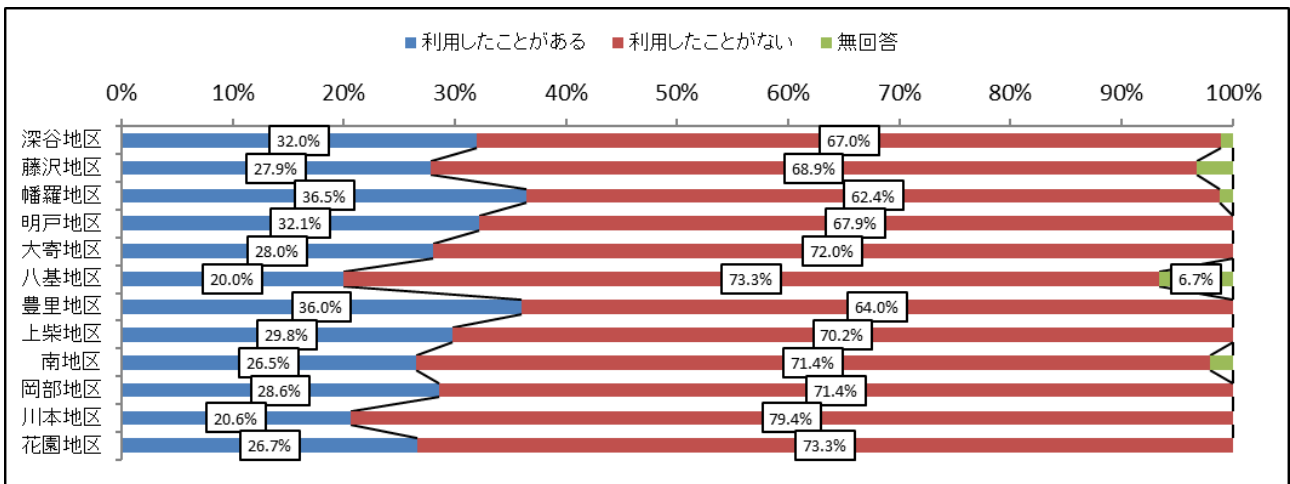
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「利用したことがある」と回答した人の割合は、男性が 31.2% であるのに対して、女性は 29.0% となっています。

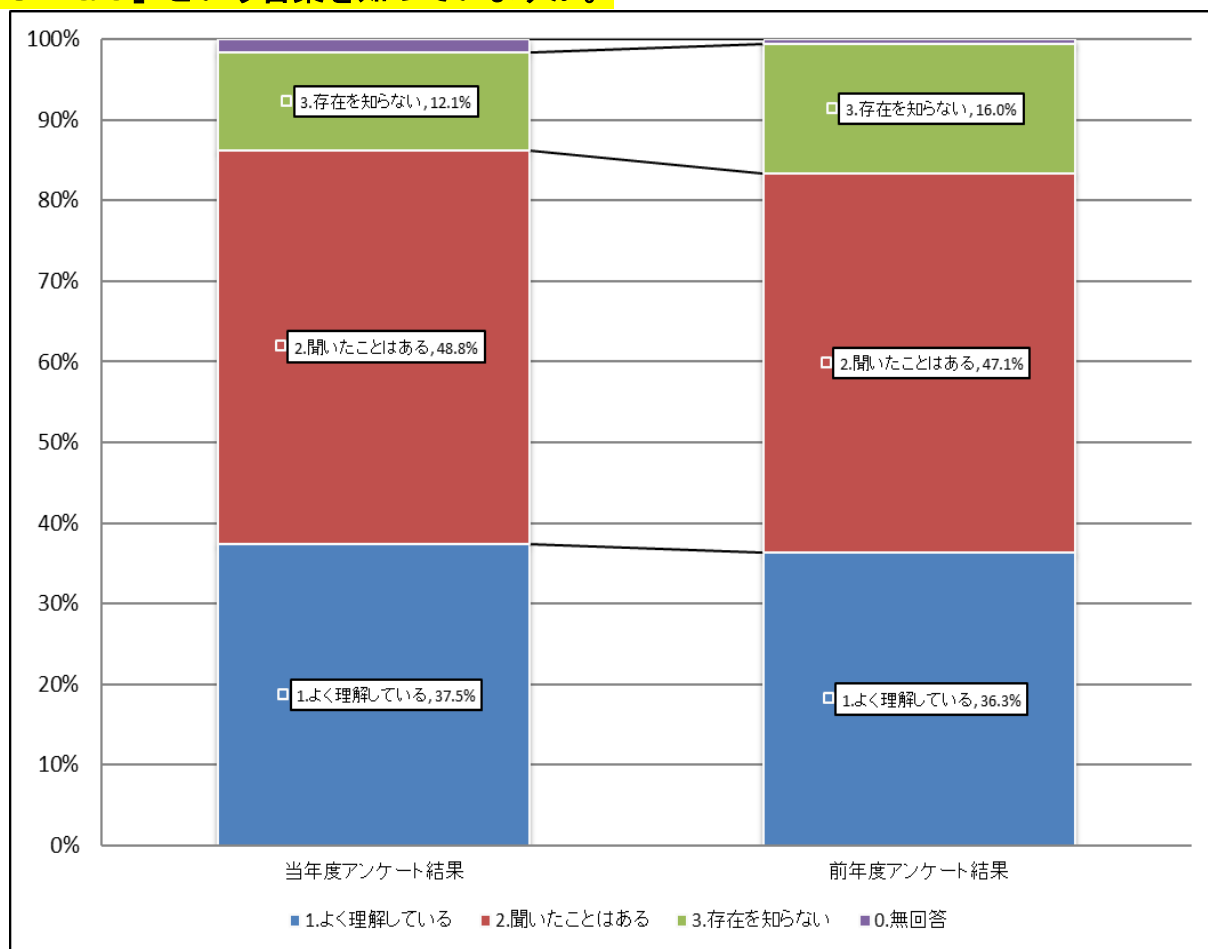
また、「利用したことがある」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性 70 歳以上 (18.4%) 女性 10 歳代 (0.0%) であり、一方で最も多い世代は、男性 10 歳代 (50.0%) 女性 30 歳代 (45.8%) となっています。世代によって差があることがうかがえます。

➤ 地区別



地区別にみると、「利用したことがある」と回答した人の割合が最も少ないのは、八基地区 (20.0%) であり、次いで川本地区 (20.6%) となっています。最も多いのは幡羅地区 (36.5%) であり、次いで豊里地区 (36.0%) となっています。

「SDGs」という言葉を知っていますか。



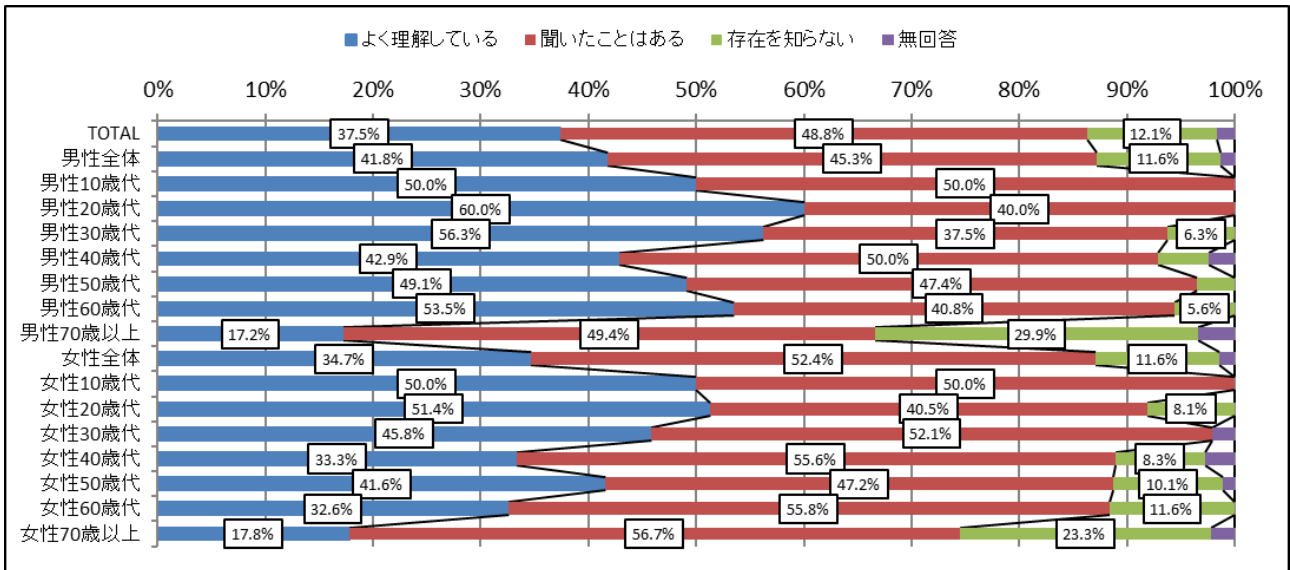
「聞いたことはある」と回答した人の割合が 48.8%と最も多く、次いで「よく理解している」と回答した人の割合が 37.5%、「存在を知らない」と回答した人の割合が最も少なく 12.1%となっています。

「よく理解している」または「聞いたことはある」と回答した人の割合の合計は 86.3%であり、9割近くの市民が「SDGs」という言葉を知っていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「よく理解している」または「聞いたことはある」と回答した人の割合の合計は 83.4%であり、「前年度アンケート」と比較して僅かに増加しています。

母集団		よく理解している	聞いた事はある	存在を知らない	無回答	合計
TOTAL	809	37.5%	48.8%	12.1%	1.6%	100.0%
男性全体	311	41.8%	45.3%	11.6%	1.3%	100.0%
男性10歳代	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	20	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	32	56.3%	37.5%	6.3%	0.0%	100.0%
男性40歳代	42	42.9%	50.0%	4.8%	2.4%	100.0%
男性50歳代	57	49.1%	47.4%	3.5%	0.0%	100.0%
男性60歳代	71	53.5%	40.8%	5.6%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	87	17.2%	49.4%	29.9%	3.4%	100.0%
男性年齢不詳		—	—	—	—	—
女性全体	424	34.7%	52.4%	11.6%	1.4%	100.0%
女性10歳代	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	37	51.4%	40.5%	8.1%	0.0%	100.0%
女性30歳代	48	45.8%	52.1%	0.0%	2.1%	100.0%
女性40歳代	72	33.3%	55.6%	8.3%	2.8%	100.0%
女性50歳代	89	41.6%	47.2%	10.1%	1.1%	100.0%
女性60歳代	86	32.6%	55.8%	11.6%	0.0%	100.0%
女性70歳以上	90	17.8%	56.7%	23.3%	2.2%	100.0%
女性年齢不詳		—	—	—	—	—
深谷地区	194	38.1%	49.0%	11.9%	1.0%	100.0%
藤沢地区	61	27.9%	45.9%	21.3%	4.9%	100.0%
幡羅地区	85	44.7%	40.0%	12.9%	2.4%	100.0%
明戸地区	28	25.0%	50.0%	25.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	25	52.0%	28.0%	20.0%	0.0%	100.0%
八基地区	15	40.0%	46.7%	6.7%	6.7%	100.0%
豊里地区	25	20.0%	64.0%	16.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	94	41.5%	45.7%	12.8%	0.0%	100.0%
南地区	49	46.9%	44.9%	2.0%	6.1%	100.0%
岡部地区	77	40.3%	51.9%	7.8%	0.0%	100.0%
川本地区	63	28.6%	65.1%	6.3%	0.0%	100.0%
花園地区	75	37.3%	48.0%	14.7%	0.0%	100.0%
無回答	18	22.2%	66.7%	0.0%	11.1%	100.0%

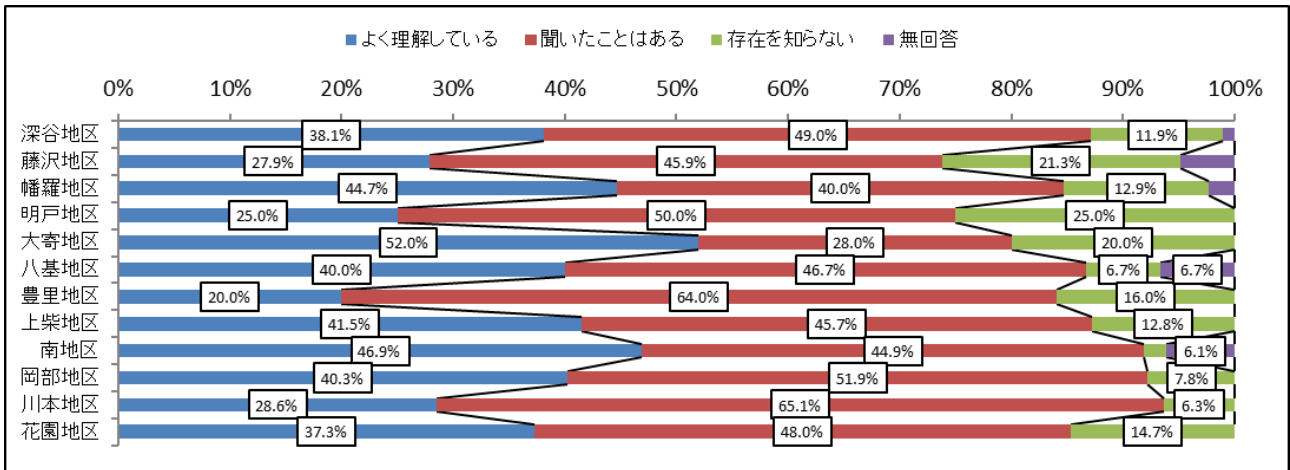
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「よく理解している」または「聞いたことはある」と回答した人の割合の合計は、男性が87.1%であるのに対して、女性は87.1%となっています。

また、「よく理解している」または「聞いたことはある」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性70歳以上(66.6%)、女性70歳以上(74.5%)であり、一方で最も多い世代は、男性10歳代・20歳代ともに(100.0%)、女性10歳代(100.0%)となっています。世代によって差があることがうかがえます。

➤ 地区別



地区別にみると、「よく理解している」または「聞いたことはある」と回答した人の割合の合計が最も少ないのは、藤沢地区(73.8%)であり、次いで明戸地区(75.0%)となっています。最も多いのは川本地区(93.7%)であり、次いで岡部地区(92.2%)となっています。

3. 深谷市の施策について

深谷市が行っている施策を重要度と満足度を軸とし、i) 重要度・満足度ともに高い施策、ii) 重要度が高く、満足度が低い施策、iii) 重要度が低く、満足度が高い施策、iv) 重要度・満足度ともに低い施策の4つに分類し、施策の優先順位付けのための分析を実施しました。

なお、重要度・満足度の得点の算出方法につきましては、P. 2の1. アンケート調査の実施方法に記載されている注意書きをご参照ください。

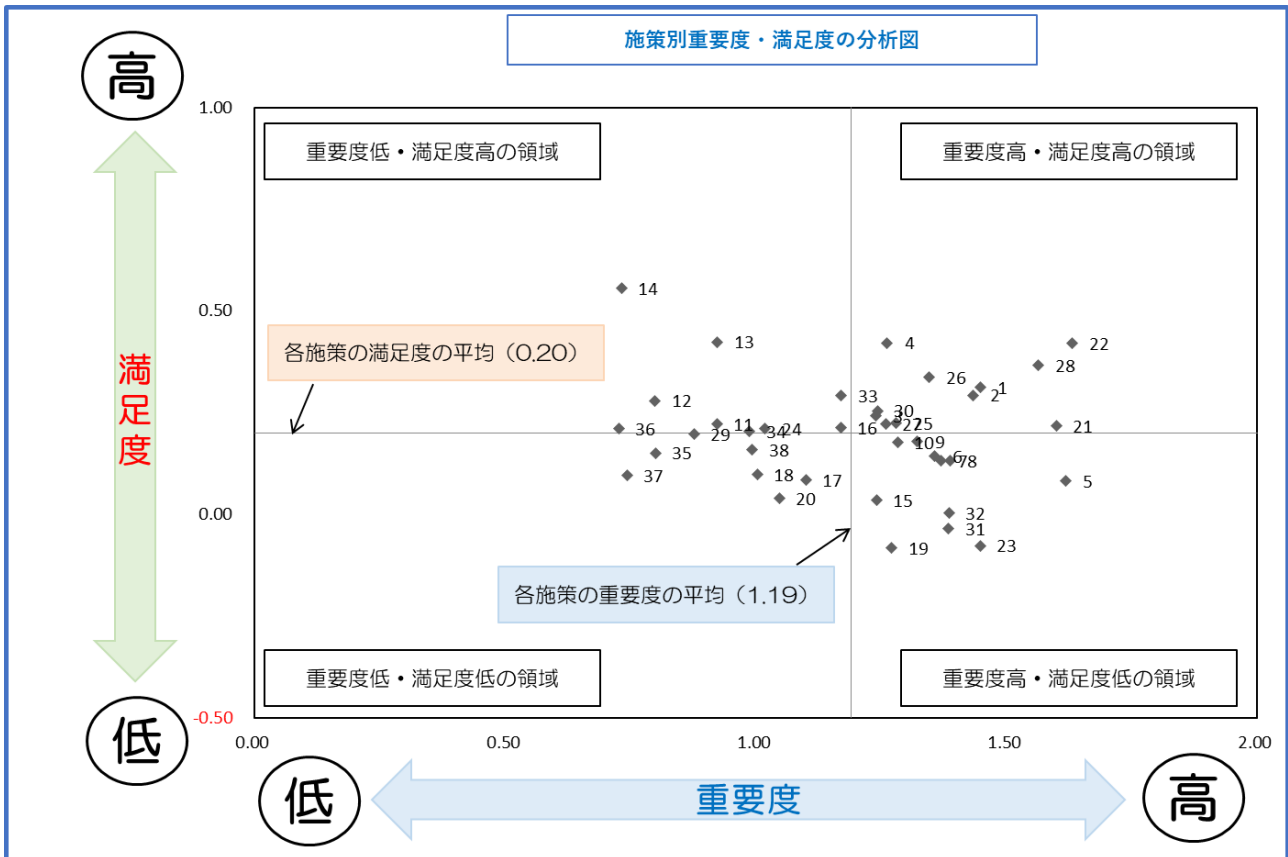
(1) 深谷市全体

① 施策別重要度・満足度一覧

施策		重要度	満足度
1.子育て・保健・福祉	1 子育て支援の充実	1.45	0.31
	2 保育環境の充実	1.43	0.29
	3 青少年の健全育成の推進	1.24	0.24
	4 健康づくりの推進	1.26	0.42
	5 地域医療体制の充実	1.62	0.08
	6 地域福祉の推進	1.36	0.14
	7 高齢者福祉の推進	1.37	0.13
	8 障害者福祉の推進	1.39	0.13
2.教育・文化	9 「生きる力」を育む学校教育の推進	1.32	0.18
	10 家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上	1.28	0.18
	11 生涯学習の推進	0.92	0.22
	12 スポーツ・レクリエーションの推進	0.80	0.28
	13 郷土の歴史・文化の継承と活用	0.92	0.42
	14 渋沢栄一の顕彰と精神の継承	0.73	0.56
3.産業振興	15 農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	1.24	0.03
	16 農畜産物の販売流通体制の充実	1.17	0.21
	17 商工業の振興	1.10	0.08
	18 観光資源の整備と活用	1.00	0.10
	19 就労環境の整備	1.27	(0.08)
	20 産業価値の創出	1.05	0.04
4.暮らし・環境	21 災害に強い防災体制の推進	1.60	0.22
	22 消防・救急体制の充実	1.63	0.42
	23 防犯・空き家対策の推進	1.45	(0.08)
	24 地域コミュニティの推進	1.02	0.21
	25 自然・生活環境の保全	1.28	0.22
	26 環境衛生の推進	1.35	0.34
5.都市・生活基礎	27 良好な市街地・住環境形成の推進	1.26	0.22
	28 水の安定供給と下水処理の適正化	1.56	0.37
	29 地域の特徴を生かした魅力ある景観形成	0.88	0.20
	30 治水対策の推進	1.24	0.25
	31 道路・交通環境整備の推進	1.38	(0.04)
	32 公共交通の維持確保と交通安全の推進	1.39	0.00
6.協働・行政経営	33 人権・個性が尊重される社会づくりの推進	1.17	0.29
	34 男女共同参画の実現	0.99	0.20
	35 移住・定住の推進	0.80	0.15
	36 市民との協働・交流の推進	0.73	0.21
	37 行政デジタル化の推進	0.74	0.10
	38 行財政運営の推進	0.99	0.16
平均値		1.19	0.20

重要度の平均値は 1.19 であり、深谷市の実施している施策について、全体的にみて、重要度が高いと認識している市民が多いことがうかがえます。一方で、満足度の平均値は 0.20 と重要度の平均値に比べて低く、行政サービスと市民の期待との間にギャップがあることがうかがえます。

② 施策別重要度・満足度の分布状況



【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
11	生涯学習の推進	1	子育て支援の充実
12	スポーツ・レクリエーションの推進	2	保育環境の充実
13	郷土の歴史・文化の継承と活用	3	青少年の健全育成の推進
14	渋沢栄一の顕彰と精神の継承	4	健康づくりの推進
16	農畜産物の販売流通体制の充実	21	災害に強い防災体制の推進
24	地域コミュニティの推進	22	消防・救急体制の充実
29	地域の特色を生かした魅力ある景観形成	25	自然・生活環境の保全
33	人権・個性が尊重される社会づくりの推進	26	環境衛生の推進
34	男女共同参画の実現	27	良好な市街地・住環境形成の推進
36	市民との協働・交流の推進	28	水の安定供給と下水処理の適正化
		30	治水対策の推進
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
17	商工業の振興	5	地域医療体制の充実
18	観光資源の整備と活用	6	地域福祉の推進
20	産業価値の創出	7	高齢者福祉の推進
35	移住・定住の推進	8	障害者福祉の推進
37	行政デジタル化の推進	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
38	行財政運営の推進	10	家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上
		15	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
		19	就労環境の整備
		23	防犯・空き家対策の推進
		31	道路・交通環境整備の推進
		32	公共交通の維持確保と交通安全の推進

全施策における重要度・満足度の平均値を基準とし、重要度・満足度を＜重要度高・満足度高＞、＜重要度高・満足度低＞、＜重要度低・満足度高＞、＜重要度低・満足度低＞の4つに分類し、各施策の重要度および満足度の現状値を相対的に評価しました。

＜重要度高・満足度高＞

全施策のうち、相対的に重要度が高く、満足度も高い領域には「1. 子育て支援の充実」、「2. 保育環境の充実」、「3. 青少年の健全育成の推進」、「4. 健康づくりの推進」、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「22. 消防・救急体制の充実」、「25. 自然・生活環境の保全」、「26. 環境衛生の推進」、「27. 良好な市街地・住環境形成の推進」、「28. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「30. 治水対策の推進」の11施策が該当します。

この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民ニーズに即していることがうかがえ、今後も引き続き重点施策として優先して位置づけ、取り組んでいく必要がある施策といえます。

＜重要度高・満足度低＞

全施策のうち、相対的に重要度が高く、満足度が低い領域には、「5. 地域医療体制の充実」、「6. 地域福祉の推進」、「7. 高齢者福祉の推進」、「8. 障害者福祉の推進」、「9. 「生きる力」を育む学校教育の推進」、「10. 家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上」、「15. 農地の保全・活用と安定した農業経営の支援」、「19. 就労環境の整備」、「23. 防犯・空き家対策の推進」、「31. 道路・交通環境整備の推進」、「32. 公共交通の維持確保と交通安全の推進」の11施策が該当します。

この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民ニーズがあるにもかかわらず、行政としてその期待に応えていないことがうかがえます。これらの施策については、施策のあり方を見直す必要性が高い施策であるといえます。

＜重要度低・満足度高＞

全施策のうち、相対的に重要度が低く、満足度が高い領域には、「11. 生涯学習の推進」、「12. スポーツ・レクリエーションの推進」、「13. 郷土の歴史・文化の継承と活用」、「14. 渋沢栄一の顕彰と精神の継承」、「16. 農畜産物の販売流通体制の充実」、「24. 地域コミュニティの推進」、「29. 地域の特色を生かした魅力ある景観形成」、「33. 人権・個性が尊重される社会づくりの推進」、「34. 男女共同参画の実現」、「36. 市民との協働・交流の推進」の10施策が該当します。

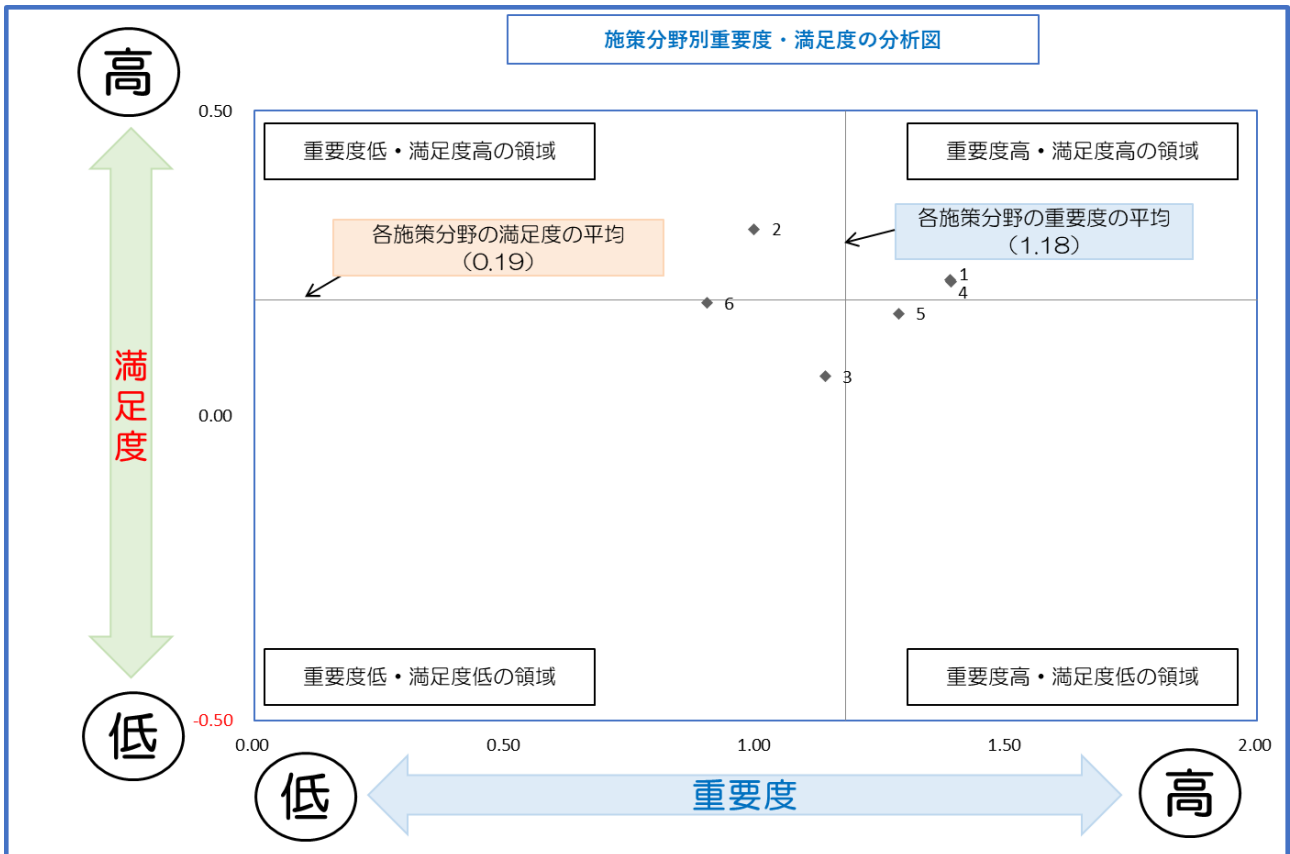
この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民ニーズを上回る行政サービスを提供している可能性もあり、行政サービスの提供が過剰となっていないかどうか確認する必要があります。

＜重要度低・満足度低＞

全施策のうち、相対的に重要度が低く、満足度も低い領域には、「17. 商工業の振興」、「18. 観光資源の整備と活用」、「20. 産業価値の創出」、「35. 移住・定住の推進」、「37. 行政デジタル化の推進」、「38. 行財政運営の推進」の6施策が該当します。

この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民の関心度が低い施策であり、そもそも行政で対応すべきであるのかについて検討する必要があります。

③ 施策分野別重要度・満足度の分布状況



【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
2	教育・文化	1	子育て・保健・福祉
		4	暮らし・環境
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
3	産業振興	5	都市・生活基礎
6	協働・行政経営		

全施策分野における重要度・満足度の平均値を基準とし、重要度・満足度を<重要度高・満足度高>、<重要度高・満足度低>、<重要度低・満足度高>、<重要度低・満足度低>の4つに分類し、各施策分野の重要度および満足度の現状値を相対的に評価しました。

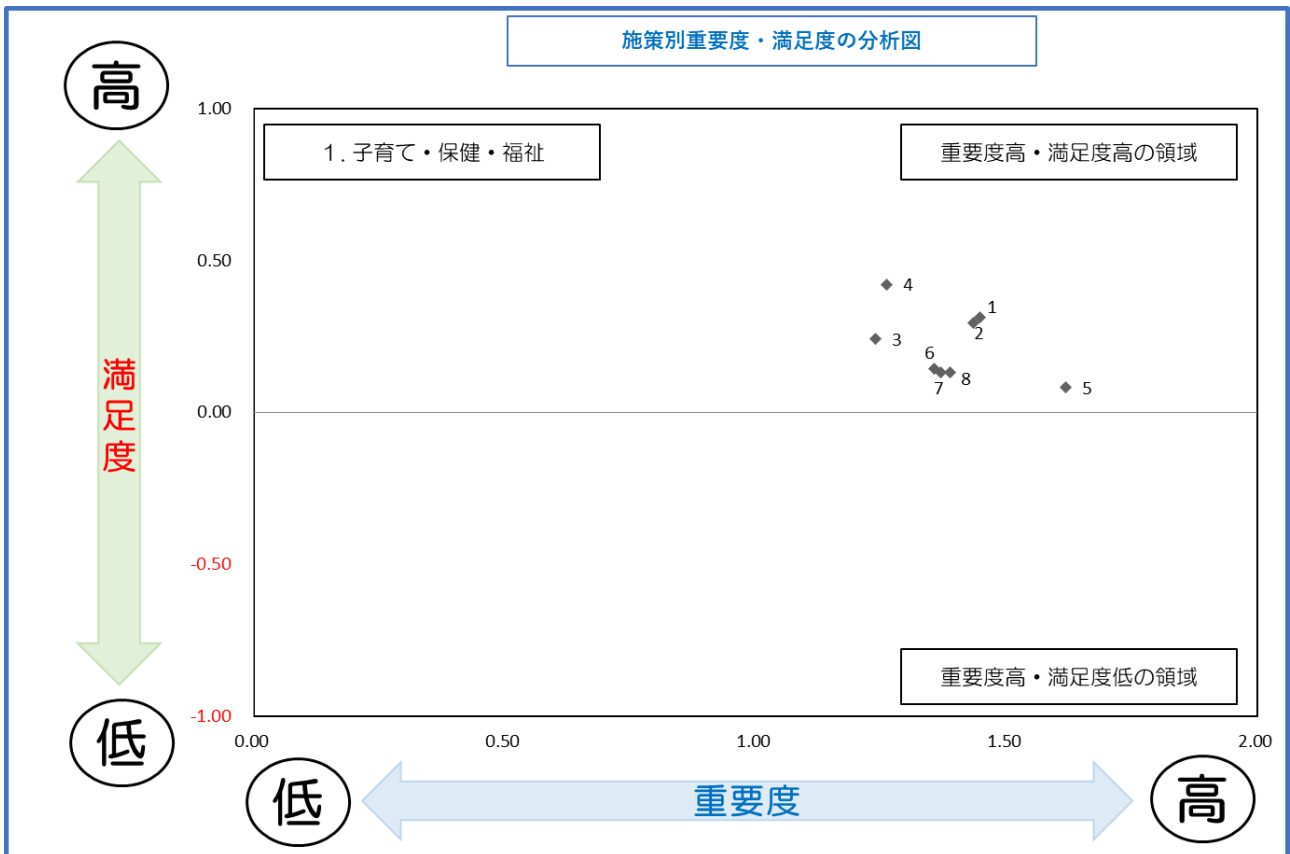
<重要度高・満足度高>に分類される施策分野は、全施策分野のうち、相対的に重要度および満足度の双方が高い施策分野であり、「1. 子育て・保健・福祉」、「4. 暮らし・環境」の2分野が該当します。

<重要度高・満足度低>に分類される施策分野は、全施策分野のうち、相対的に重要度は高いものの、満足度が低い施策分野であり、「5. 都市・生活基礎」の1分野が該当します。

<重要度低・満足度高>に分類される施策分野は、全施策分野のうち、相対的に重要度は低いものの、満足度が高い施策分野であり、「2. 教育・文化」の1分野が該当します。

<重要度低・満足度低>に分類される施策分野は、全施策分野のうち、相対的に重要度および満足度の双方が低い施策分野であり、「3. 産業振興」、「6. 協働・行政経営」の2分野が該当します。

< 1. 子育て・保健・福祉 >

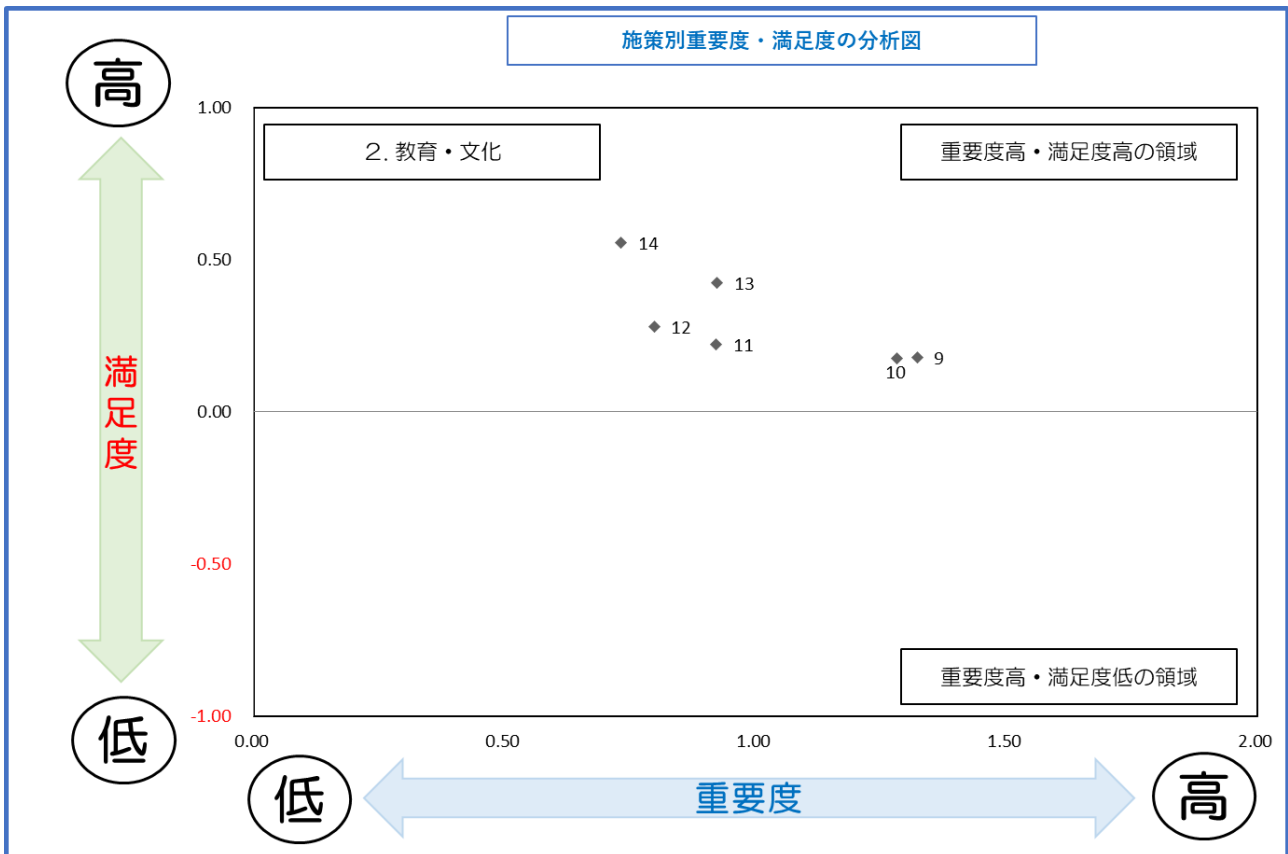


子育て・保健・福祉分野に係る施策は8施策あり、8つの施策すべてが重要度高・満足度高に分類されています。

子育て・保健・福祉分野の中で、重要度が最も高かった施策は、「5. 地域医療体制の充実」、最も低かった施策は「3. 青少年の健全育成の推進」となりました。また、満足度が最も高かった施策は「4. 健康づくりの推進」、最も低かった施策は「5. 地域医療体制の充実」となりました。

「5. 地域医療体制の充実」は重要度が高い施策であるものの、満足度は低いことがうかがえます。

< 2. 教育・文化 >

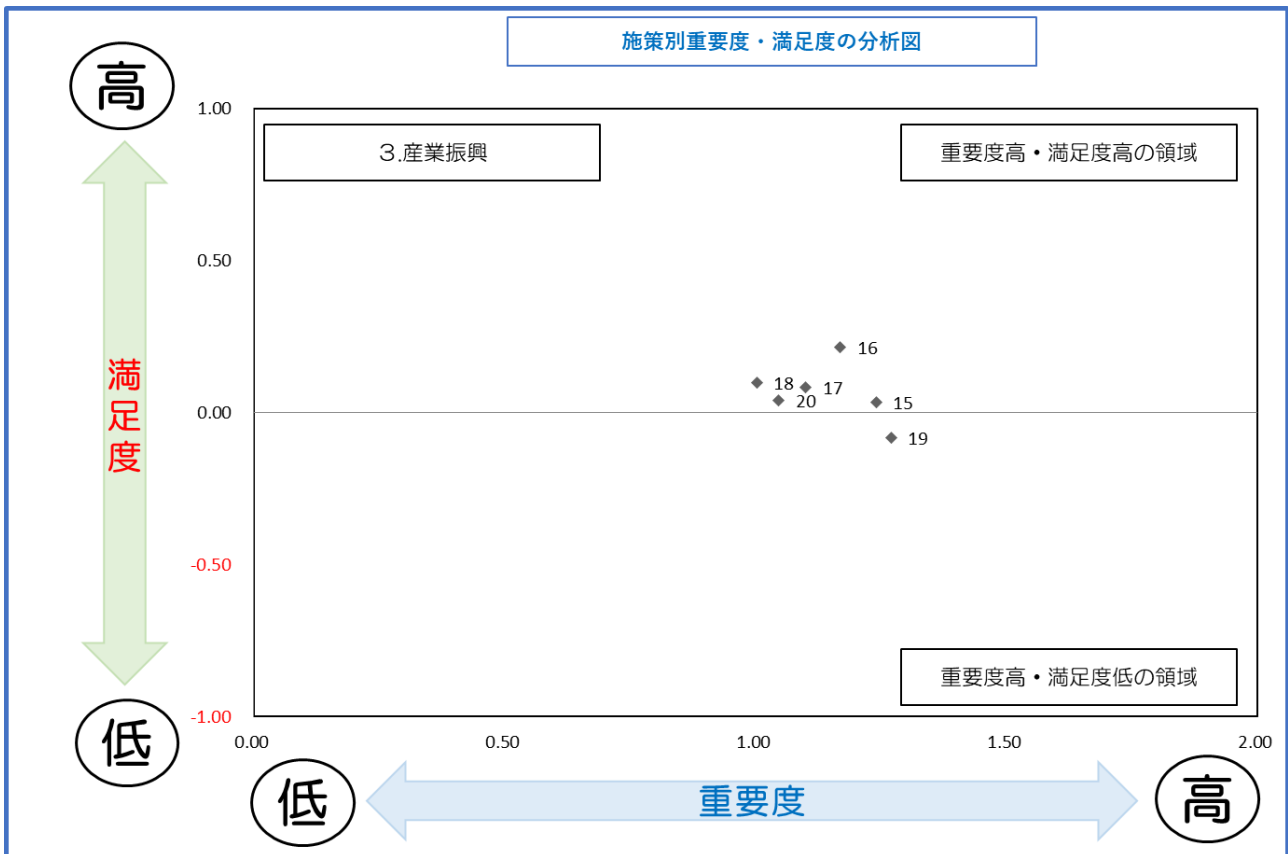


教育・文化分野に係る施策は6施策あり、全ての施策が重要度高・満足度高に分類されています。

教育・文化分野の中で、重要度が最も高かった施策は、「9. 「生きる力」を育む学校教育の推進」、最も低かった施策は「14. 渋沢栄一の顕彰と精神の継承」となりました。また、満足度が最も高かった施策は「14. 渋沢栄一の顕彰と精神の継承」、最も低かった施策は「9. 「生きる力」を育む学校教育の推進」、「10. 家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上」の2施策となりました。

「9. 「生きる力」を育む学校教育の推進」、「10. 家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上」は重要度が高い施策であるものの、満足度は低いことがうかがえます。

< 3. 産業振興 >



産業振興分野に係る施策は6施策あり、「15. 農地の保全・活用と安定した農業経営の支援」、「16. 農畜産物の販売流通体制の充実」、「17. 商工業の振興」、「18. 観光資源の整備と活用」、「20. 産業価値の創出」の5施策において重要度高・満足度高に分類されています。

産業振興分野の中で、重要度が最も高かった施策は、「19. 就労環境の整備」、最も低かった施策は「18. 観光資源の整備と活用」となりました。また、満足度が最も高かった施策は「16. 農畜産物の販売流通体制の充実」、最も低かった施策は「19. 就労環境の整備」となりました。

「19. 就労環境の整備」は重要度が高い施策であるものの、満足度は低いことがうかがえます。

< 4. 暮らし・環境 >

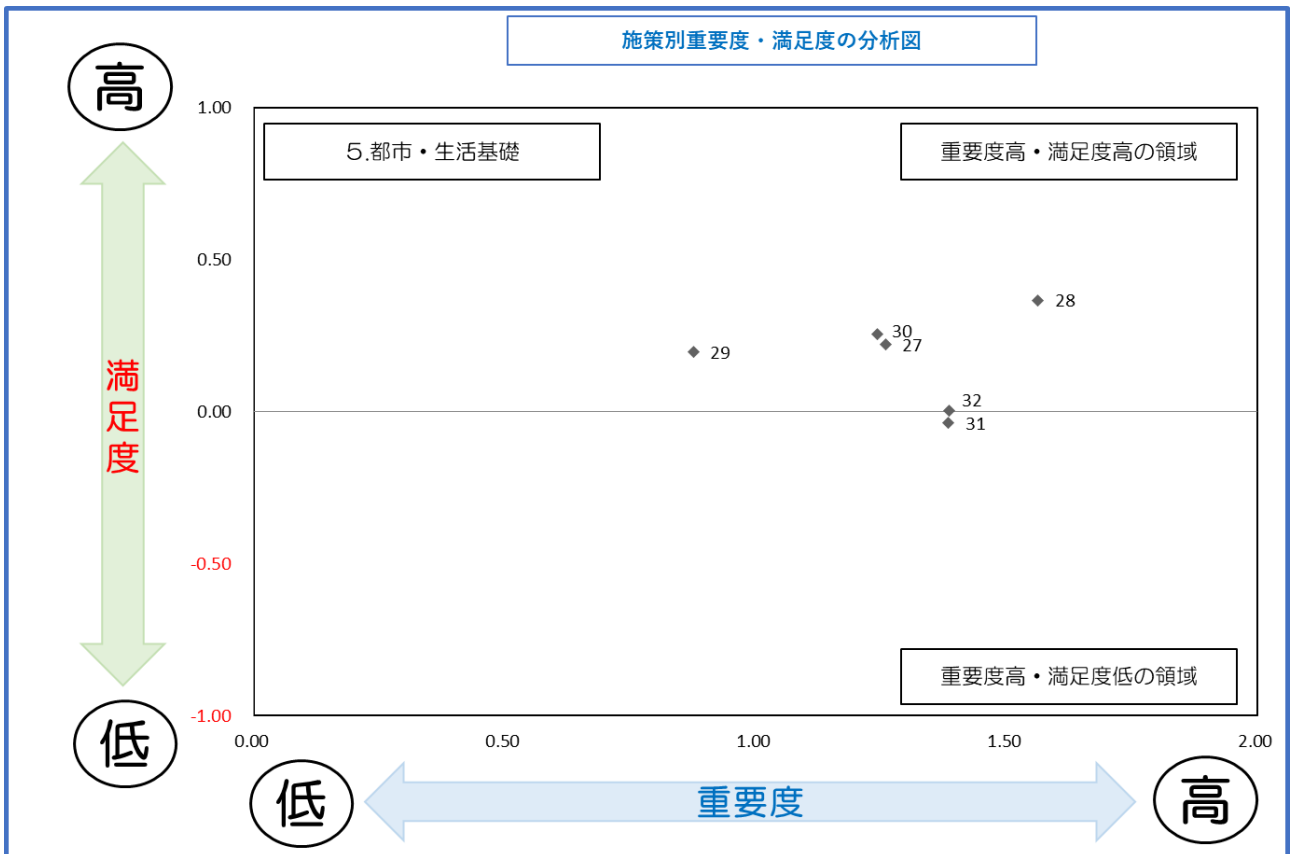


暮らし・環境分野に係る施策は6施策あり、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「22. 消防・救急体制の充実」、「24. 地域コミュニティの推進」、「25. 自然・生活環境の保全」、「26. 環境衛生の推進」の5施策において重要度高・満足度高に分類されています。

暮らし・環境分野の中で、重要度が最も高かった施策は、「22. 消防・救急体制の充実」、最も低かった施策は「24. 地域コミュニティの推進」となりました。また、満足度が最も高かった施策は「22. 消防・救急体制の充実」、最も低かった施策は「23. 防犯・空き家対策の推進」となりました。

「22. 消防・救急体制の充実」は重要度および満足度の双方が高い施策であることがうかがえます。

< 5. 都市・生活基礎 >

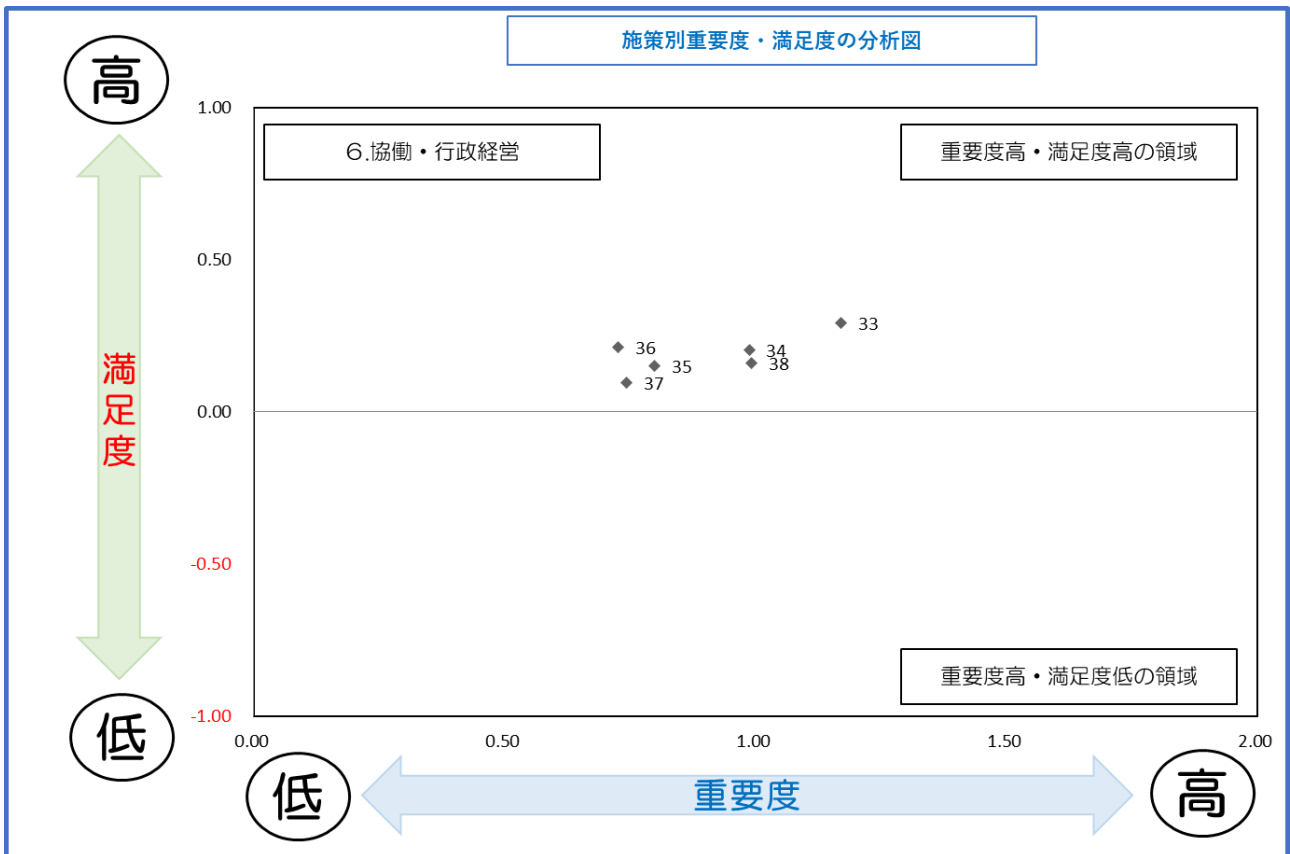


都市・生活基礎分野に係る施策は6施策あり、「27. 良好な市街地・住環境形成の推進」、「28. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「29. 地域の特色を生かした魅力ある景観形成」、「30. 治水対策の推進」の4施策において重要度高・満足度高に分類されています。

都市・生活基礎分野の中で、重要度が最も高かった施策は、「28. 水の安定供給と下水処理の適正化」、最も低かった施策は「29. 地域の特色を生かした魅力ある景観形成」となりました。また、満足度が最も高かった施策は「28. 水の安定供給と下水処理の適正化」、最も低かった施策は「31. 道路・交通環境整備の推進」となりました。

「28. 水の安定供給と下水処理の適正化」は重要度および満足度の双方が高い施策であることがうかがえます。

< 6. 協働・行政経営 >



協働・行政経営分野に係る施策は6施策あり、すべての施策が重要度高・満足度高に分類されています。

協働・行政経営分野の中で、重要度が最も高かった施策は、「33. 人権・個性が尊重される社会づくりの推進」、最も低かった施策は「36. 市民との協働・交流の推進」となりました。また、満足度が最も高かった施策は「33. 人権・個性が尊重される社会づくりの推進」、最も低かった施策は「37. 行政デジタル化の推進」となりました。

「33. 人権・個性が尊重される社会づくりの推進」は重要度および満足度の双方が高い施策であることがうかがえます。

(2) 地区別

➤ 深谷地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
4	健康づくりの推進	1	子育て支援の充実
12	スポーツ・レクリエーションの推進	2	保育環境の充実
13	郷土の歴史・文化の継承と活用	3	青少年の健全育成の推進
14	渋沢栄一の顕彰と精神の継承	15	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
16	農畜産物の販売流通体制の充実	22	消防・救急体制の充実
24	地域コミュニティの推進	26	環境衛生の推進
29	地域の特色を生かした魅力ある景観形成	27	良好な市街地・住環境形成の推進
		28	水の安定供給と下水処理の適正化
		30	治水対策の推進
		33	人権・個性が尊重される社会づくりの推進
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
11	生涯学習の推進	5	地域医療体制の充実
17	商工業の振興	6	地域福祉の推進
18	観光資源の整備と活用	7	高齢者福祉の推進
20	産業価値の創出	8	障害者福祉の推進
34	男女共同参画の実現	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
35	移住・定住の推進	10	家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上
36	市民との協働・交流の推進	19	就労環境の整備
37	行政デジタル化の推進	21	災害に強い防災体制の推進
38	行財政運営の推進	23	防犯・空き家対策の推進
		25	自然・生活環境の保全
		31	道路・交通環境整備の推進
		32	公共交通の維持確保と交通安全の推進

深谷地区では、重要度が高い施策として、「2. 保育環境の充実」、「5. 地域医療体制の充実」、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「22. 消防・救急体制の充実」、「23. 防犯・空き家対策の推進」、「28. 水の安定供給と下水処理の適正化」などの施策が挙げられ、このうち、「5. 地域医療体制の充実」、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「23. 防犯・空き家対策の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「35. 移住・定住の推進」、「36. 市民との協働・交流の推進」、「37. 行政デジタル化の推進」、などの施策が挙げられます。これらの施策については、深谷地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 藤沢地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
11	生涯学習の推進	1	子育て支援の充実
12	スポーツ・レクリエーションの推進	2	保育環境の充実
13	郷土の歴史・文化の継承と活用	3	青少年の健全育成の推進
14	渋沢栄一の顕彰と精神の継承	4	健康づくりの推進
18	観光資源の整備と活用	10	家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上
24	地域コミュニティの推進	21	災害に強い防災体制の推進
29	地域の特色を生かした魅力ある景観形成	22	消防・救急体制の充実
30	治水対策の推進	26	環境衛生の推進
36	市民との協働・交流の推進	28	水の安定供給と下水処理の適正化
		33	人権・個性が尊重される社会づくりの推進
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
16	農畜産物の販売流通体制の充実	5	地域医療体制の充実
17	商工業の振興	6	地域福祉の推進
20	産業価値の創出	7	高齢者福祉の推進
27	良好な市街地・住環境形成の推進	8	障害者福祉の推進
34	男女共同参画の実現	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
35	移住・定住の推進	15	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
37	行政デジタル化の推進	19	就労環境の整備
38	行財政運営の推進	23	防犯・空き家対策の推進
		25	自然・生活環境の保全
		31	道路・交通環境整備の推進
		32	公共交通の維持確保と交通安全の推進

藤沢地区では、重要度が高い施策として、「5. 地域医療体制の充実」、「7. 高齢者福祉の推進」、「8. 障害者福祉の推進」、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「22. 消防・救急体制の充実」、「28. 水の安定供給と下水処理の適正化」などの施策が挙げられ、このうち、「5. 地域医療体制の充実」、「7. 高齢者福祉の推進」、「8. 障害者福祉の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「35. 移住・定住の推進」、「37. 行政デジタル化の推進」、「38. 行財政運営の推進」が挙げられます。これらの施策については、藤沢地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 幡羅地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
11	生涯学習の推進	1	子育て支援の充実
12	スポーツ・レクリエーションの推進	2	保育環境の充実
13	郷土の歴史・文化の継承と活用	3	青少年の健全育成の推進
14	渋沢栄一の顕彰と精神の継承	4	健康づくりの推進
29	地域の特色を生かした魅力ある景観形成	10	家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上
33	人権・個性が尊重される社会づくりの推進	21	災害に強い防災体制の推進
36	市民との協働・交流の推進	22	消防・救急体制の充実
37	行政デジタル化の推進	25	自然・生活環境の保全
38	行財政運営の推進	26	環境衛生の推進
		27	良好な市街地・住環境形成の推進
		28	水の安定供給と下水処理の適正化
		30	治水対策の推進
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
15	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	5	地域医療体制の充実
16	農畜産物の販売流通体制の充実	6	地域福祉の推進
17	商工業の振興	7	高齢者福祉の推進
18	観光資源の整備と活用	8	障害者福祉の推進
20	産業価値の創出	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
24	地域コミュニティの推進	19	就労環境の整備
34	男女共同参画の実現	23	防犯・空き家対策の推進
35	移住・定住の推進	31	道路・交通環境整備の推進
		32	公共交通の維持確保と交通安全の推進

幡羅地区では、重要度が高い施策として、「5. 地域医療体制の充実」、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「22. 消防・救急体制の充実」、「23. 防犯・空き家対策の推進」、「28. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「32. 公共交通の維持確保と交通安全の推進」などの施策が挙げられ、このうち、「5. 地域医療体制の充実」、「23. 防犯・空き家対策の推進」、「32. 公共交通の維持確保と交通安全の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「18. 観光資源の整備と活用」、「20. 産業価値の創出」、「35. 移住・定住の推進」などの施策が挙げられます。これらの施策については、幡羅地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 明戸地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
11	生涯学習の推進	1	子育て支援の充実
12	スポーツ・レクリエーションの推進	3	青少年の健全育成の推進
13	郷土の歴史・文化の継承と活用	4	健康づくりの推進
14	渋沢栄一の顕彰と精神の継承	5	地域医療体制の充実
29	地域の特色を生かした魅力ある景観形成	6	地域福祉の推進
33	人権・個性が尊重される社会づくりの推進	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
36	市民との協働・交流の推進	10	家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上
		22	消防・救急体制の充実
		25	自然・生活環境の保全
		28	水の安定供給と下水処理の適正化
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
15	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	2	保育環境の充実
16	農畜産物の販売流通体制の充実	7	高齢者福祉の推進
17	商工業の振興	8	障害者福祉の推進
18	観光資源の整備と活用	19	就労環境の整備
20	産業価値の創出	21	災害に強い防災体制の推進
24	地域コミュニティの推進	23	防犯・空き家対策の推進
34	男女共同参画の実現	26	環境衛生の推進
35	移住・定住の推進	27	良好な市街地・住環境形成の推進
37	行政デジタル化の推進	30	治水対策の推進
38	行財政運営の推進	31	道路・交通環境整備の推進
		32	公共交通の維持確保と交通安全の推進

明戸地区では、重要度が高い施策として、「1. 子育て支援の充実」、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「22. 消防・救急体制の充実」、「23. 防犯・空き家対策の推進」、「28. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「31. 道路・交通環境整備の推進」などの施策が挙げられ、このうち、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「23. 防犯・空き家対策の推進」、「31. 道路・交通環境整備の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「35. 移住・定住の推進」、「37. 行政デジタル化の推進」、「38. 行財政運営の推進」などの施策が挙げられます。これらの施策については、明戸地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 大寄地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
12	スポーツ・レクリエーションの推進	4	健康づくりの推進
13	郷土の歴史・文化の継承と活用	22	消防・救急体制の充実
14	渋沢栄一の顕彰と精神の継承	28	水の安定供給と下水処理の適正化
18	観光資源の整備と活用	30	治水対策の推進
20	産業価値の創出	32	公共交通の維持確保と交通安全の推進
29	地域の特色を生かした魅力ある景観形成		
31	道路・交通環境整備の推進		
33	人権・個性が尊重される社会づくりの推進		
34	男女共同参画の実現		
35	移住・定住の推進		
36	市民との協働・交流の推進		
37	行政デジタル化の推進		
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
11	生涯学習の推進	1	子育て支援の充実
16	農畜産物の販売流通体制の充実	2	保育環境の充実
17	商工業の振興	3	青少年の健全育成の推進
24	地域コミュニティの推進	5	地域医療体制の充実
25	自然・生活環境の保全	6	地域福祉の推進
27	良好な市街地・住環境形成の推進	7	高齢者福祉の推進
38	行財政運営の推進	8	障害者福祉の推進
		9	「生きる力」を育む学校教育の推進
		10	家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上
		15	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
		19	就労環境の整備
		21	災害に強い防災体制の推進
		23	防犯・空き家対策の推進
		26	環境衛生の推進

大寄地区では、重要度が高い施策として、「1. 子育て支援の充実」、「2. 保育環境の充実」、「5. 地域医療体制の充実」、「22. 消防・救急体制の充実」、「28. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「30. 治水対策の推進」などの施策が挙げられ、このうち、「1. 子育て支援の充実」、「2. 保育環境の充実」、「5. 地域医療体制の充実」に関しては満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「11. 生涯学習の推進」、「17. 商工業の振興」、「24. 地域コミュニティの推進」などの施策が挙げられます。これらの施策については、大寄地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 八基地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
11	生涯学習の推進	1	子育て支援の充実
12	スポーツ・レクリエーションの推進	2	保育環境の充実
13	郷土の歴史・文化の継承と活用	3	青少年の健全育成の推進
24	地域コミュニティの推進	4	健康づくりの推進
		5	地域医療体制の充実
		7	高齢者福祉の推進
		8	障害者福祉の推進
		9	「生きる力」を育む学校教育の推進
		10	家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上
		14	渋沢栄一の顕彰と精神の継承
		22	消防・救急体制の充実
		28	水の安定供給と下水処理の適正化
		33	人権・個性が尊重される社会づくりの推進
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
16	農畜産物の販売流通体制の充実	6	地域福祉の推進
17	商工業の振興	15	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
18	観光資源の整備と活用	19	就労環境の整備
20	産業価値の創出	21	災害に強い防災体制の推進
27	良好な市街地・住環境形成の推進	23	防犯・空き家対策の推進
29	地域の特色を生かした魅力ある景観形成	25	自然・生活環境の保全
30	治水対策の推進	26	環境衛生の推進
34	男女共同参画の実現	31	道路・交通環境整備の推進
35	移住・定住の推進	32	公共交通の維持確保と交通安全の推進
36	市民との協働・交流の推進		
37	行政デジタル化の推進		
38	行財政運営の推進		

八基地区では、重要度が高い施策として、「1. 子育て支援の充実」、「2. 保育環境の充実」、「6. 地域福祉の推進」、「19. 就労環境の整備」、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「22. 消防・救急体制の充実」などの施策が挙げられ、このうち、「6. 地域福祉の推進」、「19. 就労環境の整備」、「21. 災害に強い防災体制の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「29. 地域の特色を生かした魅力ある景観形成」、「35. 移住・定住の推進」、「36. 市民との協働・交流の推進」などの施策が挙げられます。これらの施策については、八基地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 豊里地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
12	スポーツ・レクリエーションの推進	1	子育て支援の充実
13	郷土の歴史・文化の継承と活用	2	保育環境の充実
14	渋沢栄一の顕彰と精神の継承	4	健康づくりの推進
18	観光資源の整備と活用	5	地域医療体制の充実
25	自然・生活環境の保全	6	地域福祉の推進
27	良好な市街地・住環境形成の推進	7	高齢者福祉の推進
32	公共交通の維持確保と交通安全の推進	8	障害者福祉の推進
33	人権・個性が尊重される社会づくりの推進	22	消防・救急体制の充実
34	男女共同参画の実現	26	環境衛生の推進
35	移住・定住の推進		
36	市民との協働・交流の推進		
38	行財政運営の推進		
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
11	生涯学習の推進	3	青少年の健全育成の推進
15	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
16	農畜産物の販売流通体制の充実	10	家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上
17	商工業の振興	21	災害に強い防災体制の推進
19	就労環境の整備	23	防犯・空き家対策の推進
20	産業価値の創出	28	水の安定供給と下水処理の適正化
24	地域コミュニティの推進	30	治水対策の推進
29	地域の特色を生かした魅力ある景観形成	31	道路・交通環境整備の推進
37	行政デジタル化の推進		

豊里地区では、重要度が高い施策として、「2. 保育環境の充実」、「4. 健康づくりの推進」、「5. 地域医療体制の充実」、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「23. 防犯・空き家対策の推進」、「28. 水の安定供給と下水処理の適正化」などの施策が挙げられ、このうち、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「23. 防犯・空き家対策の推進」、「28. 水の安定供給と下水処理の適正化」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「11. 生涯学習の推進」、「20. 産業価値の創出」、「37. 行政デジタル化の推進」などの施策が挙げられます。これらの施策については、豊里地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 上柴地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
11	生涯学習の推進	1	子育て支援の充実
12	スポーツ・レクリエーションの推進	2	保育環境の充実
13	郷土の歴史・文化の継承と活用	4	健康づくりの推進
14	渋沢栄一の顕彰と精神の継承	5	地域医療体制の充実
16	農畜産物の販売流通体制の充実	6	地域福祉の推進
34	男女共同参画の実現	22	消防・救急体制の充実
35	移住・定住の推進	25	自然・生活環境の保全
36	市民との協働・交流の推進	26	環境衛生の推進
38	行財政運営の推進	27	良好な市街地・住環境形成の推進
		28	水の安定供給と下水処理の適正化
		33	人権・個性が尊重される社会づくりの推進
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
3	青少年の健全育成の推進	7	高齢者福祉の推進
10	家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上	8	障害者福祉の推進
17	商工業の振興	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
18	観光資源の整備と活用	15	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
20	産業価値の創出	19	就労環境の整備
24	地域コミュニティの推進	21	災害に強い防災体制の推進
29	地域の特色を生かした魅力ある景観形成	23	防犯・空き家対策の推進
37	行政デジタル化の推進	30	治水対策の推進
		31	道路・交通環境整備の推進
		32	公共交通の維持確保と交通安全の推進

上柴地区では、重要度が高い施策として、「5. 地域医療体制の充実」、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「22. 消防・救急体制の充実」、「23. 防犯・空き家対策の推進」、「28. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「32. 公共交通の維持確保と交通安全の推進」などの施策が挙げられ、このうち、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「23. 防犯・空き家対策の推進」、「32. 公共交通の維持確保と交通安全の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「24. 地域コミュニティの推進」、「29. 地域の特色を生かした魅力ある景観形成」、「37. 行政デジタル化の推進」などの施策が挙げられます。これらの施策については、上柴地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 南地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
12	スポーツ・レクリエーションの推進	1	子育て支援の充実
13	郷土の歴史・文化の継承と活用	2	保育環境の充実
14	渋沢栄一の顕彰と精神の継承	4	健康づくりの推進
24	地域コミュニティの推進	7	高齢者福祉の推進
34	男女共同参画の実現	22	消防・救急体制の充実
		25	自然・生活環境の保全
		26	環境衛生の推進
		28	水の安定供給と下水処理の適正化
		30	治水対策の推進
		33	人権・個性が尊重される社会づくりの推進
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
11	生涯学習の推進	3	青少年の健全育成の推進
16	農畜産物の販売流通体制の充実	5	地域医療体制の充実
18	観光資源の整備と活用	6	地域福祉の推進
20	産業価値の創出	8	障害者福祉の推進
29	地域の特色を生かした魅力ある景観形成	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
35	移住・定住の推進	10	家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上
36	市民との協働・交流の推進	15	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
37	行政デジタル化の推進	17	商工業の振興
38	行財政運営の推進	19	就労環境の整備
		21	災害に強い防災体制の推進
		23	防犯・空き家対策の推進
		27	良好な市街地・住環境形成の推進
		31	道路・交通環境整備の推進
		32	公共交通の維持確保と交通安全の推進

南地区では、重要度が高い施策として、「1. 子育て支援の充実」、「5. 地域医療体制の充実」、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「22. 消防・救急体制の充実」、「28. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「31. 道路・交通環境整備の推進」などの施策が挙げられ、このうち、「5. 地域医療体制の充実」、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「31. 道路・交通環境整備の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「11. 生涯学習の推進」、「35. 移住・定住の推進」、「37. 行政デジタル化の推進」などの施策が挙げられます。これらの施策については、南地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 岡部地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
11	生涯学習の推進	1	子育て支援の充実
12	スポーツ・レクリエーションの推進	2	保育環境の充実
13	郷土の歴史・文化の継承と活用	3	青少年の健全育成の推進
14	渋沢栄一の顕彰と精神の継承	4	健康づくりの推進
16	農畜産物の販売流通体制の充実	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
24	地域コミュニティの推進	10	家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上
29	地域の特色を生かした魅力ある景観形成	21	災害に強い防災体制の推進
30	治水対策の推進	22	消防・救急体制の充実
33	人権・個性が尊重される社会づくりの推進	25	自然・生活環境の保全
36	市民との協働・交流の推進	26	環境衛生の推進
38	行財政運営の推進	27	良好な市街地・住環境形成の推進
		28	水の安定供給と下水処理の適正化
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
15	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	5	地域医療体制の充実
17	商工業の振興	6	地域福祉の推進
18	観光資源の整備と活用	7	高齢者福祉の推進
20	産業価値の創出	8	障害者福祉の推進
34	男女共同参画の実現	19	就労環境の整備
35	移住・定住の推進	23	防犯・空き家対策の推進
37	行政デジタル化の推進	31	道路・交通環境整備の推進
		32	公共交通の維持確保と交通安全の推進

岡部地区では、重要度が高い施策として、「1. 子育て支援の充実」、「5. 地域医療体制の充実」、「7. 高齢者福祉の推進」、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「22. 消防・救急体制の充実」、「31. 道路・交通環境整備の推進」などの施策が挙げられ、このうち、「5. 地域医療体制の充実」、「7. 高齢者福祉の推進」、「31. 道路・交通環境整備の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「18. 観光資源の整備と活用」、「35. 移住・定住の推進」、「37. 行政デジタル化の推進」などの施策が挙げられます。これらの施策については、岡部地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 川本地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
11	生涯学習の推進	1	子育て支援の充実
12	スポーツ・レクリエーションの推進	2	保育環境の充実
13	郷土の歴史・文化の継承と活用	3	青少年の健全育成の推進
14	渋沢栄一の顕彰と精神の継承	4	健康づくりの推進
24	地域コミュニティの推進	6	地域福祉の推進
34	男女共同参画の実現	7	高齢者福祉の推進
38	行財政運営の推進	8	障害者福祉の推進
		9	「生きる力」を育む学校教育の推進
		10	家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上
		22	消防・救急体制の充実
		26	環境衛生の推進
		28	水の安定供給と下水処理の適正化
		30	治水対策の推進
		33	人権・個性が尊重される社会づくりの推進
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
16	農畜産物の販売流通体制の充実	5	地域医療体制の充実
17	商工業の振興	15	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
18	観光資源の整備と活用	19	就労環境の整備
20	産業価値の創出	21	災害に強い防災体制の推進
29	地域の特色を生かした魅力ある景観形成	23	防犯・空き家対策の推進
35	移住・定住の推進	25	自然・生活環境の保全
36	市民との協働・交流の推進	27	良好な市街地・住環境形成の推進
37	行政デジタル化の推進	31	道路・交通環境整備の推進
		32	公共交通の維持確保と交通安全の推進

川本地区では、重要度が高い施策として、「2. 保育環境の充実」、「5. 地域医療体制の充実」、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「22. 消防・救急体制の充実」、「28. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「32. 公共交通の維持確保と交通安全の推進」などの施策が挙げられ、このうち、「5. 地域医療体制の充実」、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「32. 公共交通の維持確保と交通安全の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「29. 地域の特色を生かした魅力ある景観形成」、「36. 市民との協働・交流の推進」、「37. 行政デジタル化の推進」が挙げられます。これらの施策については、川本地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 花園地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
11	生涯学習の推進	1	子育て支援の充実
12	スポーツ・レクリエーションの推進	2	保育環境の充実
13	郷土の歴史・文化の継承と活用	4	健康づくりの推進
14	渋沢栄一の顕彰と精神の継承	21	災害に強い防災体制の推進
24	地域コミュニティの推進	22	消防・救急体制の充実
29	地域の特色を生かした魅力ある景観形成	25	自然・生活環境の保全
30	治水対策の推進	26	環境衛生の推進
34	男女共同参画の実現	27	良好な市街地・住環境形成の推進
		28	水の安定供給と下水処理の適正化
		33	人権・個性が尊重される社会づくりの推進
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
15	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	3	青少年の健全育成の推進
17	商工業の振興	5	地域医療体制の充実
18	観光資源の整備と活用	6	地域福祉の推進
20	産業価値の創出	7	高齢者福祉の推進
35	移住・定住の推進	8	障害者福祉の推進
36	市民との協働・交流の推進	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
37	行政デジタル化の推進	10	家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上
38	行財政運営の推進	16	農畜産物の販売流通体制の充実
		19	就労環境の整備
		23	防犯・空き家対策の推進
		31	道路・交通環境整備の推進
		32	公共交通の維持確保と交通安全の推進

花園地区では、重要度が高い施策として、「1. 子育て支援の充実」、「5. 地域医療体制の充実」、「22. 消防・救急体制の充実」、「28. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「31. 道路・交通環境整備の推進」、「32. 公共交通の維持確保と交通安全の推進」などの施策が挙げられ、このうち、「5. 地域医療体制の充実」、「31. 道路・交通環境整備の推進」、「32. 公共交通の維持確保と交通安全の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「35. 移住・定住の推進」、「36. 市民との協働・交流の推進」、「37. 行政デジタル化の推進」が挙げられます。これらの施策については、花園地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

4. 自由記入欄（まちづくり全般について） ※原文の通り

自由意見から主要な意見を抽出し、施策分野ごとに分類しました。

（1）＜子育て・保健・福祉＞に関する意見

- ・ 子供を産み、育てる世代への支援をして頂きたい。
- ・ 深谷市は公園が沢山ありますが他の市に比べると遊具が充実してなくて、子供たちは、つまらないそうです！！
- ・ 地方都市（または町）で、せっかく自然環境にも恵まれているので子育てのし易さ、メリットを打ち出して若い町づくりを目指してください。
定年後、健康のために街歩きをしています。ウォーキングコースや、公園に筋トレできる鉄棒等があると良いと思って歩いています。少しでも長く、元気で過ごしたい定年後のすべての人が元気で医療費削減になるように、整備してもらえたらうれしいです。
- ・ 0～2歳児第1子から保育料全額免除は本当に良かったです。思い切った政策をされたこと、大変素晴らしいと思います。国が全く役に立たないので地方から変えていただけると良いと思います。今後も継続いただけましたらと思います。この制度があるから、深谷市に今後も住もうと思っております。
- ・ 深谷市の医療体制にやや不満があり、もう少し祝祭日等の休日時の受診できる体制を整えて頂けると、安心です。又、緊急時も同様です。医師や看護師さんの人材確保や就労の問題等さまざまな課題はあるかとは思いますが。中学生になった息子を幼少期の時夜間近効で診てくれる所がなく、川越まで高速にのり、受診した事。その他もありましたので、記入させて頂きました。
- ・ 皮フ科、眼科、整形外科等、専門医の個人医院が少なすぎる。全体的に医療機関が足りていないと感じています。
- ・ 保育料の無償化の意味はあるのか？保育のありがたみを感じているように思えない。大学生まで、何か対象とするものを作ってほしい。無償化＝タダ！！と感じてる保護者が多い。それだけにお金をかけて、もっと他のものにも税金をかけてください。子育て世帯だけ優遇されるのは、おかしいです。深谷から変えてほしい。子どもも、老人もみんなに平等にしてほしい。
- ・ 保育料無償の施策は現在の若いファミリー世代にとってとても良いありがたい施策で深谷市として誇れるものだと思います。しかし、今、奨学金返済を行っている真最中の人々の生活も大変だと思いますので（給料の昇給が少ない世の中なので）深谷市単独補助を頂ければとても助かると思います。また、高齢者福祉も更に充実したものになることを望みます。共に、高齢者を抱え、在宅看護・介助の為に職を手離し自分の

人生を棒に振るような中高年の方々の今後も心配です。誰もが住みやすい生活しやすい深谷市となるようにもっともっと福祉に力を入れてくださるととても嬉しいです。

- ・ 保育園の日曜・祝日に利用可能な園が少なくてもあると良いと他県から転入する際に思いました。

(2) <教育・文化>に関する意見

- ・ 70歳以上の高齢者です。2019年に高校の同窓会をして、次回は渋沢栄一誕生地の深谷で開催しようということになりました。(コロナ禍になり、まだ未開催)自分が幹事になると、どのように深谷を見て回るか難しく思われました。深谷在住の方が車を出して運転するのも自信がありません。見学地を回ってくれるバスがあれば…予約ができれば…と思います。たとえば、3000円位で説明付きで回ってくれれば…と思います。同窓会でなくても、深谷駅を降りたらバスに乗れば、渋沢栄一関係が回れるツアーがあればもっと気軽に、みなさんに来ていただけたらと思います。
- ・ 7月より渋沢栄一氏が一万円札として全国に知れ渡るので深谷市も全国に知れ渡る様にどんどんアピールしていけるように努力して頂きたいと思います。
- ・ 定年された方が次世代の若者に知識や、経験、そして体験を教えてあげられるような(押し付けるような教育ではなく)時が必要になります。特に6才~15才まで毎年、職業、職場体験を毎年毎年、やるべきです。興味有る無いは別にしても記憶のどこかに残ってるはずです。人を育てる大切さを深谷市が日本を代表して、長い時間をかけて実践してもらいたい。それが渋沢さんの教えに近いものがあるのではないのでしょうか？
- ・ もっと、もっとまちづくりをして、若者も、老人も、住みやすいまちに、すべき。文化も、教育も、おくられていると思う。もっと、若い人の意見を、とりいれるべき。商業、文化に、力を入れるべきだと思う。このままでは、若い人は、居つかなくなる。いつまでも、昔のやり方では、まちは良くなならない、新しい風を、入れるべきだと思う。
- ・ 横須賀市で行われている「終活」支援を深谷市でも取り入れてほしい。行政と民間企業が連携し高齢化社会に対応できる街に。
- ・ 深谷は祭りやイベントがたくさんあって良いと思いますが、最近は会場が南方面の離れた場所になり、もっと中心部でやってほしいです。先日の花フェスタはいまひとつ盛り上がり欠けた感じがします。メイン会場と第2会場を一緒にすることは出来なかったのでしょうか？すてきな催し物なのに残念です。市外からお客さんに市の魅力をアピールするのも大切ですが、もっと市民が楽しめるようにやってほしいです。

(3) <産業振興>に関する意見

- ・ 駅近にショッピングモールのような商業施設が欲しい。
- ・ 花園のアウトレットは当初の計画とのギャップが大きいのではないかと行って見て、人手が少ないのおどろいた。(投資回収?) 一度、総括して、今後の計画の見直しや、改善の手を打つなど、やるべきに思う。税金のムダ遣いになっていないことを願う。
- ・ 市内で働ける場所、職種が少なく感じます。
- ・ まだまだ働ける元気な高齢者の働く場所、機会などを増したり、情報を知る場を提供していただけるとうれしいです
- ・ 東芝深谷工場の跡地がどうなるのか 広大な場所なので気になっています。ふかや花園アウトレットは2期、3期工事まであって、まだ広がるらしい話を耳にしますが、他地域のアウトレットとくらべて、集客力が弱い様に思います。アウトレット(ショッピング施設)以外の誘致もあって良いのではないかと思います。
- ・ アウトレットを誘致するだけでなく発展させて欲しい。
- ・ 地域で作っている農作物を深谷市内でもっと買えるようにしてほしい。例えばブロッコリやとうもろこしなど。
- ・ 農業の活性化はこれからの重要な課題だと思います。農地の不耕作が目立ち、手入れが不十分なため雑木林や荒地化している場合もあるので、活用の推進強化が必要だと感じています。
- ・ 深谷市に越してきて2年程になりますが、とても住みやすい街だと感じて、充実した日々を送れています。特に子供たちのマナーというか、良い子ぶりに驚かされました。(道を譲ると振り向いて、車に向かってお辞儀してくれたり…)それぞれの世代が良い感じに絡み合っているんだらうなと感じます。かたや、悪い驚きは、耕作放棄地の問題です。年配の方(70~80才)が農作業を続けられなくなり、でも子供たちは仕事があったり、離れて暮らしている為、困っているという話をよく耳にします。畑の管理だけでも、面あたり年間で3万円は掛かってしまうかと思えますし、それなら、深谷市がバックアップして、畑を使いたい人、貸したい人を気軽に、フランクに結び合わせてあげられれば多くの方々が喜ぶ、助かるのではと思います。

(4) <暮らし・環境>に関する意見

- ・ 自治会としての存在価値が、生かされていない 会費、だけ支払わされていて、運営自体わかりません。現実、ここ近年脱会される方が、出てきております。市の方の対策したい何かあるのでしょうか?自治会長の顔が、近年ほとんど見かけないのは、どういことでしょうか、役員だけ集まって会合している様ですが、あやしいと思って

いる方もいます。近くの公園も、死にかけています。イベントなんかできないものでしょうか。町内フリーマーケットとか不用品交換会とか…いったい自治会ってなんなんでしょうか、不明ばかりです。

- ・災害が起きた時の避難所のプライバシーが重要だと思います。身体的にベッドが必要な方に、避難所に置いてなかったり避難所に行く手だても大変だったり、動けない方にも、ずっと気楽に横にねていられる環境が必要だと思います。ダンボールベッドや、テントなども、とっても重要な、数多く必要だと思います。
- ・十字路、T字路等に設置してあるカーブミラーについて、ここ数年来、大変よごれているが、管理者である市は清掃を行なっていますか？清掃を行っていない、又は業務多端、予算措置がなされていない等、理由は多々あると思いますが、では、なぜ自治会等のボランティアの活動を活用しないのですか？交通の安全に資すると思いますが、如何か？
- ・災害があった時の電力確保に、水力発電もあると良いと思います。太陽光発電は、夜間や天気の悪い時は使えないけど、深谷は川が多いので、天気や時間に関係なく発電できます。地震がこの頃多いので、各ひなん場所の近くに川がある事が多いのでそう思いました。簡易的でメンテナンスも簡単な商品があるそうです。
- ・志戸川の草刈を後1回2回位お願いしたいです。歩けないようです。
- ・空き家をなんとかしてもらいたい。
- ・水害や地震等の緊急事態時の対策を整えてほしい。
- ・◎ゴミの収集に関しては深谷市は、県内でも、トップクラスに、充実していると思います。他の市町村は、だいたい、週に2回くらいしか、ゴミ収集がありません。このことは、他の市町村に、自慢できます。これからも、続けてほしいです。
- ・市道及び県道について 車にて運転中、生垣が歩道まで張出している所があり、歩行者・自転車などの接触に注意する事(状況)を見うけられる！※生垣などの管理責任について、行政では何かしら、行動などを行っているのだろうか？
これから梅雨時、生垣の木々・枝は伸びるだろう…！
- ・歩道の草取りを早目にやってほしい

(5) <都市・生活基盤>に関する意見

- ・バイパスから北に街灯をふやしてほしい
- ・桜ヶ丘、秋本町付近の川沿い、夜間街灯がなさすぎて怖い。駐車車両が多くて危険な時がある。

- ・ 深谷市全体で本下水道を整備しましょう 地方に住んでいる人達（山などの田舎）から来た友人にまだ、浄化槽なのかとびっくりされる。深谷市なのに、遅いし田舎より住むの大変なんじゃん！と言われます！
通学路の標識の少なさにびっくりします。子供のとびだし、通学路の為徐行をうながすなどのかんばんをもっとふやすべき。あぶない子供をつねに見る！
- ・ 高齢者の方よりバスの予約がすぐうまってしまうと困っている声を聞きます。定員で打ち切りではなく早めに申し込みをされている希望者が利用できるサポートをぜひお願いします。
交通の利便性として電柱の設置箇所を見直して頂きたいです。
- ・ コミュニティバスですがコースにより色別にならうとどうですか？おなじ駅行くにもとうまわりしたときの話をききます。
- ・ 国道 17 号線より南は発達、整備されているように思われるが北側はあまり進んでいないように感じる
- ・ 狭い歩道や自転車専用レーンの設置や整備が進むとよい。
- ・ 歩道、外灯、除草、信号など増えてきたらありがたい。
- ・ 日常生活で必要不可欠な生活道路の幅員が狭い箇所が多いように思う。たとえば田谷、上野台の住宅密集地。籠原東方方面付近もそうだが、道路をきちんとする前に建築許可してしまったからどうしようもない。4m 道路未満が多く、一方通行のような道路が多い。コスモス街道付近や、埼玉大集団の農地から舞いあがるドロボコリもなんとかしてほしい。はっきり申し上げて、農業優先すぎなのだ。
- ・ 栄えている所とそうでない所の差が激しすぎる。もう少しバランス良く出来たらもっと良さが際立つと思っています。
- ・ レンガ作りの蔵などを残しつつ、新しい町並みになればいいと思います。
- ・ 下水道をもっと普及してほしい 同じ地域でもきちんと普及してある場所をそうでない場所がある 深谷市に古くから住んでいる市民はそのままで移住してきた市民は整った環境になっている
- ・ 都心に比べるとまだまだ不便なので、80 才位でも車を運転しているのが現状。しかし事故が本当に心配 車社会で生活しているので、やはり車がないと、生活できないと感じているのかもしれない。その為、深谷には市バスがなく不便に感じるのかもしれない。くるりんは予約が必要のようですし、少し前に試乗会がバスであったが、利用できるになると、もっと良いと思う。私達はまだまだ自分達で運転できるので、交通に不便さを感じてはいない、しかし今後はお年寄りが増えるので、考える必要がありますね。

- ・駅のトイレを、新しくしてほしいと思います。トイレにも、花などや植物を設置すれば、ふいん気が明るくなると思います。昔は、駅前広場には、水辺があったと思いますが、流れのある心地よい場所、自然と共生できるほっと一息つくことができる空間や、植木の数もたくさん増やしてほしいと思います。

(6) <協働・行政経営>に関する意見

- ・上下水道料金が他市町村にくらべ高いと思います 安全な水、環境にやさしい下水の必要はわかりますが無駄はないか再考願います。地域により人口減少、高齢化、子ども減少がより進んでいるようです。対策をお願いします。継続する町を希望します。
- ・ネギーのポイントバックキャンペーンを定期的にしてほしい
- ・市のまちづくりで何をどの程度行っているのか理解、把握している市民がどの程度居るのだろうか？ホームページや、公報などが情報源になるのだろうか？隅々まで読む人がいるのか？市の活動がもっと多くの市民に知れる方法はないものだろうか？
- ・税金の対応は厳しく必ず徴収して。
- ・土曜もしくは日曜の午前中だけでも市役所のオープン化をお願いしたいです。月～金に市役所に行けないので、なんとか実現にもって行って頂けるとありがたいです。
- ・小さな孫を連れて深谷テラスパークによく出掛けることがあります。孫達はすべり台や水遊びが大好きでとても気に入っています。しかし大変困ってしまう事があります。それは雨上りの翌日に行くと、すべり台全体が汚れていて、とてもすべり台を利用する気持ちになりません。(汚くて)職員さんが清掃しないのでしたら、せめて委託の人達を請ってきれいにしてほしいものです。私達は市民なので少しは「ガマン」できますが、他県や他市町村の方から訪れた人にはとても残念に感じるでしょう。また、深谷市のイメージダウンになることでしょう。
- ・市街地の街並みや行政のデジタル化等、全ての物を近代化するのではなく、古き良き物を残しつつ新しいものを取り入れる取り組みをお願いしたい。どの年代にも配慮した視点で安心安全に生活できる市を目指してほしい。
- ・行政のデジタル化になってしまうと老人は大変です
- ・災害の少ない地域特性を生かして、他地域からの移住者を増やしたらどうか。そのような人たちが、深谷の良さを再発見し、深谷の発展につながると思います。
- ・外国人居住者が増えている。雇用している会社は採用するのに当って問題なく日常生活が送れる様に、ちゃんと教育すべきだ。2年前ゴミ置場に人糞がゴミとして出されることが数回あり、地域で問題になったことがある。結果的には出した人は外国人で

人糞をゴミにだす風習がある国の人で住民が注意し出すのをやめたという事も発生した。

教育もたとえば

- ・日本と母国との風習等の違い
- ・日本には自治会組織があり、自治会費を支払って地域が成り立っていること
- ・日常的に出るゴミの出し方、分別の仕方

等の教育を行わないから地域住民とトラブルになることもある。この様な教育を自治会がやることは、言葉のかべ、理解させることのむずかしさ等がありとても出来ない。市としても、外国人を住ませる不動産会社及び雇用する会社等へのなんらかの対策をこうじ、まちづくりをしてもらいたい。

2. Ⅲ. アンケート調査結果の単純集計結果

1. 深谷市のまちづくりについて

深谷市の現状を把握し、今後のまちづくりの参考とします。該当する番号に○をつけてください。

1. 深谷市のまち全体の印象について

問1. これからもずっと深谷市に住み続けたいと思いますか。

- | | |
|--------------|-------|
| 1. ずっと住み続けたい | 65.4% |
| 2. 当分の間は住みたい | 29.7% |
| 3. できれば転居したい | 3.6% |
| 4. すぐにも転居したい | 0.2% |

問5. 定期的に健康診断や人間ドック、がん検診のいずれかを受けていますか。

- | | |
|-----------|-------|
| 1. 受けている | 77.3% |
| 2. 受けていない | 22.4% |

2. 子育て・保健・福祉について

問1. 地域で子どもを育む活動に参加していますか。(例：ボランティア活動、スポーツの指導、子ども会やPTA活動、青少年相談員やボーイスカウト等の活動など)

- | | |
|---------------|-------|
| 1. 参加している | 11.5% |
| 2. ときどき参加している | 9.4% |
| 3. あまり参加していない | 10.4% |
| 4. 参加していない | 67.4% |

問6. かかりつけのお医者さんはいますか。

- | | |
|--------|-------|
| 1. いる | 75.6% |
| 2. いない | 23.7% |

問7. 健康的な食生活に気をつけていますか。

- | | |
|----------------|-------|
| 1. 日常的に気をつけている | 44.6% |
| 2. ときどき気をつけている | 39.7% |
| 3. あまり気をつけていない | 13.1% |
| 4. 気をつけていない | 2.1% |

問2. 小学生以下（小学校6年生まで）のお子さんを持つ保護者の方にお尋ねします。仕事と子育てを両立できていると思いますか。

- | | |
|--------------------|-------|
| 1. 両立できていると思う | 16.7% |
| 2. ある程度は両立できていると思う | 60.3% |
| 3. あまり両立できていないと思う | 15.1% |
| 4. 両立できていないと思う | 7.9% |

問8. 悩みごとを相談できる人（家族や友人など）はいますか。

- | | |
|--------|-------|
| 1. いる | 86.5% |
| 2. いない | 12.6% |

問9. 日常生活で困ったことがあった時に、手助けしてくれる人（民生委員・児童委員や自治会など）はいますか。

- | | |
|--------|-------|
| 1. いる | 46.8% |
| 2. いない | 50.7% |

問3. 中学生以下（中学校3年生まで）のお子さんを持つ保護者の方にお尋ねします。深谷市が子育てのしやすいまちだと思いますか。

- | | |
|--------------|-------|
| 1. たいへんそう思う | 12.8% |
| 2. ある程度はそう思う | 71.1% |
| 3. あまりそう思わない | 14.1% |
| 4. そう思わない | 2.0% |

3. 教育・文化について

問1. 生涯学習（自発的な学習、自己啓発活動など）を実践していますか。

- | | |
|---------------|-------|
| 1. 日常的に実践している | 13.2% |
| 2. ときどき実践している | 21.1% |
| 3. あまり実践していない | 28.7% |
| 4. 実践していない | 35.6% |

問4. 普段の生活で健康づくり（運動や歩くことなど）に取り組んでいますか。

- | | |
|----------------|-------|
| 1. 日常的に取り組んでいる | 30.2% |
| 2. ときどき取り組んでいる | 31.0% |
| 3. あまり取り組んでいない | 25.2% |
| 4. 取り組んでいない | 13.0% |

問2. この1年間に芸術文化や多様な文化活動に親しむ機会がありましたか。

- | | |
|-------------|-------|
| 1. たいへんあった | 6.7% |
| 2. ある程度はあった | 24.5% |
| 3. あまりなかった | 32.9% |
| 4. なかった | 35.4% |

問3. スポーツやレクリエーション活動をどの程度行っていますか。

※スポーツ・レクリエーション活動は、以下のような活動も含まれます。

散歩・ウォーキング、ジョギング・ランニング、軽い体操、筋力トレーニング、ヨガ、ゲートボール、フォークダンス、民謡踊りなど

- | | |
|--------------|-------|
| 1. 日常的に行っている | 28.4% |
| 2. ときどき行っている | 27.3% |
| 3. あまり行っていない | 14.6% |
| 4. 行っていない | 29.3% |

4. 産業振興について

問1. 市外の店舗で深谷産の農畜産物の販売を目にすることがありますか。

- | | |
|-------------|-------|
| 1. よく目にする | 17.2% |
| 2. たまに目にする | 43.8% |
| 3. あまり目にしない | 27.7% |
| 4. 目にしない | 10.5% |

問2. 食材等の購入の際に、深谷産の農畜産物を購入することを心掛けていますか。

- | | |
|---------------|-------|
| 1. いつも心掛けている | 20.6% |
| 2. たまに心掛けている | 42.3% |
| 3. あまり心掛けていない | 25.5% |
| 4. 心掛けていない | 10.9% |

問3. ご自身またはご家族の仕事と生活のバランスは取れていますか(休暇の取得状況や家族と過ごす時間の確保などは十分ですか)。

- | | |
|-------------------|-------|
| 1. とてもバランスが取れている | 20.0% |
| 2. ややバランスが取れている | 50.3% |
| 3. あまりバランスが取れていない | 20.3% |
| 4. バランスが取れていない | 7.9% |

5. 暮らし・環境について

問1. ハザードマップで自宅等の災害の危険性(自宅等の浸水想定が地震時の揺れやすさなど)について確認しましたか。

- | | |
|------------|-------|
| 1. 確認した | 64.9% |
| 2. 確認していない | 34.9% |

問2. ご自宅に災害に対する備え(備蓄品など)はありますか。

- | | |
|------------|-------|
| 1. 十分ある | 3.2% |
| 2. ある程度はある | 41.4% |
| 3. あまりない | 43.5% |
| 4. ない | 11.7% |

問3. この1年間で消費者トラブルに巻き込まれたことはありますか。

- | | |
|-------|-------|
| 1. ある | 3.1% |
| 2. ない | 96.8% |

問4. 日ごろ、防犯対策を行っていますか。

- | | |
|---------------|-------|
| 1. 十分行っている | 6.4% |
| 2. ある程度は行っている | 55.6% |
| 3. あまり行っていない | 30.8% |
| 4. 行っていない | 6.8% |

問5. 地域活動(自治会での活動など)への程度参加していますか。

- | | |
|---------------|-------|
| 1. 日常的に参加している | 16.1% |
| 2. ときどき参加している | 30.7% |
| 3. あまり参加していない | 24.4% |
| 4. 参加していない | 28.6% |

問6. 環境に配慮した取組(省エネ(節電を含みます)、自然や川の保全活動など)を行っていますか。

- | | |
|--------------|-------|
| 1. 日常的に行っている | 21.5% |
| 2. ときどき行っている | 38.7% |
| 3. あまり行っていない | 26.2% |
| 4. 行っていない | 13.2% |

問7. 環境問題(地球温暖化問題、エネルギー問題、生態系の問題など)を以前より意識するようになりましたか。

- | | |
|-------------------|-------|
| 1. 以前より意識するようになった | 51.2% |
| 2. 変わらない | 46.2% |
| 3. 以前より意識しなくなった | 2.2% |

問8. 普段からごみの減量化やリサイクルを心がけていますか。

- | | |
|----------------|-------|
| 1. いつも心がけている | 31.8% |
| 2. ある程度は心がけている | 55.6% |
| 3. あまり心がけていない | 10.5% |
| 4. 心がけていない | 1.9% |

6. 都市・生活基盤について

問1. 市内の住宅、商業、工業、農業、自然などの土地利用において、相互に調和がとれていると思いますか。

- | | |
|---------------|-------|
| 1. たいへんとれている | 2.6% |
| 2. ある程度はとれている | 55.3% |
| 3. あまりとれていない | 32.1% |
| 4. とれていない | 6.9% |

問2. お住まい周辺の住環境に満足していますか。

- | | |
|---------------|-------|
| 1. とても満足している | 14.5% |
| 2. やや満足している | 55.3% |
| 3. あまり満足していない | 22.4% |
| 4. 満足していない | 7.5% |

問3. あなたの身近に、自然に親しむことができる環境はありますか。

- | | |
|------------|-------|
| 1. たいへんある | 21.4% |
| 2. ある程度はある | 58.0% |
| 3. あまりない | 20.4% |

問4. 市内に魅力的なまち並みや景観があると思いますか。

- | | |
|------------|-------|
| 1. たいへんある | 5.4% |
| 2. ある程度はある | 44.0% |
| 3. あまりない | 40.0% |
| 4. ない | 9.8% |

問5. 水害に対して安心した生活を送ることができていますか。

- | | |
|---------------|-------|
| 1. たいへんできている | 18.0% |
| 2. ある程度はできている | 57.8% |
| 3. あまりできていない | 17.4% |
| 4. できていない | 6.2% |

問6. 市内の道路を普段利用する際に、特に不便を感じることはありませんか。

- | | |
|------------|-------|
| 1. 感じない | 12.7% |
| 2. あまり感じない | 38.6% |
| 3. ときどき感じる | 37.3% |
| 4. いつも感じる | 10.9% |

問7. 市内の公共交通機関の利便性（時間・本数・路線・サービス）に不便を感じていますか。

- | | |
|------------|-------|
| 1. 感じない | 15.7% |
| 2. あまり感じない | 32.8% |
| 3. ときどき感じる | 32.1% |
| 4. いつも感じる | 18.2% |

7. 協働・行政経営について

問1. 深谷市が人権と個性の尊重されているまちであると思いますか。

- | | |
|--------------|-------|
| 1. たいへんそう思う | 6.1% |
| 2. ある程度はそう思う | 59.0% |
| 3. あまりそう思わない | 26.5% |
| 4. そう思わない | 4.8% |

問2. この1年間に自分の人権が侵害されたと思ったことはありますか。

- | | |
|-------|-------|
| 1. ある | 8.2% |
| 2. ない | 91.1% |

問3. お互いの人権について意識をして生活をしてしていますか。

- | | |
|---------------|-------|
| 1. 日常的に意識している | 27.9% |
| 2. ときどき意識している | 34.2% |
| 3. あまり意識していない | 29.3% |
| 4. 意識していない | 7.5% |

問4. 市内で、外国人とのトラブルなどを聞いたことはありますか。

- | | |
|-------------|-------|
| 1. よく聞く | 1.1% |
| 2. ときどき聞く | 10.4% |
| 3. あまり聞かない | 43.0% |
| 4. 聞いたことがない | 44.7% |

問5. 性別に関係なく、家庭、地域、職場で
対等な役割分担がされていると思いますか。

- | | |
|--------------|-------|
| 1. たいへんそう思う | 5.8% |
| 2. ある程度はそう思う | 52.5% |
| 3. あまりそう思わない | 30.4% |
| 4. そう思わない | 8.8% |

問6. 男女共同参画の意識は以前と比べて変
化していますか。

- | | |
|-------------------|-------|
| 1. 以前より意識するようになった | 25.1% |
| 2. 変わらない | 71.4% |
| 3. 以前より意識しなくなった | 1.5% |

問7. 配偶者などによる「電話、メール等の
細かい監視」「生活費を渡さない」などの行
為が暴力であると思いますか。

- | | |
|---------------------|-------|
| 1. どんな場合でも暴力にあたると思う | 39.8% |
| 2. 暴力の場合とそうでない場合がある | 43.1% |
| 3. 暴力にあたるとは思わない | 6.2% |
| 4. 分からない | 8.7% |

問8. 市役所における窓口対応についての満
足度をお聞かせください。

- | | |
|-------------|-------|
| 1. とても満足である | 29.4% |
| 2. やや満足している | 58.1% |
| 3. やや不満である | 8.9% |
| 4. 不満である | 2.0% |

問9. 市内において、市民と行政が互いに力
を出し合い地域課題を解決すること（協働の
まちづくり）ができていると思いますか。

- | | |
|--------------|-------|
| 1. 大変そう思う | 5.1% |
| 2. ある程度はそう思う | 60.4% |
| 3. あまりそう思わない | 26.2% |
| 4. そう思わない | 4.7% |

問10. 市民ガーデニングボランティア、王
国ボランティアを知っていますか。

- | | |
|----------|-------|
| 1. 知っている | 42.3% |
| 2. 知らない | 56.7% |

問11. 花と緑をいかしたまちづくり活動に
興味はありますか。

- | | |
|----------|-------|
| 1. 興味がある | 64.0% |
| 2. 興味がない | 34.1% |

問12. 花と緑をいかしたまちづくり活動に
参加したいですか。

- | | |
|------------|-------|
| 1. 参加したい | 37.6% |
| 2. 参加したくない | 59.0% |

問13. 市のオンラインサービスを利用した
ことがありますか。（例：各種申請手続き、
相談、イベント参加、コンビニ交付など）

- | | |
|--------------|-------|
| 1. 利用したことがある | 29.2% |
| 2. 利用したことがない | 69.8% |

問14. 「SDG s」という言葉を知ってい
ますか。

- | | |
|-------------|-------|
| 1. よく理解している | 37.5% |
| 2. 聞いたことはある | 48.8% |
| 3. 存在を知らない | 12.1% |

※SDG s (Sustainable Development Goals) は、2030
年を期限とする国際社会全体の開発目標であり、「誰一人取
り残さない」社会の実現を目指すための目標として、17の
ゴール（目標）が設定されています。

2. 深谷市の施策について

あなたは、深谷市の次の各分野別の行政施策について、どのくらい重要だと思いますか？また、現在の深谷市の取り組みについて、どのくらい満足していますか？
それぞれあてはまるものを1つずつ選び、○をつけてください。

●重要度に関する回答

	重要度 (%)					無回答 (%)	重要度 (点数)
	重要である	まあ重要である	あまり重要でない	まったく重要でない	わからない		
<記入例>	①	2	3	4	5		

◆<子育て・保健・福祉>に関すること

子育て支援の充実	64.0	20.0	2.8	0.2	8.9	4.0	1.45
保育環境の充実	63.0	20.4	2.8	0.1	9.5	4.1	1.43
青少年の健全育成の推進	49.3	30.9	4.9	0.4	10.1	4.3	1.24
健康づくりの推進	49.2	35.1	5.8	0.7	4.7	4.4	1.26
地域医療体制の充実	72.6	18.7	1.7	0.1	2.8	4.1	1.62
地域福祉の推進	54.0	32.3	3.8	0.4	5.4	4.1	1.36
高齢者福祉の推進	55.6	31.6	4.2	0.9	4.1	3.6	1.37
障害者福祉の推進	56.2	30.4	3.6	0.2	5.4	4.1	1.39

◆<教育・文化>に関すること

「生きる力」を育む学校教育の推進	53.9	28.3	3.1	0.4	8.5	5.8	1.32
家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上	49.9	33.9	3.5	1.0	7.5	4.2	1.28
生涯学習の推進	31.5	42.4	11.5	0.9	9.5	4.2	0.92
スポーツ・レクリエーションの推進	26.7	44.7	13.8	2.2	8.4	4.1	0.80
郷土の歴史・文化の継承と活用	29.9	46.4	11.1	1.4	7.0	4.2	0.92
渋沢栄一の顕彰と精神の継承	28.7	38.9	15.5	3.8	9.1	4.0	0.73

◆<産業振興>に関すること

農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	47.5	33.0	3.6	0.1	11.2	4.6	1.24
農畜産物の販売流通体制の充実	42.5	36.6	4.2	0.2	11.4	5.1	1.17
商工業の振興	38.4	38.3	4.4	0.4	13.0	5.4	1.10
観光資源の整備と活用	37.2	37.5	9.1	1.2	10.1	4.8	1.00
就労環境の整備	50.7	30.2	4.0	0.2	10.0	4.9	1.27
産業価値の創出	37.2	37.3	6.1	0.5	13.8	5.1	1.05

重要度 (%)					無回答 (%)	重要度(点数)
重要である	まあ重要である	あまり重要でない	まったく重要でない	わからない		

◆<暮らし・環境>に関すること

災害に強い防災体制の推進	70.2	20.8	1.0	0.1	3.2	4.7	1.60
消防・救急体制の充実	72.9	18.7	0.9	0.2	2.8	4.4	1.63
防犯・空き家対策の推進	58.1	31.5	2.2	0.4	3.3	4.4	1.45
地域コミュニティの推進	34.6	44.6	10.0	1.0	4.9	4.8	1.02
自然・生活環境の保全	45.5	41.8	4.0	0.4	4.0	4.4	1.28
環境衛生の推進	51.2	36.7	3.2	0.6	4.0	4.3	1.35

◆<都市・生活基盤>に関すること

良好な市街地・住環境形成の推進	45.7	38.9	3.7	0.4	5.2	6.1	1.26
水の安定供給と下水処理の適正化	67.6	22.9	1.2	0.2	3.7	4.3	1.56
地域の特色を生かした魅力ある景観形成	30.9	41.3	14.0	0.7	7.2	5.9	0.88
治水対策の推進	48.1	33.0	4.4	0.2	8.2	6.1	1.24
道路・交通環境整備の推進	55.4	32.3	3.6	0.5	3.2	5.1	1.38
公共交通の維持確保と交通安全の推進	54.9	32.6	2.8	0.5	3.3	5.8	1.39

◆<協働・行政経営>に関すること

人権・個性が尊重される社会づくりの推進	42.0	39.4	4.7	0.9	7.3	5.7	1.17
男女共同参画の実現	34.6	41.2	8.9	1.4	8.3	5.7	0.99
移住・定住の推進	28.4	40.3	14.0	1.6	10.1	5.6	0.80
市民との協働・交流の推進	22.6	45.2	14.8	1.5	9.9	5.9	0.73
行政デジタル化の推進	27.3	40.2	15.8	2.3	8.7	5.7	0.74
行財政運営の推進	33.3	40.7	6.4	0.7	13.0	5.9	0.99

●満足度に関する回答

	満足度 (%)					無回答 (%)	満足度(点数)
	満足である	まあ満足である	やや不満である	不満である	わからない		
<記入例>	①	2	3	4	5		

◆<子育て・保健・福祉>に関すること

子育て支援の充実	5.8	40.2	11.6	4.4	31.8	6.2	0.31
保育環境の充実	5.7	38.3	12.0	4.2	32.9	6.9	0.29
青少年の健全育成の推進	2.3	35.1	10.6	2.5	42.0	7.4	0.24
健康づくりの推進	6.1	48.6	13.1	2.7	22.6	6.9	0.42
地域医療体制の充実	5.2	42.0	20.1	12.0	15.0	5.7	0.08
地域福祉の推進	2.7	36.5	16.4	5.6	32.6	6.2	0.14
高齢者福祉の推進	3.2	36.6	17.3	6.3	30.7	5.9	0.13
障害者福祉の推進	3.2	31.4	14.5	5.1	39.2	6.7	0.13

◆<教育・文化>に関すること

「生きる力」を育む学校教育の推進	2.7	30.9	11.5	3.5	42.4	9.0	0.18
家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上	3.2	33.5	13.6	4.3	38.4	6.9	0.18
生涯学習の推進	2.6	36.2	13.2	3.0	38.4	6.6	0.22
スポーツ・レクリエーションの推進	3.2	40.3	12.1	3.3	33.9	7.2	0.28
郷土の歴史・文化の継承と活用	6.6	43.5	9.0	2.6	31.1	7.2	0.42
渋沢栄一の顕彰と精神の継承	12.4	43.0	7.2	2.5	27.9	7.0	0.56

◆<産業振興>に関すること

農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	3.1	26.1	14.7	7.0	41.8	7.3	0.03
農畜産物の販売流通体制の充実	3.3	33.1	11.2	3.6	40.8	7.9	0.21
商工業の振興	2.0	28.7	13.8	5.2	42.4	7.9	0.08
観光資源の整備と活用	3.7	31.8	14.2	7.5	35.2	7.5	0.10
就労環境の整備	1.4	23.9	19.0	7.9	40.2	7.7	-0.08
産業価値の創出	2.0	25.3	13.2	6.1	45.6	7.8	0.04

満足度 (%)					無回答 (%)	満足度(点数)
満足である	まあ満足である	やや不満である	不満である	わからない		

◆<暮らし・環境>に関すること

災害に強い防災体制の推進	3.8	40.4	15.5	5.4	27.1	7.8	0.22
消防・救急体制の充実	8.7	44.5	12.1	3.8	23.2	7.7	0.42
防犯・空き家対策の推進	3.5	26.2	24.7	8.0	29.7	7.9	-0.08
地域コミュニティの推進	3.2	37.7	14.3	4.3	32.4	8.0	0.21
自然・生活環境の保全	3.1	40.5	13.6	5.3	29.8	7.7	0.22
環境衛生の推進	5.4	42.9	12.4	3.8	27.9	7.5	0.34

◆<都市・生活基盤>に関すること

良好な市街地・住環境形成の推進	4.8	40.8	16.2	6.1	23.7	8.4	0.22
水の安定供給と下水処理の適正化	11.1	43.8	11.7	8.8	17.3	7.3	0.37
地域の特色を生かした魅力ある景観形成	3.7	38.9	14.7	5.9	28.2	8.5	0.20
治水対策の推進	4.1	37.1	11.1	4.3	34.7	8.7	0.25
道路・交通環境整備の推進	4.3	35.8	22.1	13.0	16.8	7.9	-0.04
公共交通の維持確保と交通安全の推進	4.4	36.2	19.4	12.7	19.3	7.9	0.00

◆<協働・行政経営>に関すること

人権・個性が尊重される社会づくりの推進	3.0	38.2	8.3	3.3	38.8	8.4	0.29
男女共同参画の実現	3.1	32.5	12.1	3.1	40.7	8.5	0.20
移住・定住の推進	2.7	28.8	11.2	4.0	44.7	8.5	0.15
市民との協働・交流の推進	2.6	33.0	10.4	3.3	41.5	9.1	0.21
行政デジタル化の推進	3.6	32.1	15.5	7.2	33.5	8.2	0.10
行財政運営の推進	2.8	30.0	11.4	4.2	43.4	8.2	0.16

3. 自由記入欄（まちづくり全般について）

これからの深谷市のまちづくりについて、ご意見などがありましたら自由にお書き下さい。

4. 最後に、あなた自身のことについておたずねします。

次のア～ウについて、あてはまる番号に○をつけてください。

ア. 性別	1	男性	38.4%	2	女性	52.4%	3	回答しない	9.1%
イ. 年齢 (無回答 1.0%)	1	10 歳代	0.5%	2	20 歳代	7.3%	3	30 歳代	10.4%
	4	40 歳代	15.0%	5	50 歳代	19.5%	6	60 歳代	21.6%
	7	70 歳以上	24.7%						
ウ. お住まいの地区 (公民館の区域) (無回答 2.2%)	1	深谷地区	24.0%	2	藤沢地区	7.5%	3	幡羅地区	10.5%
	4	明戸地区	3.5%	5	大寄地区	3.1%	6	八基地区	1.9%
	7	豊里地区	3.1%	8	上柴地区	11.6%	9	南地区	6.1%
	10	岡部地区	9.5%	11	川本地区	7.8%	12	花園地区	9.3%